

農福連携等 事例集 (令和7年度版)

令和8年3月

農林水産省 農村振興局 農村政策部
都市農村交流課 農福連携推進室

本事例集について

- 全国における農福連携等の代表的な取組について、掲載した事例集です。
- 令和6年度に新たな様式（取組のポイントや成果を明確化）により作成した事例と過去に作成した事例（今後、新様式へ順次更新を予定）から成っており、様式が異なります。

逆引き一覧の見方について

- 各事例について、取組主体や取組の特徴を整理した逆引き一覧を、事業者への聞き取りにより作成しました。事例を探す際に、ご活用ください。
- ※逆引き一覧に「○」がついていても、事例集に明記していない場合がございますので、ご承知おきください。

URL： <https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/attach/xls/jirei-4.xlsx>



農福連携事例集 逆引き一覧（令和6年度版）			作成年度：R7.1	※事業者への聞き取りにより記載																	
			※○…農福連携 □…農福連携の取組に該当しないが、法人・団体として取り組んでいる場合																		
通し番号	都道府県	法人・団体名	事例集 ページ 番号	取組主体																	
				福祉事業所								その他									
				農業経営 団体	就労継続 支援 A型	就労継続 支援 B型	就労移行 支援	生活介護	放課後 等デイ サービス	高齢者 介護	その他	特例子 会社	特別支 援学校	JA	地域協 議会	地方自 治体	その他 の中間 支援組織	矯正施 設	更生保 護施設	その他	
1	北海道	農事組合法人共働字舎新得農場	10	○																	
2	北海道	特定非営利活動法人サトニクラス	12		○																
3	北海道	社会福祉法人ゆうゆう	14		○	○		○													
4	北海道	株式会社ファーストマインド多機能型事業所びーかーぶ-WORKS	16		○	○															
5	北海道	合同会社竹内農園	18	○																	
6	北海道	株式会社九神ファームめむろ	20		○																
7	北海道	合同会社たつか〜む 合同会社自然農業社	22	○		○															
8	北海道	一般社団法人Agricola	24		○																
9	青森県	社会福祉法人誠友会 工務あぐりの里	26	○		○		○			○NPO法人										
10	青森県	社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団	28			○	○	○			○就労定着										

農福連携の取組方法			受け入れている者								ノフワク・アワード受賞歴 (最新歴のみ)	
直接雇用	施設外就労	農業参入	身体障害	精神障害	知的障害	その他の障害	生活困窮者	ひきこもりの状態にある者	高齢者	その他		
												2022グランプリ
	○		○	○	○		○		○		○	2022チャレンジ賞
			○	○	○		○		○	○		2023チャレンジ賞
○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		2023フレッシュ賞
○	○					○	○				○(過去にひきこもり)	
			○			○						
		○	○	○	○	○	○					
	○	○	○	○	○	○				○	○	2021優秀賞
	○		○	○	○					○		2021チャレンジ賞

お問い合わせ先

担当地域	お問い合わせ先
全体	農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室 ☎：03-3502-0033
北海道	農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室 ☎：03-3502-0033
青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	農林水産省 東北農政局 農村振興部 都市農村交流課 ☎：022-263-1111
茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県	農林水産省 関東農政局 農村振興部 都市農村交流課 ☎：048-600-0600
新潟県、富山県、石川県、福井県	農林水産省 北陸農政局 農村振興部 都市農村交流課 ☎：076-263-2161
岐阜県、愛知県、三重県	農林水産省 東海農政局 農村振興部 都市農村交流課 ☎：052-223-4630
滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	農林水産省 近畿農政局 農村振興部 都市農村交流課 ☎：075-414-9065
鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	農林水産省 中国四国農政局 農村振興部 都市農村交流課 ☎：086-224-4511
福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県	農林水産省 九州農政局 農村振興部 都市農村交流課 ☎：096-211-9111
沖縄県	内閣府 沖縄総合事務局 農林水産部 農村振興課 ☎：098-866-0031

事例一覧（目次）

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
1	北海道	農事組合法人共働学舎 新得農場	12
2	北海道	特定非営利活動法人サトニクラス	13
3	北海道	社会福祉法人ゆうゆう	14
4	北海道	株式会社ファーストマインド 多機能型事業所ぴ〜か〜ぶ〜WORKS	15
5	北海道	特定非営利活動法人楽園プロジェクト	16
6	北海道	多機能型就労継続支援事業所リベラ	17
7	北海道	合同会社竹内農園	18
8	北海道	株式会社九神ファームめむろ	20
9	北海道	合同会社たつかーむ 合同会社自然農業社	22
10	北海道	一般社団法人Agricola	24
11	青森県	社会福祉法人誠友会 工房あぐりの里	26
12	青森県	社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団	27
13	青森県	社会福祉法人七峰会	29
14	青森県	青森県弘前市	31
15	青森県	株式会社エール 多機能型事業所にじのいろ	32
16	青森県	株式会社きりん きりんの里	33
17	岩手県	株式会社耕野	34

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
18	宮城県	一般社団法人松島のかぜ	36
19	宮城県	一般社団法人イシノマキ・ファーム	38
20	宮城県	農業法人 有限会社 F・F磯崎	39
21	宮城県	社会福祉法人みんなの輪 あいあいファームわ・は・わ田尻 ひなた農場	40
22	宮城県	有限会社耕佑	41
23	秋田県	株式会社みずほライス	42
24	秋田県	株式会社風鈴	43
25	秋田県	比内ヒルズ農園	44
26	山形県	社会福祉法人月山福祉会	45
27	山形県	有限会社 内外ファーム 蔵王の恵農場	46
28	山形県	株式会社バラの学校〈ナカイローズファーム〉	47
29	山形県	だいちゃん農園	49
30	福島県	社会福祉法人こころん	50
31	福島県	福島県立大笹生支援学校	51
32	茨城県	有限会社照沼農園	53
33	茨城県	NPO法人ユアフィールドつくば	55
34	茨城県	JX金属コーポレートサービス株式会社 内原ファーム	57
35	栃木県	社会福祉法人パステル 多機能型事業所CSWおとめ	58
36	栃木県	社会福祉法人めぶき会	59

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
37	群馬県	社会福祉法人ゆずりは会 菜の花	60
38	埼玉県	埼玉福興株式会社	61
39	埼玉県	株式会社ゼネラルパートナーズ アスタネ	62
40	埼玉県	埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園	64
41	埼玉県	埼玉県立川越総合高等学校	66
42	千葉県	特定非営利活動法人一粒舎	67
43	千葉県	帝人ソレイユ株式会社 我孫子農場ポレポレファーム	68
44	千葉県	社会福祉法人土穂会 障害福祉サービス事業所ピア宮敷第1工房	70
45	千葉県	ちば東葛農業協同組合	72
46	東京都	新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク	74
47	東京都	夢育て農園	75
48	東京都・高知県	全国農業協同組合連合会 耕種資材部 施設園芸企画課 ・ゆめファーム全農こうち	77
49	東京都	電通グループ農福連携コンソーシアム	78
50		～近日公開予定～	
51	東京都	杉並区産業振興センター	80
52	神奈川県	社会福祉法人進和学園しんわろネッサンス	81
53	神奈川県	株式会社ピーカブー	82
54	神奈川県	社会福祉法人湘南の風 新葉山はばたき	84
55	神奈川県	就労継続支援B型事業所 STYLE	85

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
56	神奈川県	グランズ平塚	85
57	神奈川県	クオケア	86
58		～近日公開予定～	
59	長野県	松本ハイランド農業協同組合	87
60	長野県	特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎	88
61	長野県	社会福祉法人くりのみ園	90
62		～近日公開予定～	
63	静岡県	株式会社サンファーマーズ	93
64		～近日公開予定～	
65	静岡県	株式会社よしもと よしもとファーム	95
66	静岡県	社会福祉法人 ステップ・ワン	96
67	静岡県	特定非営利活動法人にじのかけ橋	98
68	新潟県	認定・特定非営利活動法人UNE	99
69	新潟県	社会福祉法人しあわせ福祉会 愛らんど両津	100
70	新潟県	株式会社なごみ	102
71	新潟県	CuRA!	103
72		～近日公開予定～	
73		～近日公開予定～	
74	石川県	株式会社 笠間農園	108

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
75	石川県	金沢市農業協同組合	109
76		～近日公開予定～	
77	石川県	農事組合法人One	112
78	石川県	株式会社奥能登元気プロジェクト	113
79	福井県	有限会社あわら農楽ファーム	115
80		～近日公開予定～	
81	福井県	特定非営利活動法人こころ	118
82	福井県	株式会社農楽里	119
83	岐阜県	株式会社JAぎふ はっぴいまるけ	121
84	岐阜県	株式会社DAI	122
85	岐阜県	株式会社LSふぁーむ	123
86	岐阜県	全国農業協同組合連合会岐阜県本部	125
87	岐阜県	一般社団法人岐阜県農畜産公社 ぎふアグリチャレンジ支援センター	126
88	岐阜県	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校	127
89	岐阜県	株式会社マテリアル東海	129
90	岐阜県	中電ウイング株式会社 いちごファーム	130
91	岐阜県	岐阜大学応用生物科学部附属 岐阜フィールド科学教育研究センター	131
92	愛知県	株式会社コトモファーム	132
93	愛知県	有限会社H&Lプランテーション	133

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
94	愛知県	社会福祉法人無門福祉会	134
95	愛知県	ぽかぽかワークス	136
96	三重県	株式会社イシイナーセリー	138
97	三重県	遊土屋株式会社	139
98	三重県	社会福祉法人朋友	141
99	三重県	社会福祉法人まつさか福祉会 八重田ファーム	143
100	三重県	一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会	145
101	三重県	株式会社ケアプロフェッショナル	146
102	三重県	特定非営利活動法人笑福	148
103	三重県	株式会社アクアス 就労移行 就労継続支援B型事業所コラボ	149
104	滋賀県	特定非営利活動法人縁活（就労継続支援B型事業所「おもや」）	150
105	滋賀県	株式会社チャレンジファーム	151
106	滋賀県	滋賀県立長浜北星高等養護学校	153
107	京都府	特定非営利活動法人HEROES	154
108	京都府	三休合同会社	155
109	京都府	株式会社しんやさい	157
110	京都府	社会福祉法人よさのうみ福祉会 （就労継続支援B型事業所「リフレかやの里」）	158
111	大阪府	ハートランド株式会社	159
112	大阪府	株式会社いずみエコロジーファーム	161

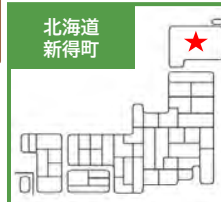
通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
113	大阪府	特定非営利活動法人たかつき	163
114	大阪府	特定非営利活動法人街かど福祉 街かどあぐりにしなりよろしい茸工房	165
115	大阪府	株式会社グリーンファーム	166
116	大阪府	社会医療法人みどり会 さんさんグリーン	168
117	兵庫県	社会福祉法人上野丘さつき会	169
118	兵庫県	特定非営利活動法人cambio	170
119	奈良県	社会福祉法人青葉仁会	171
120	奈良県	一般財団法人かがやきホーム	172
121	和歌山県	社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて	173
122	和歌山県	社会福祉法人太陽福祉会	174
123	和歌山県	社会福祉法人有田つくし福祉会	176
124	鳥取県	NPO法人ライブ	178
125	島根県	社会福祉法人喜和会 障害者支援施設太陽の里	179
126	島根県	社会医療法人正光会 さんさん牧場	180
127	岡山県	株式会社おおもり農園	182
128	広島県	株式会社八天堂ファーム	184
129	広島県	広島県立広島特別支援学校	185
130	山口県	社会福祉法人E.G.Fのんきな農場阿武事業所	186
131	山口県	農事組合法人二島西・社会福祉法人山家連福祉事業会 夢かれん	187

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
132	徳島県	株式会社菜々屋	189
133	香川県	特定非営利活動法人香川県社会就労センター協議会	190
134	愛媛県	福岡正信自然農園	191
135	高知県	安芸市農福連携研究会	193
136	高知県	一般社団法人こうち絆ファーム	194
137	福岡県	一般社団法人THE CHALLENGED	196
138	福岡県	一般社団法人 社会福祉支援協会	197
139	福岡県	社会福祉法人ハイジ福祉会 フラワーパッケージセンター	198
140	佐賀県	佐賀県	199
141	長崎県	社会福祉法人南高愛隣会	200
142	長崎県	社会福祉法人出島福祉村	201
143	熊本県	株式会社なかせ農園	203
144	熊本県	NPO法人熊本福祉会	204
145	熊本県	社会福祉法人小国町社会福祉協議会	206
146	大分県	全国農業協同組合連合会大分県本部	207
147	大分県	社会福祉法人博愛会	208
148	大分県	社会福祉法人新友会 ひまわり畑	210
149	宮崎県	一般社団法人 STEP UP	211
150	宮崎県	株式会社杉本商店	212

通し番号	都道府県	法人名	ページ番号
151	鹿児島県	社会福祉法人白鳩会	213
152	鹿児島県	株式会社リーフエッジ あまみん	214
153	鹿児島県	大隅半島ノウフクコンソーシアム	215
154	鹿児島県	株式会社南風ベジファーム	217
155	鹿児島県	竹福商連携による竹の資源化モデルの構築と実践	219
156	鹿児島県	合同会社情熱家	221
157	沖縄県	ウィルチャーファーム	222
158	沖縄県	社会福祉法人みやこ福祉会	223
159	沖縄県	株式会社ソルファコミュニティ	225
160	沖縄県	株式会社みやぎ農園	226
161	沖縄県	株式会社沖縄UKAMI養蚕	227
162	沖縄県	農業生産法人 合同会社KSファーム	229

障害者や生活困窮者、ひきこもりの状態にある者など「働きづらさ」や「生きづらさ」を抱える方を受入れ、農作業や集団生活を通じて「自立のための支援」を行うソーシャルファーム。

農林水産業経営体

北海道
新得町き
つ
か
けS
53
年

代表の父親が「自労自活」をモットーとする共働学舎を長野県に開設。

人
を
耕
す

- 多種多様な作業があるため、メンバーが自分にあった作業を選択することにより、自分の役割を見いだせるように工夫。日々の作業にあたって、主体的に行動できる環境を構築。

地
域
を
耕
す

- 生産した農産物は、外食事業者へ販売するほか、敷地内の売店やカフェ、インターネットで販売するなど、6次産業化にも取り組む。

未
来
を
耕
す

- 農場の消臭等環境対策として「炭」を用いるなど、日本の伝統的な知恵を生かし、その土地にあった農業生産やモノづくりを推進。

基本情報

設立:S53年 / 農福連携取組開始:S49年

主な選定表彰:平成10年第1回ALLJAPANナチュラルチーズコンテスト最優秀賞、平成15年山のチーズオリンピック・フランス銀賞、平成16年山のチーズオリンピック・スイス金賞・最高賞

概
要

主力商品
(農作物)野菜
(加工品)チーズ

特徴的な取組
6次産業化 等

体
制
図

住所:住所:北海道上川郡新得町字新得9-1

TEL: 0156-69-5600

Mail: shintoku@kyodogakusha.org

URL: <https://www.kyodogakusha.org>

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

成
果

平均工賃月額

72,910円(R2)
→75,527円(R6)

障害者数

15人(R2)
→18人(R6)

売上高

16,628万円(R2)
→16,852万円(R6)

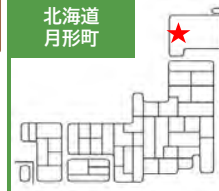
農地面積

101ha(R2)
→114ha(R6)

- 自らの意志でその日の行動を選択することにより、主体性のある考えと思いやりの心が育まれる。
- 農場での経験を生かし、自身でチーズ工房を立ち上げる者、チーズ工房に勤める者や農業を営む者など、自立した生活を実現した者を多数輩出。

取組の概要障害特性に応じてチームを編成し、野菜生産から漬物製造・販売までを一貫して行うことで、通年で 障害者の作業を安定的に創出。地域における先導性・モデル性の高い農福連携の取組を行っている。

福祉事業所

北海道
月形町

きつかけ

H
26
年

里山的環境が残る月形町で、地域の福会福祉法人や都市住民の力を合わせたコミュニティを創り、「里に暮らす」ことを継承したいとの想いから、NPO法人を設立。

人を耕す

- 就労継続支援A型事業所「サトニクラス酢房」を運営。知的・精神・身体障害を持つ利用者が、約1haの農地及び加工場で、野菜生産や漬物製造等を通年で行うほか、月形町内外の農家に施設外就労し、水田の除草や野菜の収穫等に従事。
- 職業指導員の見立てにより、障害特性に応じて1組2～3人のチームを編成。また、漬物製造工程を細分化し、利用者を配置。

地域を耕す

- H27年に花と野菜の直売所「花の里月形」を開店するとともに、乾燥野菜等の商品開発や農家における労働力の需要調査を実施するなど、工賃向上のためにソフト面での研究を実施。
- 平成29年から、「月形農福連携センター」など月形町内の2団体と、農福サポーター派遣や農泊などでコラボ事業を展開。

未来を耕す

- 大学と連携した新商品の開発、営業ツールを活用した販路の拡大、運営体制や人員配置の見直しによる事業全体の効率化など、取組拡大の努力を継続。
- 直売所を核とした賑わいと寄り合いの創出により、地域の活性化と関係人口の拡大を図る取り組みを展開

基本情報

設立:H26年 / 農福連携取組開始:H23年

主な選定表彰:「わが村は美しくー北海道」第9回コンクール大賞

取組

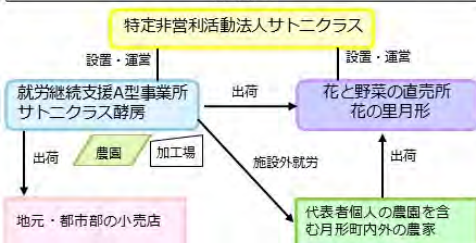
成果

概要

主力商品
(農作物)大根
(加工品)漬物、味噌、米麴、乾燥野菜

特徴的な取組
6次産業化(地域の生産者と連携した直売所の運営)

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	
その他	

平均工賃月額

68,267円(R2)
→87,757円(R6)

売上高

821万円(R2)
→1,210万円(R6)

連携する生産者数

56戸(R2)
→77戸(R6)

直売所の来店客数

16,756人(R2)
→69,074(R6)

- チーム作業により、収穫適期の野菜の見落としが防止されるなど、作業の正確性が向上し、職員による事後確認や、やり直し作業が減少。
- 漬物製造工程の細分化により、生産性が向上。年間製造量は、開始当初の2,000パックから20,000パック以上(令和6年度)へと10倍以上に増加。
- 六次産業化の取り組みにより開設した直売所に、年間6万人以上(令和6年度)の来店客が訪れるようになり、地域の活性化に寄与。

住所:北海道樺戸郡月形町字当別原野420-9

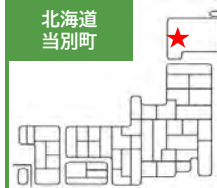
TEL:0126-35-1235

Mail:npo@satoniclass.com

URL:https://www.satoniclass.com

障害者、高齢者、地域のボランティアなど様々な人の「働きたい」という「想い」を大切に農福連携の活動を実践しており、農業や森づくりを通じて、障害者や高齢者、学生や子どもたちが繋がり、地域を元気にする輪が拡大。

福祉事業所

北海道
当別町

きっかけ

H
17
年

社会福祉法人設立以前から運営していた障害児のレスパイトサービスなどを行うボランティアセンターを卒業した障害児の就労先がないという課題を聞き、農福連携の取組を開始。

人を耕す

- 利用者のほか地域住民や学生ボランティアとの協働で農業・林業に取り組んでおり、地域から活動が見えることで相互理解が深まっている。また、農園や森で開催するイベントは、地域住民との交流の場となっている。

地域を耕す

- コミュニティ農園が隣接したレストランを開設し、地域の就労場所を創出するとともに、自社生産の米や野菜を使用した食事を提供。
- 東京大学の学食と連携し、自社の米・野菜を使用した弁当を販売。北海道の魅力と商品の背景にある農福連携の取組を学生に伝えている。

未来を耕す

- 重度障害、認知症、ひきこもり状態にある者等の就労ニーズや高齢化により離農する農家が多い等の地域課題に対応するため、令和元年に自社農園を整備。

基本情報

設立: H23年 / 農福連携取組開始: H17年

取組

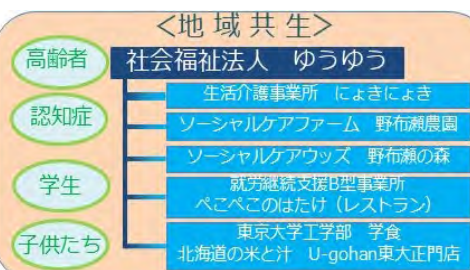
成果

概要

主力商品
(農作物)米、かぼちゃ
(加工品)お弁当

特徴的な取組
林福連携

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

住所: 北海道石狩郡当別町六軒町70番地18

TEL: 0133-22-2896

Mail: info@yu-yu.or.jp

URL: https://yu-yu.or.jp

平均工賃月額

15,000円(R2)
→20,000円(R6)

障害者数

200人(R2)
→400人(R6)
月間延べ人数

売上高

400万円(R2)
→600万円(R6)

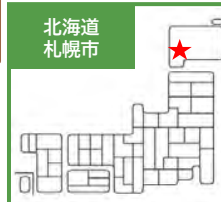
農地面積

4.8ha(R2)
→4.8ha(R6)

- 農業イベントや林業研修などで年間約900名と交流。保育園、高校、大学などの教育機関から実習を受け入れ、連携を深めている。
- 高等養護学校を中退してひきこもりの状態となっていた男性が、就労支援サービスである農業を通じて人との繋がりを経験し、農家へ一般就労を実現。

自社農場での農作業やJA等と連携した地域の農作業の受託に加えて、地域の水路の掃除、草刈り、除雪を障害者が実施。

福祉事業所

北海道
札幌市

きつかけ

R元年

児童発達支援及び放課後等デイサービスを卒業した利用者の就労先を確保するため、就労継続支援事業所を開設。

人を耕す

- 児童発達支援等の卒業生の就労先として、農業に参入し、自社農場における農作業のほか、JAや地元企業と連携した農作業受託、水路や農道の掃除、高齢者宅の草刈りや除雪作業にも積極的に参加し、地域との交流を深めている。
- JA関連施設やセコマグループの株式会社北栄ファームと契約し、就労の安定化を実現。

地域を耕す

- 農福連携の取組に興味を持った、地域外の飲食店や不動産業者、スキー場などからも農産物販売等の申し出があり、販路が拡大。
- 事業所で使用する食材をフードバンクから、事業所で収穫した規格外野菜等をフードバンクへと相互提供する関係を構築。

未来を耕す

- 就労継続支援A型事業所における施設外就労では、農作業や夏季限定野菜加工場のほか通年で就労できる食品仕分け作業も確保。就労継続支援B型事業所では除草などの作業を受託。

基本情報

設立: R元年 / 農福連携取組開始: R元年

取組

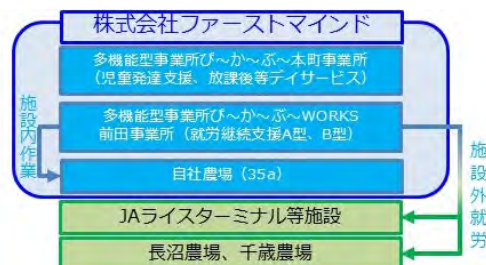
成果

主力商品

(農作物)ミニトマト、キクイモ、ピーマン
(加工品)乾燥ミニトマト、キクイモチップス

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

住所: 北海道札幌市手稲区前田7条10丁目6

TEL: 011-215-7493

Mail: pikabu.maeda@gmail.com

URL: <https://www.pi-ka-bu.jp/>

平均工賃月額

75,000円(R2)
→110,000円(R6)

障害者数

21人(R2)
→34人(R6)

売上高

491万円(R2)
→2,356万円(R6)

農地面積

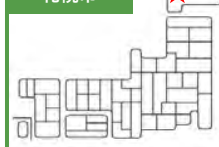
0.3ha(R2)
→0.3ha(R6)

- 就労継続支援A型事業所では、責任感や、やりがいを持てるように、リーダー制度や作業スキルにおけるステップアップ制度を設けて賃金に反映。
- 就労継続支援A型事業所利用者20名の平均賃金月額が10～15万円で、北海道平均を上回る給与を実現。これまで2名が障害者枠の一般就労に移行。
- 就労継続支援B型事業所の利用者18名の平均工賃月額も約3万円と北海道平均を上回っており、4～6万円の工賃を受け取る利用者も増加。

『戦力になる農福連携』をテーマに、24時間365日作業受託可能な体制で農作業チームを結成し、平均工賃9.5万円以上を実現。冬場には荒廃農地を利用して菌床椎茸栽培を行い、年間を通じた作業を創出。

中間支援組織

北海道
札幌市



きっかけ

H
31
年

前身法人時代に人手不足の農家との出会いを契機に、有料の民間中間支援組織として農福連携のマッチング支援を行う。その経験を活かして自社チームを設立し、取組を開始。

人を耕す

- 24時間365日作業可能な体制を構築し、年間約30の契約農家により安定した作業受託を実現。就労Bの利用者と利用者からステップアップした職員で結成した「チームグリーン」は少数精鋭で運営され、月額平均工賃9.5万円以上を達成。
- 就労移行を積極的に推進し、他社移行や自社でのパート・正社員雇用を実現。

地域を耕す

- 町所有の空き家の交流センターを借用し、障害者福祉のインフラ強化のための相談窓口としてNPO法人いんくるらぼを設立。街全体で農福連携への理解を促進。
- 冬の仕事創出のため、荒廃農地を借用してR4年より菌床椎茸栽培を開始し、R5にはノウフクJASを取得。冬季の受け入れ先がない養護学校生徒の実習受け入れに貢献。
- 農作業だけでなく、福祉除雪や住宅清掃などの地域の困りごとへも対応。

未来を耕す

- 農福連携技術支援者に資格手当を支給し、自社だけでなく農福連携全体が盛り上がるようコーディネーター育成に尽力。
- R3より荒廃農地をユニバーサル農園として整備し、収穫体験や直売所、視察拠点として活用。地元社協や農家と連携し、高工賃実現や若年農業者育成などを推進。

取組

成果

基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:H31年

取得認証等:ノウフクJAS(R6年)

概要

主力商品
(農作物)菌床椎茸

特徴的な取組
林福連携、ユニバーサル農園、中間支援

体制図

統括管理:合同会社カレイドスコープ(農福連携コーディネーター)
実施主体:特定非営利活動法人楽園プロジェクト(就労B、グループホーム、相談室)
連携自治体:北海道勇払郡安平町
農福連携実施地域:新篠津村、当別町、安平町、千歳市、長沼町、栗山町 他
主な連携先:【農業者】ダイナックス、またたびファーム、大塚ファーム 他、【企業】パターンプランニング株式会社(北海道TEA)、百姓屋(加工品製造) 他

住所:北海道札幌市白石区栄通11丁目1-33

TEL:011-556-8676

Mail:Kaleidoscope.jp@outlook.jp

URL:https://rakuenproject.com/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

平均工賃月額

50,000円(R4)
→100,000円(R6)

農作業チーム

3人(R4)
→8人(R6)

菌床椎茸出荷額

100万円(R5)
→200万円(R6)

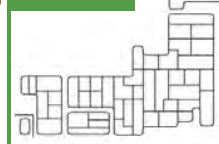
農地面積

0a(R4)
→2a(R6)

- 全国的にも珍しい完全民間の有料中間支援組織としての経験をもとに、農福連携を活用した町おこしや高工賃を実現。ノウフクJAS取得などが注目され、NHKや北海道ウェブ媒体『くらしごと』などで取材対応も実施。
- 農家目線と福祉目線の両立を重視し、高工賃の実現やコーディネートを推進。将来的には若年農業者に畑の管理や生産・出荷までを任せる計画。
- 特別支援学校からの卒業生が多く在籍しておりR6は5名、R7は2名を新たに採用。移行実績やテレビ出演などから就労希望者が増加。

自然栽培農法による果樹や伝統野菜等の生産・加工・販売までを一貫して行い、すべての事業で障害者等が活躍。レストランを併設したワイナリーを開設し、年間10,000本のワイン・シードルを製造。

福祉事業所

北海道
札幌市

きっかけ

R2年

様々な困難を抱えた人々が自立に向けてのびのびと働くことができる職場づくりを目指し、障害者就労施設を運営する株式会社リベラを設立。

人を耕す

- 12.5haのほ場で多様な農業生産・加工・販売を通じて売上を拡大。
- 果樹・伝統野菜・希少なイタリア野菜等の生産・加工・販売まで自社で行っており、すべての事業において障害者等が従事。
- 適切な作業選択や研修などを通じた技術向上と働きやすい環境づくりに努めており、障害者の意欲と技術の向上により3年間で2名が一般就労に移行。

地域を耕す

- 荒廃農地化しそうな畑や果樹園の作業を受託し、自然栽培農法による適切な管理を行い、生産性を回復させ、地域農業の維持に貢献。
- 在来種である黒トウモロコシの生産・販売を通じて、北海道の伝統野菜の維持に貢献。
- ワイナリーに併設したレストランで、自社産野菜を使用した料理やワインを提供し、6次産業化のモデルとして取組の普及と、交流人口の増加に寄与。

未来を耕す

- 無肥料・無農薬の自然栽培農法で野菜等を栽培。
- 令和6年に「LIBERA WINE TERRACE」を開設し、ワインとシードルの醸造を開始。
- ワインの購入代金の50%を障害者の工賃と環境整備に使用することを明示することで、障害者雇用や自然環境の改善など、地域や社会に貢献する仕組みづくりへ消費者の行動変容を促進。社会課題を解決することで事業が拡大していく構造をつくり取り組む。

取組

成果

基本情報

設立: R2年 / 農福連携取組開始: R2年

取得認証等: 農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R3、4年)
認定農業者(R8年)

概要

主力商品

(農作物)りんご、ハスカップ、黒とうもろこし、ハーブ
(加工品)ワイン、シードル

特徴的な取組

自然栽培、環境再生型農業、スマート農業、農学校運営 等

体制図

株式会社フェアフィールド
(農地所有適格法人)

一部農地賃貸
農作業委託
農産物販売委託

株式会社リベラ
(多機能型就労継続支援事業所リベラ)
・農業生産・販売(賃借農地)
・農作業受託・農産物加工販売
※ 全ての業務を障がい者が担当

住所: 札幌市中央区北2条西9丁目4 インファス2階

TEL: 011-213-1525

Mail: yutorirolibera@gmail.com

URL: <https://shurosihen-b-libera.com/>

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他 若年性認知症	○

平均工賃時給

400円/時(R2)
→436円/時(R6)

障害者数

8人(R2)
→21人(R6)

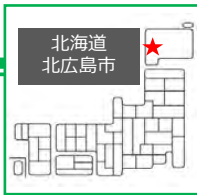
売上高

183万円(R2)
→889万円(R6)

農地面積

12.5ha(R2)
→12.5ha(R6)

- 障害者等の工賃向上に努め、北海道の平均工賃を大幅に上回る450円/時間を実現。
- 自然栽培農法を学ぶ参加者が地元仁木町や隣町の余市町などに宿泊・滞在することで地域経済と都市農村交流、関係人口の増加に貢献。
- 施設利用者のうち、R6の農業従事者数は15人となっており、R2から年々増加。
- 農福連携を通じた生産性の向上により、R6はワイン9,000本、シードル1,000本を生産。



大がかりな機械化を行わず、多品目の野菜を通年で栽培することで、継続的に障害者の作業を創出。天皇・皇后両陛下（当時）が訪問されるなど、北海道で農福連携に興味を持つ方々にとり象徴的な存在。

基本情報

- 所在地：北海道北広島市
- 団体名：合同会社竹内農園
- 選定表彰：第11回コープさっぽろ農業賞ビジネスモデル賞優秀賞
- 主力商品：こまつな、中玉トマト、なす、にんじん、サニーレタス等の野菜15種類
- 取得認証等：エコファーマー



ハウスでの野菜栽培

取組の概要

- 社会福祉士の資格を持つ妻とともに夫婦で農場を運営し、近郊の就労継続支援B型事業所など3か所から、知的障害等を持つ利用者を中心に10名程を施設外就労として受け入れ、農地約4 haで、野菜15種類を栽培。
- 自走式のは種機や定植機を用いず、手作業を中心とした作業を創出し、障害者は、定植や収穫などの畑作業を行うほか、収穫物の袋詰め作業の95%程度を担う。
- 自治体や農政事務所主催の視察を積極的に受け入れてきたほか、シンポジウムへ登壇及びメディアへの登場も多数。平成30年8月には天皇・皇后両陛下（当時）が訪問。



農作業の様子

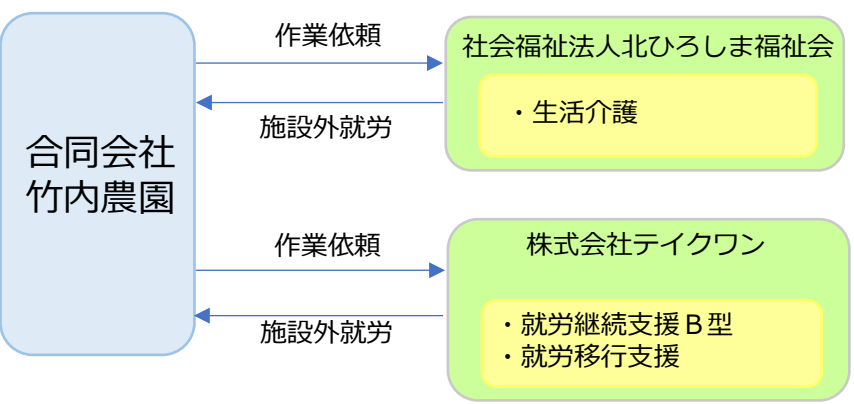


手押し播種機



出荷作業の様子

体制図



取組の成果

- 多品目の野菜の通年栽培により、年間200日程度の出荷作業を実現するとともに、多くの手作業の創出により、10名程の障害者を継続的に受入。
- 機械の固定費を安くし、水耕栽培等の高額な施設を導入しないことで利益幅を確保し、安定的な経営を実践。
- 平成27年3月にエコファーマーに認定。
- 自らの知名度が高まることで、地域の農業者から相談を受け、自ら事業所とのマッチング役となっている。

所在地 ▶ 北海道北広島市島松490番地
連絡先 ▶ TEL:080-1898-5258 E-mail: takenouen@gmail.com
ウェブサイト ▶ <http://takenouen.ohitashi.com/index.html>

【取組のプロセス】

平成19年

研修は、1年目に野菜の販売を学び、2年目に60種類の野菜の全般的な畑仕事をし、3年目に作物を担当。

平成25年

青年就農給付金経営開始型を利用。

平成27年

エコファーマーの認定を受け、農業や化学肥料の使用を抑えた栽培に取り組む。

令和2年

経営面積は約4haに拡大し、障害者就労を踏まえた15品目の野菜を栽培。

今後の展望

障害者が働く環境をより良くするために、作業のフローを見直し、新たな作物の導入も試行錯誤しながら、トライ＆エラーで改善を進める。

きっかけ

輸送機器メーカーでのインド駐在時に、人や資源が流出する北海道内の産業の疲弊を感じ、故郷の北海道で就農することを決意。適材適所という観点から、地元で暮らす障害者や高齢者を農業に結びつけた農場の設立を志す

合同会社竹内農園の設立、農福連携の取組開始

- 知的障害者を主にした社会福祉法人の施設で働いた後、道央農業振興公社の研修生として主に恵庭市の農業生産法人で3年間研修生として農業を学び、平成25年10月に合同会社竹内農園を設立。
- 平成26年の春に、北広島市の農家から約3haの農地を借り受け、研修終了後の同年4月に就農。就農当初から、同市内の就労継続支援B型事業所と農福連携の取組を開始。

「選択と集中」から「カイゼン」へ

- 平成27年（就農2年目）には、それまで参加していたお祭りやイベントでの農産物販売をやめ、その時間を畑の仕事に充てるとともに、作物についても、葉物を中心とした野菜栽培から、旬に合わせて、果菜類や根菜類も取り入れた栽培に変更。
- 平成28年（就農3年目）から平成30年（就農5年目）にかけて、「か・け・ふ（稼ぐ・削る・防ぐ）」を合言葉に、売り上げを増やして経費を削り、リスクに対応できる能力を磨くことに重点を置き、積極的に業務改善に取り組み始める。

障害者受入れの拡大（地産地消にも繋がる取組）

- 令和2年8月に、新たに北広島市内の障害者支援施設事業所と業務委託契約を締結。収穫した野菜は、事業所が運営するレストランのメニューや弁当などにも活用され、北広島産の食材の地産地消に貢献。

PDCAサイクルにより継続的に業務改善を検討・実施していく

- 積極的な投資により経営面積を拡大することで生産量を増やし、障害者の工賃向上を目指すとともに、特定の時期に集中している作業の平準化及び新たな作業創出のため、にんじん出荷調整場の改善や、加工品への挑戦、越冬作物の試験、収穫とパック詰めタイミングの改善などを検討。



インドの混雑した道路



収穫したトマト



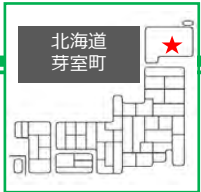
農作業の様子



6月から7月収穫の小松菜



4月は種5月収穫の小松菜



官民一体の就労参画プロジェクト「プロジェクトめむろ」による農福連携モデル。十勝ブランドの活用と、出資企業によるばれいしょの買い取りで、安定した収益と高い賃金を実現。

基本情報

- 所在地：北海道芽室町
- 団体名：株式会社九神ファームめむろ
- 選定表彰：第3回ディスカバー農山漁村の宝 アクティブ賞（主催：農林水産省）
- 主力商品：ばれいしょ
※出資企業である惣菜店に販売
- 取得認証等：－



1次加工処理の終わったばれいしょ

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」を運営し、知的・精神障害を持つ約20名の利用者が、借用する農地約4ha及び加工場で、野菜生産及びばれいしょ、ごぼう、ながいも等の1次加工作業を通年で実施。
- 1次加工したばれいしょの全量を出資企業が買い取ることで、安定した収益を確保。
- JAめむろからは、農作業指導を受けるほか、収穫量が不足する場合は、ばれいしょを提供してもらうなど、協力体制を構築。



加工場外観

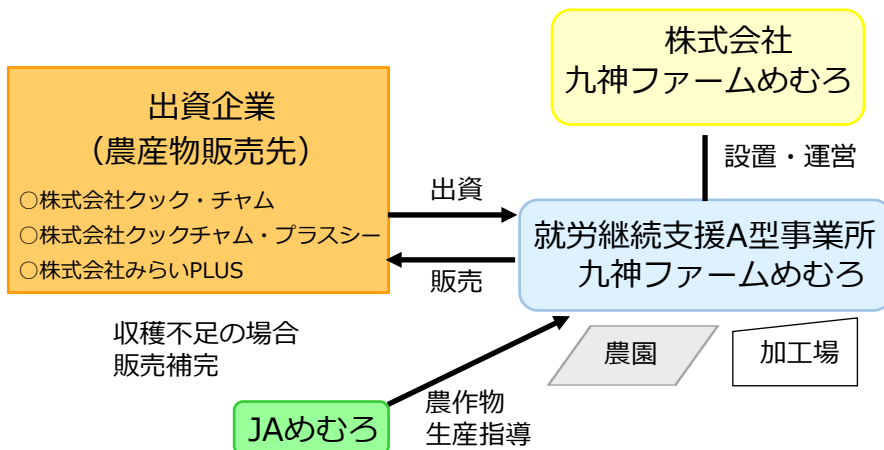


農作業の様子



加工場での作業

体制図



取組の成果

- 平均賃金月額は約11万円であり、高賃金を実現。
- 本プロジェクトにより、町内に多くの障害者の就労先が創出された。
- 地元の離農した農業者に、農業サポーターとして農作業の指導を行ってもらうことで、高齢者の生きがいとなる場所を創出。
- 利用者は、働くことや安定的な賃金を得ることを通じて成長し、更なるキャリアアップを実現。役場、JA、食品販売店などの一般就労に移行した者も多数。

所在地▶北海道河西郡芽室町中美生2線47番地1

連絡先▶TEL:0155-65-2280 E-mail:－

ウェブサイト▶ <http://kyujinfarm-memuro.co.jp>

【取組のプロセス】

平成24年

平成24年8月に、芽室町が「プロジェクトめむろ」の構想を確定

平成25年

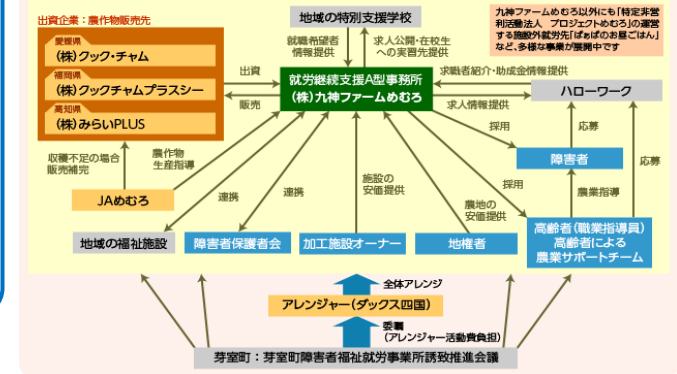
きっかけ

芽室町が、町内の低い障害者就労率を改善するため、障害者雇用に先駆的に取り組む企業の誘致を行う中、既に他企業へのコンサルの実績のあった四国の民間企業にアプローチし、十勝ブランドの農作物の生産・加工を通じた障害者就労のビジネスモデルの提案を受けた

就労継続支援A型事業所「九神ファームめむろ」の設置・運営開始

- 平成24年12月に、複数の道外企業の出資を得て、株式会社九神ファームめむろを設立。翌年2月には、芽室町初の就労継続支援A型事業所である「九神ファームめむろ」が事業認定され、同年4月から運営を開始。
- 障害者（当初9名）のみならず、農業サポートチームとして、地域の高齢者（職業指導員）も雇用。

プロジェクトめむろにおける「九神ファームめむろ」展開図



平成27年

平成27年4月に、事業所の利用2名を職員として採用

都市農村共生・対流総合対策事業（集落連携推進対策、人材活用対策）に採択

新加工場稼働、就労キャリア教育事業の開始

- 平成27年2月に新たな加工場（嵐山工場）を整備・稼働し、従来から取り扱っていたばれいしょのみならず、ごぼうやながいも等も導入し、障害者の加工作業を拡大。
- 平成28年4月から、農業体験・加工体験を活用した管内特別支援学校の修学旅行や、道外大学の学生の農業体験の誘致において、NPO法人プロジェクトめむろ（芽室町から観光事業を受託）と連携。
- 平成28年に、農林水産省主催の「第3回ディスカバー農山漁村（むら）の宝」において、女性や高齢者、障害者の活躍がその活動の大きな原動力となっている優良事例として、アクトイブ賞を受賞。

誰もが当たり前前に働いて生きていける仕組み創り

- 就労定着支援や障害者の生活の場の整備、障害者雇用の職域開拓・理解促進のための企業説明会や企業訪問の実施などを通して、誰もが当たり前前に働いて生きていける町を目指して、プロジェクトを継続。

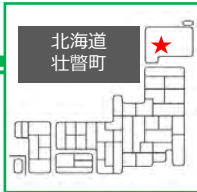
今後の展望



収穫作業の様子



加工作業の様子



有機栽培と平飼い養鶏によって生産物のブランド化に成功。北海道内の農作業に取り組む障害福祉サービス事業所でトップクラスの工賃実績を誇り、30年以上の歴史を持つ農福連携の取組。

基本情報

- 所在地：北海道壮瞥町
- 団体名：合同会社たつかーむ 合同会社自然農業社
- 選定表彰：第3回コープさっぽろ農業大賞特別賞（主催：コープさっぽろ農業賞実行委員会）
- 主力商品：平飼い有精卵、無添加みそ、熟成黒にんにく、豆のドライパック、有機大豆、有機野菜（だいこん、ズッキーニ、たまねぎ等）
- 取得認証等：認定農業者、有機JAS認証

取組の概要

- 知的・精神障害を有する約40名の利用者が、農地約11haにおいて野菜の有機栽培を行うほか、鶏舎11棟で約3,000羽の平飼い養鶏を通年で実施。
- 事業所の利用者は、養鶏については、給餌、採卵・洗卵、鶏舎清掃等に従事。また、野菜栽培については、播種、肥料散布、除草、収穫物の計量・袋詰め等に従事。
- 大豆を味噌やドライパックに加工するほか、親鶏のレトルトチキンカレーや熟成黒にんにくの製造、鶏卵を用いた菓子の製造販売などで、冬期の作業を創出。
- 平成16年にNPO法人を設立し、通所出来ない障害者のためのグループホーム事業を開始。また、平成26年にカフェをオープンし、生産した鶏卵や野菜を食材として使用。



平飼い養鶏の様子

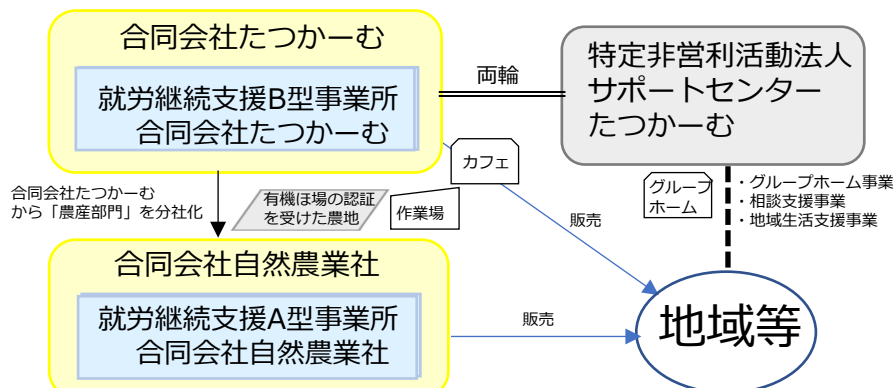


平飼い有精卵



農作業の様子

体制図



取組の成果

- 平成13年、農産物の有機JAS認証を取得。付加価値の高い農畜産物や加工品の販売により、平均月額賃金等は、たつかーむのB型が約5万円、自然農業社のA型が約9万円と、北海道内の事業所で高水準を実現。
- 一つの運営法人が、およそ30年間もの長い年月をかけて、障害者の生活に必要な多くの施設と、確かな農業技術による経済活動の基盤を築き上げてきたことで、障害者が、町内で自立して生活していける場を提供する役割を担っている。

所在地 ▶ 北海道有珠郡壮瞥町字立香92番地12

連絡先 ▶ TEL:0142-66-3345 E-mail: farm@tatukam.jp

ウェブサイト ▶ <https://tatukam.jp>

【取組のプロセス】

昭和61年

壮瞥町へ移住し、障害者の学習塾及び相談室を開設。並行して農地を探す

きっかけ

障害をもつ人や社会の中で不利な立場にある人たちが、他の人たちと対等に働きながら、地域の中で、自然や他者との関わりを通じて経済的・社会的自立を達成するための取組を志した

昭和62年

養鶏事業が軌道に乗る一方、有機野菜は当時、差別化が図りづらく収入に結びつかなかった

農場たつかーむの設立

- 離農農地（農地 1 ha、宅地・山林等 1 ha）を取得し、昭和62年に農場たつかーむを設立。知的障害者との共同生活を送りながら、有機農業及び自然養鶏業を開始。
- 平成 3 年に共働作業所を開設し、平成 6 年からは農産物宅配サービス事業を開始。



設立者夫妻

平成13年

平成13年
第3回コープさっぽろ
農業大賞特別賞受賞

有機JAS認証を取得、NPO法人の設立

- 平成 3 年に農産物の有機JAS認証を取得し、有機野菜での差別化を図る。積極的に有機農産物認定のほ場を拡大。
- 平成16年にNPO法人「サポートセンターたつかーむ」を設立し、従業員寮をグループホームの制度にのせ、グループホーム事業を開始。また、平成19年からは同法人で「地域活動支援センター」事業を開始し、平成24年に相談室フロイデを開設。



カフェ外観

平成26年

平成19年に就労継続
支援A型事業所、平
成21年に多機能型事
業所の指定を受ける

農場内にカフェを併設、農産部門の分社

- 平成26年に農場直営のカフェを開店し、収穫した卵や野菜を使用。
- 平成27年に農産部門を合同会社自然農業社（同名の就労継続支援A型事業所を運営）として分社化。
- 出荷鶏肉を利用したレトルトカレーなど食品加工にも進出し、平成29年に「たまご屋さんのチキンカレー」（レトルトパウチ）が商品化。

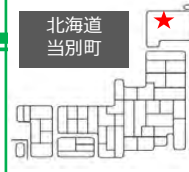


給餌風景

今後の
展望

これからも・・・

- 合同会社たつかーむにおける共生・自立の営み・挑戦が、どんな人も、共にあたりまえに暮らせる社会づくりのいしずえになることを信じて、これからも畑を、そして地域を、耕し続ける。



採卵鶏での有機JAS認証取得により、付加価値の高い農業生産を実現。高品質な卵と元精神科看護師による専門的なサポートにより、農福連携の取組において、多数の就労と健康を生み出す。

基本情報

- 所在地：北海道当別町
- 団体名：一般社団法人Agricola
- 選定表彰：－
- 主力商品：オーガニックエッグ、平飼い卵、亜麻仁卵
- 取得認証等：有機JAS



(写真上：
有機ほ場での平飼いの様子)
(写真左：主力商品
「オーガニックエッグ」)

取組の概要

- スペシャルニーズを持つ（特別な配慮を必要とする）利用者15名が、有機ほ場の認証を受けた3.5haの農地を利用したビニールハウス鶏舎6棟、木造鶏舎1棟や畑で、養鶏（約6,000羽の鶏を平飼い）や野菜の栽培に通年で取り組む。
- 身体にスペシャルニーズを持つ利用者には、伝票作成などの事務作業に従事して、特長に応じた作業分担を実施。
- 近隣の農福連携の取組主体から野菜の調理くずを引き取り、鶏の飼料として活用することで、循環型農業の取組を実施。
- 元精神科の看護師である代表者夫妻が、専門知識や経験を生かし、利用者の体調管理や相談事へのきめ細やかな対応を行い、利用者同士の人間関係にも配慮。



「養鶏」・・・商品種類別の専用ケースを集卵側と洗卵側の両方に用意し、移し替えることで、異なる商品の混入を防止。

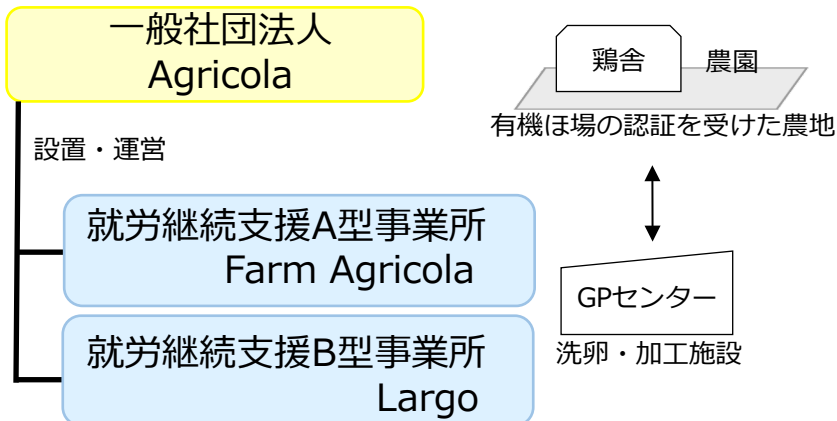


「配合飼料」・・・臭みをなくするため魚粉の使用を最小限とし、北海道産の原料にこだわった自家配合飼料を鶏の餌に使用。



「有機野菜」・・・有機ほ場の認証を受けた農地で野菜を栽培。

体制図



取組の成果

- 令和元年7月、就労系障害福祉サービス事業所の設置・運営法人として全国で初めて、採卵鶏での有機JAS認証を取得。また、飼料の全量を国産で賄っており、福祉主体でありながら高難度の取組に成功。
- 生産される高品質な卵は有名ホテルにも販売され、売上げの増加に伴い、事業所の利用者数は、取組開始当初から倍以上に増加。
- 養鶏の作業や専門的なサポートにより、精神にスペシャルニーズを持つ利用者の抗精神病薬の服薬量が、多くの場合で1/2～1/3にまで減少。

所在地▶北海道石狩郡当別町字金沢1779-17

連絡先▶ TEL:0133-27-5551 E-mail:info@agricola.jp

ウェブサイト▶ <https://www.agricola.jp/>

【取組のプロセス】

平成27年

イニシャルコストが抑えられ、通年作業が可能である養鶏を選択

平成28年

農山漁村振興交付金を活用し、鶏卵の加工施設（洗卵設備）を整備

平成31年

令和2年

農林水産省主催の農福連携育成研修で、障害福祉サービス事業所職員向けの講師を務める

令和4年

今後の展望

きっかけ

精神科の看護師として勤務する中、病院で行う精神医療に限界を感じ、農業主体で収入を確保し、看護師として精神的なフォローを行うことで、精神にスペシャルニーズを持つ方の就労が可能となり、入院に至ることを少しでも防げるのではないかと考えた

一般社団法人Agricolaの設立、事業所の運営開始

- 平成28年8月に一般社団法人Agricolaを設立するとともに、平成29年4月に就労継続支援A型事業所「Farm Agricola」を設置し、当初から農福連携の取組を開始。

採卵鶏での有機JAS認証を取得

- 令和元年7月、就労系障害福祉サービス事業所の設置・運営法人として全国で初めて、採卵鶏での有機JAS認証を取得。

飼育する鶏の数が6,000羽に達する

- スペシャルニーズを持つ方の雇用及び工賃水準を確保するため、段階的に鶏の数を増やし、令和3年9月には4,200羽に到達。
- 入替となる鶏の一部は、剣淵町の業者に依頼し、燻製にして商品化。
- 令和3年から、1haのほ場で有機デントコーンを栽培し、有機飼料の自給を開始。
- 令和4年に木造で新鶏舎を建築し、飼養羽数が6,000羽となる。

就労継続支援B型事業所 Largo を設立

- 心身の変化や高齢化などにより、就労継続支援A型事業所での就労が困難な利用者に対して、地域での受け皿になれるよう、令和4年9月に就労継続支援B型事業所を設立。

国産の有機飼料による養鶏、鶏卵加工品の製造・販売

- 近隣市の農家から子実とうもろこしを購入したり、有機大豆を自家栽培するなどして、国産の有機飼料による養鶏を進めていきたい。
- 就労継続支援B型事業所を運営することで、より幅広くスペシャルニーズを持つ方々を支援しながら、マヨネーズなどの鶏卵加工品を製造・販売し、経営の拡大に繋げていきたい。
- 利用者の現在及び今後のQOL向上を目的として、社会保険を完備したい。



ほ場作業風景



燻製商品

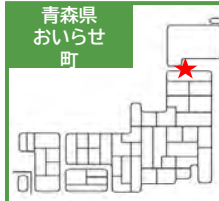


鶏舎の風景



「誰もが地元で安心して暮らし続けられる地域づくり」を目指して取り組む。現在では年間40万人以上が訪れる県内有数の観光スポット。障害者・高齢者の活躍の場、更には地域の交流拠点として活躍。

福祉事業所

青森県
おいらせ町

基本情報

設立: H20年 / 農福連携取組開始: H20年

取得認証等: 認定農業者(R6)

農山漁村振興交付金(農福連携型)(R2年度)

主な選定表彰: 令和2年度ディスカバー農山漁村の宝「コミュニティ部門」等

きつかけ

H20年

「地域における障害者の活躍の場・雇用の場」を作りたいとの想いから、本格的に農業生産と6次産業化に着手。

人を耕す

- 観光農園という集客スポットで働くことは、常に客に見られている緊張感があり働く人たちの自立心も自然と向上していく。
- 自らの能力とペースで仕事をこなし、達成感ややりがいを得ながら働けるよう、農業を含めた様々な職種の従事者が障害者が共に働き、支援・連携しながら作業を行っている。

地域を耕す

- 休耕地の活用と地域の取組として、もち性小麦の栽培に取り組み、地元生産者、行政、県立保健大学、福祉施設、加工業者等と多様な連携を図りながら地域の取組として展開している。
- 収穫された小麦は、地元を中心に普及を図り取扱店舗は21店舗、40種以上の新商品が開発・販売されるようになり、食材としても学校給食や福祉施設で採用されている。
- 町内の直売所のふるさとの味研究会(高齢農業団体)と連携して菊芋の栽培と商品開発。

未来を耕す

- 地元の公立大学生と地域おこし協力隊等から協力・助言を得て、菊芋の「ピクルス、ドレッシング、ふりかけ、漬物」等の全9種類の新商品を開発、直売所で販売。
- 商品開発では、利用者が生産した菊芋を、地元高校と提携。機能性食品、地元特産品として魅力を引き出すようレシピの開発。販路拡大として、地元学生とテストマーケティングを実施。

取組

成果

平均工賃月額

25,066円(R2)
→50,163円(R6)

障害者数

26人(R2)
→52人(R6)

工賃総支給額

14,822万円(R2)
→18,540万円(R6)
※農福連携以外も含む

農地面積

5.34ha(R2)
→5.34ha(R6)

- 新鮮な農産物を収穫できるビニールハウスやパン工房では、開店準備や調理補助、収穫作業など職種は多岐にわたり、一人一人が抱える症状に合わせて仕事を調整しているので、自らの能力に合わせた仕事を日々こなし、達成感や生きがいを得ながら働く大切さを得ている。
- 水耕栽培システムによる西洋野菜のハウス栽培では、風雨に影響されずハウスの仕様(装置レイアウト、作業性の確保)や栽培作業の視覚化がされているため、現在では、収穫、選別作業など障害者だけで管理が可能になっている。

概要

主力商品

(農作物)小麦(もち姫)、菊芋、いちご、南国フルーツ等
(加工品)ピクルス、ドレッシング、ふりかけ、漬物等

特徴的な取組
6次産業化

【観光農園アグリの里おいらせ】

・株式会社アグリの里
おいらせ(農業法人)
・工房あぐりの里(福祉
サービス事業所)
・NPO法人平成謝恩会
(地域貢献)



ふるさとの味研究会
(高齢農業者団体)
地元農業者
地元公立高校

農作業委託・加工品の共同開発他

体制図

住所: 青森県上北郡おいらせ町向山東2丁目2-1684

TEL: 0178-20-0670

Mail: seiyuu18@kizakinousou.jp

URL: info@agurinosato.jp

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○



農作業(稲作)や木材加工、漁具の修繕など、農福・林福・水福連携に取り組み、県平均を上回る工賃を実現。

基本情報

- 所在地：青森県平内町
- 団体名：社会福祉法人
青森県すこやか福祉事業団
就労サポートセンターさつき
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品等：米、もち米、木材加工、
漁具補修
- 取得認証



就労サポートセンターさつき（就労
継続支援A型、B型、就労移行支援）

取組の概要

- 平成23年に10年以上休耕地となっていた水田の貸借契約を進め、利用者の就労の場の安定化や工賃向上を目指し水稻栽培事業を開始。
- 周辺地域の遊休林や敷地内外の伐採依頼を請け負うことにより、景観の保持や地域住民との信頼関係の構築につながっていると同時に、安定した作業と工賃確保の為、近隣の薪ストーブ販売店と提携し、薪材生産を実施。
- 漁業が地域における生活の要となっているが、高齢化や後継者不足による身体的負担が課題となっていた為、漁具修繕等の軽作業を請負う事で漁師の負担軽減と障害者の就労機会の確保を実現。



地域就農経験者を交えた農作業



遊休林伐採依頼の請負



ほたて漁具の修繕作業

体制図

青森県すこやか
福祉事業団

就労サポートセンターさつき

(株) 城ヶ丘観光

(株) 魚国総本社

(株) ぐるめ

薪ストーブwood rack

平内町漁業協同組合

A & Tひらないアグリ

取組の成果

- 地域の水田の90%以上を借入れ、事業所が地域農業の担い手となっている。
- 農作業に関わる障害者数は、取組当初の4名(平成24年)から21名(令和5年)に増加。
- 平均工賃月額は取組当初の14千円(平成24年)から29千円(令和5年)に上昇。

所在地 ▶ 青森県東津軽郡平内町大字茂浦字向田24

連絡先 ▶ TEL:017-755-5113

E-mail:saposen03@syuusapo.com

ウェブサイト▶www.syusapo.com

【取組のプロセス】

法人の設立

昭和51年

水稻栽培の開始

平成23年

旧平内町立茂浦小学校校舎を借入れ「就労サポートセンターさつき」を開設

平成24年

水稻栽培を引継ぐ

令和元年

薪材生産・販売を開始

令和5年

今後の展望

きっかけ

地域の水田が10年以上休耕地となっており、景観保持の観点から稲作の再開を望む声が多くあげられていたことから農福連携の取組を開始

水稻栽培の開始〈平成23年4月〉

- 農業委員会、地権者との相談を重ねながら荒廃農地の貸借契約を進め「障害者総合福祉センターなつどもり_林産班事業」として水稻栽培を開催。

漁具修繕等による漁具加工作業を開始〈平成24年4月〉

- 地域の漁業者及び漁業資材加工業者より漁具加工作業の請負を開始。

就労サポートセンターさつきを開設〈同年8月〉

- 就労サポートセンターさつき(就労移行支援・就労継続支援B型事業)を開設。
- 水稻栽培事業を引き継ぎ、農業を開始。
- 就業継続支援A型事業を開設〈平成27年4月〉(令和5年3月廃止)。
- 収穫期には地域住民を招待しながら大収穫祭を実施し、利用者と地域住民の交流を図る。
- 漁具修繕の請負や地域内海水浴場の清掃を続けることで、地元の漁師と利用者との関りが多く持たれるように工夫。

薪材の生産・販売を開始〈令和元年12月〉

- 青森県農福連携マルシェに参加し、利用者と共に生産した米と薪材を一般向けに販売



農福販売イベントでの薪材の販売

施設外就労開始〈令和5年8月〉

- 地元企業「A&Tひらないうぐり」から「青森きくらげ」生産行程の一部を請負い、農連携技術支援者育成研修を受講した職員の支援のもと、障害者が地域産業の担い手となっている。

障害者の「働きたい」を積極支援

- 豊かな自然の下、地域の伝統や産業と協調しながら地域活性化に貢献する事を目標として一丸となって取り組む。
- これからも変化には変化で対応し、小さな発想を大きく議論し合いながら全員が成長し、障害者の「働きたい」を積極的に支援。



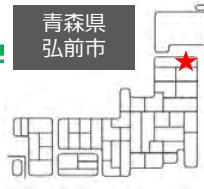
収穫米を使用した地域との交流
(大収穫祭)



地域の海岸清掃



売れる喜びが作る喜びに



多機能型事業所「就労サポートひろさき」では、平成19年の開設以来知的障害などを持つ施設利用者が、主にりんご生産法人への施設外就労により、通年で栽培作業等を実施。

基本情報

- 所在地：青森県弘前市
- 団体名：社会福祉法人七峰会
- 選定表彰：－
- 主力商品：メロン
- 取得認証等：－



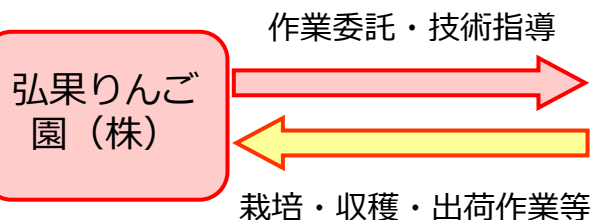
取組の概要

- 「弘果りんご園(株)」等から作業を請け負い、障害者が施設外就労でりんごの栽培を実施。また、障害者就業・生活支援センターからの紹介により、ピーマン等を生産する農家1か所からも作業を請け負っている。
- 障害者は葉摘みや収穫した果実の運搬作業、リンゴの箱詰作業、収穫用コンテナの洗浄のほか、比較的難度の高い1次摘果作業も実施。
- 弘果りんご園(株)の作業員から技術指導を受けるほか、障害者が市内りんご生産法人に実習生として通い、技術の向上を図っている。
- 令和4年からは弘前中央青果(株)と連携し、メロン栽培にも取り組む。



秋の収穫作業の様子

体制図



取組の成果

- 高齢化、人手不足等によりりんごの生産量低下や周年出荷への不安を抱えているが、多くの障害者が携わることで、地域における担い手となっている。
- 令和5年度は6名の利用者が実習先である弘果りんご園(株)でりんご栽培に取り組んでいる。
- 栽培したメロンは地元ブランドである「つがりあんメロン」として、市場に出荷し、好評を得ている。

所在地 ▶ 青森県弘前市熊嶋字亀田184番地1

連絡先 ▶ TEL:0172-82-5770 E-mail:support.h@xvb.biglobe.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.takushinkan.jp/1137.html>

【取組のプロセス】

「就労さばーろひろさき」を開所し、開設当初から農業を職業訓練の一環として実施

平成19年

働き手の減少
福祉のマンパワーの活用

平成28年

農福連携のモデル事業を開始

平成29年

弘果りんご園のスタッフからの技術指導

やりがいの向上
給料アップ

令和3年

令和4年

農業者と障害者のマッチング

今後の展望

きっかけ

職業訓練の一環として農福連携に取り組んでいたが、弘前市が掲げた「多様な人材の自立支援による地方創生計画」により、障害者の働く場として農業が注目され、これを機に関係機関と連携してりんご園での施設外就労を本格的に開始

「農福連携」のモデル事業を開始

- 平成28年に市が掲げた「多様な人材の自立支援による地方創生計画」により、障害者の働く場として農業が注目され、障害者の働く力と可能性をりんご産業に生かしていこうという機運が高まったことを機に、弘前市自立支援協議会の就労支援部会、弘果りんご園(株)と連携して、「農福連携」のモデル事業を開始。

農作業指導

- りんごの作業内容は、摘果、摘葉、収穫、果実の運搬作業等があり、農業従事者は障害者への接し方や指導方法について不安を抱いていた。
- 障害者も様々な困難を抱えていることから、個別的な支援が必要とされるため、作業の技術指導を受けた福祉職員が間接的に関わって作業指導を行うことで、それぞれが抱える不安を解消し、効果的に作業を進めることが可能となった。

担い手不足の一助に

- 継続して作業に携わることで障害者の作業技術の向上と、仕事に対する自信とやりがいに繋がっている。
- 仕事ぶりから信頼を得ており、作業依頼が年々増加傾向にある。
- 令和4年からは弘前中央青果(株)と連携し、メロン栽培にも取組、栽培したメロンは地元ブランドである「つがりあんメロン」として、市場に出荷し、好評を得ている。

win-winな関係に

現在、弘前市では就労支援窓口(JA等)の活用による情報の収集とデータベース化を実施しており、障害者の就労環境の向上に向け、レベルアップ研修会や現地検討会の開催、農福連携推進セミナーの開催等、障害者が働きやすい環境づくりを目指し、様々な取組が実施されている。



福祉職員が作業状況を確認



技術の向上

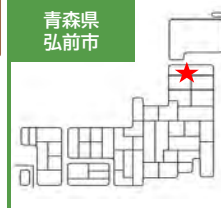


りんごの収穫

農業者と障害者等のマッチングに取り組み、独自のマニュアルや支援制度等を整備。不登校傾向等にある児童生徒や特別支援学校の生徒向けの農業体験も実施。

地方自治体

青森県
弘前市



H
31
年

弘前市のりんご園で蔓延したりんご黒星病について、労働力不足に対応しきれなかった農家と福祉事業所が連携して対応したことがきっかけとなり、市として農福連携を後押し。

きっかけ

人を耕す

地域を耕す

未来を耕す

取組

成果

基本情報

農福連携取組開始: R元年

取得認証等: SDGs未来都市

概要

主力商品

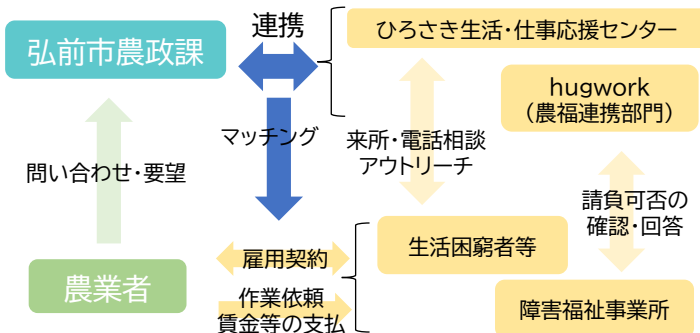
(農作物)

りんご、ピーマン、トマト、ミニトマト、落花生、えだまめ、にんにく

特徴的な取組

中間支援

体制図



TEL/0172-40-7102 Mail/nousei@city.hirosaki.lg.jp

視察受入れ: 可 / 報道機関受入れ: 可

- 農業者から作業の留意点や細分化の内容を聞き取り、R5年度に独自の「農福連携実践マニュアル」を作成。りんご作業16項目について、農業者が作業依頼する際のアドバイス等を掲載したほか、作業細分化により、障害者が従事可能な作業を整理。
- 農作業に引率する支援員には、農作業の指示だけでなく、安全管理等が適切に行われるよう指導。

- 農福連携の普及のため、市独自の支援制度として、R5年度から新たに農福連携に取り組む農業者を支援する「お試しノウフク」、障害者の農作業の様子や受入れの工夫を発信する「シェアノウフク」、特別支援学校の生徒に対する農作業体験を実施。
- R6年度からは新たに不登校傾向にある児童生徒に対する農作業体験を実施。

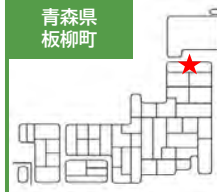
- マニュアル作成などの取組が注目され、県内外からの行政関係者や大学等の視察が増加。併せて、県主催の研修会などに講師として招かれる機会も増加。
- 室内でりんごの袋掛けを練習できるキットを福祉事業者へ貸し出しており、事前練習により心理的負担の軽減につながっていると好評を得ている。

農作業に関わった障害者数	農福連携の支援制度を活用した農家数	農福連携で実施した作物数	農福連携で実施した作業内容
24人(R元) →2,426人(R5) ※年間のべ人数	2人(R元) →20人(R5)	1種類(R元) →7種類(R5)	1作業(R元) →31作業(R5)

- 支援制度を活用して農福連携に取り組んだ農業者はのべ60名となり、事業終了後も短期雇用を継続しており、農家2戸が障害者計4名を常時雇用。
- 農福連携の推進により、障害者が作業しやすいよう、新たに加工用りんごのほ場を整備する農業者や、省力樹形である高密度植栽培を行うほ場での作業を依頼する農業者もいる。
- 市内農業者が市外の福祉事業者と連携するなど、地域外とのつながりを創出。
- 障害者がりんごの栽培からジュースのラベル貼り、販売まで携わるなど、6次産業化の事例も確認。

耕作放棄地を活用し、AIによる自動灌水・施肥システムで作業の効率化を図りながら、高品質な果物や野菜を生産。施設外就労による複数の地域農家との農福連携やノーフクJASの活用を通じて、高賃金を実現。

福祉事業所

青森県
板柳町

きっかけ

H
29
年

JAからのピーマン栽培支援依頼を機に農業へ参入。難しい水と肥料の供給をAI自動灌水・施肥システムの導入で対応し、自社栽培を開始。農家との連携も拡大中。

人を耕す

- 作業の細分化やスタッフの農作業理解度の向上により、作業環境を改善し、障害者の体力と自信が向上。複数農家との連携が実現し、平均賃金向上と利用者の技術習得につなげる。
- 施設外就労先の農家に些細なことでも褒めるようお願いし、利用者の自信向上と農家との信頼関係構築を実現。

地域を耕す

- JAから営農組合のニンニクの芽出し作業を依頼され、高評価を獲得。新たなリンゴ栽培の作業依頼につなげる。弘前市からも農家を紹介され、契約を結ぶなど地域との連携の場を拡大。
- 青果市場と連携し、耕作放棄地を活用した里芋の実証栽培に挑戦。
- 地域のノーフクマルシェに参加し、ノーフクJAS認証のピーマンやシャインマスカットを販売。地域との交流を深めた。

未来を耕す

- 耕作放棄地を活用し、全自動灌水・施肥システム「ゼロアグリ」を導入したシャインマスカット、メロン栽培を開始。作業の効率化と品質向上による収益増を実現。また、AI管理によりメロンのネットが均一に仕上がるとの評価を得て、県内農家や大手企業からも注目を集める。
- ノーフクJAS認証の青森県産ピーマンとして秋田県スーパーに出荷。信頼性と話題性で売り上げも良く、単価アップにより収益向上が実現。

基本情報

設立:H27年 / 農福連携取組開始:H29年
取得認証等:認定農業者(R6年)、ノーフクJAS(R4年)
農山漁村振興交付金(農福連携型)(R1~R2年)
主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(第10回/東北)

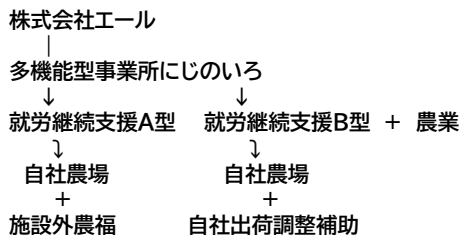
取組

主力商品
(農作物)ピーマン、シャインマスカット、メロン 等

特徴的な取組
スマート農業

概要

体制図



住所: 青森県北津軽郡板柳町大字横沢字東宮元12-12

TEL:0172-55-6682

Mail:info@nijino-iro.jp

URL:https://nijino-iro.jp/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

平均賃金月額

67,000円(R2)
→85,000円(R6)

農作業就労数

2人(R2)
→9人(R6)

売上高

90万円(R2)
→980万円(R6)

農地面積

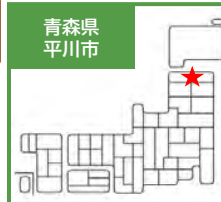
0.3a(R2)
→2.8a(R6)

- スタッフが農家へ実習に赴き、障害特性に応じたワーキングメモリーを意識しながら、作業の細分化とシミュレーションを実施。利用者の自信向上と、農家が納得できる作業提供を実現。
- 作業を細分化し、できることから着実に取り組むことで、障害者は自身が向上し、障害者の受入に抵抗のあった農家や地域の理解も進んだ。
- 特別支援学校生徒の見学体験会を実施し、ピーマンの収穫や出荷調整等体験を通して交流。利用者にとっても、教えるという新たな経験を積んだことで、成長の機会となった。

福祉と地域が連携し、希少な津軽漆の苗木生産から加工・販売まで一貫して行う取組により、障害者の就労、工賃向上、一般就労の機会創出とともに、持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に寄与。

福祉事業所

青森県
平川市



基本情報

設立: H25年 / 農福連携取組開始: R3年

取得認証等: 農山漁村振興交付金(農福連携型)(R4~5年)

きっかけ

R3年

荒廃農地や放置山林の増加により、国産漆の自給率低下と伝統工芸「津軽塗」の危機が深刻化する中で、農福連携を開始し、持続可能な地域づくりと伝統文化の継承に取り組む。

人を耕す

地域を耕す

未来を耕す

- 利用者別の評価シートを半年ごとに見直し、工賃向上につなげている。
- 苗育成、植林、営業、講師、接客、ものづくり班を設け、適性に応じた作業を選定。日替わりリーダーに外部対応や指導を任せ、責任感と自信を育成。リーダーの働きは、工賃に還元。
- 外部講師を招いての作業マニュアルの作成、治具を用いた作業難易度の調整、通所困難な難病者にも在室で作業参加できる仕組みの構築など安全で働きやすい職場環境を整備。

- 年間1,000本の漆苗を安定生産し、販路を確保。副産物を活かしたアップサイクル製品で高収益を実現し、津軽塗産業との協働で観光客や漆文化の関心のある層に訴求。
- 荒廃農地や伐採後の山林を林業会社や学生とともに整備し、漆林へと再生。短期間で収益化が可能な漆を用いた山づくりを提案し、農林資源の活用と地域課題の解決に貢献。

- 苗木生産から加工・販売までを一貫して行い、津軽塗とのコラボや外部講師の協力によって高付加価値な製品を創出。精神障害者にも良好な効果があり、定着率も向上。
- 取組内容はSNSやメディア、CMで積極的に発信し、全国から視察者が訪問。作業マニュアルや治具などの工夫は他団体にも応用可能。

取組

成果

主力商品

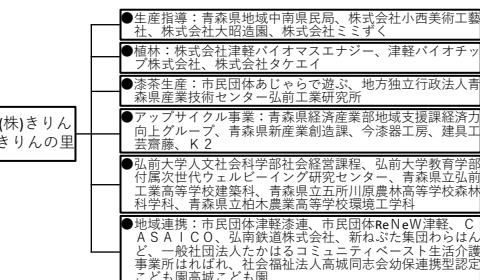
(農産物)漆苗
(加工品)漆茶

特徴的な取組

林福連携、ユニバーサル農園

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

住所: 青森県平川市中佐度南田18-20

TEL: 0172-88-7656

Mail: kirin@kjb.biglobe.ne.jp

URL: <https://kirinnosato.official.ec/>

平均工賃月額

11,286円(R3)
→20,825円(R6)

作業に関わる障害者数

3人(R3)
→20人(R6)

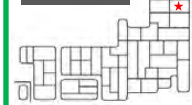
荒廃農林地の解消

0ha(R3)
→1.5ha(R6)

農地(栽培)面積

1㎡(R3)
→10㎡(R6)
※ポットトレイで漆苗を栽培

- 植林作業での評価が自信につながり、就労移行支援や一般就労への移行を実現。ものづくり作業をきっかけにイラストレーターとして開業した者や、職業訓練校に進学した者も輩出。
- 桜まつりや社協まつり、地域フェスタ、津軽塗フェアなどのイベントへの出店や展示会、講師活動などを通じて地域との交流を深め、コミュニティの維持・活性化に貢献。
- 企業、学校、行政へと連携を広げ、多世代・多分野での協同を推進。漆を通じた出会いから市民団体設立に至るなど、地域活性化の新しいモデルを構築。



農業法人として葉物野菜の周年栽培を実施する中で、人手不足から施設外就労として地域の就労継続支援B型事業所に葉物野菜の栽培・調製作業を依頼することにより、経済活動と社会貢献の両立を実現。

基本情報

- 所在地：岩手県花巻市
- 団体名：株式会社耕野
- 選定表彰：－
- 主力商品：葉物野菜（ベビーリーフ etc.）
- 取得認証等：JGAP



取組の概要

- 平成24年2月に農業法人として設立し、温室ハウス内での水耕プラントを活用したベビーリーフ等の葉物野菜の周年栽培を開始し、飲食店向けの業務用葉物野菜を中心に生産。
- 岩手県主催の商談会において農福連携に取り組むことを勧められたことから取組を開始し、当初は簡単な収穫後の残渣回収などの作業委託をしていたが、今では播種、定植、収穫、計量、包装までの生産全般を障害者が担っており、貴重な人材となっている。
- 現在、農業等に関わっている雇用者又は利用者数は20名となっている。
- 専門家による「障害者特性」について学ぶ研修会を開催し、障害についての意識を深め、関わり方や接し方などについて理解を深めるなど、スタッフの意識付けに取り組む。



ホワイセリリの収穫と下葉処理の作業

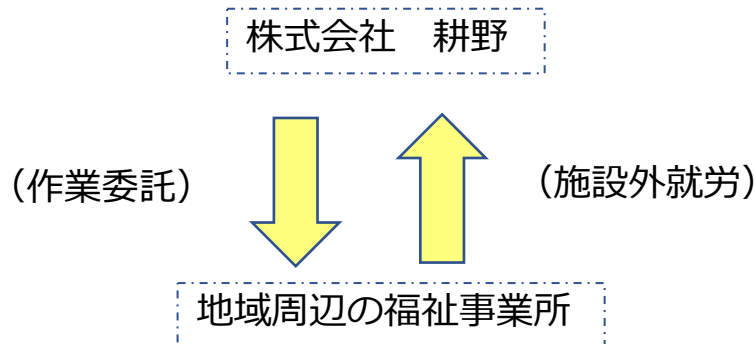


収穫後の残渣回収



メンテナンス作業

体制図



取組の成果

- 作業に余裕が出来たことにより、生産面積の拡大や、新品種の導入への研究開発の時間が確保でき、収益の向上につながっている。
- 障害者の視点に立った作業の見直しや、安全面での改善が図られたことで、従業員等の作業環境全般についても改善され、JGAPの維持管理にも好影響を与えている。
- 農福連携に取り組むことで、県や市町村主催の農福連携セミナーに講師として呼ばれ、福祉関係団体との交流や情報交換の機会が増えたことで、新たな連携が生まれている。

所在地 ▶ 岩手県花巻市太田64-184

連絡先 ▶ TEL : 0198-29-5558 E-mail : info@kouya-leaf.biz

ウェブサイト ▶ <https://kouya-leaf.biz/>

【取組のプロセス】

平成24
年

きっかけ

株式会社耕野は働き手の確保を模索していた中、岩手県のマッチング商談会において農福連携を勧められたことから福祉事業所への作業委託を開始

株式会社耕野を設立し、起業開始

株式会社耕野を設立

- 平成24年2月に株式会社耕野を設立し、温室ハウス内での水耕プラントを活用したベビーリーフ等の葉物野菜の生産を開始。飲食店向けの業務用の葉物野菜を中心に生産拡大を図る。



野菜の種類により
手作業での定植

平成25
年

岩手県「食の産業
クラスターネット
ワーク」のマッチ
ング商談会を活用

ベビーリーフ等の周年生産を開始

- 平成25年3月に温室ハウス1号棟（12.72a+水耕プラント設備）を建設し、ベビーリーフ等の周年生産を開始。
- 平成28年4月に温室ハウス2・3・4号棟（15.84a×3棟）を建設。
- 平成31年1月JGAP（青果物）認証農場認定（登録番号030000006）



水耕栽培用の自動定植
機械のオペレーター

平成31
年

温室ハウス敷地に
出入りする福祉事
業所の名前が入っ
た車両が地域への
PRを担う

農福連携の取組を開始

- 岩手県主催の商談会にて、岩手県社会福祉協議会のコーディネーターから、水耕栽培は1年を通じた作業があることから、農福連携への取組を提案され、地域の福祉事業所から障害者の試験的な受け入れを開始。
- 社会福祉協議会や福祉事業所と定期的に会議を開催し、課題点、改善点を話し合ったことで、障害者を受け入れることへの不安が解消され、障害者が農業の働き手になると確信したため、本格的な作業委託を開始。

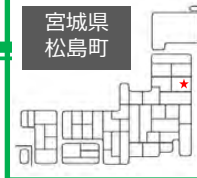


社内での障害者特性に
ついての定期研修

今後の
展望

経済活動と社会貢献の両立

- 様々な個性を持つ障害者に分かりやすいよう、今後は作業の平準化やマニュアル化を進めることにより、収益性と障害者の働きがいとを両立した労働環境整備や生活支援にも目を向けることで、農業生産性の向上と労働力の確保、定住人口の確保に繋げる。
- 日々、作業改善の連続であるが、障害特性に合わせた環境で淡々と作業を行うことができる障害者など、お互いの課題解決に近づくの可能性がある。今後も地域の福祉事業所や関係機関との連携を図りながら、「農福」の連携に取り組む。



地域の農業法人と連携し、障害者一人一人に合った農業・漁業の就労機会を提供することによって、障害者が地域産業の重要な担い手として定着。

基本情報

- 所在地：宮城県松島町
- 団体名：一般社団法人松島のかぜ
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020
優秀賞
- 主力商品：生かき、水稻、さつまいも、かぼちゃ、トマト、きゅうり、なす、玉ねぎ 等
- 取得認証等：－



取組の概要

- 「一般社団法人松島のかぜ」は、就労継続支援A型事業所として、障害者が自立した社会生活を営むことが出来るように、一般就労に必要な知識や能力向上に必要な訓練を適正かつ効果的に行い、主に農業・漁業を通じた就労の機会を提供。
- 現在、身体・知的・精神障害を持つ17名（定員20名）は有限会社F・F磯崎が経営する農地（60ha）と牡蠣養殖場（むき身10tを生産）で就労。地域のベテラン農業者なども参加して障害者と共に農作業等を行っており、地域産業の重要な担い手として定着。
- 宮城県庁での産直販売会では、障害者が自ら育てた米や野菜、生牡蠣を対面販売するほか、地域のJAや漁協のイベントでの出店では、牡蠣ご飯や焼きハゼなどの調理販売も行う。



田植えの苗補給作業



きゅうりの袋詰め作業



農作業のあと、地域の方々と記念写真

体制図

一般社団法人
松島のかぜ

連携

有限会社
F・F磯崎

業務委託

地域の中小企業、
団体など



取組の成果

- 利用者が安定的な就労者となることで、地域の農業と漁業の産出額は震災以前のレベルに回復し、その再生に大きく貢献。
- 農業・漁業の他に配達作業などを通じて接客術も学んでおり、これまでに14名が一般就労に移行。
- 農業・漁業の年間を通じた作業により、1日4時間勤務ながら利用者は安定した賃金（月額7～8万円）を得ている。

所在地▶宮城県宮城郡松島町磯崎字釜12

連絡先▶TEL：022-352-3256 E-mail：matushimanokaze@gmail.com

ウェブサイト▶<https://matsushimanokaze.com>

【取組のプロセス】

震災により、離農が続出し、半農半漁を生業としていた磯崎集落は、極端な労働力不足

平成25年

きっかけ

震災後の農漁業復興のため、松島町と宮城県の指導を受けて設立

就労継続支援A型事業所として漁業法人に労力提供開始

- 東日本大震災により松島町内で働く障害者のほとんどが失業したこと、また震災をきっかけとした離農と労働力不足が背景となり、松島町と宮城県の指導を得て就労継続支援A型事業所として平成25年8月1日に設立し、利用者は農業法人である有限会社F・F磯崎が経営する農地や牡蠣養殖場で就労。



宮城県庁での産直販売

平成29年

優良な職業訓練の場として町内外に広く認知されている

一般就労への移行者、1人目が誕生

- 就労に必要な知識や能力向上に必要な訓練を適正かつ効果的に行い、一般就労への移行に向けて支援を実施した結果、平成29年4月に1名が一般就労に移行。
- また、近隣の閉鎖される就労継続支援A型事業所から5名を受け入れ。



ひとめぼれの精米袋詰め作業

令和5年

一般就労への移行者、14人目を達成

- 就労継続支援A型事業所を設立して10年が経過し、利用者は農業漁業の作業技術だけでなく、産直販売会やイベント出店、ホテル・旅館・飲食店への配達作業などを通じて接客も学んでいる。これまで14名を一般就労に送り出しており、優良な職業訓練の場として町内外に広く認知されている。



青森県への1泊研修旅行

今後の展望

安心して楽しく健康的に働ける最高の環境作りに注力

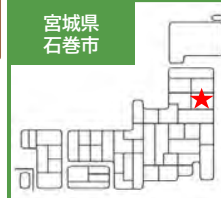
- 農業と漁業のそれぞれの分野で年間を通して様々な仕事があるので、障害者の一人一人に合った仕事を提案している。
- 自分たちが作ったものがたくさんの人たちの食卓にならび、体をつくり、笑顔や命を支えているつながりを感じることができる。
- 連携しているF・F磯崎と共に、地域交流イベントに出店販売等で参加し、地域活性化に大きく貢献している。



仲間と働く感想を語る利用者

多様な人が関われるソーシャルファームを理念とし、ホップ、サツマイモの農作業、6次化商品等を通じて、誰もが豊かに暮らせる地域での生活づくりに寄与。

その他

宮城県
石巻市き
つ
か
けH
3
1
年

農作業を通じた心のケア事業などの経験を踏まえ、多様な人が関われるソーシャルファームを理念とした農業の担い手育成事業としてスタート。

人
を
耕
す

- 令和4年までは中間就労支援を実施。毎週3名(生活困窮者、ひきこもり等)が、農作業を通じた就労プログラムに参加し、訓練手当(最低賃金以上)を支給。
- 令和5年からは直接雇用に変更に。ホップ、サツマイモの農作業、6次化商品、ビール関連事業、石巻市街地でのマルシェの運営等、幅広く様々な業務を掛け合わせた障害者雇用での働き方を実践。

地
域
を
耕
す

- 東日本大震災による津波被害を受けた荒廃農地を再生し、ホップ、さつまいもを栽培。
- 醸造所を設置し、自社栽培ホップを使ったクラフトビールを自ら製造、販売を開始。
- 乾燥ホップと市内社会福祉法人が製造する塩を使用した巻風ホップソルトと、自ら生産したサツマイモを活用した干し芋の製造販売により収益向上を目指した取組を実践。

未
来
を
耕
す

- 滞在型農業体験プログラムを実施し、就農体験できる体制づくりとして、市内2カ所にシェアハウスを設置。
- 平成30年から人材不足に悩む農家をサポート、新規就農の移住を実現する等、新規就農者と定住支援を継続。
- 食品メーカーからの出向を受入れ、6次化商品の開発、販路拡大を強化。

基本情報

設立:H28年 / 農福連携取組開始:H31年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R2年度)

主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(第10回/全国)等

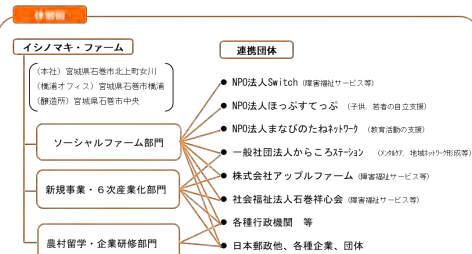
取
組

主力商品

(農作物)ホップ、さつまいも
(加工品)クラフトビール、干し芋、ホップソルト

特徴的な取組

6次産業化、中間支援、ソーシャルファーム 等

概
要体
制
図

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	○

成
果

6次化商品等売上高

305万円(R2)
→6,015万円(R6)

就労訓練者数

130人(R2)
→200人(R6)
※中間的就労支援の
体験延べ人数

農地面積

0.99ha(R2)
→1.1ha(R6)

体験・視察者等数

90人(R2)
→400人(R6)

- 農業だけに留まらず、一般企業へも雇用。障害者1名、触法者1名、ひきこもり等6名が雇用され、計8名のうち3名はイシノマキ・ファームが雇用。
- 農業を通じた交流として、ホップ苗株植えのボランティアイベントやホップ収穫体験ツアー、企業等研修受入を実践し、これまでに延べ1,200人以上が参加。
- 地域住民が大切にしてきた農地を守って継承していく仕組みを困難を抱える若者と一緒に開拓していくことで、地域に貢献。

住所:宮城県石巻市北上町女川字泉沢13番地

TEL:0225-25-4144

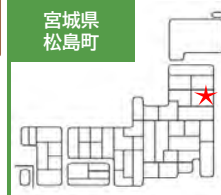
Mail:contact@ishinomaki-farm.org

URL:https://ishinomaki-farm.com/

就労継続支援A型事業所松島のかぜと連携することで、障害者が地域と繋がりをもって働ける場を創出するとともに、一般就労への移行を支援しており、様々な地域活動にも参画することで地域の活性化にも寄与。

農林水産業経営体

宮城県
松島町



きっかけ

H
25
年

松島町の磯崎地区は、高齢化と離農が進み著しく農家数が減少、農地や用水路等の地域資源の維持も困難になった状況から、農作業従事者として15名の障害者を就労させたのがきっかけ。

人を耕す

- 労働時間は、集中力確保のため1日4時間(8時～12時)、週休2日制を原則としている。
- 時給を県規定の最低賃金としており、海上作業には海手当(時給50円増し)を支給している。
- これらの取組により、利用者は、月額6～8万円の工賃を得ている。

地域を耕す

- 地域の農業組合、漁業組合、中小企業からの委託業務を請け負い、担い手が不足している地域の農業漁業労働力の確保、経営の安定に貢献し、地域産業の衰退の歯止めとなっている。
- 松島手樽を元気にする協議会と連携し、花火大会(10月)を開催し、野菜などの出店・販売。
- 松島大漁かき祭り(11月)ほか地域のイベントに積極的に参加。

未来を耕す

- 松島酒造りプロジェクトにより「特別純米酒いやすこ」を共同生産する活動をしており、水田3haでひとめぼれを減農薬栽培し原料としている。
- 各旅館から「米・野菜・生かき・海産物」の直接受注を受けるようになり経営も安定化し、旅館側も新鮮な食材の提供に満足している。

基本情報

設立:H17年 / 農福連携取組開始:H25年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R2～R4)
認定農業者(初回認定H18年)

取組

成果

概要

主力商品

(農水産)水稲、かぼちゃ、さつまいも、生かき
(加工品)かぼちゃ・さつまいものペーストパック

特徴的な取組

減農薬栽培、酒米造りプロジェクト、水福連携、6次産業化

体制図

農業法人
有限会社
F・F磯崎

連携

一般社団法人
松島のかぜ
(A型事業所)

企画運営班

農業作業班

水産作業班

農産加工班

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:宮城県松島町磯崎字磯崎101

TEL:022-355-1136

Mail:santyokuya@gmail.com

URL: https://ffisozaki.jimdo.free.com

平均工賃月額

6万円(R2)
→8万円(R6)

障害者数

18人(R2)
→20人(R6)
【定員20人】

売上高

102百万円(R2)
→126百万円(R6)
【農業+水産】

農地面積

58.5ha(R2)
→68.9ha(R6)
【田畑】

- 避難訓練、地域清掃、環境美化活動を定期的に行い、地域貢献やつながりを大切にしている。
- 地元の保育園や役場と連携して、サツマイモの苗植えと秋の収穫体験を幼児とともにを行い、畑の提供、その他サポート役として参加。
- 利用者の絆づくり、慰安のため、新年会、研修旅行、地域交流イベント、忘年会を恒例行事として実施。利用者にとって良い社会勉強の場となっている。

事業所開所時に養豚場の一部業務を受託し、養豚業を開始。その後、廃業予定であった別の養豚業者から事業継承を受け、現在は母豚230頭、育成頭数2,200頭の一貫生産を実施し、地域の畜産業の維持に貢献。

福祉事業所

宮城県
大崎市



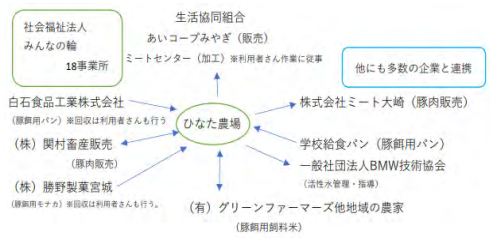
基本情報

設立:H14年 / 農福連携取組開始:H26年
※ひなた農場での農福連携開始はR4
主な選定表彰:仙台市中央卸売市場食肉市場開設周年記念
枝肉共進会(48、49、50周年)優秀賞

概要

主力商品
(農作物)豚肉

体制図



住所:宮城県大崎市田尻大貫北長根91
TEL:0229-87-8620
Mail:Wahawa-tajiri@minnanowa.org
URL:https://www.minnanowa.org/

きっかけ

H
26
年

事業所開所とともに生活協同組合あいコープみやぎが運営する養豚場の一部業務委託を受け養豚業を開始し、平成30年に全面委託。

人を耕す

- 利用者だけで作業に取り組むことも出来てきており、作業スピードも向上。
- 一つ一つの作業の工程を細分化し、障害特性に合わせた作業内容を提供。

地域を耕す

- 令和4年に廃業予定であった養豚事業者から事業継承を受け、養豚業を引き継いだことで、地域の畜産業の維持に貢献。
- 取り組みを地域にも知ってもらうため、年1回遠田地区の事業所が集まりお祭りを開催。
- 地域の農家や畜産業者と交流し、情報交換などを含めた連携を図り、地域活性化にも寄与。

未来を耕す

- アニマルウェルフェアへの取組も開始。
- 同法人内や食品会社、学校給食から廃棄で出た食パン、地域の農業者からの飼料米等を活用し、飼料を製造。地元の小学校への豚肉の供給スタート(10月～)

取組

成果

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

平均工賃月額	作業に関わる障害者数	売上高	—
35,000円(R5) →37,313円(R6)	4人(R5) →5人(R6)	2億2,016万円(R5) →2億5,736万円(R6)	

- 月6万円の工賃を達成した利用者もいる。
- 利用者が豚の体調やケガなどいち早く気づき指摘するまでに成長。
- 利用者が農機具まで扱えるようになり作業の幅も拡大。

水耕栽培に取り組む中で、平成24年から障害者の雇用と施設外就労の受入れを開始し、令和6年には障害者就労施設を設立。地域の特選品である舞茸生産者からの事業継承等、地域農業の維持・発展にも貢献。

農林水産業経営体

宮城県
栗原市

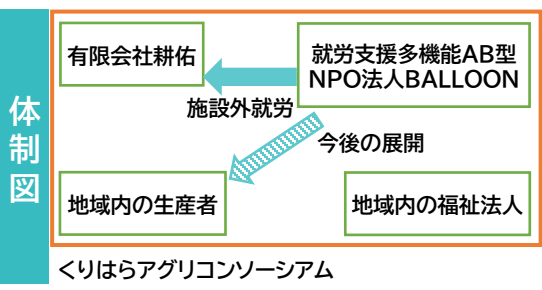


基本情報

設立:H10年 / 農福連携取組開始:H24年
取得認証等:GGAP(H26年)、認定農業者(H10年)
農山漁村振興交付金(農福連携型)(令和7年度)
主な選定表彰:H30年未来につながる農業推進コンクール
東北農政局長賞 等

概要

主力商品
(農作物)サンチュ、舞茸
(加工品)加工食品



住所:宮城県栗原市一迫柳目字平沢80
TEL:0228-52-2140
Mail:kouyuu@ia9.itkeeper.ne.jp
URL:https://kouyuu.net/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きつかけ
H24年
人を耕す
地域を耕す
取組
未来を耕す

- H24年
- 行政や特別支援学校からの要望で、障害者雇用や施設外就労の受入れを開始。障害者を「チームの主力」として育成する仕組みが必要と考え、令和6年に障害者就労施設を設立。
- 人を耕す
- 利用者の能力と成果を公正に評価するため、時間ではなく作業量が直接工賃向上に反映される具体的な指標を持つ「ナビゲーションマップ」を独自に構築・改善・活用。
 - 設立した障害者就労施設に、同社で障害者と共に働いてきた社員が移籍し、技術指導を担うことにより、利用者が仕事を覚えやすい環境を整備。
 - 多様な人材を活かす発想で、健常者・障害者・外国人がチームで目標達成を目指す現場を実現。
- 地域を耕す
- 令和7年9月現在、設立した障害者就労施設が、同社のサンチュ収穫の40%、定植作業の100%を担当。
 - 廃業寸前だった地域の特産品である舞茸の生産者から事業を承継。
 - 同社の水耕栽培による経営は安定収益と周年雇用で地域に貢献。
- 未来を耕す
- 同社の農福連携の取組を地域に波及させるために、農業法人、障害者就労施設、行政、地域の加工会社が参画する「くりはらアグリコンソーシアム」を令和7年9月に設立し、中間組織として、マッチング支援等の役割を担当。
 - 「障害者が作った野菜」という販売でなく、「品質で選ばれる野菜」として、大手スーパーや飲食店に納品。

雇用賃金	施設外就労報酬支払	売上高	—
138万円(R2) →339万円(R6)	292万円(R2) →415万円(R6) ※R6は設立した障害者就労施設への支払いも含む	1億7,246万円(R2) →1億8,937万円(R6)	
成果			
● 最初に、特別支援学校から受け入れた青年は、14年目の現在、健常者を含む新人パート職員に作業を教える立場として活躍。 ● 設立した障害者就労施設では、「毎日通える」「仕事に楽しく取り組める」「一人で作業ができる」といった条件をクリアして2名が一般就労を実現。 ● 「ナビゲーションマップ」の導入により、設立した障害者就労施設の利用者の作業スピードは平均1.8倍向上、できる作業種類は2倍に増加。			

施設外就労等で障害者を受け入れ、AIを活用しながら工賃の向上を実践。ICT業界と農業界を繋ぐ農工福連携の実現を目指し、取組を実施。

農林水産業経営体

秋田県
横手市



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:R4年
取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R5~R6年)
認定農業者(R3年)
主な選定表彰:令和7年ディスカバー農山漁村の宝 東北局奨励賞
令和5、6年秋田県種苗交換会菌床椎茸3等
令和2年JA秋田ふるさと枝豆優良賞

概要
主力商品
(農作物)米・菌床しいたけ・枝豆・玉ねぎ
(加工品)椎茸のうま煮、しいたけ入り焼きそば、乾燥しいたけ、いぶりがっこ、干芋
特徴的な取組
スマート農業、輸出、6次産業化、ユニバーサル農園 等

体制図
「就労継続支援B型イオ・グランデ条里」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「NPO法人太陽の園」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援B型フレッシュワーク」から施設外就労で収穫、出荷作業等の農作業「就労継続支援A型みらいワーク」で野菜キャラクタードesign、販促グッズ制作株式会社みずほライスで障がい者を正規雇用

住所:秋田県横手市睦成字久保目110
TEL:090-6567-5284
Mail:Kumagai-m.mzh@ace.ocn.ne.jp
URL:https://mizuho-akita.com/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R4年

農福連携の工賃向上を目指し、前職のICT業界での経験や技術を活用して、成果を上げられる障害者雇用を実施。

人を耕す

- 施設外就労障害者に指示を行うリーダー職として、障害者正社員を採用。
- 誰でも同じ成果を上げられる装置や仕組みを導入することを考え、AIを活用した椎茸の選別機、菌床の濁さを顔文字で表示する機械の共同開発や、白米の自動計量パック機械等を導入。
- 人が集まる農福連携マルシェ用のログハウスなど、心地よい距離感で社内・社外ともに交流できる職場環境を整備。

地域を耕す

- 農福連携は小さな圃場で多品目を栽培。荒廃農地の有効活用で、いぶりがっこ用だいこん、雪ノ下にんじん、空心菜、など特色ある農産物を栽培。
- 横手北小学校や養護施設の子供たちと田植え体験、稲刈り体験を毎年行い、地域の子供たちや高齢農業者との農業交流を実施。

未来を耕す

- 損益改善を図るため、AIやセンサーを活用したスマート農業を実践。
- 障害者に合わせた仕事ができるシステムや仕組みを創り、成果を上げ、工賃向上を目指した農福連携による加工センターを運営。
- R7年産地立地型PJに採択され、椎茸規格外品を使った6次産業化の取組を実施。

成果

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
13,000円(R4) →15,000円(R6)	10人(R4) →15人(R6)	1億200万円(R4) →1億6,300万円(R6)	60ha(R4) →75ha(R6)

- 毎朝朝礼を実施。会社理念である「生き辛さを抱えた方々を支えること」を伝え、障害者の方へ寄り添い、思いやる心を育成。
- 農福連携の取組に共感した首都圏の5つ星ホテルからお米購入の申し出があり、販路が拡大。
- R7に就労継続支援B型事業所で時給1,000円を開始。
- 就労継続支援A型事業所から農作業体験の受け入れを経て、正社員として雇用。
- R5特用林産振興支援事業に採択され「AI椎茸選別機」を開発。これにより障害者も訓練不要で選別ができる環境が実現。

高齢者施設において、機能訓練を兼ねた夏野菜栽培や天日干し米づくり、稲わら飾りの制作・販売を通じて、高齢者が最期まで生きがいを持って働ける場を実現。



基本情報
設立: H20年 / 農福連携取組開始: H25年
主な選定表彰: 秋田県東成瀬村品評会(H29、H30)玄米の部第1位、ディスカバー農山漁村の宝(第12回/東北)

概要
主力商品
(農作物)米、トマト、リンドウ、山菜、夏野菜
特徴的な取組
稲わら飾り(リース)製造、環境保全型農業、特別栽培農産物

体制図

株式会社風鈴 — デイサービスセンター風鈴
|
株式会社ツインズ
|
地域農家
・
大潟村農家

住所: 秋田県雄勝郡東成瀬村田子内字長瀬51番
TEL: 0182-47-3522
Mail: fengling51@navy.plala.or.jp
URL: http://higashinaruse.jp/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きつかけ
H25年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組

- 高齢者が「生き生きと暮らす」ためには、役割と働く場が不可欠であると実感。高齢者の多くが農業経験者であり、その力を活かすことができると考え、農作業を実施。
- それぞれの能力に応じて、無理なく作業できるように道具を工夫したり、高さを調整したり、職員がサポートしたりすることによって、利用者が可能な作業を実施。
 - 圃場に行く前に体温・血圧測定を徹底し、水分補給と作業時間の調整を行う安全管理体制を構築。
 - 『同じ釜の飯を』を合い言葉に、農作業を通じて共に生きる喜びを実感できる場づくりを実施。
- 荒廃農地30aを再生し、雑草に覆われていた棚田を維持管理。
 - 地域農家のトマトやリンドウ栽培への参加により、農家側の労力が軽減するとともに、高齢者側の役割を創出。
 - 大潟村農家との連携で稲わら飾り(リース)を製造。天日干しし収穫した天日干し米「冥土の土産」はふるさと納税返礼品に登録。
- 令和6年から隣接の美郷町の高齢者施設でも取組を導入。
 - 自然農法・天日干しの希少性を活かし、付加価値を向上。
 - 手植え・手刈り・手干しといった昔ながらの技術の継承が進み、地域に伝統を残す人材育成の場にも寄与。

平均介護度	夏野菜・山菜の販売額	米の販売額	稲わらリースの販売額
2.1(R2) →2.0(R6) ※利用者のうち要介護認定者の介護度を平均した値	5万円(R2) →10万円(R6)	0円(R2) →7万円(R6)	0円(R2) →9.6万円(R6)

- 成果**
- 介護が必要になり、家に引きこもっていた80代女性が、当初断固拒否していたこの農を通じたデイサービスを受け入れ、『ここに来ることが唯一の楽しみだ』と1年後に発言。
 - 介護職員と高齢者が目標を一つにすることで、他の施設ではあり得ないような会話が生まれており、施設内では一歩も歩かない高齢者が、農作業だと1人で歩こうとする等、利用者の生きがいづくり等に寄与。

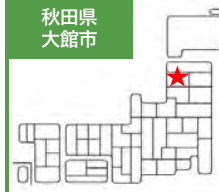
高齢者施設

秋田県
東成瀬村

施設外就労で障害者等を受け入れ、野菜等の農作業や、いぶりがっこの加工生産など、年間を通じて仕事を創出。障害者の自立支援に加え、共生社会づくりや農業・地域の食加工業の継承も目指して取組を実施。

農林水産業経営体

秋田県
大館市



R2年

認知症介護施設の在り方に感銘を受け、大館市でデイサービスを開設。地元農家から農作業やいぶりがっこ等の漬物加工業を学び、就労継続支援B型事業所「比内ヒルズ・ふもとの家」と農福連携を開始。

きっかけ

人を耕す

- 原料の生産から加工まで障害者の特性を活かし作業を切り分けることで、障害者それぞれの特性やスキルに合わせ、仕事を精査して割り振ることが可能に。
- 労働負荷を軽減し安全性を図るため、機械化、合理化を積極的に推進。
- 農作業と加工を組み合わせることで通年での仕事を創出。

地域を耕す

- 特別支援学校の生徒の実習受入や地域の高齢者の有償ボランティアでの受入により地域との繋がりを構築。
- 耕作面積が拡大し荒廃農地の解消に繋がっているほか、伝統である「比内ぜり」の復活などにより地域農業の維持に貢献。
- 安定して高品質のいぶりがっこを生産できるようになったことや商品開発を行っていることから、農業加工事業全体で生産量と収益が向上。
- 地元の農家とのネットワークを活かすことで、高齢農家の生きがいの創出に寄与。

未来を耕す

- 秋田県北で新たな米の品種開発に携わり、農福連携で米作りの継承者とし次世代へ継承。
- 種から育てる伝統的な農法と、古来から地域に伝わる製法を継承し、いぶりがっこの生産を行い、産直サイト等で販路を拡大。6次産業化を樹立している。

基本情報

設立：R2年 / 農福連携取組開始：R2年

取得認証等：GIマーク(R2年)、認定農業者(R2年)

主な選定表彰：

概要

主力商品

(農作物)にんにく、大根
(加工品)いぶりがっこ、黒にんにく

特徴的な取組

地域の伝統食の継承・発展と地域活性化 等

体制図

就労継続支援B型事業所「比内ヒルズ・ふもとの家」に施設外就労で農作業・農産物加工を委託。「ふもとの家」に実習に来所する秋田県立比内支援学校の生徒や、地域の高齢者のボランティア、秋田県北の先進的な取組をするコメ農家・農業者などと有機的なつながりを構築。

住所：秋田県大館市比内町扇田字長岡45番地

TEL:0186-55-0460 090-3805-6685

Mail:fumosachi@gmail.com

URL:https://hinaihills.com/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

成果

平均工賃月額

16,746円(R2)
→28,966円(R6)

障害者数

59人(R2)
→138人(R6)

農地面積

0.2ha(R2)
→1ha(R6)

作業委託金額

99万円(R2)
→450万円(R6)

- 運営するカフェでお客さんに前述の「比内ヒルズ通信」を配布、口頭で農福連携の重要性を伝えることで、地域の人たちの障がい者理解の促進、農福連携の認知度向上にも貢献。
- パッケージの裏面やHP、SNSの掲載情報から農福連携の取組農に賛同して継続購入をする消費者も多く、農福連携商品を通じて障害者の社会参画・就労支援への理解が促進。農福連携産品であることが他社商品との差別化になっている。
- 障害者が一般就労するケースも毎年複数出ており、障害者の自立に貢献。

多機能型事業所「作業所月山」では、知的障害者を中心とする施設利用者39名が、月山短角牛の飼育、県特産の「だだちゃ豆」及び果樹の栽培のほか、ジャム製造等の加工業にも取り組む。

福祉事業所

山形県
鶴岡市



基本情報

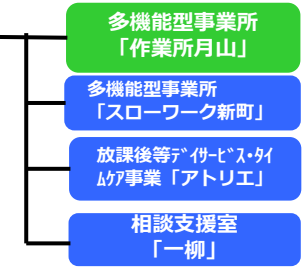
設立:H15年 / 農福連携取組開始:H16年
取得認証等:認定農業者(H29)、ノウフクJAS(R3)

概要

主力商品
(農作物)月山短角牛、落花生、庄内柿、だだ茶豆等
(加工品)ジャム等

特徴的な取組
配合飼料を使わない完全国産牧草だけの給餌

体制図



社会福祉法人
月山福祉会

- 多機能型事業所「作業所月山」
- 多機能型事業所「スロークワーク新町」
- 放課後等デイサービス・タイム7事業「アトリエ」
- 相談支援室「一柳」

住所: 山形県鶴岡市中野京田字壹柳4-1
TEL: 0235-24-8451
Mail: ichiyana@sea.plala.or.jp
URL: <https://www.gassanhukusikai.com>

きっかけ
H16年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組
成果

高齢化による耕作放棄地の増大や放置牧場と荒れた草地即ち中山間地の荒廃を憂い、この土地利用により障害者が土と牛に触れ合うことによる効果を考えたことがきっかけ。

- 農業を使わず除草も手作業で実施し、畜舎管理棟は十分な休憩スペースを確保、トイレ、湯沸かし室、シャワーがあり、健康管理と作業環境に留意している。
- 月山短角牛は冬里・夏山方式により放牧場でゆったりと牧草と野草を食べ、冬期間は完全国産牧草のみの飼料を障がい者の手により食べ、成長している。
- ㈱スターゼン様からサステナブル牛として高評価を得、高値で一頭売りしている。

- 「月山夏祭り」を開催し地域の人や取引のある業者、養護学校を招待し、利用者とカラオケ大会やビンゴ大会などを行い地域住民との交流により理解と親睦を深めている。
- 鶴岡市から生活困窮者就労準備支援事業と引きこもりステーション事業を受託し、生き辛さ・生き難さを抱えてる人達を農業分野での就労に導く仕事と共に引きこもり支援を行っている。

- 北里大学獣医学部と連携し共同研究をしてきた成果を生かし、人口減少から荒れる里山を短角牛により保全し、耕作放棄地に牧草の種を蒔きグラスサイレージ採取で人里へのクマ出没を抑制、自然と人間の共生を図る。
- 自前で手入れを行いながら無農薬・無化成肥料の「有機JAS認証」に改良後、放牧を開始。この牧場と農畜産物事業全体を「月山ドリームファーム」と命名。

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
26,004円(R2) →23,919円(R6)	33人(R2) →33人(R6)	707万円(R2) →1,211万円(R6)	1.38ha(R2) →2.21ha(R6) ※庄内町放牧場 草地44.1ha除く

- 障害者が県の特産品である「だだちゃ豆」の生産に関わることで、県特産品の生産量の維持に貢献。
- 農畜産機械購入のクラウドファンディングなどがマスコミに多く取り上げられ、域外の通所施設利用者からの問い合わせがある。働く領域拡大・職業選択の幅拡大。



降雪地帯の条件不利地において農福連携を実施し、山形伝統野菜の生産・加工など、高付加価値商品の生産を行うことで、障害者の就労機会の確保、賃金・工賃の向上等を実現。

基本情報

- 所在地：山形県山形市
- 団体名：有限会社内外ファーム
蔵王の恵農場
- 選定表彰：－
- 主力商品：パプリカ、青菜、チョロギ、赤根ほうれんそう、凍み大根 etc.
- 取得認証等：認定農業者



取組の概要

- 平成18年に有限会社内外ファームを設立し、標高600mに位置する「蔵王の恵農場」で、高原野菜の栽培を開始。その後、就労継続支援A型事業所及び、B型事業所を設立。
- 就労継続支援A型事業所では、利用者14名を雇用し、農作業の全てを障害者が実施しており、山形伝統野菜の生産・加工を行うなど地域資源の維持に貢献。
- 就労継続支援B型事業所は、地域全体が高齢化や人口減少で労働力の確保が困難な中、地域周辺農家の作業受託を行うなど荒廃農地の発生防止にも貢献。



特産野菜の原料生産



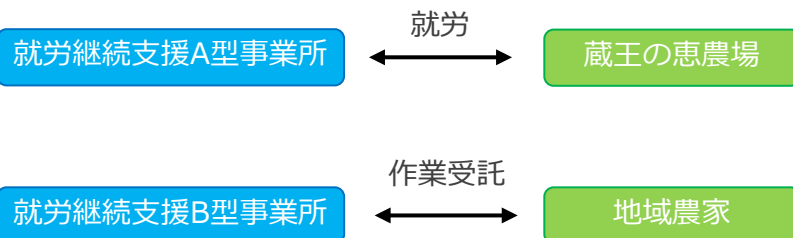
さくらんぼ農家の作業受託



県外中学の農業研修旅行

体制図

有限会社内外ファーム



取組の成果

- 高品質野菜の安定した生産・提供による信頼から、周辺農家からの耕作依頼や市内の農産物加工場からの原料生産依頼が増加し、利用者のモチベーション向上に繋がっている。
- 積極的に農作業を受託し、農作業に従事した障害者の延べ数は、2倍以上に増加（平成30年度 1,642名から、令和3年度 3,531名（県全体の29.5%））。11軒の農業者から作業委託があるなど、障害者の自立に貢献。

所在地 ▶ 山形県山形市小白川町5-13-24

連絡先 ▶ TEL : 023-674-9111 E-mail : syamada@naigaifarm.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.naigaifarm.jp>

【取組のプロセス】

平成18年

きっかけ

農業を営む中で、就業先を探している障害者支援施設と協議する機会があり、じゃがいもの収穫・選別作業を2年間実施してもらった結果、障害者の就労が可能と判断したことから農福連携の取組を開始

有限会社内外ファームを設立

- 平成18年4月、有限会社内外ファームを設立。「お客様に美味しい野菜を、安全、安心にお届けする」を目標に掲げ、標高600mに「蔵王の恵農場」整備し、高原野菜の栽培を開始。
- 障害者にじゃがいもの収穫、選別作業に2年間従事してもらった結果、障害者の就労が十分可能であると実感。
- 平成21年8月より障害者の雇用を開始。



障害者施設が生産したふると納税返礼商品

就労継続支援A型事業所を設立

- 平成26年4月、『働く誇り』『食づくりの楽しみ』『届ける喜び』を理念に、自然豊かな環境において野菜作りを行うことで、障害者の自立を推進。
- 近年では周辺農家からの耕作依頼や市内の農産物加工工場から原料生産依頼を受けるほど技術が向上。



大豆農家への除草作業支援

就労継続支援B型事業所を設立

- 安定した生活を送るためのリズムやスキルを身につけて、就労に向けた様々な作業を経験することで、働くことに自信が持てるよう積極的に推進。
- 安定した農作業の増加により、利用者の賃金向上を実現。



養鶏業者への支援

共生社会の実現を目指して！

- 農業生産だけに特化した農業経営から、地域全体から支えられ支えることができる新たな農業形態を目指す。
- 障害者が、生涯の職業として活躍できる農業経営を目指す。
- 地域各所で行われているマルシェに積極的に出店し、農福連携の普及啓発を推進。



マルシェへの出店

今後の展望

降雪地帯の中間農業地域における農業の安定継続には、高付加価値商品づくりが不可欠

地域全体が高齢化や人口減少により農業就業者の確保が困難

労働集約型の畑作農業を継続的に実施

山形県農福連携推進センターのマッチング支援を活用

除草剤を使用せず無化学肥料で食用バラを栽培し、施設外就労を活用して生産規模を拡大し、花きとして初となるノウフクJASを取得。農福連携に取り組む食用バラ農家の育成を実施。

農業経営体

山形県
村山市



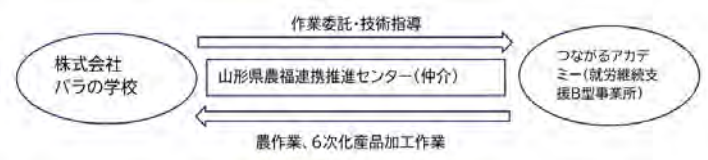
基本情報

設立:H23年/農福連携取組開始:R4年
取得認証等:ノウフクJAS

概要

主力商品
(農作物)バラ
(加工品)食用バラ加工品
特徴的な取組
有機農業、スマート農業

体制図



TEL:090-1373-3200/Mail:t.nakai@baranogakkou.co.jp

きっかけ

R4年

山形県での就農直後に、バラの作業時期と地域特産のさくらんぼの収穫時期が被り、労働力の確保が困難に。市の紹介で施設外就労の受け入れを始めたところ、障害者の丁寧な仕事を目の当たりにし、本格的な受け入れを決め、加工作業の依頼を開始。

取組

人を耕す

- 障害者のスキルアップにより、工賃が時給換算で前年比10%増になり、就労継続支援B型事業所への平均月間支払額も114,951円に上昇。
- スマート農業等の機械操作や、安全管理の講習会を実施し、障害者が機械作業で活躍。作業ごとにリーダーが出るなど技術が向上。

地域を耕す

- 地域農業の担い手として研修会に登壇し、施設外就労の受け入れにより規模拡大したことを発信。
- 特別支援学校からの実習生の受け入れを実施。
- 村山市で農福連携が広がり、障害者の受け入れが進む。

未来を耕す

- 除草剤を使用せず無化学肥料での食用バラの栽培を開始。施設外就労により、障害者が90%以上の農作業を担い、経営が安定。
- 食用バラ農家の育成にも力を入れており、循環型無農薬露地栽培・農福連携・6次産業化・スマート農業による経営モデルを全国へ発信。

成果

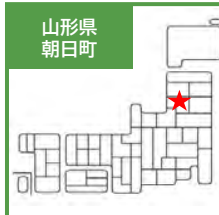
事業所への年間支払額	施設外就労年間のべ人数	農業収入	農地面積
2千円(R4) → 530千円(R5)	26人(R元) →728人(R5)	7,400千円(R元) → 47,240千円(R5)	16a(R元) →50a(R5)

- 花きとして全国初となるノウフクJAS取得によりエシカル消費を意識する購買者に訴求し、収益が改善。
- メディアで取り上げられたことで、高級レストランなどからの引き合いが増え、販路が急速に拡大。
- 全国から視察が増加し、「農福連携×食用バラ」の認知が広がったほか、農福連携による食用バラの栽培を障害者就労施設5社が開始。

ゲストハウスと農園で国内外からニートや不登校で苦しむ子供や青年・社会人、更には認知症高齢者を受け入れ、それぞれの能力に応じた作業分担で働き場所の創出と経営の安定化に寄与。

農林水産業経営体

山形県
朝日町



リンゴを育てながら人の心も耕したいと
2017年3月 農家民宿を始める



基本情報

設立:H29年 / 農福連携取組開始:R4年

取得認証等:日本ファームステイ協会品質認証(R6年)、認定農業者(H23年)、6次産業化認定事業者(H23年)

主な選定表彰:第17回オーライニッポンライフスタイル賞 等

概要

主力商品

(農作物)米・麦・大豆、野菜、果樹
(加工品)加工食品

特徴的な取組

自然農法、6次産業化、輸出、ゲストハウス

体制図

ゲストハウス連携(夢の修学旅行・・不登校により学校の修学旅行に参加できない児童・学生を預かり農業体験・果物狩りを体験しその収穫物を両親に手紙を添えて送る夢の修学旅行の実施サポート)

山形県里親協議会に所属し、単発のお預かりや宿泊体験の協力

ホームページより、ニートや不登校の子供を抱える親から相談を受け、おためし農業就業体験を実施

住所:山形県西村山郡朝日町大字玉ノ井丁202

TEL:0237-68-2301

Mail:info@daichan-farm.com

URL:https://daichan-farm.com/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

きっかけ

R4年

農業を通じて親族が不登校から社会復帰を果たした経験から、ニートや不登校で苦しむ子供や青年・社会人を預かり、農業で元気にさせたい思いを持ち、国内外から受入れを開始。

人を耕す

- 農園と農家民宿部門に分けて、青年の個性・得意を活かして自信が持てるような仕事に配分し、個人の能力に合わせて賃金を決定することでやる気を促進。平均工賃は県平均を上回る。
- 軽度認知症の高齢者を2名を雇用し、指導役等を担ってもらうことで責任感が生まれ、やりがいをもって農作業に取り組めるように工夫。

地域を耕す

- ニートを受け入れたことで、労働力不足が解消されたほか、障害者目線で作業を見直し、効率化が図られたことで生産性が向上し、障害者以外の農作業の効率化にも寄与。
- 労働力不足が解消されたことで、近隣の高齢農家の農地や荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大し、農地の継承と地域農業の維持に貢献。
- だいちゃん農園CAFÉとして、都市でのマルシェに参加し生産物の販売を実施。

未来を耕す

- 農業とゲストハウスで、高齢者やニート・不登校等の障害のある青年の活躍の場を創出。
- ゲストハウスの取組や料理がテレビや新聞で取り上げられ、県外や海外からの視察が増大。
- 障害の種類や度合いに適した作業選定や治具の開発をユニバーサル農業として推進。

取組

成果

平均工賃月額

37,000円(R4)
→58,000円(R6)

障害者数

4人(R4)
→4人(R6)

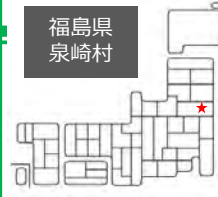
農業収入

1,289万円(R4)
→1,450万円(R6)

農地面積

9ha(R4)
→3.5ha(R6)

- 近隣の農業法人でも当社を参考に障害者の雇用を始めており、地域全体で障害者を受け入れる動きが見受けられるようになった。
- 農福連携の取組が知れ渡るに伴い農業体験の希望者が増加し、販路が拡大。
- 地域で食育や郷土料理のイベントも開催しており、若者が多く集まる機会が増えたことで地域再活性化に寄与。



精神障害を中心とする施設利用者が、養鶏のほか野菜栽培、加工、農産物直売所の運営などを通年で実施することで、農業を職業訓練の場、働く場として活用し、障害者の一般就労へ向けた訓練や支援に取り組む。

基本情報

- 所在地：福島県泉崎村
- 団体名：社会福祉法人 こころん
- 選定表彰：
 - ・平成29年 ディスカバー農山漁村の宝 アクティブ賞（主催：農林水産省）
 - ・平成29年 ふくしま地産地消大賞（主催：福島県）
 - ・令和2年 ふるさとづくり大賞（主催：総務省）
 - ・令和2年 ノウフク・アワード2020優秀賞（主催：農福連携等応援コンソーシアム）
- 主力商品：鶏卵（ここたま）、たまねぎ、菊芋、さやえんどう、オクラ etc.
- 取得認証等：JGAP

取組の概要

- 利用者の就労の場として農産物直売所を運営する中で、離農者が増加していることを知り、荒廃農地や高齢のために継続が困難となった養鶏場を引継ぎ、野菜や水稻の栽培、養鶏を実施。
- 平飼いによるストレスの少ない鶏が産む、殻が固く白身の盛り上がった新鮮卵「ここたま」を販売。県内外のマルシェに参加し、販路開拓・拡大に取り組む。
- ①こころんファーム（農業、養鶏）②こころん工房（スイーツ）③こころや（直売所）④C o c o r o y a c a r（移動販売）など生産・加工・販売までを、こころんの就労支援事業（6次産業化）として展開。
- 幼稚園児等を農業体験で受け入れ、障害者と触れ合いながら、農作業の楽しさや大変さを体験する機会を提供。また、買い物に困っている高齢者の住む団地等に、移動販売を実施。



直売所・カフェこころや



平飼い養鶏場

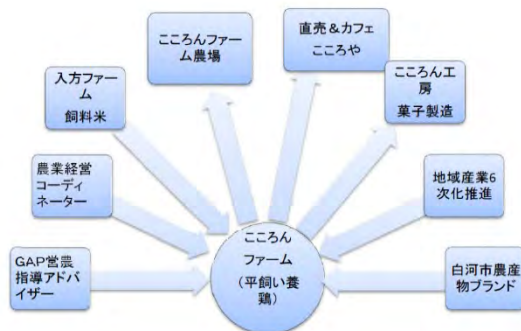


畑で活躍する利用者



移動販売

体制図



取組の成果

- 施設利用者は、農業を通して体力や忍耐力が身についたほか、地域の人々と触れ合う機会が多くなることで家族間のトラブルが減少し、明るさを戻す。また、直売所の売上げの増加（JGAP取得により、その食材で作る直売所・カフェのランチが好評）に伴い、利用者の所得も向上。
- 農産物の売上 1,100万円（平成27年）→ 2,183万円（令和3年）→ 2,227万円（令和4年）
- 直売所の売上 5,779万円（平成27年）→ 6,852万円（令和3年）→ 6,323万円（令和4年）

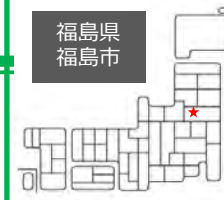
所在地 ▶ 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字下根岸 9

連絡先 ▶ TEL：0248-54-1115 E-mail：izumizaki@cocoron.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.cocoron.or.jp>

【取組のプロセス】





農業体験を通じて、「将来の職業選択肢の幅を広げるための農業の魅力発信」や「農業体験という校外活動を通して食の大切さや流通などを総合的に学習するとともに、生徒の新たな可能性を広げる」ことを目的として、学校と農業法人・JA福島中央会が連携して農業体験を実施。

基本情報

- 所在地：福島県福島市
- 団体名：福島県立大笹生支援学校
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：長ネギ、長ナス
- 取得認証等：－



収穫するナスの大きさの説明

取組の概要

- JA福島中央会より、「将来の職業選択肢に農業も入れてもらうための農作業体験会に協力してほしい」との依頼があり、令和2年度より活動を開始（令和5年度で4年目）。
- 農作業体験会で生徒が収穫、包装した長ねぎとなすの一部をJAふくしま未来農産物直売所で販売を実施。
- 農業高校の生徒が来校し、「クリーン活動班（主に清掃の仕方を学習する作業学習班）」の生徒と共に農業高校の生徒が栽培した花苗を校内へ植える活動を実施。また、「クリーン活動班」が農業高校や地域の福祉事業所へ出向いて、清掃活動を実施するなど、地域との交流を積極的に図っている。

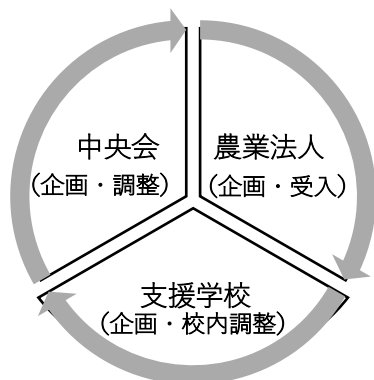


野菜結束機の体験



スコップを使っての
ネギの収穫

体制図



取組の成果

- 野菜の収穫から調製作業を体験することを通し、生徒の農業への興味・関心が高まるとともに、卒業後に農作業を主に実施している福祉事業所の利用を希望している生徒にとって事前に農業を知る機会となっている。
- 体験会では、JA職員や農業者と生徒がやりとりする場を多く設定することで、特別支援学校の生徒の能力や障害への理解を深めてもらうことにつながっている。

所在地 ▶ 福島県福島市大笹生字廻板山1 8 2 番地の2
 連絡先 ▶ TEL：024-558-8710 E-mail：ohzasou-sh@fcs.ed.jp
 ウェブサイト ▶ <https://ohzasou-sh.fcs.ed.jp>

【取組のプロセス】

平成13年

きっかけ

原発事故等の影響により、農業体験が難しい状況となっていたが、地元JAの提案により農業体験が再開

平成23年
3月

原発事故により屋外での栽培が不可能

原発事故により、屋外での農作物の栽培ができない

- 学習活動の中で、じゃがいもやさつまいも、大根、白菜の栽培を実施していたが、東日本大震災による原発事故の影響により、屋外での農作物の栽培ができなくなった。
- 農作業は児童生徒にとって必要な学習と考え、土の入れ替えや収穫物の放射性物質検査などを行いながら、狭い畑でじゃがいもの栽培などを行っていた。



バッグシーラーの使い方の説明

令和2年
4月

JA福島中央会より農作業体験会への協力依頼

JA福島中央会から農作業体験会に対する協力依頼

- JA福島中央会から、「将来の職業選択肢に農業も入れてもらうための農作業体験会に協力してもらえないか」との依頼があり、農業体験復活の足掛かりとして事業を受託し、長ネギの収穫と収穫後の調製作業を実施。



地域施設の清掃作業

令和3年
4月

農作業体験会で生徒が収穫・包装した長ネギ・茄子を直売所で販売

農業高校とクリーン活動班の交流

- 農作業体験会で生徒が収穫・包装した長ネギと茄子をJAふくしま未来農産物直売所で販売。
- 農業高校の生徒が来校し、クリーン活動班（主に清掃の仕方を学習する作業学習班）の生徒と共に、農業高校の生徒が育てた花苗を校地内へ植える活動を実施。
- クリーン活動班が農業高校や地域の福祉サービス事業所等へ出向き、清掃を行い学習の成果を実践するなどの交流を実施。

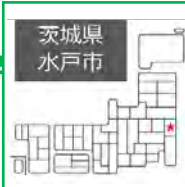


花植えを通しての農業高校との交流学習

今後の
展望

特別支援学校生徒の農業への関心や周辺からの理解の促進

- 農作業体験を通して、学んだことを他の生徒に伝えることにより、農業への興味や関心を高めることにつなげる。また、進路選択の幅や社会に対する視野を広げることにつなげる。
- 農業関係者に、生徒が農作業に取り組む様子を見てもらうことで、特別支援学校の生徒の実態や作業能力等についての理解促進を図る。



施設野菜の規模拡大のため、障害者の就労者数を増やし、作業の増加や高度化に対応できる作業アプリの開発導入による分業体制の整備や、高付加価値化による障害者の工賃を向上を図る。

基本情報

- 所在地：茨城県水戸市
- 団体名：有限会社 照沼農園
- 選定表彰：優良農福連携賞（2021年茨城県共同受発注センター）、ノウフク・アワード2022フレッシュ賞
- 主力商品：水稲（20ha）、アスパラガス、水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜
- 取得認証等：－



取組の概要

- 水田20haで水稲栽培、農業ハウス3棟でアスパラガス、農業ハウス8棟で水耕栽培によるリーフレタス、サンチュ、ベビーリーフ、チンゲン菜、小松菜を栽培。
- 福祉事業所（就労継続支援B型）と連携し利用者にベビーリーフの計量パック詰め作業、リーフレタス等の袋詰め作業、水耕パネルの清掃、水耕野菜の定植作業に携わる。
- 1週間に障害者一人当たり1日6時間、週4日の24時間、作業を依頼。
- 農福連携の野菜は地元の飲食店、スーパー、直売所で販売。



野菜計量と袋詰め



試野菜のパック詰め作業



夏場の高温時の作業改善
ハウス内の作業を暑さ対策で外のテントで

体制図

有限会社照沼農園

施設外就労

障害福祉サービス事業所 たけのこ

社会福祉法人 清香会 育心園

取組の成果

- 支払い工賃が600円（時間）に向上し、茨城県の最低賃金300円（時間）の2倍となった。
- 作業方法やパッケージングを工夫し、作業時間が取組始めた当初の3分の1になった。
- 作業アプリを開発したことでパック詰めグラム数が〇×とモニターで表記されるため計量ミスがなくなった。

所在地 ▶ 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町2724-1

連絡先 ▶ TEL:029-248-6288 E-mail:mailto:g23youhei@gmail.com

【取組のプロセス】

平成16年

営農を開始

令和元年

障害者の農業体験会を実施

12名の施設外就労を受け入れ

令和3年

農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業に採択

連携する福祉事業所が2団体になり16名の受け入れ

今後の展望

きっかけ

人手不足によりパート雇用を確保できない状況の際に、茨城県共同受発注センターからの紹介で障害者の体験会を開催。

取組の工夫

- 野菜パック詰め作業では、作業方法及びパッケージの変更等、障害者が作業をしやすい方法を考案。
- 地元IT企業と連携し、作業マニュアル、軽量を明確にできるアプリを開発したり、パック作業部屋にエアコンを設置し暑さ対策を実施するなど、作業環境の整備を図る。



計量作業の説明

作業アプリの開発導入により作業効率の向上

- 地元のIT会社と連携し作業の見える化をするためのアプリの開発を行い導入。
- パック詰め作業時の計量のミスをなくするため、作業数量をデータ化し計量器に○×で表記されるようなシステムとして、作業効率の向上を図った。



作業方法を工夫した野菜パック詰め

農山漁村振興交付金（農福連携対策）を活用

- 令和3年度農山漁村振興交付金（農福連携対策）事業を活用し、作業マニュアルの作成や先進地視察研修を実施し農福連携の強化を図る。
- 作業効率の向上により工賃が600円（時間）まで向上した。

GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す

- 障害者が働きやすい分業体制の整備や作業マニュアルの構築を進める。
- 生産物の高付加価値化による障害者の工賃を向上を図るため、GLOBALG.A.PやノウフクJASの取得を目指す。

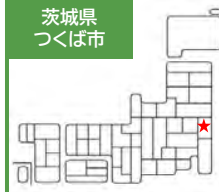


開発してアプリ 褒め褒めシステム

就労継続支援B型事業所として3箇所の農場を経営し、有機野菜の生産・体験農場、稲作・竹細工、平飼い自然養鶏など、幅広い取組を実施し、農業のフィールドを生かして障害者の働きがいをもっている。

福祉事業所

茨城県
つくば市



きっかけ

H
23
年

議員インターシップに参加し、農業と福祉双方の問題を知り、自分事に感じたことから、この問題に関わりたいと考え、「ごきげんファーム」を設立。

人を耕す

- 農福連携技術支援者研修の研修農場としての受け入れや、企業への研修の受け入れ等を積極的に実施し、農福連携の取組を発信。
- 地域にとって本当に価値ある農業のフィールドを作っていくことで、一緒に活動する人を増やしていく。

地域を耕す

- 地域の約15haの荒廃農地を活用し、毎日約100名の障害者が、水稻(5.5ha)、野菜(8ha)の栽培、養鶏(1,300羽、0.7ha)などに従事。
- 見学会、イベントの開催、体験農園の設置等、近隣住民と交流できる企画を多数実施。
- 意識的に近隣地域への販売を増やし、地域との繋がりが深まっていくように定期的に夏祭りや収穫祭などのイベントを開催。

未来を耕す

- お弁当の販売、カフェの開設等を予定しており、不登校の子供たちの居場所づくりや、子ども食堂、マルシェ、障害者家族向けのサロンの開催などに取り組み、地域住民が様々な形で関われる場にしていく。

基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H23年

取得認証等:認定農業者(H23・R7更新)

主な選定表彰:人間力大賞グランプリ農林水産大臣賞
TYOP(世界の傑出した若者10人) 等

取組

成果

概要

主力商品

(農作物)季節の野菜セットの販売
(加工品)人参ジュース、お弁当

特徴的な取組

有機栽培・平飼い自然養鶏

体制図

NPO法人ユアフィールドつくば
↓
ごきげんファーム(就労継続支援B型3事業所)
ひだまりベース(グループホーム)
ブルーフロッグ(放課後等デイサービス)
ハイク(訪問看護ステーション)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

住所:茨城県つくば市大角豆2168-1

TEL: 029-875-5660

Mail:support@yf-tsukuba.com

URL: https://yf-tsukuba.com/

平均工賃月額

25,000円(R2)
→27,500円(R6)

障害者数

約100人(R2)
→100人(R6)

売上高

250万円/月(R2)
→350万円/月(R6)

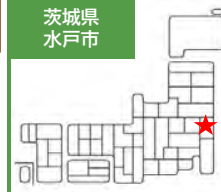
来場者数

800人/年(R2)
→1,200人/年(R6)

- 道具や作業行程を工夫し、様々な障害のある利用者が作業しやすい環境づくりに取り組むことで、障害のある利用者も主体的に関わることができ、就職につながる利用者も多い。
- 茨城県の平均工賃月額を上回る工賃を実現。
- 年間来場者数は800人(R2)から約1,200人(R6)に増加し、農福連携の取組を広く発信している。農地面積は平成23年度の1.2haから拡大。

JX金属株式会社の特例子会社。多様な方々が生き生きと働ける社会の実現を目指し、自前型・援農型両方の農福連携を実施。

特例子会社

茨城県
水戸市き
つ
か
けR
5
年

JX金属の特例子会社として、農福連携によって、障害者がやりがいをもって働ける環境を構築できると判断し、事業を開始。

人
を
耕
す

- 人事制度では、能力・成果を昇給や賞与に反映する仕組みを構築。やりがい作りのため、全員リーダー制や日々の作業に希望制を導入。
- 雇用障害者のうち1名は、正社員にステップアップし、職場のリーダーとして活躍。
- 生産した農作物を、各地に工場を持つJX金属の従業員への販売や工場の食堂で活用するほか、農業体験・社員研修の場として活用し、グループ全体の障害者理解に貢献。

地
域
を
耕
す

- JX金属、Jリーグクラブ水戸ホーリーホック、日本農業実践学園の3団体で連携し「農業×福祉×スポーツ」の地域活性化に向けた農福連携+αの仕組みを構築。
- 日本農業実践学園の指導を受け、伝統的な技術と有機農法手法を継承するほか、同学園及び水戸ホーリーホックの農事業の繁忙期に援農を実施。
- 従業員家族イベントでの農作業体験、近隣保育園児の農業体験の受入れ・食育等を実施。

未
来
を
耕
す

- 水戸ホーリーホック障害者サッカーチーム所属員の中で就労希望があれば内原ファームで採用するといった相互の人的交流の仕組みを構築。
- 内原ファームの障害者が販売会等に参加し、生産した農作物を自ら販売することで社会との繋がりを感じるきっかけとなり、地域の障害者理解にも貢献。

基本情報

設立:R4年 / 農福連携取組開始:R5年

主な選定表彰:令和7年度障害者雇用支援月間における絵画・写真コンテスト独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞

取
組成
果概
要

主力商品
(農作物)野菜

特徴的な取組
環境保全型農業

体
制
図

JX金属株式会社
↓
JX金属コーポレートサービス株式会社
(JX金属株式会社の特例子会社)
※内原ファームはJX金属コーポレートサービス株式会社の組織
※茨城県水戸市内原にある農業専門学校日本農業実践学園内に事務所・圃場・農業機械を借用し事業を実施

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:茨城県水戸市内原町1463-48

TEL:070-1563-1136

Mail:uchiaraafarm@jx-nmm.com

URL:https://www.jx-corp.com/

平均賃金月額

12万円(R5)
→13.1万円(R6)
※+年2回の賞与

障害者雇用数

4人(R5)
→8人(R6)

売上高

104万円(R5)
→180万円(R6)

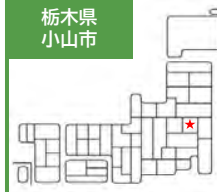
農地面積

70a(R5)
→70a(R6)

- 農作業に関連する資格取得を希望する者には会社で支援し、刈払機取扱作業従事者講習6名受講、大型特殊免許3名取得。
- 加工や農業以外の仕事を作ることで、多くのやりがい・モチベーションの創出。内原ファームの障害者が、仕事をする中で自信を取り戻し、障害者手帳返納。
- 障害のある家族をもつグループ従業員から就業希望の相談を受けるなど、従業員の家族からも頼られる事業へ発展。

地元の重要な産業であった養蚕業の再興に取り組み、ノーフクJAS、6次産業化の認証取得により、農業から製造加工、販売、レストランでの接客等個性に応じた働く場の確保、農産品の付加価値化で工賃の向上を実現。

福祉事業所

栃木県
小山市

きつかけ

H
27
年

地元の伝統産業の再興するため養蚕業に参入。

人を耕す

- 多機能型事業所として、知的、身体障害者等の31名で、桑畑、落花生、野菜畑の管理、収穫に取り組む。栃木県農業アドバイザーから指導を受けた職員が農作業を、作業マニュアル等を使用し利用者にわかりやすく指導している。

地域を耕す

- 7,000坪の桑農場で桑の栽培を行い、6次産業化事業認定、ノーフクJASの認定を受け、桑の関連食品等の生産に取組、商品は地元の小売店やインターネット通販等で販売。
- 併設しているレストランに、無農薬で栽培したビーツ、玉ねぎ、小松菜等供給するとともに、レストランの売店で、地元の方が生産した野菜を利用者が販売し、地域との連携を図る。

未来を耕す

- 桑茶などの桑関連食品の開発販路拡大を図り、さらなる桑農園の規模拡大で地域の荒廃農地を桑農園化しに地域産業の再興を図る。

基本情報

設立:H10年 / 農福連携取組開始:H27年

取得認証等:6次産業化認定事業者(H27)
ノーフクJAS(R2)

取組

成果

平均工賃月額

34,000円(R2)
→48,000円(R6)

障害者数

30人(R2)
→31人(R6)

農地面積

0.66ha(R2)
→2.31ha(R6)

—

- 6次産業化などによる多様な業務を準備したことにより、平均工賃4万2千円を達成。
- ノーフクJASの取得により市内スーパーのマルシェ内に「ノーフクJAS」コーナーが設置され販売を開始。
- 桑の葉の需要増により、桑農園が開設当初の2,200坪から7,000坪へ拡大。
- 桑の葉収穫では地元住民、小学校との協力が得られ地域との連携が強化。
- 農業収入は950万円になり、平成29年取組当初の2倍以上に拡大。

概要

主力商品

(農作物)万願寺唐辛子、ビーツ、かぼちゃ、たまねぎ 等
(加工品)桑茶、桑ジュース、パスタ、菓子類、ジャム 等

特徴的な取組

6次産業化、輸出

体制図

社会福祉法人パステル

↓
多機能型事業所CSWおとめ(農業班、パウダー班、パン工房部、レストラン“みゆぜ・ど・ぱすてる”)
多機能型事業所フロンティアおやま(畜産事業班)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

住所:栃木県小山市乙女625-2

TEL:0285-39-6088

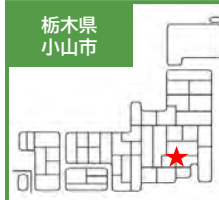
Mail:info@fukushi-pastel.jp

URL:http://fukushi-pastel.jp

観光農園であるグループ企業と連携し、自社生産したいちごを販売している他、ジャムや焼き菓子等の加工品、クレープなどスイーツの店舗販売・キッチンカーや無人販売を行うことで高収益化を実現。

福祉事業所

栃木県
小山市



基本情報

設立: R2年 / 農福連携取組開始: R2年

取得認証等: ノフクJAS(R6年)

概要

主力商品
(農作物)いちご
(加工品)ジャム、焼き菓子

特徴的な取組
6次産業化

体制図

社会福祉法人めぶき会 ■ 就労継続支援A型事業所いちこの里めぶきファーム
■ AB多機能型事業所第2いちこの里めぶきファーム
■ 就労継続支援A型事業所第4いちこの里めぶきファーム
■ 生活介護事業所いちこの里めぶきプラス

住所: 栃木県小山市大川島550-6

TEL: 080-1185-4210

Mail: y.oguro@itigo.co.jp

URL: <https://www.mebuki-itigo.or.jp/company/>

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R2年

人手不足解消・地域貢献のために農福連携を開始。農業指導を受け、自社でいちごの生産を開始。

人を耕す

- 知的・精神・身体皆で協力しながらそれぞれができることを見つけ農作業に取り組む。
- 障害者の特徴に合わせ、力を発揮できる作業を行うことで、200棟近くのハウスを管理。
- 利用者からパート、社員にステップアップし、県で初めてのピアサポーターとして活躍する社員を輩出。

地域を耕す

- 農福連携で大人数で緻密な作業を行うができ、高単価でのいちご販売を実現。
- 高齢にて農地の受け手がいない農地を福祉法人で買い取り、農地の維持に貢献。
- 荒廃農地を再生することで景観保全や地域農業基盤の強化に寄与。
- JA、地元企業、行政、学校と連携し、農業×福祉×教育×地域経済のネットワークを形成。

未来を耕す

- 障害者が主体的に農業に係れるよう、生活介護の利用者から就労支援まで一貫した支援体制を構築。ICTを活用した作業記録や若年層の農業体験も取り入れ、世代を超えて農業に親しむ独自のモデルを構築。
- 地域農家との協働モデル、いちごによる収益のあげ方、福祉施設の6次産業化モデル等をまとめた実践ノウハウを全国に共有し、農福連携の普及に寄与。

取組

成果

平均工賃月額

9万円(R2)
→11万円(R6)

障害者雇用数

30人(R2)
→40人(R6)

売上高

1,170万円(R2)
→2,670万円(R6)

農地面積

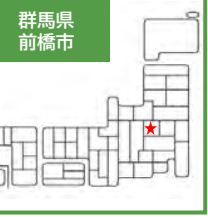
0.25ha(R2)
→0.35ha(R6)

- 障害者の社会的役割・存在感が向上するという福祉的效果が得られている。
- 障害者等が主戦力として扱われるようになり、平均賃金は9万円台後半。
- グループ企業を中心に就職を行っているため、退職率が極めて低く、障害を理解する職場環境を構築。毎年10名程度の施設利用者が卒業。
- 自分にはない強みを他の利用者から見つけお互いに認め合いながら協力して作業を実施。
- ノフクJASの取得、加工品(例:ジャム・焼き菓子)開発への着手を通じて、農産物の6次産業化を推進。

利用者の能力を引き出せる作業環境をつくることで、高い工賃による賃金収入と障害者年金による障害者の生活自立を促し、一般事業所での就職チャレンジを支援。

福祉事業所

群馬県
前橋市



基本情報

設立: H17年 / 農福連携取組開始: H26年
取得認証等: 認定農業者(R3)、ノウフクJAS(R5)
主な選定表彰: ディスカバー農山漁村の宝(関東局選定)

概要

主力商品
(農作物) たまねぎ、えだまめ、ほうれんそう、ブロッコリー、キャベツ、長ねぎ、にんにく、米、育苗、小麦

特徴的な取組
慣行栽培、自然栽培、ライスセンター運営

社会福祉法人ゆずりは会

就労継続支援B型事業所: 菜の花、ゆずりは、エール
就労継続支援A型事業所: かたばみ (あいりす)
共同生活援助事業所: フォルテ

体制図

近隣農家 教育機関 民間企業

住所: 群馬県前橋市青梨子町379-1
TEL: 027-226-6090
Mail: nanohana3573@gmail.com
URL: <https://www.yuzurihakai.org>

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

きつかけ
H26年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組

利用者の工賃向上と活躍の場の拡大のため、農業路線を拡大。

- 障害者の農作業は、職員が障害者一人一人の特性を見極めて作業を配慮。
- 一部は、無肥料・無農薬の自然栽培による米作りや野菜を生産し、安全安心で環境に負荷をかけない取組を広げる。
- 全国の農福連携を実践する福祉職員等の実習受け入れを行い、より良い実践者の拡大を目指す。

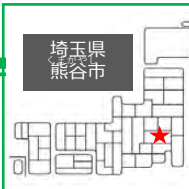
- JAが運営していたライスセンターの廃止により、乾燥機を譲り受け、乾燥調製作業を受託。共同乾燥ではなく、農家ごとに乾燥を実施。
- 米の苗生産、委託販売を開始、認定農業者として地域の担い手に。

- 作付面積は約16haで、米、えだまめ、たまねぎ、ブロッコリー、ほうれんそう、長ねぎ、キャベツなどを栽培。ライスセンター運営による乾燥調製作業を受託。
- 一部は、無肥料・無農薬の自然栽培による米作りや野菜を生産し、安全安心で環境に負荷をかけない取組を広げる。
- 地域の公立保育所、小学校と田植え稲刈り体験を実施し、農福教育連携を展開。

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
45,657円(R2) →98,754円(R6)	27人(R2) →25人(R6)	2,219万円(R2) →3,930万円(R6)	11ha(R2) →16ha(R6) (作付面積)

成果

- 作付面積は、取組当初(平成26年)の約4haから約16ha(令和6年)に拡大。
- 平均工賃月額(新基準)は、約9万8千円(令和6年)となり、群馬県内で一番の工賃支給となる。取組当初の約2万7千円から3.6倍以上に上昇。
- 取組当初の13件から年々拡大し、63件(令和6年)となり、約4.8倍に増加し、地域の基幹作物となる米の生産維持に寄与。
- たまねぎの苗は、県内外福祉事業所等に10万本以上販売。



就労継続支援B型事業所やグループホームを運営し、農業を通じて障害者の就労から生活支援まで取り組む。ソーシャルファームの理念の下、誰も排除しない組織として、触法障害者、ニート、ひきこもり状態にある者など、社会的支援を必要とする人を積極的に受け入れ。農家300軒分のネギ苗づくりをはじめ、水耕や露地で野菜を栽培し、地域農業の中心的な担い手となっている。

基本情報

- 所在地：埼玉県熊谷市
- 団体名：埼玉福興株式会社
- 選定表彰：OLIVE JAPAN2016 国際オリーブコンテスト金賞、令和元年 第43回山崎記念農業賞、ノウフク・アワード2020優秀賞等
- 主力商品：露地でのたまねぎ、白菜、オリーブの栽培、水耕栽培でのサラダほうれん草、水菜、ルッコラ等
- 取得認証等：ノウフクJAS、ASIAGAP

取組の概要

- 就労継続支援B型事業所やグループホームを運営。34名の障害者が、施設での水耕栽培、ネギ苗の育成、露地での玉ねぎ、白菜、オリーブの栽培に従事。
- 仕事に人を合わせるのではなく、重度知的、精神、身体及び発達などの障害に応じた作業を作り、すべての障害者に仕事を創出。
- 障害者が不得手な作業は、地元の農業資材会社、白菜組合、オリーブオイルソムリエ協会などとパートナー契約を結び、連携することで分業化し、経営を効率化。
- 触法障害者、ニート、ひきこもり状態にある者など、社会的支援を必要とする人を積極的に受入。



オリーブ



オリーブオイルコンテスト金賞



白菜畑での作業

体制図



取組の成果

- 水耕栽培、露地栽培、果樹栽培の組み合わせることで、一年を通した農作業を創出することにより、埼玉県の平均工賃を上回る20,000円/月を実現。また、これまでに自社及び他企業へ4名の一般就労を実現。
- 触法障害者2名を受け入れ。就労支援だけではなくグループホームなどによる生活支援により、約18年間、再犯していない触法障害者も在籍しており、現在は農業班のリーダーとして活躍。
- 福祉事業所6施設及び、農業法人3団体と連携してネギ苗づくりを実施しており、地域の約300軒の農家へ出荷。

所在地 ▶ 〒360-0203 埼玉県熊谷市弥藤吾2397-8

連絡先 ▶ TEL:048-588-6118 E-mail: arai@saitamafukko.com

ウェブサイト ▶ <http://saitamafukko.com/>

【取組のプロセス】

平成5年

きっかけ

工業生産の海外進出により、下請作業などの障害者の仕事が減少したことから、食に関わる農業であれば、仕事がなくなることはないと考え、障害者でも取り組める農業の研究を開始

平成15
年

特定非営利活動法人Group Farm設立・独立

- 平成5年に社会福祉法人むさしの郷の生活寮として事業を開始。
- 平成15年にGroup Farmを設立、翌年、社会福祉法人むさしの郷から独立。
- 埼玉県の実験ハウスの施設栽培を開始。

平成18
年

個人として新規就農～農業生産法人化

- 平成18年、個人として農業経営基盤強化促進法により農地を借り受け、新規就農。
- 平成19年、埼玉県における株式会社の農業参入第1号として、農業生産法人となる。

平成21
年

ソーシャルファームの推進に向けた実証モデル事業への取組

- 平成21年就労継続支援B型事業所「オリーブファーム」開所。

平成27
年

研究への参画

- 令和2年度、「障がい者養蜂での労働環境創出調査研究」に参画。
- 令和4年度、「特別支援学校生徒に対する農業分野への就労支援」に参画。

今後の展望

次世代Social Firm宣言

Social Firmの定義を「社会的健康」へ世界へ発信！

- 「地域に必要とされる特例子会社」の形を日本で初めて生み出す。生活介護・就労支援から障害者雇用までの、働くを選べる地域環境を創出。
- 藍染を通した徳島と埼玉のアグリツーリズム、一つのノウハウツアーを開始予定。



グループの集合写真



たまねぎ



調査・検証の結果、以下の内容で、貴会がASACAPの運営を
管理したことを証明いたします。

埼玉福興株式会社

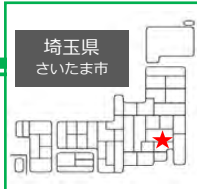
【定 义】(定义) 设 $f(x)$ 是定义在 $[a, b]$ 上的函数, 且 $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上可积, 则称 $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上的平均值为 $\frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx$.

【定理】(定理) 设 $f(x)$ 是定义在 $[a, b]$ 上的函数, 且 $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上可积, 则 $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上的平均值 $\frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx$ 等于 $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上的最大值与最小值的算术平均值.

【证明】(证明) 设 M 和 m 分别为 $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上的最大值和最小值, 则 $m \leq f(x) \leq M$. 由积分的单调性, 有 $m(b-a) \leq \int_a^b f(x) dx \leq M(b-a)$. 两边同除以 $b-a$, 得 $m \leq \frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx \leq M$. 又由介值定理, 存在 $\xi \in [a, b]$, 使得 $f(\xi) = \frac{1}{b-a} \int_a^b f(x) dx$. 因此, $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上的平均值等于 $f(x)$ 在 $[a, b]$ 上的最大值与最小值的算术平均值.

【発行所】 中国新聞社
【編集・発行】 中国新聞社（〒730-8555 広島県広島市南区大正1-1-1）
【印刷】 中国新聞社印刷部（〒730-8555 広島県広島市南区大正1-1-1）
【発行】 中国新聞社（〒730-8555 広島県広島市南区大正1-1-1）
【発行】 中国新聞社（〒730-8555 広島県広島市南区大正1-1-1）

ASIAGAP取得



障害者が、働きながら一般企業への就職や、安定した就労を実現することを目的に就労継続支援A型事業所を平成27年3月に開設。椎茸の生産から販売を通じて、経済的自立と安定した就業ができるようサポート。

基本情報

- 所在地：埼玉県さいたま市
- 団体名：株式会社ゼネラルパートナーズ
アスタネ
- 選定表彰：－
- 主力商品：椎茸
- 取得認証等：認定農業者



生椎茸



乾燥椎茸

取組の概要

- 就労継続支援A事業所「アスタネ」は、700㎡の土地にビニールハウス3棟を設置し、利用者約29名で椎茸の生産～販売に係る業務、運営を実施。
- 地元スーパーマーケットを中心に40店舗程度で展開。新型コロナの影響で一時的に生産規模を縮小したものの、その後、生産規模をもとに戻し、他の障害者施設とも協働し、成長中。
- 保育園とのイベントや、一般、グループ向け椎茸狩り体験を行うことで食育の推進に貢献。



菌床椎茸の栽培

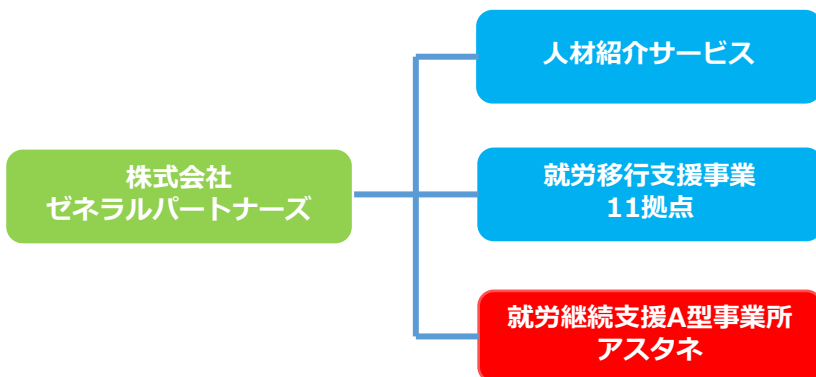


店舗での試食販売（令和元年）



保育園でのイベント

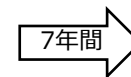
体制図



取組の成果

- 質の高い椎茸を生産するとともに積極的な販路の拡大により、農産物売上や利用者数も増加。平均工賃も毎年増加するなど雇用創出モデルを確立。

	平成28年度		令和5年度
農産物売上	976万円		1億1,300万円（11.6倍）
利用者数	11人		29人（2.6倍）
平均工賃	58千円		100千円（1.7倍）



所在地 ▶ 埼玉県さいたま市桜区西堀8-3-15-1

連絡先 ▶ TEL：050-3645-0686 E-mail：asutane@generalpartners.co.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.asutane.jp/>

【取組のプロセス】

「社会問題をビジネスで解決する」という理念を持ち会社設立

平成15年

きっかけ

世の中から障害者の差別偏見を無くすために、障害者の人材紹介サービスを開始。運営していく中で、自分達も障害者を直接雇用し働き方についても考えて行こうと始めた。

農業をすることで、自然と触れ合う事が出来、心身の回復に繋がるのでは!?

平成27年

就労継続支援A型事業所 アスタネ設立

- 平成27年3月、障害者が主体的に働き活躍するモデルを作ること、農業の社会問題（高齢化、担い手不足、荒廃農地）を障害者の活躍により解決することを目的に設立。
- 椎茸の生産から販売を通じて、経済的自立と安定した就業ができるようサポート。（農地面積300㎡、ビニールハウス1棟、利用者数10人、平均工賃50千円）



A型事業所 アスタネ

生産規模を拡大農業事業を利用者主体で運営

平成29年

働き方変革（障害のあるスタッフたちの主体的な働き方にシフト）

- 平成29年より、菌床変更を行うとともに利用者数を増加。定期的に面談を実施し、権限移譲を行い、各自が目標設定・チャレンジすることをサポートし、自立性を引き出す。
- 3～4人のチームで運営することで、仲間との連帯感や有能感を引き出す。
- 栽培データを活用した質の高い椎茸の安定生産により、利用者の賃金向上を実現。（農地面積700㎡、ビニールハウス3棟、利用者数29人、平均工賃64千円）



菌床椎茸の栽培

平成30年、事業の黒字化を実現

就業者数
平成30年5人
平成31年4人実現

令和2年

withコロナ

- 令和2年4月、新型コロナの影響から在宅勤務を導入するとともに生産規模を縮小。
- その後、取引先の小売店との協力で、販売動向に合った商品展開、販売企画を実施し、生産規模を回復、前年以上の売上を達成。
- 生産規模拡大のため、周辺のA型事業所に栽培ノウハウを提供し、協働で生産スタート。



販売の様子

令和3年、生活困窮者自立支援制度に基づき、生活にお困りの方の受入れスタート

令和6年1月、認定農業者に認定

今後の展望

『精神障害者の雇用創出モデル確立 × 全国へ』

- 精神障害者の雇用管理方法やマネジメント手法をノウハウにまとめ、菌床椎茸の生産事業を収益化し、事業ノウハウとして確立。
- 現在、障害のある人が活躍する場を広げるため、他団体、他企業と組んだアスタネ型椎茸事業の展開に向けて、パートナー募集中。

埼玉県初の農業を専門に学ぶ特別支援学校として、農産物の6次産業化を実践、スマート農業にも取り組み、生徒のスキルアップと働く力の育成を実施。

特別支援学校

埼玉県
羽生市

基本情報

設立: H19年 / 農福連携取組開始: H19年

取得認証等: S-GAP(R5年)※埼玉県独自のGAP

主な選定表彰: ノーフク・アワード2024優秀賞

きつかけ

H19年

知的障害の特性等を農業に活かし、働く力を引き出す取組を実施。6次産業化を通して地域と関わることで、社会参加への自信につなげ、将来の担い手としての活躍を目指す。

人を耕す

- 作業学習のルーティン化により精神的安定や作業効率向上を図り、生徒の強みを引き出す。
- 地元生産者からの指導や生産物の販売会、地域公共施設での草木の栽培、地元幼稚園等での農業体験を行い、周囲の障害者への理解醸成を図ると共に、生徒のコミュニケーション能力向上や知識・技能の定着、モチベーション向上、自信創出ができ、共感や協調性を育成。

取組

地域を耕す

- 開校当初から周辺の休耕地を活用し、実習地として年間を通して農産物を生産。
- 地域飲食店・学校給食関係者からの依頼で、地元特産品のモロヘイヤを栽培・提供。市のふるさと納税返礼品としても活用。
- 市役所や幼稚園、文化祭、JA農業まつり等の地域イベントに生徒自らが生産物販売で参加するほか、日本赤十字社への農産物提供、地元フードパントリー活動等を通じて地域に貢献。

未来を耕す

- 地域特産品を利用したモロヘイヤうどんや地元産クラフトビールの製造は地域に新たな価値と話題性を創出。地域の活性化と同時にフードロス問題や付加価値向上にもつながり、さらには生徒の可能性を引き出す取組みとして有効。
- 県の農業生産工程管理(S-GAP)を取得。安全面で生徒の意識向上にも寄与。

概要

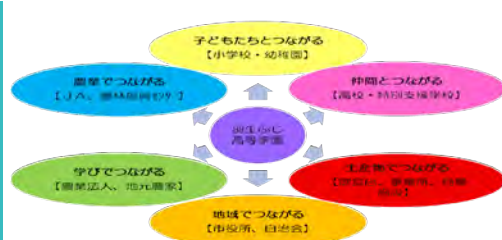
主力商品

(農作物)モロヘイヤ、トマト、いちご、ホップ、ニンニク
(加工品)モロヘイヤうどん、にんにく味噌、クラフトビール

特徴的な取組

スマート農業、6次産業化、環境保全型農業、地産地消

体制図



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

生徒数

118人(R2)
→102人(R6)

年間売上

186万円(R2)
→140万円(R6)

耕地面積

0.47ha(R2)
→0.37ha(R6)

温室・作業室等面積

0.12ha(R2)
→0.12ha(R6)

- 地域とのさまざまな連携により、生徒の社会参加への自信につながり、異なる立場の人と活動することで、共感や協調性を育む場を創出。
- 開校以来、農業関連企業・法人への実習受入れは卒業生の約9.8%(延べ59名)、また農業関連企業・法人への就労は約6.2%(延べ17名)となり、農業関連への就労という選択肢を着実に開拓。

住所: 埼玉県羽生市下羽生320-1

TEL: 048-560-2020

Mail: otuka.syunta.57@spec.ed.jp

URL: <https://hanyufuji-sh.spec.ed.jp/>

特別支援学校と連携して地元狭山茶の栽培管理等や、地鶏の飼育から商品開発・販売までの産業化に取り組むことで双方の生徒の進路選択の幅を広げ、将来のキャリアを考えるきっかけ作りに貢献。

高等学校

埼玉県川越市



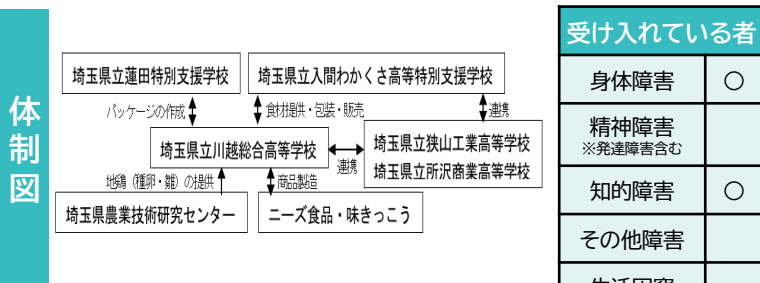
基本情報

設立:T9年 / 農福連携取組開始:R5年

概要

主力商品
(農作物)地鶏(タマシャモ)、米、にんじん
(加工品)タマシャモカレー

特徴的な取組
スマート農業、6次産業化



住所:埼玉県川越市小仙波町5丁目14番地

TEL:049-222-4148

Mail:r224148@pref.saitama.lg.jp

URL:https://kawagoesogo-h.spec.ed.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

人

地

取

未

R5年

地鶏商品の新たなパッケージデザインに障害者アートの活用が決まり、特別支援学校に協力を依頼したことがきっかけで、それぞれの得意分野を活かした協力体制・連携を構築。

- 人
- を
- 耕
- す
- 様々な作業工程の中で、双方の生徒の特性や得意分野等を知ることができた。
 - 特別支援学校の生徒が描いた絵をパッケージデザインに使用することで、特別支援学校の生徒の活躍の機会となり、喜びと自信に繋がった。
 - 双方の生徒が自ら育てた農畜産物が商品化され農業に対する意欲向上に貢献。

- 地
- 域
- を
- 耕
- す
- 地域特産のお茶を鶏の飼料に加えることで、鶏肉の風味や品質が向上したほか、紅茶の茶殻や廃棄される茶葉を再利用することで、食品ロスの削減にも繋がり、SDGsの達成に貢献。
 - 高校生、特別支援学校の生徒、お茶生産者が連携し、合同での茶摘み体験や地域イベントでの生産物販売することで、地域のつながりが生まれ、障害者への理解を促進。
 - 入間わかくさ高等特別支援学校が運営するカフェで、川越総合高等学校の製造商品を提供。

- 未
- 来
- を
- 耕
- す
- 異校種交流やイベント参加を通し多様な人と関わることで、双方の生徒の進路選択に幅が広がり、将来のキャリアを考えるきっかけとなっている。
 - 学校における農福連携の促進を目指し、特別支援学校との連携事例を外部に紹介。
 - 地元狭山茶の栽培管理等を通して、特別支援学校・農業高校・工業高校・商業高校が連携している取組は珍しく、新聞やテレビなどの報道でも取り上げられている。

農産物売上高	交流人口	—	—
44.9万円(R5) →87.8万円(R6)	10人(R5) →30人(R6)		

- 成果
- 農業を通した交流の中で、生徒の障害者に対する理解が深まり、お互い得意分野を活かし、協力し合う環境を整備。
 - 本校生徒にも人間関係の構築が苦手な生徒も多く、はじめは戸惑っていたが、農業を通した交流の中で、障害を持つ生徒と積極的に交流していく姿勢がみられた。
 - パッケージの個包装作業を特別支援学校の生徒に担ってもらうことで、完成品の安定供給が可能となり、増産され販売数が向上。



遊休農地を活用した高収益のブルーベリー（無農薬・無化学肥料）を栽培し、新たに障害者と高齢者の雇用機会を創出。観光農園として、首都圏住民の誘客が図られ地域活性化にも大きく貢献。6次産業化による高い工賃も実現。

基本情報

- 所在地：千葉県木更津市
- 団体名：特定非営利活動法人一粒舎
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021優秀賞
豊かなむらづくり農林水産大臣賞（2016年）木更津市観光ブルーベリー園協議会で団体表彰
- 主力商品：イベントへキッチンカーで出向き販売、ブルーベリー、ブルーベリー加工商品（ジャム・クロワッサンサンド・スムージー・パフェ等）、無農薬野菜
- 取得認証等：有機JAS



ブルーベリーを使用した商品

取組の概要

- ブルーベリー栽培、加工、販売、観光農園スタッフとして障害者20名が仕事に従事。1.2haのブルーベリー園の管理のほか隣接する里山3haを保全管理。
- 作業機械の講習を行い、安全に機械操作ができる障害者が増加。機械操作が不得手な障害者は、野菜作りなど、手作業中心の仕事を担当。職域を広げ、観光農園の受付やレジに障害者を登用。
- ブルーベリー以外にも荒廃農地となった里山の竹や草を刈った後に桜や菜花を植栽。
- 2021年にブルーベリー園が有機JAS認定。
- 職員（11人）の平均年齢68歳。農業未経験者の第二の就職先として、福祉と農業に高齢者ならではの知恵と力を発揮。



ブルーベリーの摘みとり



地域住民依頼の草刈作業



再生された里山

体制図

特定非営利活動法人 一粒舎

就労継続支援B型事業所

ブルーベリー農園のらり・くらり

カフェ風の里

近隣農家

木更津市

木更津市観光ブルーベリー園協議会

道の駅うまぐたの里

取組の成果

- 耕作面積：取組当初(平成19年)の2,500㎡から12,000㎡（令和5年）に拡大。
- 平均工賃（月）：約5万900円（令和5年）となり、取組当初の1万8千円から約2.8倍に上昇。工賃は千葉県内に約400あるB型作業所の中で5番目以内。
- 障害者就労：取組当初の16人から20人（令和2年）に就労拡大。
- 波及的な成果：地元小学校にブルーベリーが植樹されるなど、地域特産として児童の情操教育にも貢献。市内の全小学生対象に、毎年協議会の摘み取り案内のチラシを配布。

所在地 ▶ 〒292-0211 千葉県木更津市大稲54-1

連絡先 ▶ TEL：0438-53-8115 FAX：0438-53-8116 E-mail: iidak22@yahoo.co.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.norarikurai.info/>

【取組のプロセス】

平成19年

荒廃農地の増加
地域活力の低下
工賃の向上

木更津市に相談

平成20年

リタイアする農家
が急増

平成22年

平成30年

カフェ、道の駅に
よる販路開拓

今後の
展望

きっかけ

最低3万円の工賃を目標にして福祉事業所を開設したが、景気低迷により下請作業が減少したことから農業を検討

梨園跡地でブルーベリーを植栽

- 下請けしていた従来の仕事がなくなり農業を検討。
- 遊休農地の活用を木更津市に相談し、「高収益」と「農薬を使わないブルーベリー」に惹かれ取り組む。梨園の跡地を借りて開墾し400本植栽。

近隣のリタイア農家から田畑賃貸が急増

- 農家の高齢化とともにリタイアする農家より農地を賃借。
- ブルーベリーが当初植栽した400本から1200本に増加。ブルーベリー園を拡大。
- NPO法人格を取得。平成23年から就労継続支援B型事業所へ移行。
- 圏央道開通に伴い、キッチンカーを導入。

カフェ 風のさと開設、無農薬新鮮野菜商品の開発・販売

- 廃屋の納屋を改装しカフェを開設。観光農園、カフェのレジは障害者が担当し新たな雇用の場を創出。職員は異業種を定年退職した高齢者が第二の職場として活躍。
- 無農薬野菜とブルーベリージャムをクロワッサンサンドにして道の駅でも提供。
- キッチンカーを作り、様々なイベント会場に出店。ブルーベリーのスムージーやパフェを提供して、ブルーベリーの魅力を宣伝。

ブルーベリーがつくる新たな農福連携に挑戦

- ブルーベリー観光農園を柱とし、里山の自然を生かした体験型イベントや花の里として新たな関係人口を創出。
- 令和3年に有機JAS認定。さらに来園者・障害者雇用を増やすきっかけづくりとしたい。
- 農業+福祉+高齢者の仕組みを確立して、地域の活性化を図りたい。
- 利用者の月当たり平均工賃を5万円以上にしていく。



キッチンカー



イベント（感謝祭）



風のさと（カフェ）



利用者、職員全員集合写真



帝人(株)の特例子会社としてオーガニック野菜や胡蝶蘭等を生産。監督職員が技術指導・生活相談・ジョブコーチを兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化及び社員の成長を実現。

基本情報

- 所在地：千葉県我孫子市
- 団体名：帝人ソレイユ（株）我孫子農場
（屋号：ポレポレファーム）
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：胡蝶蘭、野菜類、干し芋、
食用バラ/エディブルフラワー、
農作業ボランティア、ピザ窯ランチ
- 取得認証等：－



農業×働く楽しさ

取組の概要

- 自社農園で、高付加価値の①オーガニック野菜（2ha）、②エディブルローズ（中型ハウス1棟）、③胡蝶蘭（大型ハウス1棟）を生産・販売。
- 農業事業部に18名を最低賃金以上で雇用、マネージャー3名（うち1名が農福連携技術支援者、障害者職業生活相談員、企業在籍型職場適応援助者）がジョブコーチ役を兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化、さらには社員の成長を実現。
- 大企業の強みをフル活用し、大型投資（胡蝶蘭ハウス5千万円等）、CEO等のトップセールス（胡蝶蘭）、国内社員1万人の協力・支援、定期メルマガ受信5,700名等を背景に、順調に雇用拡大と黒字化に向けて進捗。



胡蝶蘭栽培の様子



胡蝶蘭ブランド



オーガニック野菜 エディブルフラワー



体制図

帝人（株） 親会社

帝人ソレイユ（株）特例子会社

オフィスサポート部

農業事業部（ポレポレファーム）

胡蝶蘭事業グループ / 野菜・バラ事業グループ

社会福祉法人
障害福祉サービス事業所

特別支援学校

取組の成果

- 障害者雇用者：当初（平成31年）の3名から18名（令和6年）に拡大。
- 平均賃金：約16万円（最賃×7.5h×21日）を維持し雇用者を拡大。
- 売上額：前年比140%で伸長して数千万円（令和5年）に増加。
- その他の成果：野菜事業は宅配と直売所でほぼ完売。胡蝶蘭は、大手企業を中心に150社超から受注があり、順調に推移。特長ある取組が評価され、NHKをはじめとしたメディアから多数の取材を受ける。
- 令和5年、障害者雇用を行う優良な中小事業主として、厚生労働省による「もにす認定」事業者となる。

所在地 ▶ 〒270-1101 千葉県我孫子市布佐845-1

連絡先 ▶ TEL:04-7199-9591 E-mail: porepore_farm@teijin-soleil.com

ウェブサイト ▶ <https://teijin-soleil.co.jp/>

【取組のプロセス】

障害者のクオリティ・オブ・ライフの向上
共生社会の実現、
社員の成長

平成27年

きっかけ

障害がある家族を持つ社員有志が特例子会社設立を企画提案し、
帝人（株）の経営会議で会社設立が承認され（平成30年）、有志社員の一部が
人事異動して経営に携わる

平成31年

会社設立により障害者雇用を開始。特例子会社として認可

- 平成31年会社設立。我孫子農場での農業班3名、東京本社でのオフィスサポート班4名の7名で障害者雇用を開始。
- 特例子会社として認定。オーガニック野菜の出荷開始。



オーガニック野菜

令和2年

胡蝶蘭ハウスの竣工、食用バラ/エディブルフラワーの生産開始

- 胡蝶蘭ハウスが竣工。農業事業部の下に胡蝶蘭事業グループを新設。
- 食用バラ/エディブルフラワーの販売開始。我孫子市内レストランに販売・出荷。
- 干し芋生産の開始。我孫子直売所で販売し完売。



エディブルフラワー

令和3年

胡蝶蘭アレンジメントのリリース、胡蝶蘭ブランドの立ち上げ

- 胡蝶蘭を使用したアレンジメントフラワーを外部と組んで開発し、新発売。
- 胡蝶蘭ブランド「Planet's Hug Orchid」を立ち上げ。
- 我孫子市のふるさと納税返礼品として胡蝶蘭アレンジメントを登録。



胡蝶蘭アレンジメント

令和5年

バラ調製作業を福祉事業所に外注、「もにす認定」事業者となる

- バラの出荷調製作業を我孫子市内のB型事業所の施設外就労作業として外注を開始。
- 厚生労働省より優良な障害者雇用主として「もにす認定」を取得。

Joy at Work
(やりがいと働く
楽しさ)の具現化

今後の
展望

障がいのある方々にとっての“新しい現実を創る”

- 「農福連携」という国を挙げた農業での障害者雇用拡大の動きも追い風にしながら、企業型の成功モデルを確立し、「ハンディキャップのある方々がこんなにスゴイことをやっているんだ！」という驚きを世界に発信していけることを目指す。



ポレポレファームロゴ



地元の牧場が堆肥を活用して約20年間行ってきた食用菜花栽培を事業継承し、約4,500坪の畑を障害者、職員、地域との連携ネットワークを活用し、農業経営に取り組む

基本情報

- 所在地：千葉県いすみ市
- 団体名：社会福祉法人 土穂会
障害福祉サービス事業所
ピア宮敷第1工房
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022
フレッシュ賞
- 主な取組：菜花経営、ハーブ育苗・栽培、
米育苗、ごま油製造販売、梨剪定枝拾い、
ライ麦ストロー、ホエイドレッシング製造
- 取得認証等：－



菜花畑にて作業をおえた利用者

取組の概要

- 地元の牧場経営者から事業継承を受けた菜花生産を、栽培、収穫、出荷、販売まで農福連携により取り組む。
- 地元JAや農業事務所による栽培指導を受け農作業の知識、経験不足を補う。
- 菜花の品質保持のため長年菜花栽培に関わる地域の高齢者（菜花ガールズ）が参画。
- 生産性向上のため利用者の強み、個性を活かした作業の見極めを行う。職員の育成の場として「農業で福祉が伸びる」を合言葉に取り組む



利用者による菜花収穫の様子



枝を使って間隔を図り菜花定植作業



選別作業中の利用者

体制図

社会福祉法人 土穂会

障害福祉サービス事業所 ピア宮敷第1工房

連携

夷隅郡市福祉作業所

地域連携（菜花ガールズ・ボーイズ）

取組の成果

- 菜花栽培においては、作業に関わる障害者が当初の15名から25名まで増加した。障害者就業・生活支援センターに協力し、地域の障害者が就労訓練で参加。
- 菜花の栽培に参加していた障害者1名が、作業を通じて体力がつき、特例子会社に就職できた。R5年度から地域の特例子会社が仕事として菜花収穫作業に合流している。
- 平均工賃が取組当初（令和元年）の13,000円から22,000円に向上。
- 年々菜花栽培農家が減少する中、地域の菜花栽培維持を期待される。

所在地 ▶ 〒299-4504 千葉県いすみ市岬町桑田341-1

連絡先 ▶ TEL:0470-87-5201 E-mail:kobo4@tsuchibokai.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://minnahatake.com/>

【取組のプロセス】

令和元年

日中活動として
ごま油製造、切り
干し大根加工に携
わる

きっかけ

地域活動で知り合った牧場が約20年間黒字で続けてきた食用菜花栽培を高齢化と人手不足で辞めたことを聞き、「もったいない」気持ちから勢いでスタート

事業継承による菜花栽培

- 事業継承により菜花のほ場やトラクター等の大型機械の無償貸与を受け、菜花の栽培から販売までに取り組む。
- 販路の確保ができていたこと、栽培に関してオブザーバーがいることで安心してスタート。
- 菜花栽培は障害者だけでなく、地元の高齢者グループ「菜花ガールズ」と協力し取り組む。



笑顔で作業している利用者さん

令和2年

菜花栽培を開始

農福連携による広がり

- 菜花事業をきっかけに、ほかの農業生産団体からの仕事の受注につながる。
- 都内企業からの農業体験の受け入れなどを通して連携の輪が広がる。
- 近隣の地域の農家へ施設外就労で人手不足解消の一役を担う。
- 菜花が地元の飲食店で食材として使われてたり、いすみ鉄道とのコラボレーションによる菜花うどんの商品化につながる。
- 特別支援学校の農業体験受入等も行う。



職員の支援力アップに向けた勉強会

令和4年

菜花に加え梨の剪
定し合い受託

ライ麦ストローや
ハーブの育苗を受
託

取組の工夫

- 利用者がより活躍できる支援の方法を模索し、事業所の職員が農家に経営などを学ぶとともに、菜花の栽培マニュアル等の作成や利用者一人一人に合わせた治具の作成等を行う。
- 利用者の力量を決めずに、なんでもやってみようという声掛けを行い、利用者の強みを発見し作業に反映するとともに、タイムマネジメント、効率化などにも取組生産性の向上を図る。



いすみ鉄道とのコラボによる
菜花うどん

今後の
展望

農業で福祉が伸びる

- 法人の協力体制の広がりから職員の支援力アップ、そして利用者の活躍の場面が広がることで農業により福祉が伸びることを実感した。農家から応援依頼も増え、ピア宮敷だけでなく、他のB型事業所と農家をマッチングし、地域全体で農福連携の促進を図る。

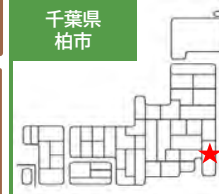


地元の飲食店に菜花を使った
食材の提供

組合員と障害者就労施設とのマッチングにおいて、作業内容と対価をJAが調整することで年間80件のマッチングに拡大。JAの部会で初となるノウフクJASを取得。

JA

千葉県
柏市



きっかけ

R3年

生産者の悩みである将来的な労働力確保について、スポット的な労働力提供として、福祉の力を借り、農業現場での農福連携に着手。

人を耕す

- 農家と福祉事業所の間を調整し、労働に見合った作業単価を決定。作業難易度をグラフ化し、各事業所のスキルに合った仕事を提供。
- JAの青壮年部会での農福連携の説明会を通じて、農家の理解が深まり、参加者が増加。
- 地域包括支援センターと共同して、障害者だけでなく、ひきこもりの状態にある者や犯罪をした者も受け入れられるよう環境を整備。

地域を耕す

- 労働力が減少する中で、管内で農福連携に取り組む農家にとって、障害者は必要不可欠な存在になっている。
- 農福連携に取り組む農家は、福祉事業所と協力して地域イベント実施、加工品開発等に取り組むほか、生涯大学校や高校と連携し、幅広い世代を対象とした農福連携の啓発活動を実施。

未来を耕す

- 農福連携のマッチングにより、地域農業の安定化につながっていることが、メディアで取り上げられるようになり、JAグループ内や市町村等によるセミナーでの発表機会が増加。
- ノウフクJASを取得し、販路拡大を強化。

基本情報

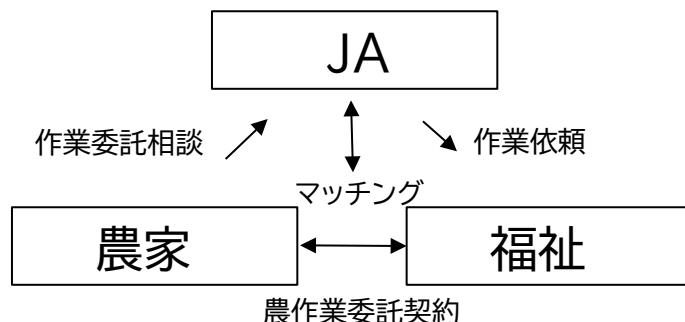
設立:H22年/農福連携取組開始:R3年

取得認証等:ノウフクJAS

概要

特徴的な取組
中間支援

体制図



成果

参加福祉事業所数

1事業所(R3)
→19事業所(R5)

参加農家数

2戸(R3)
→15戸(R5)

マッチング件数

1件(R3)
→80件(R5)

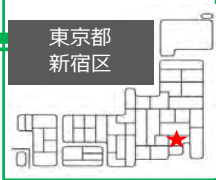
—

- 県担い手支援課や農業事務所、農業者支援センターとも共同し農福連携の見学会を実施し、40名が参加。農家から新たにマッチングを希望する声が上がった。
- 対外的な活動が増加し、見られる事が増えた結果、農家も福祉事業所も「注目されているからもっと頑張ろう」という気持ちで団結力が高まり、作業のスキルアップを実現。

TEL:090-9816-9045

Mail:Shohei-Kawashima@ja-chibatoukatu.or.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可



新宿区内の身体・知的・精神障害者が通う福祉事業所等30か所が集まり、（公財）新宿区勤労者・仕事支援センターを事務局として、障害者の工賃向上や地域交流を目的にネットワークを組織。「しんじゅQualityみつばちプロジェクト」を立上げ、都心のビル屋上等を利用した養蜂事業を展開し、サステナブルな社会の実現に貢献。

基本情報

- 所在地：東京都新宿区
- 団体名：新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021フレッシュ賞
- 主力商品：養蜂、はちみつ
- 取得認証等：－



しんじゅQualityみつばちプロジェクト

取組の概要

- ネットワーク・オリジナル商品づくりとして障害者による養蜂事業を企画立案し、新宿区の協力もあり実現。はちみつを使った商品の製造、販売や大手百貨店とのコラボ商品・ブランドづくり、販売会を実施している。
- 障害者は、蜜蜂の飼育・採蜜・はちみつの瓶洗浄、ラベルシール貼りといった作業に取り組む。障害の違う事業所が連携・分担し、障害者自身が主体的に取り組むなど新たな仕事を生みだしている。
- 都内ホテルではちみつを提供する宿泊プランや、有名菓子店ではちみつを使った菓子づくりが行われ、商品としてのブランドの付加価値を高めている。



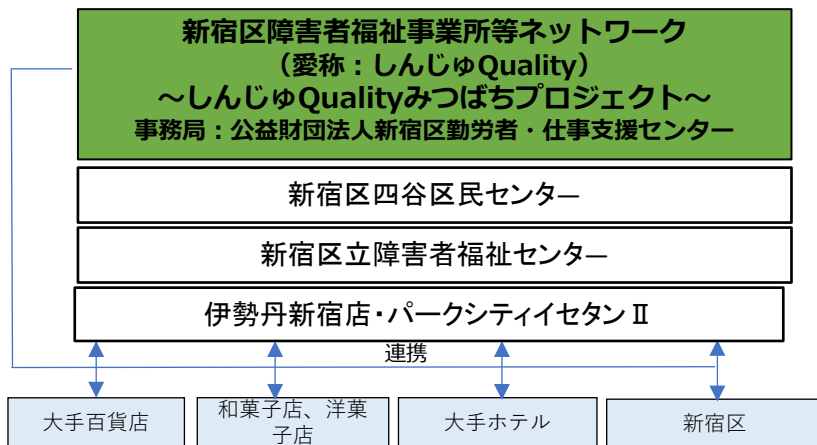
パークシティセタンⅡでの養蜂作業とMIELはちみつ



障害者センターでの養蜂作業と新宿しQハニー



体制図



取組の成果

飼育委託費：設立当初（令和元年度）の42万円から255万円（令和5年度）に拡大。

養蜂拠点：設立当初（令和元年度）の1拠点から3拠点（令和3年度）に拡大。

波及的な効果：養蜂事業を通じて、百貨店、飲食業関係者、都市住民等、今までつながりのなかった人達との新たな関係が構築できた。また、障害者への理解の促進や、生き物と自然環境の保護の重要性を地域社会に伝えることに役立っている。

所在地 ▶ 〒160-0022 東京都新宿区新宿7丁目3-29 新宿ここ・から広場 しごと棟
連絡先 ▶ TEL:03-5273-3852 FAX :03-3208-3100 E-mail:shinjuQuality@sksc.or.jp
ウェブサイト ▶ <http://www.sksc.or.jp/shinjuQuality/>

【取組のプロセス】

平成28年

都心における新規
ブランドを検討。

きっかけ

新宿区内障害者福祉事業所製品のブランド化検討のため、
有志事業所によるブランドプロジェクト企画を検討

しんじゅ[®]
Quality



平成30年

ビル屋上を利用し
た養蜂事業を企画。

ネットワークの愛称「しんじゅ Quality」と決定

- 様々な障害の違う福祉事業所等30か所が集まり、それぞれの特性を発揮し、主体性を持って活動できる環境を作るため「新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク」を設立。ネットワークの愛称を「しんじゅ Quality」と決定。

令和元年

養蜂事業「しんじゅ Qualityみつばちプロジェクト」を開始

- オリジナル商品づくりを目指して、新宿区四谷区民センターで養蜂事業を開始。
- 新宿マルイ本館・新宿高島屋で自主製品の販売会「しんじゅ Quality/ハンドメイドマーケット」を開催し、障害者が社員と協力し販売業務を実施。



しんじゅ Quality
ハンドメイドマーケット

令和2年

都心ビル屋上に養蜂拠点を拡大

- 新宿区立障害者福祉センター屋上（令和2年度）、伊勢丹新宿店パークシティイセタンⅡ屋上（令和3年度）に養蜂拠点を拡大。
- 前年度に養蜂活動を実施した事業所の障害者が、新たな事業所に養蜂作業のレクチャー、サポートを実施。親子連れをはじめ様々な地域の人達の見学が増加。



養蜂の様子

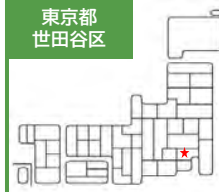
今後の
展望

多様な人や様々な生き物が互いを受容し助け合い共存共栄できる サステナブルな社会の実現に貢献する

- 「しんじゅ Quality」の活動を通して、障害者と地域の企業、学校、行政、地域住民など子供から大人まで、そしてあらゆる生き物が互いの価値や魅力を合わせることで、新しい「地域の力」を創造する。

世田谷に誰でも参加できるインクルーシブな「夢育て農園」を開園し、知的障害者・発達障害者の教育法を日々進化させつつ、質の高い「農福×教育」事業を展開。

その他

東京都
世田谷区

きっかけ

R4年

支援学校卒業後の学びの場がない「18歳の壁」に問題の一つの解決策を提示し、「社会が夢を育て、夢が人を育て、人が社会を照らす循環づくり」を目指して設立。

人を耕す

- 知的障害者・発達障害者を対象に、系統的認知能力強化と運動機能強化、主体性を育てる夢語りの時間と、農作業を組み合わせた「人を育てる畑青年コース」を週1回2時間半開講。農作業を通じて認知的発達・成長を図る。令和6年から少年少女コースも開講。同年より夢育ての方法“夢育て1.0”を採用する全国の事業所と夢育てアライアンス設立。令和7年から株式会社ファミリーマートが夢育て1.0を採用、共同で障害者の生涯に渡る学びの場を運営

地域を耕す

- 多品目野菜の有機栽培を中心に、誰でも参加できるオープン日を毎月開催しており、令和4年のみかん狩りには5200人が参加。ノウフクフェスタや地元での販売も実施しており、千葉大と共同で製造したみかんソースなどを販売。区内での農園移転を機にR8年3月夢育て農園ちとからグランドオープンを行い区長をはじめ100人ほどが集まったり、野菜を通じて地域と結びつきを深める等ユニバーサル農園化を推進中。

未来を耕す

- 農福連携による障害者の認知機能向上・自立促進の可能性を追求。障害者への教育法を伝えるワークショップを開催し認知発達促進法を普及。これまで60余名が受講し全国で活用中。
- 誰もが夢を育み、目指すことのできる「夢を育てる社会」とするため、どんなに障害があっても、いくつになっても成長できる「認知の学校」設立を目指す。

取組

成果

基本情報

設立: R4年 / 農福連携取組開始: R4年

主な選定表彰: 2023グッドデザイン賞(ニコニココイン)

主力商品

(農作物)有機野菜、藍、みかん 等
(加工品)みかんソース

特徴的な取組

有機、認知的成長支援、ユニバーサル農園、環境保全型農業

概要

体制図

夢育て農園設立委員会
(株式会社夢育てとNPO法人ユメソダテの合議体)

幹事会

農福コミュニ
ティチーム人を育てる畑
チーム

栽培管理チーム

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

住所: 東京都世田谷区南烏山1-10-25-403

TEL: 080-5088-6271

Mail: maekawa@yume-sodate.com

URL: <https://yume-sodate.com/>

特別支援学校の生徒の就労実績あり / 特別支援学校等の現場実習受入れ: 可
視察受入れ: 可 / 報道機関受入れ: 可 / 特別支援学校における校内実習や作業学習への支援(体験の場の提供、農業に関する技術的な助言等): 可

大規模施設園芸における労働力確保のため、障害者就労施設と連携。周年栽培と作業のマニュアル化で誰でも働ける環境を構築し、安定労働と就業機会を拡大。

JA

東京都千代田区高知県安芸市



基本情報

設立:S47年 / 農福連携取組開始:R3年

取得認証等:ノウフクJAS(R7年)

概要

主力商品
(農作物)ナス

特徴的な取組
スマート農業 環境保全型農業

体制図

ゆめファーム全農こうち → こうち絆ファーム → 出荷場

・ゆめファーム全農こうちで収穫した青果物の集荷、袋詰め、出荷等の農作業をこうち絆ファーム*へ常時委託
*就労継続支援B型事業所
・その他の農作業も、発生の都度委託

住所:東京都千代田区大手町一丁目3番1号 JAビル
TEL:03-6271-8269
Mail:zz zk zennoh.horticulture@zennoh.or.jp
URL:https://www.zennoh.or.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きつかけ

人

地

取

未

R3年

JA全農が開発した大規模多収型施設園芸技術により、収量が2~4倍・栽培(出荷)期間が周年となったため、労働力の確保が課題となり、障害者就労施設への作業委託を開始

作業委託料(単価)は障害者就労施設と協議し決定。作業技術向上に伴い、作業委託料も上昇する仕組みとするため1袋当たりで単価を設定。

作業のマニュアル化(書類・映像)等により適性を勘案した委託や作業中の適切な管理が可能。

単発の軽作業から圃場内作業や袋詰め、出荷と委託作業内容をステップアップし、障害者の能力向上に寄与。

「ゆめファーム全農構想」を掲げ、雇用型農業とし、作業を分解・マニュアル化することで障害者に限らず多くの人が簡易に作業従事することが可能な大規模多収型施設園芸を推進。

ゆめファーム全農こうちは全国的に視察を受け入れて、取組の紹介を行うことで、農福連携への理解を醸成。

ナスでは、簡便な作業で樹勢を維持しながら効率的かつ安定的な収穫が可能となる「ナスのつるおろし栽培法」を確立(特許第7623709号)したことで障害者就労施設への作業委託へ寄与。

環境調和型農業に資する技術・資材を体系化した「グリーンメニュー」にも取り組み、ノウフクJASを取得した商品に限らず、環境等に配慮した商品を展開。

障害者就労施設への報酬支払額	農地面積	農業売上高	—
12万円(R3) →377万円(R6)	1ha(R3) →1ha(R6)	5,100万円(R3) →6,500万円(R6)	

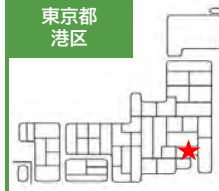
障害者就労施設への年間支払総額 技術向上・委託作業の増加に伴い金額も上昇。

常時発生する集荷や袋詰め、JAへの出荷といった作業を全量福祉事業所へ委託することで圃場運営も効率化し生産に注力できることから収益性や生産性も向上。

各種センサーや環境制御機器によるスマート農業化もすすめ農福連携に限らず働きやすい環境を創出。

世田谷区が保有する農園で、伝統野菜の栽培等を通じた自社の障害者雇用に加え、地域の障害者施設に農産物の加工や軽作業を発注することで、地域全体の障害者の経済的安定や生きがい向上を目指す。

企業

東京都
港区

きっかけ

R4年

農福連携の経験から農業と障害者の相性の良さに着目し、8社＋社会法人でコンソーシアムを結成して区の農地保全と工賃向上を目的とする公募に応募。選定され、本活動を開始。

人を耕す

- 能力や適性に応じた作業選定を行うほか、リーダー役や講師アシスタントなどの支援される側からする側へのステップアップを促す。
- 就業中に心身が不安定になった際に利用できるカームダウンルームを設置するなど、精神障害者等も働きやすい環境の整備。
- 互いを認め助け合うことを可能にする『せたそらルール』をスタッフで話し合い作成して実践。

地域を耕す

- 地域の障害者施設に農産物の加工や軽作業を発注し、施設利用者の工賃向上と発注先の拡大を実現しており、取組の輪の拡大に寄与。
- 地域の障害者施設等を対象にした農作業体験や、年2回の一般の方々に農園を開放する「オープンファーム」を開催し、地域内外との交流を図る。

未来を耕す

- 電通グループの農福連携は、自社の雇用に残らず、地域全体の障害者の経済的安定や生きがい向上を目指すものであり、これから農福連携に取り組む企業にとって模範となる取組を目指す。
- 規格外野菜を飼料として提供し、そこで発生した馬糞を肥料として活用するなど、環境に配慮した持続可能な農業を実践。

基本情報

設立: R3年 / 農福連携取組開始: R4年

取組

成果

主力商品

(農作物)とうがらし、にんじん、大根 等
(加工品)切干大根、梅ビール、ジャム

特徴的な取組

自然農法、環境保全型農業、ユニバーサル農園

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所: 東京都港区東新橋1-8-1

TEL: 070-1584-0562

Mail: hamazaki.nobumi@dc1.dentsu.co.jp

URL: <https://www.projects.dentsu.jp/djfarm/project/>

平均賃金月額

19万円(R5)
→20万円(R6)

障害者雇用数

5人(R5)
→9人(R6)

売上高

1.2万円(R4)
→65万円(R6)

体験会等参加数

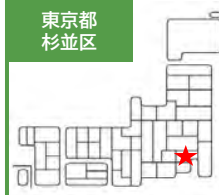
220人(R4)
→350人(R6)

- 自社の雇用に残らず、育てた農産物を地域で販売し、地域の障害理解を促進するとともに、地域の障害者施設に仕事を発注することで経済的安定と生きがいの向上を地域全体に行き渡らせるスキームを構築。
- 区が買い取った荒廃農地を借りて農園を運営。伝統野菜「大蔵大根」の栽培や切干大根への加工、地域産野菜の納品を通じて、地域農業の維持・発展と農地保全に貢献。
- 地域の社会福祉協議会と連携し、ひきこもり支援団体や子ども食堂への農産物提供などを通じて、持続可能な地域共生社会と多様性のある地域づくりに貢献。

区が「すぎのこ農園」を開園し、障害者就労施設等に貸し出すほか、収穫体験イベントやマルシェの実施などを通して、障害者・高齢者等の生きがい創出・健康増進の機会の提供や、即売会や子ども食堂などの定期開催。

地方自治体

東京都
杉並区



基本情報

設立: R3年 / 農福連携取組開始: H31年

概要

主力商品
(農作物)野菜、果樹

特徴的な取組
ユニバーサル農園

体制図

設置者: 杉並区
管理運営委託先: 東京中央農業協同組合

住所: 杉並区上荻1丁目2番1号 Daiwa荻窪タワー2階
TEL: 03-5347-9136
Mail: nougyo-k@city.suginami.lg.jp
URL: <https://www.city.suginami.tokyo.jp/s033/shisetsu/14965.html>

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H
31
年

区は都市農地の多面的機能を発揮する取組として、農福連携事業に関する調査・研究に取り組み、令和3年4月に「すぎのこ農園」を全面開園。

人を耕す

- すぎのこ農園では区画を多目的農園区画、団体農園区画に分けており、多目的農園区画では、福祉施設等への食材提供による運営支援や区民への収穫体験を行い、団体農園区画では、障害者就労施設や保育園等に区画を貸し出し、健康増進や自然体験に活用。
- 障害者就労施設と受託事業者が日々情報共有を行い、一人ひとりの能力や適性に応じた作業を割り振ることで、無理のない形で障害者が力を発揮できる環境を創出。

地域を耕す

- 収穫体験イベントでは、地域住民や団体農園区画を利用していない障害者が農作業に参加し、農への理解と地産地消の推進に寄与。
- 毎月の「すぎのこマルシェ」では、区内農家や障害者施設が生産した農産物や製品を販売し、交流を通じて都市農地の役割や福祉活動への理解を促進。

未来を耕す

- 団体農園区画利用施設との意見交換会を定期的に行うことで、各施設の要望や成果を共有。その中から、来園が困難な利用者向けに苗をプランターで提供する試みが生まれ、施設内でも農を体験できる仕組みを実現。
- 子ども食堂への旬の野菜の提供により、子どもの食育と地域福祉の充実に直結し、都市農地の多面的機能を区民に発信することに寄与。

取組

成果

収穫物の提供

91回(R2)
→250回(R6)

収穫物の提供先

16団体(R2)
→30団体(R6)

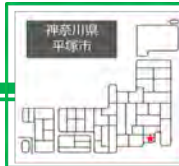
イベント

1回(R2)
→27回(R6)

農地面積

0.26ha(R2)
→0.26ha(R6)

- インターン等を通して、障害者就労施設の2名の利用者が東京中央農業協同組合のアルバイトとして就労し、農園運営を実施。
- 教育委員会と連携し、不登校やひきこもりの児童・生徒を対象とした農作業体験を実施し、自然体験や児童・生徒同士の協働を通じて、新たな学びの場を提供。
- 中学生の職場体験、高校生ボランティアの参画により、若い世代が農業や福祉を知るきっかけとなり、将来の人材育成に寄与。
- 防災兼用農業井戸等の整備や防災訓練を通じて、農園が災害時の地域拠点として機能する体制を構築。



6次産業化と農福連携を組み合わせることで障害者の工賃向上と新たな地域ブランドを確立。マルシェ・バザー等にも積極的に参加し、交流人口が拡大。

基本情報

- 所在地：神奈川県平塚市
- 団体名：社会福祉法人進和学園 しんわルネッサンス
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：農産物加工品
- 取得認証等：－



湘南とまと工房



植樹用苗の生産

取組の概要

- 1974(昭和49)年から自動車部品車の仕事を中心に事業を展開。社会情勢の変化にあわせて作業種の多角化を推進し、農産物加工、地元スーパーでの施設外就労にも注力。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立ち上げて、ジュース、ピューレ、ジャムを製造、販売。2021(令和3)年にHACCP認証を取得。
- 障害者本人の自立・工賃向上の一環として、どんぐりや木の実から植樹用のポット苗を栽培し苗木を各所での森林再生や緑化活動に広く活用。



加工用トマトの下処理



加工商品のパッキング



加工の様子

体制図

社会福祉法人進和学園

しんわルネッサンス
(就労継続支援A型・B型事業所)
サンメッセしんわ
(就労継続支援B型事業所)

連携

神奈川県・平塚市
JA、個人農家他

自動車部品組立

湘南とまと工房

いのちの森づくり

パン・菓子等

(株) 研進 (営業)

連携

本田技研工業株式会社

取組の成果

- 受託加工：取組当初(平成23年)の150万円から2,100万円(令和4年)に拡大。
- 障害者雇用・就労：取組当初の8人から20人(令和4年)に拡大。
- 波及的な成果：6次化によりJA及び個人農業者の取引先が60か所、連携する農家等からのトマトの取扱量は年間約15トンと地域農業の発展に貢献。

所在地▶〒259-1204 神奈川県平塚市上吉沢1520-1

連絡先▶TEL:0463-58-5414 E-mail:rune-selp@shinwa-gakuen.or.jp

ウェブサイト▶http://www.shinwa-gakuen.or.jp/

【取組のプロセス】

円高の影響による
国産部品輸出の減
少、海外サプライ
ヤーからの部品調
達の増加

規格外農産物の有効
活用

6次産業化交付金
による加工施設の
整備

平成23年

きっかけ

自動車部品の組立作業を受注してきたが、社会情勢の変化により受注が落ち込み、事業の多角化を決意
障害者への「良質な仕事の提供」と農業者と連携する
事での地域貢献を目指した農産品加工を開始

平成25年

6次産業化総合化事業計画の認定、農産物加工施設を整備

- 地域で生産された規格外のトマトやみかん・自前の農園で栽培するブルーベリーを活用して、ジュースやジャムを製造することで障害者の雇用・就労機会を創出。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立上げ、生産・販売を開始。
- 摘果されたみかんを使用した「湘南みかんパン」が第4回全国逸品セレクションで準グランプリを受賞（平成27年）。



湘南とまと工房

平成30年

さらなる販路拡大に向けてインターネット販売を開始

- (株)研進と連携し、インターネット販売（楽天市場等）を開始。
- 地元平塚の「湘南ひらつか名産品」に認定される。また、平塚市のふるさと納税の返礼品としても活用。



湘南みかんパン

令和3年

品質維持・向上を図るためHACCP認証を取得

- 食品衛生管理に関する勉強会等に積極的に参加。
- 製造量及び加工品目拡大のため、蒸気ボイラーを導入し、新たに設備を整備。



HACCP認証取得

令和5年

第64回全国推奨観光土産品審査会にて「農林水産大臣賞」受賞

- 日本商工会議所及び全国観光土産品連盟主催の審査会にて「農林水産大臣賞」を受賞し、取組や商品のアピールに繋がった。



集合写真

今後の
展望

地域社会の支援、本人の勇気、職員の努力と熱意、ボランティアの協力、家族の団結、行政の応援といったチームワークを推進

- ネットワークの交流が拡大し、平塚市・飲食業者・農協・漁協とのコラボ商品といった地域の魅力を高める商品を開発。
- 加工品としてレトルト商品を開発し、さらなる販売強化、インターネットを活用した販路拡大を実践。



農林水産大臣賞
受賞

特例子会社に農作業を委託し、作業の細分化やスマート農業の導入により収益性と生産性が向上。より多様な人材が活躍できる環境が整備され、現在は外国人労働者と共に障害者が農作業で活躍。



基本情報

設立: R2年 / 農福連携取組開始: H30年
取得認証等: 認定農業者(R4年)、みどり認定(R6年)
主な選定表彰: 第53回日本農業賞(個人経営)神奈川県代表

概要

主力商品
(農作物)三浦かぶ、スイカ、かぼちゃ等

特徴的な取組
スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

パーソルダイバース株式会社
よこすか・みうら岬工房

→株式会社PEEKABOO

(企業参入型ノウフク援農モデル)

住所: 神奈川県三浦市南下浦町菊名25-3
TEL: 046-888-0875
Mail: info@miurakabu.com
URL: <https://peekaboo-miura.com/>

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

R2年

高齢化に伴う経営方針転換を考えた時期に特例子会社との縁があり、障害者社員の一途な働き方に感動し、企業と共同で人材育成を行い始めたことがきっかけ。

人を耕す

- 作業工程を巧緻性と最多注意配分数を両輪とした難易度評価により階層的に分けており、現在の工程ができるようになったら次の難易度の工程にステップアップするルールを採用。
- 出荷調整所をユニバーサルデザイン化し、合理的配慮された休憩所やトイレも増築。交代制で休憩がとれるルールを徹底。

地域を耕す

- 特例子会社の障害者社員の成長とともに事業も拡大し、収益性並びに生産性が向上。
- 地域の農業技術や野菜を継承し、農福連携で三浦カブを始めとした三浦野菜を栽培することにより地域農林水産業の維持・発展に貢献。
- 若手地域農家の経営的な相談に乗り農福連携に取り組む各援農先の持続可能性向上に貢献。

未来を耕す

- 出荷調整所に数量カウントセンサーやオートメーションシステム等のスマート農業を導入。
- 出荷調整作業で、日々大量に出してしまうカブの残渣を活かした循環農法を企業と共同研究開発。
- AI搭載のプロジェクトマッピングを導入し、カブの選別作業の難易度を下げることに成功。
- 休憩室に必要な農具を揃えておくことで、特例子会社の社員がほ場に直行直帰できる体制を整備し、障害者の自立を支援。

成果

作業請負年間支払額	障害者数	農業売上高	農地面積
320万円(R2) →650万円(R6)	9人(R2) →17人(R6)	5,700万円(R2) →7,300万円(R6)	1.8ha(R2) →4.0ha(R6)

- 3年かけて弊社の下葉処理作業を習得し、6年目の現在は農家と変わらぬ精度と効率で作業ができるようになった。
- 企業の障害者社員が母校で講演を行い、農業の魅力を特別支援学校の後輩に広めている。
- 生産性の向上に伴い、賃金も向上。
- 障害者も安全に安心して働ける環境が整い、より多様な人材が活躍できる場になったことで、障害者と外国人労働者が同じ現場で働くことができるようになった。

手間のかかるひじきのごみ取り作業を福祉事業所が請け負うことで、漁業者の負担軽減と福祉事業所の日々の活動の充実を実現。

福祉事業所

神奈川県
葉山町



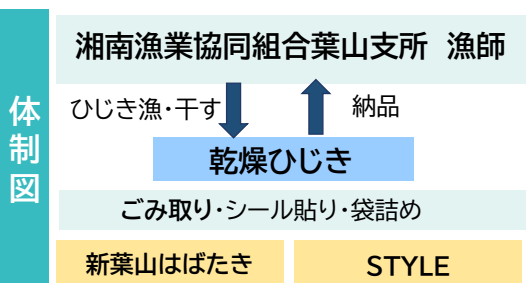
基本情報

新葉山はばたき 設立:H6年/水福連携取組開始:R5年
STYLE 設立:R3年/水福連携取組開始:R6年

概要

主力商品
(水産加工品)乾燥ひじき

特徴的な取組
新葉山はばたき:細かな作業が得意。
STYLE:施設外、施設内就労に対応できる。



湘南の風 新葉山はばたき 住所:神奈川県三浦郡
葉山町堀内1363-1 TEL:046-854-4110
SY' Style(株) STYLE 住所:神奈川県三浦郡
葉山町堀内626-6 TEL:046-876-1195

視察受入れ:要相談 / 報道機関受入れ:要相談

※その他障害については、
新葉山はばたきの実績

きっかけ

人

地域

未来

取組

R5年

神奈川県で水福連携の推進事業を実施する中で、葉山町漁協(現・湘南漁協葉山支所)からひじきの細かいごみ取り作業が大変なので人手があると助かるとの話が寄せられ、開始。

- 人を耕す
- 施設内でできる作業であるため、外出が難しい障害者でも作業に参加でき、日々の活動の充実につながっている。
 - 福祉事業所のスタッフが作業の準備をする前に施設利用者(障害者)が率先して準備し作業を始めるなど、意欲的、主体的な取組が行われている。
- 地域を耕す
- これまで漁師が天気の悪い日や夜間など、仕事の合間に行っていた作業を障害者に担ってもらうことで、漁業者の負担軽減につながっている。また、漁業者がより生産的な作業に従事できるようになり、地域の漁業活性化につながっている。
 - 海の作業に福祉事業所や障害者が興味を持つことで、地域の交流や活性化に寄与している。
- 未来を耕す
- 水産業と福祉の特性を活かした持続可能な体制づくりについて、関係者が話し合うなど、地域で考える契機となっている。
 - 水産業と福祉がつながることで、障害者と共生できる地域社会の実現につながっている。

成果

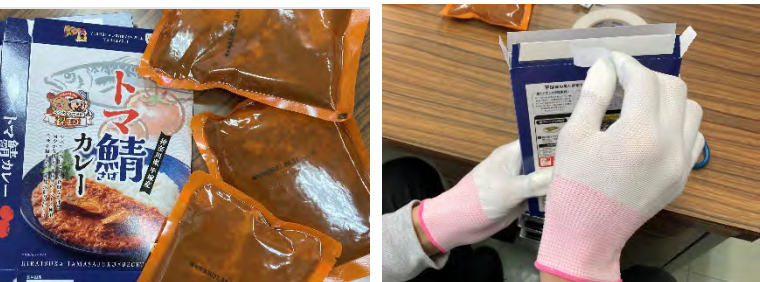
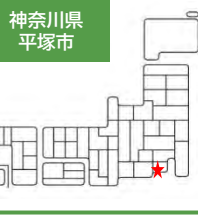
就労延べ人数	就労実人数	延べ日数	—
0人(R5当初) →150人(R5・6計)	0人(R5当初) →16人(R5・6計)	0日(R5当初) →145日(R5・6計)	

- 成果物の品質については、漁業者が行うレベルと遜色ないとの評価をいただいている。また、作業を繰り返す中で作業スピードも向上している。
- 本事例をモデルケースとして、県内の他の地域でもひじきのごみ取り作業の水福連携が生まれている。
- 他の自治体等からの視察を受け入れることで、県の枠を超え、他県での取組の参考としても役割を果たしている。

市場に出ない鯖(サバ)と規格外品のトマトを活用したレトルトカレー(トマ鯖カレー)の生産過程で、福祉事業所が箱の組立てと箱詰め作業を請け負い、工賃向上と社会貢献を実現。

福祉事業所

神奈川県平塚市



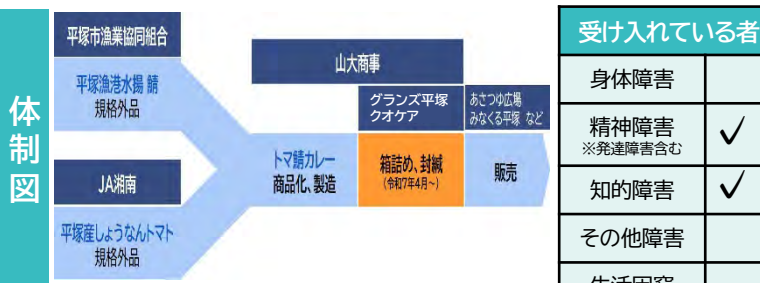
基本情報

設立: グランズ平塚 R4年度、クオケア R5年度
水福連携取組開始: 双方ともR5年度
トマ鯖カレー取組: 双方ともR7年度

概要

主力商品
(水産加工品)トマ鯖カレー

特徴的な取組
グランズ平塚: 施設外就労に積極的、農福連携
クオケア: 手先を使った細かい作業が得意



(株)浦川屋 グランズ平塚 住所: 神奈川県平塚市明石町9-2 TEL: 0463-20-9238
ビースマート(株)クオケア 住所: 神奈川県平塚市明石町21-6 TEL: 0463-74-4836

きっかけ

R5年
平塚市漁協の紹介で魚市場と福祉事業所との間で水福連携(魚の袋詰め、トレーの洗浄等)が成立したことを踏まえ、新商品のトマ鯖カレーでも連携できないかが検討された。

人を耕す

- シール貼り等の単純作業から始めたが、作業品質を認められ、外観品質が厳しい化粧外箱の組立てまで任せられ、「箱作りはプロレベル」と言われるまでになった。
- 加工事業者(山大商事株式会社)側は福祉事業所の作業の進捗に配慮し、福祉事業所側は加工事業者からの急な受注増にも対応するなど、当事者が相互に助け合う関係性になっている。
- 付帯作業(不要シールはがしや廃棄処分)の正確さも認められ、工賃アップにつながった。

取組

- 地域を耕す
- トマ鯖カレーの生産販売への関与を通じた地域貢献。
 - 市場に出ない水産物や規格外の農産物を活用することで、食材ロスの解消や地産地消、生産者の収益向上を促進。
 - 加工事業者の高齢化に伴う人手不足を補うことで生産性改善につながった。

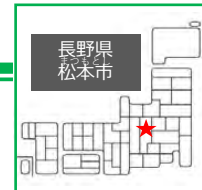
未来を耕す

- トマ鯖カレーについてはR7年4月にイベントを開き、新聞等に記事掲載。
- 水産業、農業、加工業と福祉事業が各々の特性を活かした連携商品のモデルを実現。
- 水産加工業においても水福連携が課題解決の一つの解となることが示された。

成果

就労延べ人数	就労実人数	延べ日数	—
0人(R7当初) →451人(R7.4~11 累計)	0人(R7当初) →48人(R7.4~11 累計)	0日(R7当初) →140日(R7.4~11 累計)	

- 今まで加工事業者の従業員が合間に行っていた作業を福祉事業所に任せることで、従業員の作業の効率化や勤務時間の短縮につながった。
- 加工事業者からは、健康者の社員よりも集中して働いてくれて、できる人はスピードも速いため、業務効率の改善につながっているとの評価を得ている。
- 連携先の加工事業者で水福連携や障害者への理解が深まり、同社において障害者の採用が進展。



農業者と障害福祉サービス事業所との「マッチング事業」を実施し、作業内容をメニュー化し請負報酬を明らかにすることで農業者と障害福祉サービス事業所双方の不安を軽減。農産物集出荷施設では、作業の安全性に配慮した農福レーンを設置し、果実の箱詰作業を効率的に請負。

基本情報

- 所在地：長野県松本市
- 団体名：松本ハイランド農業協同組合
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020 審査員特別賞
- 主力商品：野菜（レタス、キャベツ、白菜、トマト、すいか等）、果樹（りんご、ぶどう、なし、桃等）きのこ、米、大豆、麦、そば、花卉ほか
- 取得認証等：－



トマトジュースやケチャップの材料となる加工用トマト

取組の概要

- 組合員は、依頼したい作業内容をJAに申し込み、JA本所を介して、福祉事業所に仕事を依頼。農作業の請負契約は、JAがサポートを行い組合員と障害福祉サービス事業所が直接締結。
- JAは、作業内容をあらかじめメニュー化することで、福祉事業所の不安を軽減。メニュー化した作業は、時給制でなく、作業内容・作業量に応じた出来高制とし、作業の報酬単価を明確化。作業単価については、毎年、事業者や県の担当者などの関係者を集めた会議を開催し改定。
- 農産物直売所において「農福マルシェ」を開催し、農家だけではなく地域住民や観光客へPRを定期的実施。



加工用トマトの収穫作業

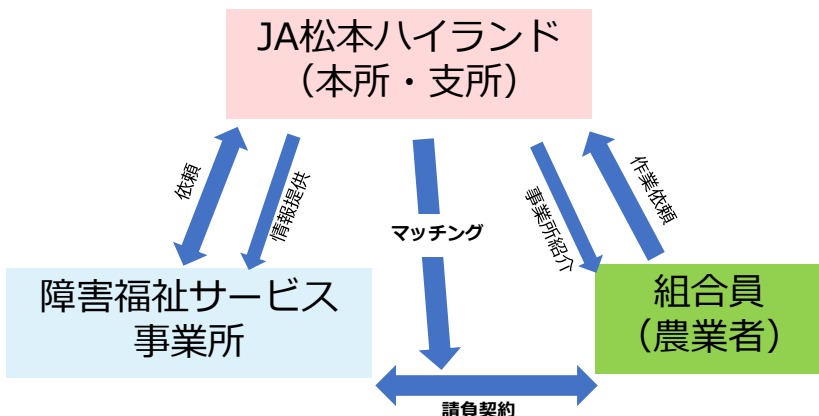


トマト収穫作業の福祉事業者向け事前説明会



農福マルシェ

体制図



取組の成果

- 農家の長時間労働の解消や、スポット的な作業についても労働力の確保が容易になり、経営面積の維持・拡大、荒廃農地の発生防止に貢献。
- 請負作業増加に伴い工賃が向上。
- 農作業行程を分割して、誰でも行いやすい部分を福祉事業所に委託することにより、組合員は、単発的に労働力を必要とする際に労働力を確保できるとともに、自分しかできない作業に集中することで、生産性が向上。
- 農家と障害者地域住民等との交流により地域の支え合い意識が成熟。

所在地 ▶ 〒390-8555 長野県松本市南松本1-2-16

連絡先 ▶ TEL:0263-29-0394 E-mail:nokikaku@mhl.nn-ja.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.ja-m.iijan.or.jp/>

【取組のプロセス】

平成29年

高齢化や人口減少などの影響で農業労働力が不足
荒廃農地の拡大
地域活力の低下

きっかけ

ねぎの畝間等の除草作業を知人や友人に頼んでいたが高齢化等により作業者が減少、福祉事業所の利用者が働く場を求めていることから無料職業紹介事業に基づくモデル事業を開始

JA青年部による農福連携モデル事業がスタート

- 平成29年7月から、農業の労働力不足を解消し、産地の維持・耕作面積の拡大・農業の活性化につなげるため、農協青年部の取組として、地域住民と連携した多角的な労働力の確保のためのモデル事業を開始。
- 18農家と8事業所を結びつけ、延べ323人の障害者が農作業に従事。

平成30年

長野県の農業就労チャレンジ事業を受託。

JA松本ハイランドの事業として、支所に窓口を設置

- 平成30年2月、組合員を対象とした説明会を開催し事業をスタート。各支所に農福連携の窓口を設置して、本格的な事業として農家からの相談を受け付け。長野県セルフセンター協議会と連携しながらマッチングを開始。
- マッチング数は、30農家、8事業所で、延べ1,041人。

平成31年

長野県の事業を受託し、農福連携の推進に貢献

- 平成31年4月、長野県の「農業就労チャレンジ事業」を受託し、長野県全体への農福連携推進に貢献。
- マッチング数は、32農家、11事業所で、延べ1,161人と増加。

令和3年

JAの施設就労で拡大した農福連携の取組

- JAが管理運営する果実共選施設の改修に合わせて、障害者が作業を行う専用レーンを新設し、障害者の就労機会の増加を図る
- マッチング数は、34農家、14事業所で、延べ1,483人と増加。

令和4年

JA施設での作業をステップに、事業所が農福連携に取り組みやすい仕組みづくり

- JA施設での就労を通じて、事業所が農業に親しみ、農家での作業に出向ける体制づくりのステップとして、果実共選所での新規事業所受け入れを実施
- マッチング数は、46農家、15事業所で、延べ1,718人に増加。

今後の展望

アプリを活用して、農福連携に取り組みたい障害福祉サービス事業所からも「こんな作業ができます！」を農家へ発信

- 長野県労働力支援センターとデイワークで開発を進める農福連携アプリを活用し、農家と障害福祉サービス事業所との相互でのマッチング体制の推進に取り組みます！



農家が福祉事業所へ作業の流れを説明



農福連携説明会を開催



「農業就労事業チャレンジ事業」農業サポーターによる作業支援



作業風景



農業、林業、人、エネルギーを連携させて環境を整え、より効率的かつ持続的な資源の活用を目指すとともに、福祉機関や教育機関との協力体制を築いて、地域全体の「輪」を強化する活動を行う。
地域の魅力と雇用を掘り起こし、誰もが自身の地域に愛着と誇りを持ち、自分の力を発揮できる暮らしやすい社会をつくる。

基本情報

- 所在地：長野県東筑摩郡筑北村
- 団体名：特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021 フレッシュ賞
- 主力商品：薪、古代麦など
- 取得認証等：－



登山道整備



有機栽培のにんにく



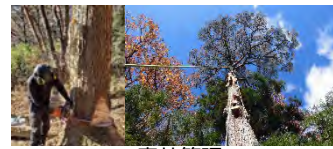
古代麦の栽培

取組の概要

- SDGsに配慮し山林を整備。ナラ・クヌギ・桜・アカシアなどの広葉樹を薪として販売するとともに製材、精油、フィールドワーク利用等で里山の100%利活用を目指す。
- 地域の間伐材を燃料とした温泉施設の薪ボイラーの運用を通じ、域内のエネルギー循環を実現（年間6万ℓ灯油削減）、同時に様々な人の雇用をつくりだす。
- 数千年以上前から栽培されるパン小麦の原種にあたる古代麦を生産（英名スペルト、約1.5ha）、その他、桜花木や有機野菜生産を行うとともに地域の農作業、草刈り、公園管理などの請負業務を行う。
- 草刈機、チェーンソーの講習会、倒木の伐採処理、作業道整備、ロープクライミングなどの技術研修を定期的に開催する。



草刈作業の代行



森林管理



薪製造

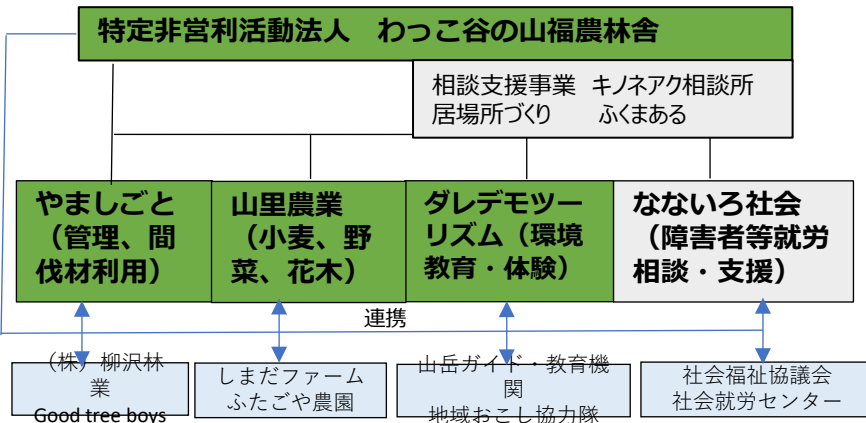


製材



精油

体制図



取組の成果

農地面積：設立当初（平成28年）の0.1haから2.5ha（令和5年）に拡大。
農作物はすべて有機栽培。
伐採件数：設立当初の2件から47件（令和5年）に増加。
ほ場管理：設立当初の14件から191件（令和5年）に急増。農繁期（4月から9月）は農業、農閑期（10月から3月）は林業（松枯れ危険木の伐採）を中心に業務を組立。
障害者就労：設立当初の4人から21人（令和5年）に増加。

所在地 ▶ 〒399-7501 長野県東筑摩郡筑北村西条3846

連絡先 ▶ TEL / FAX : 0263-66-3035 E-mail: info@yamafuku.org

ウェブサイト ▶ <https://www.yamafuku.org>

【取組のプロセス】

平成28年

荒廃農地の増加
林業事業体の減少
高齢化の進行
地域活力の低下
障害者等就労場所の確保

きっかけ

前身である筑北村社会福祉協議会が「農×林×福×教×αプロジェクト」により、地域の困りごとを解決する農林業代行サービスを開始。

推進母体設立のための村民ワークショップを実施

- 荒廃農地、土砂災害、松枯れ被害が拡大。後継者や林業事業者がいないため、自然資源の荒廃が進行。
- 障害者、ひきこもりの状態にある者、生活困窮者、移住者、高齢者の就業場所が不足。
⇒上記の課題解決のため、村民ワークショップ、講演会、啓発活動を行い、法人母体設立の準備を進めるとともに、古代麦生産と林業事業の拡大を計画。

平成29年

令和元年

独立運営となり、業務量が拡大、収入が増加

特定非営利活動法人 わっこ谷の山福農林舎を設立

- 独立運営を開始、農林業の請負業務が急増。
- 教育機関（中学/大学）との連携事業を開始。
- 理事は、社会福祉士、林業会社代表取締役、農園代表、山岳ガイド、大学教授で構成し、会員数83名（令和5年度）。

令和2年

就労継続支援B型事業所のほか、相談支援や居場所づくり事業を開始、より地域の拠点となる活動を展開
令和6年度より就労継続支援A型事業所を開設

就労継続支援B型事業・認定就労訓練事業等を開始、業務を拡大

- 従来の作業に加え、林産物加工として製材事業、精油事業を開始し作業種を拡大。
- 村営温泉施設の木質バイオマスボイラーへの薪供給（年間約200トン）を行うため、間伐材を買取る「やまふく木の駅」を運営。域内のエネルギー循環を実現するとともに障害者、高齢者、移住者などの雇用を創出。

宝と宝がつながる未来、100年先も輝く世界へ

- 様々な人たちがゆるやかに横方向につながり、多様性を認め合い、地球のサイクルの中で生かされている感覚のもと、誰もが居場所や役割を持ち生活できる地域・社会をつくること。
- 「私もOK、あなたもOK、地域も社会も地球もOK」。人口約4,000人の中山間地の課題解決の取組が、一つのヒントとして全国に認知され、それぞれの地域の宝を活かした地域づくりや環境づくり、人づくりの「わっこ」（※信州弁で「輪」）を各地に拡げていくこと。

今後の展望



伐木造材特別教育



近隣大学とのフィールドワーク



作業道開設



やまふく木の駅



収穫補助

近隣廃業農家から譲渡された農地を活用し、水稻や野菜の栽培や、養鶏を行う。収穫祭や子ども食堂等での収穫物や加工品の販売・提供、農業体験を実施しており、地域に根差した活動を通じて地域農業の発展に寄与。



基本情報

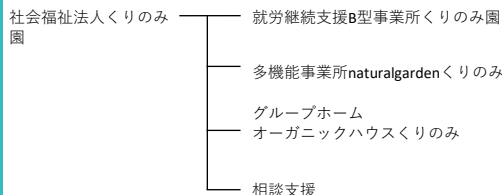
設立: H8年 / 農福連携取組開始: H22年
取得認証等: 認定農業者(H22)、6次産業化認定事業者(H25) 有機JAS(R2)
主な選定表彰: 第10回フード・アクション・ニッポン アワード「おぶせのたまご」受賞(2018年度)等

概要

主力商品
(農作物) たまご、米、野菜
(加工品) スイーツ

特徴的な取組
有機農業、自然循環型農業、6次産業化

体制図



住所: 長野県上高井郡小布施町大字都住1238-2
TEL: 026-247-6330
Mail: kurinomien@kurinomien.com
URL: <https://www.kurinomien.jp/>

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	○

きっかけ

H22年

障害者の社会参加と自立を農業で実現することを目的として1996年小布施町に事業所を開設。その後、「地域農業の振興に貢献」を法人理念に加え活動を継続。

人を耕す

- 農作業前に利用者の特性を考慮しながらその人に合った農作業を割り当て、責任感と意欲をもって作業ができるように工夫。
- 慣れない作業では一から丁寧に教えて作業と一緒にするなど、機械を使う際には使用方法や安全面について十分指導。
- 利用者間で障害特性を理解して寄り添い合い、協力しながら農作業に取り組む環境を整備。

地域を耕す

- 機械操作に精通した利用者の圃場整備が近隣農家で評判となり、多数の近隣農家から圃場整備を受託。
- 農業公社から荒廃農地での耕作について打診を受けるなど地域の農地の管理・保護に貢献。
- 地域住民や他福祉事業所を招き収穫体験を定期的に行うことで、農業に触れる機会を創出。
- 直売所を設け、とれたての卵や野菜・スイーツ・加工品・鶏糞堆肥を販売しファンを獲得。

未来を耕す

- 自然循環型農業に取り組むほか、6次産業化の取組、伝統野菜の栽培も進めるなど、地域農業の維持に貢献。
- 生産から販売まで法人内で完結する仕組みや、有機JASの取得など、環境面にも配慮。
- アルコール依存症や引きこもりの状態にある者の受入れもしており、多様性のある地域づくりに貢献。

成果

平均工賃月額

24,198円(R2)
→30,686円(R6)

障害者数

29.2人(R2)
→22.6人(R6)

農業の売上高

3,473万円(R2)
→4,048万円(R6)

農地面積

7.3ha(R2)
→7.0ha(R6)

- 平均工賃は県平均を大きく上回り、R6は30,686円。
- 養護学校の生徒など幅広い受け入れ態勢により、新たな施設利用者が増加。
- 施設利用者の技術向上により栽培規模が拡大したことで、野菜の収穫量の増加及び販路の拡大が実現。
- 法人内で働く利用者2名が正規職員に昇進。
- 機械操作に長けた利用者が委託作業として農家の作業を依頼されており、農業を通じた障害への理解が促進されている。

福祉事業所

長野県
小布施町



独自の出荷基準と糖度基準を設けた高糖度トマト『アメーラトマト』として商品化。ブランド化により安定生産を実現し、直営農場で障害者3名を直接雇用するほか、福祉事業所と連携し農作業の委託を実施。

農林水産業経営体

静岡県
静岡市



基本情報

設立: H17年 / 農福連携取組開始: H26年
取得認証等: 認定農業者(H28)、しずおか農林水産物認証
主な選定表彰: 日本農業賞特別賞(2012年)
イノベーションアワード金賞(2022年)

概要

主力商品
(農作物)アメーラトマト

特徴的な取組
スマート農業

体制図

株式会社サンファーマーズ

- 直営福祉農場
アメーラ選果場
- アメーラトマト生産農場
(静岡県11箇所、長野県3箇所)
- 福祉サービス事業所との業務連携2社
- 福祉サービス事業所との業務連携8社

住所: 静岡県静岡市駿河区小黒2丁目5-1
TEL: 054-282-2756
Mail: yamazaki@amela.jp
URL: <https://www.amela.jp>

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

H26年
福祉関係者からのアドバイスで、トマト栽培は周年作業で年間に同じ作業を繰り返し行うことから障害者が活躍できる環境があると知った。

人を耕す

- アメーラトマトの生産農場と福祉サービス事業所との中間サポートを行うとともに、福祉事業所10法人に対して、作業の一部を委託し、知的障害、精神障害、身体障害(車いす)が農作業に取り組む。
- 雇用している障害者が着実にステップアップできるように、指導計画書を作成し指導している。

地域を耕す

- 直営福祉農場では、トマト栽培で発生した残渣をたい肥化し、幼稚園と連携した食育活動の実施や、特別支援学校からの職場実習の受け入れを行う。
- 特別支援学校の実習の受け入れや幼稚園との連携では、雇用している障害者もイベントの企画立案から実行まで関わっており、地域との連携が進んでいる。

未来を耕す

- 社内に福祉の農業部を立ち上げ、直営福祉農場を新設。障害者の直接雇用と福祉事業所への作業委託により農福連携によるアメーラトマトの生産を行う。
- 連携している福祉事業所の利用者から自社雇用につながるなど、福祉事業は重要なパートナーとなっている。

成果

障害者雇用数	連携福祉事業所数	連携農場数	委託金額
3人(R2) →5人(R6)	10事業所(R2) →9事業所(R6)	4農場(R2) →7農場(R6)	720万円(R2) →1,400万円(R6)

- 平成28年から障害者雇用を始め、知的障害者4名を雇用。一般の従業員と同じ賃金で雇用し、社会保険にも加入。
- 特別支援学校や福祉サービス事業所から、これまでに21回の実習を受け入れ、実習から雇用につなげた。
- 車いすの方でも活躍する場を創出。
- 福祉事業所10法人に対して、農場の作業の一部を委託しており、令和6年度には100名の利用者が農作業を実施。



障害を持つ利用者が通年でしいたけの菌床栽培や茶、野菜の栽培を実施するほか、施設外就労で茶農家、近隣農家の農業支援に従事。

基本情報

- 所在地：静岡県静岡市葵区
- 団体名：株式会社よしもと
- 選定表彰：－
- 主力商品：製茶、しいたけ栽培、野菜栽培、周辺農家への施設外就労
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



静岡茶発祥の地 足久保茶園の管理

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所を運営し、知的障害者や精神障害者を中心に15名が主に菌床椎茸栽培に従事。
- 地域の高齢農家等から、茶園290a及び畑30aを借り受け、自ら環境に配慮した農産物の生産を行っているほか、茶農家等から農作業の請負を実施。
- 株式会社よしもとが運営するA型事業所、足久保ティーワークス茶農協と連携し、茶農協が運営する茶園の1割程度を障害者が管理。
- 障害者の地域との交流を促進するため、しいたけの作業所を利用し、生産したしいたけや農産物の直売を実施。



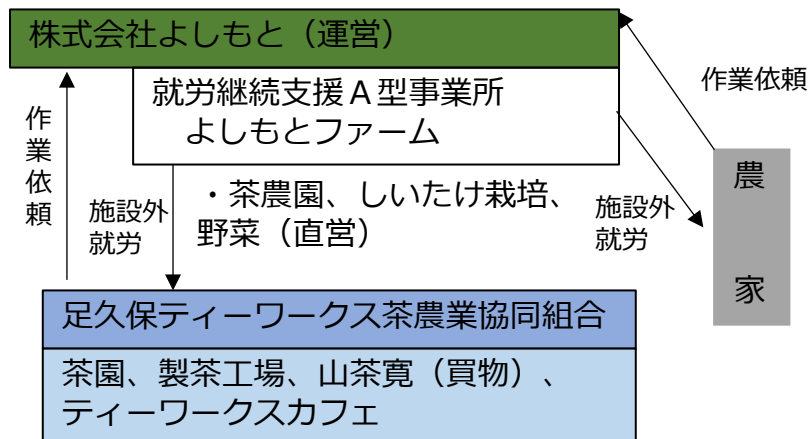
高齢農家への農作業支援



ノウフクJAS認証のしいたけ



体制図



取組の成果

- 積極的に施設外就労へ取り組むとともに、自らも農地を借り受け規模を拡大し、令和元年には認定農業となる。
- 請負先の農家においても、環境へ配慮した農業への意識が高まり、エコファーマーなどの認定が増加。
- 農作業へ従事することにより、障害者の生活リズムや食生活が改善。また、地域での信頼を得ることで、障害者自身が地域で暮らしていけるとの自信を得ている。

所在地 ▶ 〒421-2124 静岡県静岡市葵区足久保口組71-1

連絡先 ▶ TEL:054-296-9510 E-mail:yoshimoto@wind.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <https://yoshimotofarmagata.wixsite.com/kinoko>

【取組のプロセス】

菌床しいたけの通年栽培をきっかけに、福祉事業へ本格参入

平成25年

きっかけ

農閑期の作業として行っていた椎茸栽培を通年で栽培する際、労働力の確保が困難であった

平成26年

就労継続支援A型事業所を開設

- 平成26年に、就労継続支援A型事業所「よしもとファーム」を開設。障害者が菌床しいたけ栽培に従事。

平成26年

施設外就労の開始（茶栽培）

- 平成26年から、高齢化により人材不足に悩んでいた地域の茶農家から作業を請け負い、施設外就労を開始。
請負面積：50a 障害者：13名

平成27年

農産物の生産についても、地域の農家から請負の要望が多くなった。

野菜農家からの作業依頼の受け入れ開始

- 平成27年から、茶以外の農産物についても、施設外就労での作業請負を開始。
請負面積：150a 障害者：13名

令和2年

ノウフクJAS認証取得

- 令和2年、しいたけ、茶（生葉）、だいこん、にんじん、ごぼう、ブロッコリーでノウフクJAS認証を取得。

今後の展望

農福連携の広がり推進

- 静岡茶発祥の地（足久保茶）を後世に繋げるべく地域の茶工場とともに茶生産に取組、製品としてのお茶ノウフクJAS認証の取得を目指す。
- 農業従事者の高齢化や担い手の減少、障害者の働き場所の確保といった課題解決に繋がるほか、他の農業者が農福連携に取組やすい環境を醸成。



菌床しいたけ



茶畑での作業



畑での作業

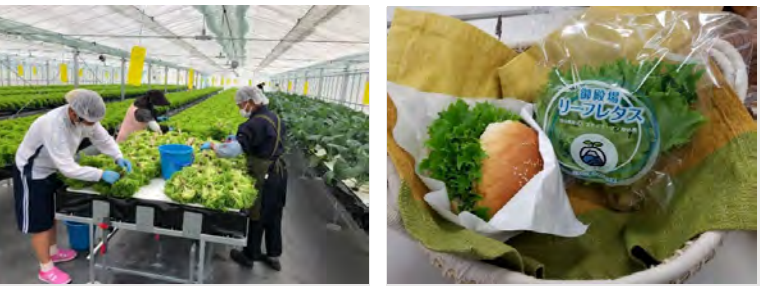


出荷作業

障害者就労施設が、水耕栽培に取り組み、毎日安定出荷することで高工賃を実現。地域のスーパーとの取引拡大により、第2農場を建設するなど規模拡大を実現。

福祉事業所

静岡県
御殿場市



基本情報

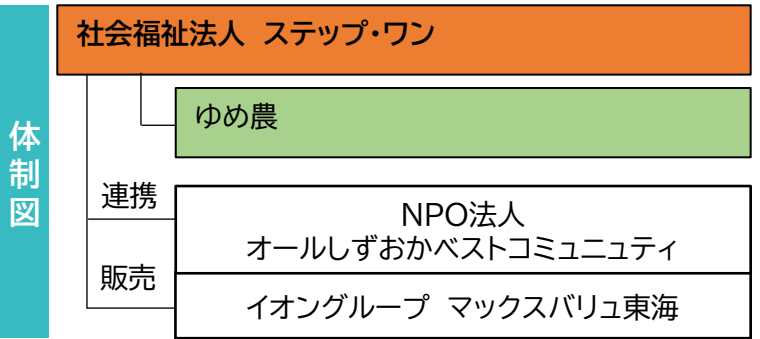
設立:H18年/農福連携取組開始:H9年

取得認証等:しずおか農林水産物認証

概要

主力商品

(農作物)リーフレタス、サンチュ、ルッコラ 等
(加工品)粉茶、クッキー、食パン、濃厚茶みつ、
レタスふりかけ



TEL:0550-82-0980 Mail:Step.one813gogo@gmail.com

https://gotemba-stepone.jimdofree.com/

きつかけ

取組

未来を耕す

成果

H9年

開所当初から農業に取り組んできたが、H24年から天候に左右されず、障害者に毎日同じ作業環境を用意できる水耕栽培を導入。

人を耕す

- 58名の利用者のほとんどが農業に従事し、H24年から水耕栽培を導入。
- 水耕栽培により安定出荷を実現し、毎日600~1,000株を地域のスーパーに出荷。
- 利用者数は倍増し、すべての作業ができる利用者(エキスパート)を育成して職員不在時の作業を確保。3名は一般企業に就労。

地域を耕す

- 水耕栽培ではリーフレタスを中心に、R5年には第2農場を設立し、サンチュやルッコラなどを通年で栽培。地域イベントや食育活動にも参加。
- 担い手が高齢化した茶畑の管理を請け負い、障害者が作業を行い、茶葉を販売して工賃向上を目指す。新たに粉茶やクッキーも開発。
- 農福連携を開始以来、静岡県内で福祉モデルとして多くの講演を行う。

未来を耕す

- 商品の品質向上に向けて、消費者目線を重視し、商品規格やパッケージングについての研修を実施。
- 御殿場市内の学校給食センターにリーフレタスを納品。

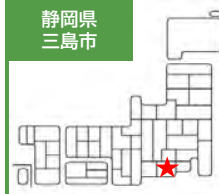
平均工賃月額	障害者数	農業売上	農地面積
8,000円(H9) →60,000円(R5)	15人(H9) →40人(R5)	6,000千円(H9) →19,438千円(R5)	0.03ha(H9) →2.5ha(R5)

- 地域のお祭りや農福マルシェ、市役所マルシェ等に積極的に参加。近隣の幼稚園とは夏野菜の苗を「お買い物ごっこ」形式で販売し、食育を促進。
- 毎日同じ作業ができる環境(水耕栽培)を整備することで、生産性が向上。
- 茶葉を粉末にした6次化商品などを開発・販売。

生産から販売まで障害者等が一貫して関わり、作業工程の効率化や6次産業化により収益性を確保し、工賃向上を実現。多様な人々が関わる仕組みづくりと地域内外の連携に取り組み、地域農業の維持・発展にも貢献。

福祉事業所

静岡県
三島市



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H25年

概要

主力商品

(農作物)さつまいも、にんじん、しいたけ 等
(加工品)椎茸ドレッシング、松茸ポタージュ 等

特徴的な取組

林福連携、6次産業化、スマート農業

体制図



住所:静岡県三島市北田町7番地の29

TEL:055-939-7526

Mail:ryotasuzuki.nijikake@outlook.jp

URL:https://nijinokakehashi.org/

きっかけ

H25年

農家から「人手不足で農業を手伝ってほしい」との相談があり、施設外就労として手伝いをしたことがきっかけ。

人を耕す

- 作業工程の効率化や販売力の高い野菜等で収益性を確保し、月額平均工賃3万円を達成。
- 地元スーパー等での対面販売など、利用者が生産から販売まで一貫して関わることで、責任感と意欲を向上。
- 利用者の能力に応じて役割設定し、リーダーとしてのステップアップも推進。
- 言葉の壁や障害特性を乗り越えるため、視覚的な作業手順書を導入。

地域を耕す

- 荒廃農地を活用し、近隣農家からの協力も得ながら、季節野菜や地元の伝統野菜を栽培して地域農業の維持・発展に貢献。
- JAや商工会、地元企業や行政など異業種と連携し、地域全体での農福連携推進体制を構築。
- 自社栽培の野菜などを使った Nijikake Café(にじかけカフェ)を運営し、利用者が接客や販売を担当することで地域との直接的な交流を推進。

未来を耕す

- 「農福連携を地域と未来の希望につなげる」ことを掲げ、持続可能な取組を展開。
- 収穫野菜を使用した無添加加工品の開発や、直売所・イベントでの販売活動など、6次産業化、も推進。
- 小中学校生徒を対象とした農業体験や職場見学受け入れなど、若い世代に福祉や多様性の理解拡大を促す活動をしており、未来の担い手づくりにも貢献。

取組

成果

平均工賃月額

22,350円(R2)
→30,052円(R6)

農業に携わる障害者数

30人(R2)
→75人(R6)

農作物等売上高

310万円(R2)
→404万円(R6)

農地面積

5.45a(R2)
→7.45a(R6)

- 障害者だけでなく、高齢者、外国人、ひきこもり経験のある若者、子育て中の主婦など多様な人々が関わり共に働く場を創出し、誰もが自分らしく働ける職場づくりを推進。
- 農作業で培った勤労習慣や体力、コミュニケーション能力を評価され、3名の利用者が食品加工会社や地元スーパーなどへ就労。

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○



- 地域活動支援センター『UNEHAUS ウネハウス』を拠点に米や野菜の栽培のほか山野に自生する植栽を採取し、障害者と生活困窮者等が地域の高齢者と協働で農産物等の加工・販売を行い地域に貢献。

基本情報

- 所在地：新潟県長岡市
- 活動地域：中間農業地域
- 団体名：認定特定非営利活動法人UNE
- 選定表彰：
 - ・ H31 全国どぶろく研究大会in遠野 優秀賞
(主催：第13回全国どぶろく研究大会実行委員会)
 - ・ R2 新潟県優良経営体等表彰（農福連携の部）農業会議会長賞（主催：新潟県）
 - ・ R2 ノウフクアワード2020 優秀賞
- 主力商品：どぶろく、農家レストラン、農家民宿、クロモジ茶、よもぎ
- 取得認証等：認定農業者

取組の概要

- 障害者、高齢者、生活困窮者など多様な人材が米や野菜の栽培のほか「福祉市民体験農園OasisR」や「農家レストラン」「農家民宿」「キッチンカー」等の運営や「どぶろく雪中壺乃界」の製造に携わっている。
- 薬用商品の原料供給を目的に山野に自生するヨモギ、笹、クロモジなどを採取し調整、加工、出荷を行い障害者等の多様な人々の就労につながる取組を行っている。



福祉体験農園OasisR

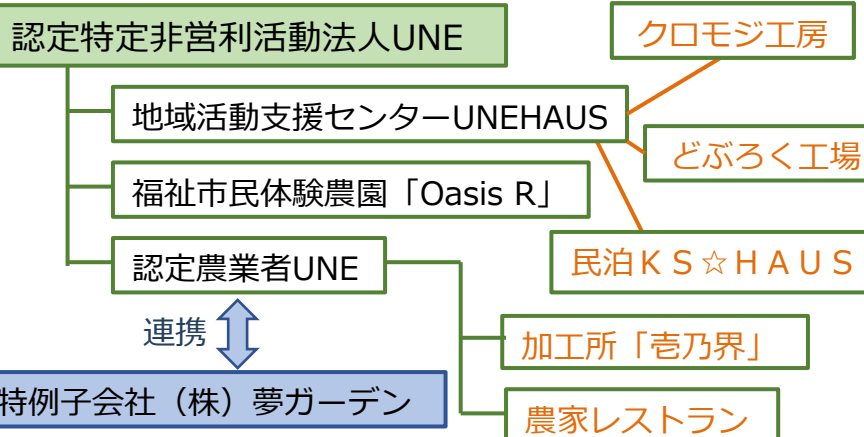


農家レストラン



薬用商品の原材料の加工

体制図



取組の成果

- NPO法人として県内で初めて農業に参入、翌年には認定農業者となり、中山間地域の担い手となる。
- クロモジの栽培と併せ、山林のクロモジを採取し医薬品会社に出荷、また、クロモジ加工品を製品化し需要を喚起することで、山林の整備にも貢献。
- 地域の特産物として、付加価値の高い商品作りに取り組んだことで年々売上が上昇し、工賃も向上
(売上1,061万円 (H27) → 1,900万円 (R5))

所在地 ▶ 新潟県長岡市一之貝869

連絡先 ▶ TEL : 0258-86-8121 FAX : 0258-86-8131 E-mail : une_aze@yahoo.co.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.une-aze.com>

【取組のプロセス】

社会的弱者が地域で安心して暮らせる環境作りに取組む。

平成16年

平成24年、特例子会社「(株)夢ガーデン」が設立され、連携する。

平成23年

福祉農園等整備事業（H29）、農福連携サポーター養成・派遣支援事業（R2）を活用

平成25年

薬用飲料の原料となるヨモギ栽培に着手し、条件の悪いほ場も活用。

平成30年

全国どぶろく研究大会濃芳醇の部優秀賞（H31）、新潟県優良経営体等表彰農福連携の部農業会議会長賞（R2）受賞

令和2年

（R4）農山漁村振興交付金（農福連携対策）簡易整備型でUNEHAUSに作業場を整備

今後の展望

きっかけ

新潟県中越地震をきっかけに、障害者や高齢者にはいっそうの支援が必要と感じる。

NPO法人として県内で初めて農業に参入

- 平成23年4月、障害者地域活動支援センターUNEHAUS（ウネハウス）と特定非営利活動法人UNEを設立。
- 平成24年、障害者と家族による野菜づくり活動などを経て、NPO法人として県内で初めて本格的に農業に参入。
- 平成25年、認定農業者となり、農業だけではなく地域の活動に積極的に参加。



UNEHAUS（ウネハウス）

農家レストラン、どぶろく製造、農家民宿、様々な仕事

- 平成25年、農家レストランの営業を開始。農業だけでなく農家レストランや加工、作業請負など、様々な事業を展開することで、障害者や高齢者等それぞれの適性に応じた仕事の場を創出。
- 平成27年、どぶろく製造を開始。翌年にはUNEHAUSで簡易宿泊営業許可を取得。



どぶろく「雪中壺乃界」

福祉・市民体験農園、クロモジ工房をオープン

- 平成30年、長岡市街の河川敷に「福祉・市民体験農園Oasis R」を開園。同年、クロモジ工房をオープン。クロモジ茶、クロモジミストを生産。
- 平成31年3月、認定NPO法人となり、広く地域貢献事業「送迎や雪下ろし等」で活躍。



ヨモギの収穫

ノウフク・アワード2020 優秀賞受賞

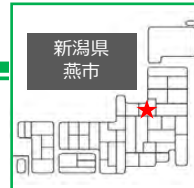
- 令和2年、ノウフク・アワード2020 優秀賞受賞
- 農福連携の普及啓発のため、農福連携サポーター養成講座を開講し人材育成に取り組む。
- 令和5年より農福連携を活用した、ひきこもり支援を開始。

中山間地域で新たな里山集落コミュニティを構築

- 障害者、高齢者、生活困窮者、ひきこもり等の受け入れを行うとともに、生き生きと働き、社会参画を果たし、生活できる環境を作り「コミュニティ・ソーシャル・ファーム」の実現を目指す。
- 育成した農福連携サポーターを通じ、農家と障害者の間に立ち農福連携を推進するとともに、新潟県内に農福連携の運動を普及していきたい。



越後一之貝の棚田



水耕栽培を通じて、障害者一人一人のニーズや目標に応じた支援に取り組み、地域から求められる就労支援施設を目指す。

基本情報

- 所在地：新潟県燕市
- 団体名：株式会社なごみ
なごみの水耕（就労継続支援B型事業所）
- 選定表彰：－
- 主力商品・イベント：にんにくスプラウト、レタス、バジル、エディブルフラワー



取組の概要

- 現在22名/日が施設内で作業を実施。栽培品目は、にんにくスプラウトと葉物野菜（レタス、バジル、エディブルフラワーなど）。
- 作業内容は、にんにくスプラウトの場合、①皮むき、②専用容器への定植、③収穫の3つ。葉物野菜においては定植・収穫に加えて播種作業もある。その他肥培管理は機械が自動的に行うシステムとなっている。
- 障害の程度に応じてどのような作業ができるかを見極めながら役割分担を決めている。

項目	単位	取組当初	R4年
障害者数	人	21	36
農地面積	a	1	1
工賃総額	千円	1,118	3,233



にんにく皮むき作業



出荷・調製作業

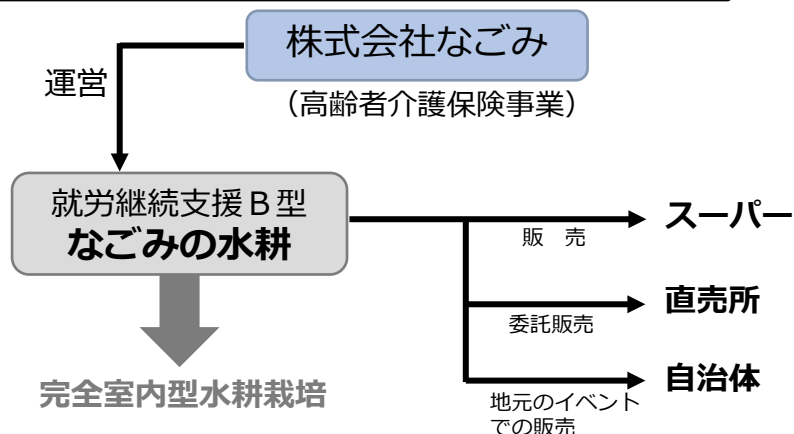


レタス収穫作業



エディブルフラワー

体制図



取組の成果

- 播種～収穫～販売まで全ての仕事に携わることで、やりがいを感じてもらえている。
- 相談支援員からは、「入所前より表情が良くなった」、「症状が改善した」という声を聞いており、水耕栽培に取り組んだ成果が出ていることを実感している。

所在地 ▶ 新潟県燕市水道町4-8-28（なごみの水耕）

連絡先 ▶ TEL: 0256-47-5005 E-mail: suikou@nagomi-care.jp

ウェブサイト ▶ <https://suikou4.wixsite.com/my-site>

【取組のプロセス】

平成28
年

きっかけ

利用者一人一人が“やりがい”を持って作業にチャレンジできる！
そのような環境を整備したいと考え、完全室内型水耕栽培の導入に着手

令和3年5月開所

障害者就労継続支援B型事業所「なごみの水耕」を開設

- 天候に左右されず、通年で快適な環境の中作業ができる室内型の水耕栽培施設を開設。利用者自ら作物を育てることができる環境を整備。



なごみの水耕 外観

令和3年

販売先のニーズに合わせ導入作物を選定。協力機関と連携しながら安定生産を目指す。

水耕栽培の知識・技術の習得／栽培管理

- 当施設の職員が、同じように水耕栽培に取り組んでいる事業所の現地視察等を行うことで知識・技術を習得した。技術的に分からないことがあれば、指導していただいた方と連絡を取り、相談しながら対応している。



エディブルフラワー試験栽培

販売・接客対応を通じて、「自分たちで作った野菜を食べてもらえる」といった喜びややりがいを感じることができる。

収穫物の販売

- 収穫物は当施設で販売するほか、スーパーや地元直売所での委託販売などを実施。季節ごとのイベントにも積極的に参加し、利用者自ら販売員として売り場に立っている。



販売イベント対応

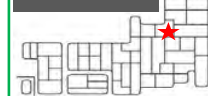
今後の
展望

水耕栽培を通じて利用者とともに成長する

- 利用者と相談しながら商品企画やPR資材の制作を行い、少しずつ販売先を確保・拡大中。今後も新規販売先の獲得を目指し、より良い品質の野菜を多くの方の食卓に届ける。
- 利用者に対して、これからも一人ひとりのニーズや目標に応じた支援・環境を提供し続け、地域から求められる就労支援施設を目指す。



利用者・職員



「一から全て」、「一流のものを一流のお店に使ってもらう」ことをコンセプトに、畑とハウス1棟で主にハーブ類、リーフレタス、新潟在来種の野菜を、農薬・肥料・除草剤を使わず栽培し、加工、包装、販売までのすべての作業工程を農福連携で行う。農産物を加工することで長期保存を可能とし、付加価値をつけ収入アップを図るとともに、障害者の活躍の場を増やし、「やり甲斐」を育てていく。

基本情報

- 所在地：新潟県新潟市
- 団体名：農園CuRA!（ちゅら）
- 選定表彰：令和3年ノウフクアワード
フレッシュ賞受賞
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：
ハーブ、ハーブ加工品、レモン、ジャム、
ドレッシング、在来種野菜、味噌加工品
- 取得認証等：－

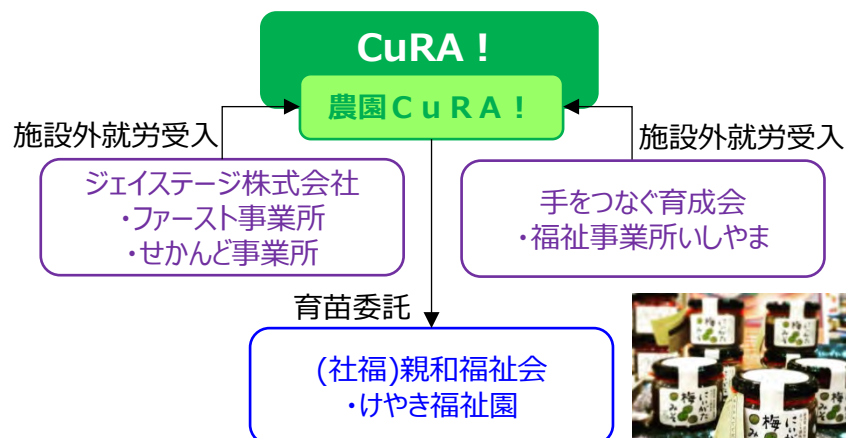


取組の概要

- 農園CuRA!は、当園スタッフと健常者1名、パート雇用2名、施設外就労受入を2箇所の事業所から行い、育苗作業を1事業所に委託し、経営している。
- 除草や耕耘等のほ場整備から播種、間引き、剪定、収穫、出荷準備、検品、販売等のすべての作業工程に障害者が関わり、責任とやり甲斐を感じることで、生産量・品質向上に繋がっている。
- 新潟市内の特別支援学校の生徒の受入を2018年から毎年実施し、施設外就労の利用者とチームを組み、切磋琢磨しながら協働作業を行っている。
- 周辺農家が生産している果物や野菜と、ハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャム等の加工品を製造し、県外でも販売している。
- 2019年には、輸出を視野に入れ、ロシア・フランス・シンガポールへサンプル輸出を実施。
- 2020年から複数の福祉事業所とともに、赤しその栽培から加工を施設の設備や技術に合わせた作業分担による商品製造、一般販売を行う。

項目	単位	取組当初	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
障害者数	人	3	6	10	17	7	18
農地面積	a	54	61	61	72	74	74
障害者月平均賃金	千円		24,000	139,440	338,640	211,200	366,000

体制図



取組の成果

- 障害者の得意を伸ばすことで新たにできる作業が増え、生産性が3倍以上アップし、販路拡大と売上向上に繋がった。
- 障害者就労者数も、取組当初より増加している。
(2017年：3名→2022年：18名)
- OEM、PB商品の受託が可能となった。



所在地▶新潟県新潟市江南区嘉瀬3336-4
 連絡先▶TEL:090-8724-6050 FAX:－
 E-mail:niigata_herb_cura@icloud.com
 ウェブサイト▶<https://www.facebook.com/niigata.herb.cura>



荒廃農地の増加と
地域住民の高齢化
という現状

幼少期

大量のハーブが
欲しいという問
い合わせが度々
あった

2017年～

新潟市アグリサ
ポートセンター
と江南区役所の
マッチングを利用。

2018年～

稲作と果樹栽培は
盛んだが、色味が
ある花などが地域
にはない・・・

2020年～

新潟市12次産
業化推進計画

2023年～

今後の
展望

きっかけ

両親が経営する学習塾に通う生徒の7割～8割が障害児であったため、
周囲に障害者がいることは当たり前であった。次第に、彼等の働く環境
に疑問を抱き、「活躍の場をつくりたい！」という思いにつながった。

新規就農・農福連携スタート

- 販路が確立している作物中心の農業であれば工賃が払えると考え、就農当初から施設外就労を受け入れた。
- 精神疾患のある人が香りで癒やされながら‘やり甲斐’を感じられる機会を設けたいと考え、54aのハーブ園を開始した。（施設外就労受入と援農ボランティアの受入）



加工製造をスタート。ロシア、フランスなどへ輸出を開始

- 県外にもファンを増やしていくことを目標に、フレッシュな商品よりも高単価で日持ちする加工品を一次生産と並行して製造することにした。
- 新潟県内や日本国内だけでは販路が増えたとしても頭打ちになる。世界に出荷していくことができれば、今関わっている福祉事業所だけではなく、ほかの施設なども仕事が少ない時に製造して作りだめていくことで、常に仕事する環境が用意できると考えた。



エディブルフラワーの生産を開始

- 高齢であっても、言葉など表現が不自由でも、「きれい」「いい香り」など感動を共有できる景色を作り出し、それを地域の高齢者やUターン組とのコミュニケーションツールの一つとして利用していきながら共生を目指している。



分散していたほ場を集約するとともに、県外の販売先を大幅増加

- 分散していたほ場を1カ所に集約することで、栽培管理をしやすくし作業効率を上げた。
- 商談会等に積極的に参加することで新潟県以外の販売先の開拓を進め、関西、東海地方に取引を拡大することができた。（2018年1件→2023年8件）



グローバル展開・香りと彩りで明るい世界をつくる

- ハーブや花を生産する面積を少しずつ拡大し、五感で感じながら働くことができ、近隣住民もコミュニケーションが図りやすく居心地のよい職場・居住環境を作っていく。
- 積雪地帯ではハーブ等の栽培が難しい面があり、温暖な地域での農福連携を模索中。

こまつな、ほうれんそうの収穫、袋詰めなどの作業を一年を通して福祉事務所に委託。また、地元小学校の農業体験や特別支援学校の農業実習を受け入れなど幅広い活動を実施。

農林水産業経営体

石川県
内灘町

きつかけ

H
29
年

近隣の福祉事務所から「障害者に農作業をさせてほしい」と依頼され、受け入れを開始。

人を耕す

- 障害者等に向いている農作業を細分化することで年間6つの福祉事業所に25の作業を請負ってもらい、障害者等の工賃や賃金の向上に繋がっている。
- 誰もが見てわかるように治具等を工夫することで障害者等が「自立した仕事」をできるようになり達成感、やりがいを得ることに繋がっている。

地域を耕す

- 地域の小学校の農業体験、特別支援学校の農業実習や地域の保育園、福祉施設に訪問し、地元の野菜を身近に感じてもらう取組を行う。
- 石川県農福連携促進アドバイザーを務め農業と福祉のマッチング支援に携わり石川県の農福連携推進に貢献。

未来を耕す

- 出荷規格に合わない野菜を使用した商品を販売。製造を福祉事務所に依頼することで収穫から製造に障害者等が携わっている。
- 農福連携の実践、作業療法士として病院に勤めた経験を活かし農福連携の健康効果について学会などで発表。

取組

成果

基本情報

設立:S58年 / 農福連携取組開始:H29年

取得認証等:認定農業者(R元年)

農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R3年度)

主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝2020(全国選定)等

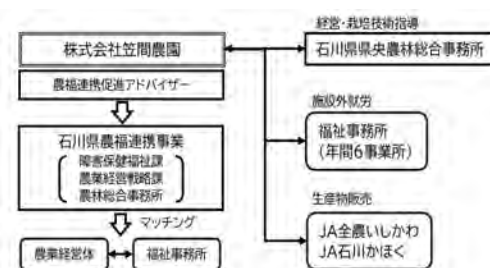
概要

主力商品
(農作物)こまつな、ほうれんそう、えだまめ、さといも、にんじん等

特徴的な取組

石川県農福連携促進アドバイザー、日本農福連携学会 理事、6次産業化

体制図



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

施設外就労委託額

201万円(R2)
→495万円(R6)

施設外就労委託先

4事業所(R2)
→6事業所(R6)

年間受入れ延べ人数

約1,500人(R2)
→約2,000人(R6)

栽培面積

2ha(R2)
→8.4ha(R6)

- 農作業を通じて得られる「達成感」、「やりがい」により、障害者等の安心して過ごせる居場所となっている。
- 農福連携を開始してから、農作業を委託することで栽培品目の増加、出荷量の増加し、委託する農作業の種類も増え障害者が活躍する場の創出や工賃向上に繋がっている。

住所: 石川県河北郡内灘町湖西85

Mail: komatsunanako@kasamanouen.jp

URL: https://www.kasamanouen.jp/



農家・集出荷場と障害福祉サービス事業所との農福連携のマッチングを行い、双方のパイプ役として、作業内容や労働条件の確認、日程調整、作業指導などの支援を行う。

基本情報

- 所在地：石川県金沢市
- 団体名：金沢市農業協同組合
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022
フレッシュ賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



JA担当者と農家の打合せ



野菜の荷受け作業

取組の概要

○JA金沢市管内の農家やJA野菜集出荷場と障害福祉サービス事業所に農福連携のメリットを説明し、マッチングを図る。

○マッチングにあたり、事前に農家や集出荷場での作業内容と、障害者が行うことができる作業内容、労働条件等を確認し、連携できる相手を選定する。

○障害者の主な作業としては、水稻の田植えの際の肥料・苗運搬、育苗箱洗浄、収穫された野菜の集荷の手伝い、洗浄・計量・選果・袋詰めなどを行っている。

○マッチング後は、双方の作業日程・人数の調整、障害者が作業を覚えるための作業マニュアル（写真入り）作成、現場での作業説明等を行い、継続的な連携に向け支援を行う。

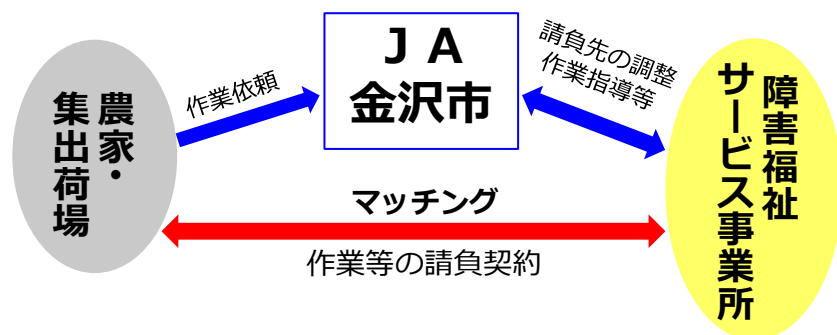


田植えでの苗箱渡し作業



野菜集出荷場での作業

体制図



取組の成果

- マッチング数の増加（平成30年度1件 → 令和5年度20件）。
- 農家や集出荷場の繁忙期に、まとまった労働力の確保が可能。
- 障害福祉サービス事業所の年間を通した労働の確保及び工賃アップ。
- 障害者に多様な作業を紹介することで、労働意欲増進。
- 連携のメリットを双方が実感することによる、地域における農福連携の取組の定着。
- 訪問先農家やJA広報誌で取組を紹介することで、他の農家に波及。

所在地▶石川県金沢市松寺町末59番地1

連絡先▶TEL:076-237-0250

ウェブサイト▶<https://www.ja-kanazawashi.or.jp/>

【取組のプロセス】

平成30
年

農福連携の担当室
を設置

農家と障害福祉施設との連携スタート

野菜集出荷場との
連携スタート

農福連携の取組を
広報誌で紹介

令和2年

令和3年

今後の
展望

きっかけ

- 農家や集出荷場の労働力不足を補うために、JAが障害福祉サービス事業所との連携を試みる。

JAに農福連携の担当室を設置

- 労働力不足の問題を抱える農家に、農福連携を提案。
- 障害者福祉サービス事業所に、農家への利用者派遣を提案。
- 農福連携に向け、双方の要望・条件等を確認し、利用者派遣の契約を進める。

JA管内で連携が進む

- 農家の繁忙期に、障害者福祉サービス事業所からの利用者派遣を調整。
- 初回の派遣においては、JAが作業指導を行う。
- 農作業を習得した障害者が増加し、1日当たりの派遣者数が拡大。
- 野菜集出荷場との連携を始めたことで、作業内容、作業時間が増加。

農福連携をJA内外に波及

- JA主催の農福連携事業利用の提案を行い、農家、障害福祉サービス事業所やJA職員の学習を深める。
- 訪問先農家やJA広報誌で取組を紹介することで、他の農家に波及。

幅広い農福連携を求めて

- 双方がメリットを感じることのできる農福連携を実現し、継続的な連携を目指す。
- 農福連携のメリットを地域に広める。今後、特に障害者福祉サービス事業所側の連携相手を拡大していき、マッチング機会の増加を図る。



白菜収穫指導と作業



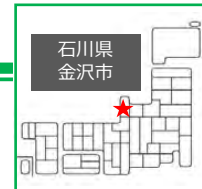
白菜選別指導



水稻苗箱洗い作業



農福連携利用計画



障害者が安心・安全に働ける環境に配慮したコンテナ根域制限栽培によるイチジクハウスを整備し、障害者の社会参加の機会拡大及び、自立を支援しながら、誰でも活躍できるインクルーシブ農園を実現する。

基本情報

- 所在地：石川県金沢市才田町
- 団体名：農事組合法人One
- 選定表彰：－
- 主力商品：水稲、れんこん、ばれいしょ、とうもろこし、イチジク
- イベント：オンラインショップ、無印良品ネットショップ、田植え祭、One収穫祭
- 取得認証等：JGAP

取組の概要

- 水稲依存の生産体系から水田を活用した高収益な作物の生産へ転換し、持続性の高い農業を実践していく必要性を感じていたところ、地元企業からイチジクの生産を熱望され、オーダー生産に取り組もうと計画。
- 令和3年度「農山漁村振興交付金」を活用し、障害者が安心・安全に働ける環境に配慮したコンテナ根域制限栽培によるイチジクハウスを整備。
- 福祉事業所と連携し、障害者雇用により人材を確保。障害者が安心・安全に作業が行えるよう、作業工程や動線の見直し、作業の単純化、出荷規格の見える化などを図った。福祉事業者向けのマニュアルを作成し、指導者が障害者の特性にあわせた作業方法を考え説明を行うことで、利用者が行える作業の幅を増やし、効率性と安全性が向上。
- 希望に合わせて利用者に農作業だけではなく今後、販売業務にも携わってもらい、やりがいを感じてもらうことを検討する。



イチジクハウス

体制図

農事組合法人
One

株式会社トロワ
・就労支援事業所

石川県県央農林総合事務所、イチジク農家
・栽培指導支援

株式会社メープルハウス
・イチジク販売先 ・販路開拓支援

石川県高等専門学校
・作業サポートツール開発

トヨタコネクティット株式会社
・作業改善支援 ・作業マニュアル作成
・販売システム支援

取組の成果

- イチジクの栽培技術や収穫期判定ツール、生産データの蓄積、マニュアルを整備することで農作業及び農産加工の効率化や安定生産が図られた。
- 障害者が携わる作業を見直したことをきっかけに、全体の生産性や安全性も向上した。
- 代表者が経営に時間を割けるようになり、既存の作物に加え、いちじくの栽培に着手したり、生産効率を考慮する余裕が生まれた。
- スタッフの意識にも変化があり、改善事例が現場で生まれている。

所在地 ▶ 〒920-3101 石川県金沢市才田町は68番地

連絡先 ▶ TEL:076-255-1581 E-mail:one.20130201@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://www.one2013.com>

【取組のプロセス】

平成30
年

人材の確保が大きな課題に

きっかけ

○ SDGs宣言を発信

「誰もが活躍できるインクルーシブ農業」を推進することで持続可能な農業を目指す。

就労継続支援B型事業所との連携

- れんこんの袋詰め作業委託から農福連携の取組を開始する。
- れんこん部門の着手を契機に、水稻の播種作業、にんにくやばれいしょの収穫、選果作業へと作業委託が拡大する。



イチジクハウス

新型コロナの影響等により深刻なコメ余りに

令和3年

農山漁村振興交付金を活用

持続性の高い農業の実践

- 水稻依存の生産体系では持続的な経営が困難であると考え、水田を活用した高収益な作物への作付転換を模索し始める。
- 地元企業からイチジク生産を熱望され、オーダー生産に取り組もうと計画する。



農事組合法人One事務所

令和4年

イチジクのコンテナ栽培に着手

- 誰もが作業できることを意識したイチジクのコンテナ根域制限栽培（試験）を開始する。
- 利用者の適正に応じた役割分担により、自発的な就労を後押しするとともに、規格外品を有効活用した加工商品の開発・販売を目指す。

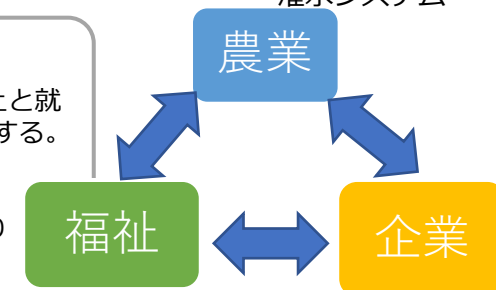


灌水システム

今後の
展望

地域農業の維持と障害者の自立支援の両立

- コンテナ根域制限栽培を確立することで、収益を向上させ、利用者の工賃向上と就労改善につなげる。そして生産全体を任せることが出来るように体制づくりをする。
- 農業従事者と障害者と企業を連携するプラットフォームを育成する。
- 当法人への視察や既存のイベントの開催等を通じて、イチジクの産地化を図り地域の活性化につなげる。
- 農業の知識を持った福祉人材の育成環境や、農業者側の受け入れ態勢を整える。





農林漁業者の所得確保に向けてこれまで未利用な資源を使った商品開発を行うとともに、農作業・加工作業で障害者の通年の作業を確保することで工賃確保に取り組む。

基本情報

- 所在地：石川県輪島市
- 団体名：(株)奥能登元気プロジェクト
- 選定表彰：福祉未来価値創造大賞2020
ソーシャルビジネスモデル部門 金賞
- 主力商品：レトルトカレー、入浴材、
除菌スプレー
- 取得認証等：－



【レトルトカレー】

(左：輪島ふぐ 中央：能登町ブルーベリー 右：能登しいたけ)

取組の概要

○障害福祉サービス事業所から農家への作業者派遣や、農林漁業者の未利用な規格外農林水産物を活用した商品を開発し、事業所で製造して、地域の道の駅や観光地等で販売を行う。
○障害者は、田植えや野菜の定植、ほ場の除草などの農作業のほか、商品の具材カットや煮込みの加工作業を行うなど、通年の労働を確保。



木くずチップで製造された商品（左：除菌スプレー 右：入浴材）

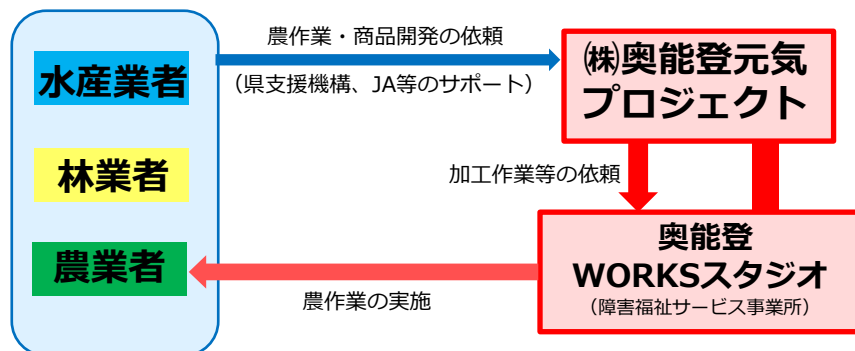


農家への作業者派遣（田植え）



事業所内調理加工場での作業

体制図



取組の成果

- 障害者の雇用創出と農林漁業者の所得増加
- 商品が増えたことで、障害者の作業時間が長くなり工賃アップ（月平均工賃約5,000円増）
- 地域での活動が増加するとともに、林業・水産業との連携が広がる



販売イベントの様子

所在地 ▶ 石川県輪島市里町1字6番地1

連絡先 ▶ TEL:0768-34-1350 E-mail:ogp-2@ca1.wannet.jp

ウェブサイト ▶ <https://okunoto-genki.com/>

【取組のプロセス】

平成29
年

きっかけ

○奥能登地域の農家から規格外のブルーベリーの活用について相談を受けたことから、奥能登地域で農福連携の活動に取り組みたいと考えた

平成30
年

(株) 奥能登元気プロジェクト 設立

○代表は、金沢市及び白山市において、建築業と福祉事業を営み、以前から福祉施設利用者による、建築現場から出る端材や規格外の野菜を利用した商品の開発・製造・販売に取り組んでいるが、奥能登地域の農家から相談を受けたことがきっかけで、輪島市で法人を設立。

令和元年

障害福祉サービス事業所「奥能登WORKSスタジオ」を開所

○障害者が就職するために必要なスキルを身につける就労移行支援事業所として「奥能登WORKSスタジオ」を開所。

令和2年

農・林・漁福連携による商品開発・製造・販売

○就労継続支援B型事業を開始。

○規格外農産物を使ったレトルト食品の開発と商品の包装を施設で行うことで、農家の所得と障害者の工賃を確保。（小ロットから受注することで農家の挑戦を後押し）

○これまでに「能登町ブルーベリーカレー」「能登しいたけカレー」「輪島ふぐカレー」などのレトルト食品のほか、能登の木材「あての木」を使用した入浴チップなども商品化。

○また、令和5年夏にカフェ「ココハサトマチ」をオープン。被災したものの速やかに営業再開にこぎつけ、食事や商品を提供中。

今後の
展望

農林漁福連携で奥能登地域の活性化を

○過疎化が進み、1次産業の後継者も減っているふるさとの奥能登地域の里山里海を元気にしたい。

○障害福祉サービス事業所と1次産業が連携することで1次産業の人手不足や後継者不在の問題を解消するとともに、将来的に就職を希望する施設利用者と一般企業とのマッチングを行い、地域の活性化につなげる。

○震災で甚大な被害を受けたものの、取り組みを継続して明るい情報を発信し続けることで、地域に希望を届けたい。



加工品の袋詰め作業



ブルーベリーカレー



ココハサトマチ

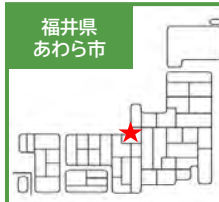


除菌・除ウイルススプレー

スマート農業を活用した農福連携を実践することで、農業を通じて障害者の働く場を提供するとともに、高齢化・後継者不足となっている地域農業の担い手として地域に貢献。

農林水産業経営体

福井県
あわら市



きっかけ

H13年

平成13年に県内の社会福祉法人から独立。障害者に雇用の場を提供、地域農業の担い手となることを目的に設立。

人を耕す

- 柿の剪定・収穫・加工、水稻の播種・育苗、田植え、メロンの収穫、選別、出荷、いちごの根切り等、畦畔の除草など年間を通して多様な農作業に障害者が携わる。
- 障害者がロボット田植え機、アシスト付コンバインのオペレーターとして活躍。

地域を耕す

- 高齢化・後継者不足となっている地域の集落営農組織のほ場の草刈り、田植え、稲刈り等の作業を受託し、地域農業の担い手として信頼を得る。
- 中山間地を含め農地の畦畔、土手、農道等を刈払い機を使用して除草を行い、地元住民から高い評価を得ることが、障害者の励みになっているほか農村環境の維持に貢献。

未来を耕す

- ICT(情報通信技術)によるほ場管理システム及び農業用ドローン、ロボット田植機、アシスト付コンバインを導入し、スマート農業を活用した農福連携に取組む。
- 障害者の「一つひとつの作業を丁寧にこなす姿勢」とスマート農業が合わさることで高品質で安全・安心な農産物生産、生産工程の安全性が高められ、GH評価900点以上の高評価を得た。

基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:H13年

取得認証等:認定農業者(H13年)

農山漁村振興交付金(農福連携型)(R5年度)

主な選定表彰:FUKUIふるさと納税事業者アワード大賞 等

取組

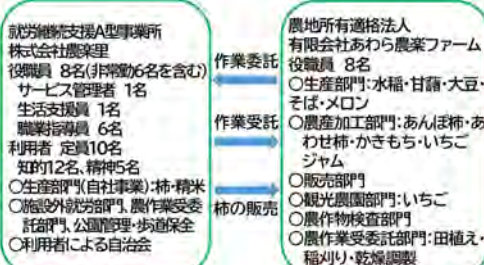
概要

主力商品
(農作物)水稻、メロン、いちご、甘藷、大豆、そば
(加工品)ジャム、米菓、あんぼ柿、あわせ柿

特徴的な取組

環境保全型農業、スマート農業、観光農園、6次産業化 等

体制図



受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

成果

施設外就労委託費

318万円(R2)
→882万円(R6)

障害者数

11人(R2)
→14人(R6)

委託作業数

39作業(R2)
→89作業(R6)

農地面積

72ha(R2)
→85ha(R6)

- スマート農業機械を扱うことで障害者のモチベーションが向上し、仕事に対する自信が生まれ10年で5名が一般就労に移行。
- スマート農機を導入することで作業環境の改善、AIによる肥培管理・販路開拓、農産物の品質の向上、収益の向上に繋がっている。
- 職員と障害者が一緒に農作業(安全管理を含む)に関する座学・研修、講習会、避難訓練等に取り組むことで信頼関係を構築。

住所:福井県あわら市山室72-101

TEL:0776-73-5955

Mail:info@awara-nougaku.jp

URL:http://www.awara-nougaku.jp



福井県福井市にある「C&Cサービス」は、リハビリが終わった統合失調症やうつ病患者の職業復帰を目的として、平成25年に設立した就労継続支援A型事業所。現在は、精神障害者約9名が、農園「こころファーム」において、椎茸の菌床栽培や野菜の減農薬又は有機栽培を通年で行うことで障害者雇用の拡大を図る。また、市内の精神科病院とも連携しリワークプログラムの実施のための、障害者の受け入れを積極的に実施している。

基本情報

- 所在地：福井県福井市
- 団体名：特定非営利活動法人こころ
- 取組パターン：グループ内連携型
- 選定表彰：－
- 主力商品：椎茸、ほうれん草、こまつな、ベビーリーフ
- 取得認証等：ノウフクJAS

営農作業



椎茸菌床堆肥



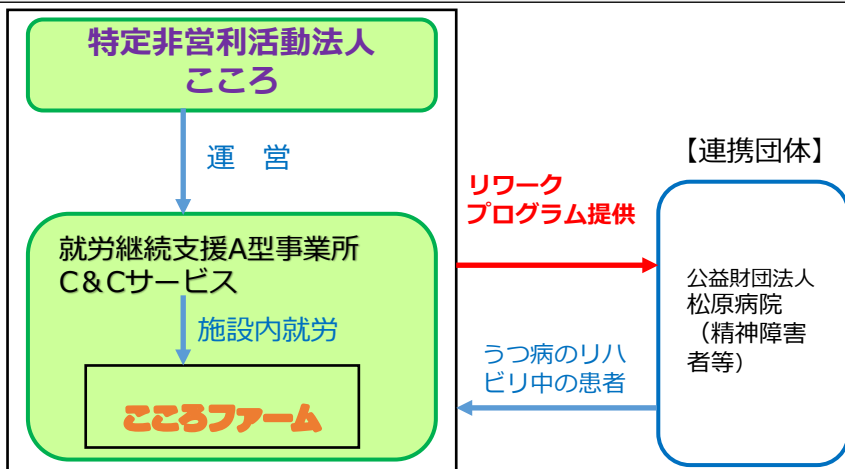
取組の概要

- ◆ 農園「こころファーム」では、椎茸の菌床栽培や、ほうれん草、こまつな等の生産を農福連携により施設園芸で取り組み、9名の障害者の就労の場を生んでいる。
- ◆ 主な作業内容は、椎茸の収穫、選別、間引き、クリーニング（菌床棚洗浄、菌床のカビの除去）、葉物野菜の収穫、洗浄作業。
- ◆ 病院や福祉施設での訪問販売。
- ◆ 連携団体である「精神科病院」からのリワーク（復職）を目的としたリハビリのための農業プログラムの実施。
- ◆ 就労支援やリワークプログラムの修了者を支援するため、生産物の買い取り及び販売の請負。

取組の成果

- ◆ 全体的な生産量（椎茸・葉物野菜）は、ここ5年間ぐらいで大きく拡大しており、椎茸では約2倍の生産量となっている。また、野菜を含めた全体的な売上額も5倍近くに増加している。
- ◆ 生産量が増加したことにより、連携する就労継続支援B型事業所への作業委託を増やすことができ、作業効率が良くなり生産性も向上している。
- ◆ リワーク（復職）を目的とした農作業のリハビリにより、取り組み当初から21名の復職と2名の就農を実現している。
- ◆ 農福連携に取り組みたい福祉事業所からの視察がふえており、モデル的存在になりつつある。

体制図



所在地 ▶ 福井県福井市文京2-10-4

連絡先 ▶ TEL:0776-63-6711 E-mail:cocorofarm5560@gmail.com

ウェブサイト▶ー

【取組のプロセス】

農業によるリハビリ、障害者の雇用拡大を図る。

平成27年

きっかけ

平成25年設立の就労継続支援A型事業所は当初、事業は清掃部門のみであったが平成27年に関係病院が運営していたほ場（ハウス園芸）を引き継いだことにより障害者が農業を通じてリハビリを行い、さらには障害者の雇用拡大、農業での収入確保を図りたいと農福連携を開始。

平成28年

農山漁村振興交付金活用

（農業拡張期）

- 以前より、精神障害をもつ障害者が農作業を行うための配慮事項や、訓練ではなく雇用を維持するため、冬季でも継続して通年稼働できる農業の方法等の課題に取り組んできた。
- 平成28年5月、ハウス2棟を拡張し、ほうれん草の増産に取り組む。
- 平成28年10月、坂井市に新たに農地を借り、ベビーリーフなどの栽培に着手。



園芸用ハウス

平成29～30年

リワーク開始

（ハウス倒壊と再生・リワーク受入れ開始）

- 平成29年10月の台風と平成30年1月～2月の大雪でハウスが倒壊。
- 平成30年10月、農山漁村振興交付金により基盤整備、ハウス再建を実施。
- 椎茸菌床栽培開始。
- 関係病院からのリワーク（復職）希望者の受け入れ開始。



椎茸菌床栽培

ノウフクJAS認証取得

令和2年

（障害者雇用と販売の拡大）

- 現在は9名の障害者により、椎茸、ほうれん草、こまつなの栽培に取り組む。
- 小売店や病院、福祉施設での販売にも力を入れ、販売額を伸ばしていく。
- 施設整備にコストがかかることから、支援事業の積極的活用。



葉物野菜の作業風景

令和6年

（福祉事業所で作るネットワーク）

- 農福連携に取り組んでいる他の福祉事業と連携して、生産・流通・販売ネットワークが可能となる福祉事業所が運営する農業組合的な組織ができれば良いと考える。
- JGAPの認証を取得し本格的に生産・流通に対応することで、事業の安定化と障害者雇用の更なる拡大を図る。



企業での訪問販売

今後の展望

AIやスマート農業を活用することで障害者の作業領域を大幅に拡大。水稻栽培や観光いちご農園等に取り組み、楽しく多様な農福連携を実現。

福祉事業所

福井県
あわら市



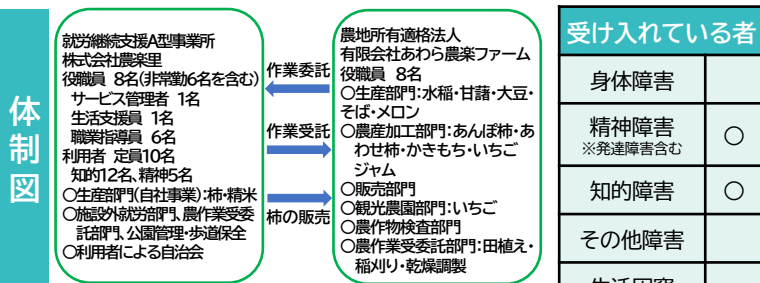
基本情報

設立:H25年 / 農福連携取組開始:H25年

概要

主力商品
(農作物)米・大豆、甘藷、柿
(加工品)いちごジャム、かきもち

特徴的な取組
スマート農業、環境保全型農業、特別栽培農産物



住所: 福井県あわら市山室72字長割山101番
TEL:0776-63-6317
Mail:info@fukui-norari.jp
URL:http://www.fukui-norari.jp/

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

きつかけ
H25年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組

障害者に農業を通じて働く場を提供し、共に地域農業の担い手となることを目的に設立。

- 農作物の播種・定植、除草、収穫、乾燥調製、出荷、加工の作業を分解することで、知的障害者、精神障害者の17名が自社事業及び施設外就労で、100haを超えるほ場で農作業に従事。
- 講習を修了した利用者がロボット田植機、アシスト付コンバインのオペレーターとして活躍。
- 一人ひとりの特性、経験、技術、相性等を考慮し、作業内容、チーム編成を行うことで、利用者間の信頼関係を構築。

- 農山漁村振興交付金を活用し、小口精米ユニットを導入。利用者が精米作業に従事し、首都圏、関西圏の障害者就労施設、外食事業者へ精米を販売。
- 県内外からの視察や田植・稲刈り体験、観光いちご農園等で交流人口が増加。
- 獣害対策等として、ほ場の畦畔、土手、農道等の除草作業を年4回実施し、中山間地の集落維持に貢献。

- ドローン、ロボット田植機、アシスト付PFコンバイン、トラクター、米乾燥施設の温度管理にスマート農業を活用。
- 特別栽培農産物(米・メロン)の栽培、観光いちご園の暖房燃料は間伐材でのペレット材を使用し、環境にやさしい農業に取組み、GH評価で900点以上と高い評価。

平均賃金月額	売上高	交流人口	農地面積
71,306円(R2) →87,038円(R6)	642万円(R2) →2,145万円(R6)	1,409人(R2) →10,002人(R6)	74ha(R2) →105ha(R6)

成果

- AIやスマート農業による農福連携で、安全性が高く、操作が簡便で、精度の高い農作業が可能となり、農作物の生産性や品質の向上、収益UPに寄与。
- 完全週休二日制、夏季休暇、年末年始休暇制度等で勤務条件を改善。
- 県平均を大きく上回る12万円以上の月額賃金を実現した者も増加。
- 利用者は、チーム長、リーダー、一般就労へとステップアップし、5名が一般就労。
- あわら市ふるさと納税返礼品に農福連携商品として登録。利用者がデザインした段ボール箱で返礼品を送付する等、農福連携の普及啓発に尽力。

JAぎふの経営理念である「すべては組合員とともに」に基づき、特例子会社として農を基軸とした経営を構築し、地域や企業との連携による特産品の製造などの取組を実施。

特例子会社



基本情報
設立:R2年 / 農福連携取組開始:R2年
取得認証等:認定農業者(R7年)、ノフクJAS(R8年)
主な選定表彰:令和6年度岐阜県障害のある人もない人も共に生きる清流の国づくり表彰

概要
主力商品
(農作物)米、まくわうり、玉ねぎ、サツマイモ、マコモダケ 等
(加工品)まめなかな味噌、ハイビスカスティー、ずんだ大福、枝豆ピザ 等
特徴的な取組
スマート農業、ユニバーサル農園、中間支援、自然栽培 等

体制図
①味噌事業 (まめなかな味噌の製造販売)
②農業事業 ((本農市真正園場 1ha 作付け (野菜・イモ・マコモダケ・有機米稲など)、岐阜市有機の里 3ha 耕作 (畑)、ガラス温室再生事業)
③枝豆事業 (枝豆むき身⇒セレスを通じて養老軒:岐阜ずんだ大福、ずんだシェイク、枝豆ピザ)
④受委託事業 (JA ぎふ委託事業 (清掃、事務、印刷など) 草刈り作業受託、イチゴのヘタ取り、帳票押印等事務作業)
⑤直販事業 (はっぴいマルシェ販売 毎週、イベント年 6 回)
⑥農園事業 (まるけいあーむを通じたユニバーサル体験農園の取り組み、全農、支店食農活動、岐阜県林高校、福祉事業所連携)

住所:岐阜県岐阜市町 37
TEL:080-4052-7604
Mail:68002@jagifu.gjadc.jp
URL:https://www.jagifu.or.jp/wp/archives/130572

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○

きっかけ

R2年
「地域共生社会の実現に貢献する」という経営理念のもと、障害者をはじめとする全ての人と向き合い、地域に根ざした農業による居場所づくりを目指して取組を開始。

人を耕す

- 保護者面談・定期面談の実施、ジョブコーチ資格取得、有資格者による作業のマニュアル化、関係支援団体との連携等により、多様な働き方を実践し、働きやすい環境を構築。
- ユニバーサル体験農園を活用した農業研修を実施し、社内交流を積極的に行う。
- 岐阜刑務所と連携し、犯罪をした者の出所後就農に向けた農業指導を実施。

地域を耕す

- JAぎふや地域からの依頼で耕作放棄地の草刈りを実施。件数が飛躍的に増大し、収益事業として定着。
- はっぴいマルシェの開催、農業祭やJA収穫祭等への出店、ユニバーサル体験農園の実施、放課後デイサービスへの授業の実施など地域内外の交流の活性化に貢献。

未来を耕す

- 「有機の里」にてJAぎふと有機農業を実践。また、LED人工光栽培による作物の栽培やローゼル栽培による中山間地域農業の活性化など独自の取組を実施。
- 企業と連携し、自社栽培及びJAぎふで扱う規格外の枝豆を「岐阜ずんだ大福」、「清流ずんだシェイク」「アチエ(枝豆ピザ)」に加工し、販売。

成果

平均賃金月額	障害者雇用数	売上高	農地面積
115,930円(R2) →137,866円(R6)	5人(R2) →17人(R6)	1,976万円(R2) →6,004万円(R6)	0.5ha(R2) →4.5ha(R6)

- JAぎふ、ぎふ農福連携推進センターと連携し、農家とA型・B型事業所との援農マッチング事業を実施。農家の労働力不足の解消に貢献。
- 岐阜農林高校と連携し、美濃飛騨伝承野菜「まくわうり」を栽培。高校でまくわうりをアイスに加工し、JAぎふ直売所等で販売。皇室に献上。
- 雇用した障害者の中には、プレイングマネージャーに昇格した後、社会福祉士の資格を取得し、一般企業へ就職した事例も確認。



福祉事業所として、さといも生産者の組合に加入し、岐阜県特産品の「円空さといも」を生産。また、組合員から手間のかかる調製作業を請け負うことで、組合員1戸当たりの栽培面積の増加に貢献。

基本情報

- 所在地：岐阜県関市
- 団体名：株式会社DAI
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022
優秀賞
- 主力商品：円空さといも、黒にんにく、
美濃蜜芋（干し芋、焼き芋）
- 取得認証等：ノウフクJAS



円空さといも

取組の概要

- 約1haの農地において、にんにく、さつまいも、たまねぎなどを生産。にんにくは黒にんにくに加工するほか、さつまいもは干し芋や焼き芋に加工するなど6次産業化の取組を実施。
- さといも生産者の組合員から岐阜県特産品の「円空さといも」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を請け負う。
- 市内の農業者から借り受けたほ場30aで、自社でも円空さといもを栽培。



円空さといもの収穫作業



施設外就労（調製作業）



作業を委託した農家の方々と

体制図

【株式会社DAI】

生産管理、農業部、
委託請負部

めぐみの農業協同組合

作業指導、
工賃調整等

作業請負契約

仲介

岐阜県中濃農林事務所

「生涯現役プロジェクト」
に参画

中濃里芋生産組合

関市

ふるさと納税返礼品に採用

就労継続支援A型/B型
事業所「それいゆ」

取組の成果

- 岐阜県特産品「円空さといも」の調製作業を請け負うことで、組合員の経営に余裕が生まれ、組合員1戸当たりの栽培面積が15aから20aに増加。
- 丁寧な作業により信頼を得たことで、農地を借りてほしいという依頼が増加し、栽培面積を拡大したことで農産物全体の売上高（加工品を含む）は平成27年の337万円から、令和3年には861万円に増加。
- 岐阜県の就労継続支援A型事業所の平均（令和4年：81,581円）を上回る月10万円以上の賃金を支給される利用者もいる。

所在地▶岐阜県関市平和通3丁目12番地

連絡先▶TEL：0575-23-1101 E-mail：dai-farm.non@biscuit.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<https://www.dai2011.com>

【取組のプロセス】

平成23年

きっかけ

平成23年に愛知県犬山市に株式会社DAIファーム（現：株式会社DAI）を設立し、個人農家と連携して、いちごや菌床椎茸の栽培を実施

平成26年

社名を株式会社DAIに変更

- 平成26年4月、社名を株式会社DAIに変更。
- 「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」、「地域の特産品を守る」という目標を掲げる。

平成28年

「地域の特産品を守る」

- 岐阜県関市に事業所を開設するとともに、就労継続支援A型事業所を開設。
- J Aめぐみの、岐阜県中濃農林事務所、中濃里芋生産組合と連携し、地域の特産品「円空さといも」の毛羽取り作業を請け負う。
- 手間のかかる作業を引き受けることで、生産者は栽培面積を拡大することが可能となり、収穫量が減少していた円空さといもの栽培面積が増加。
- 自社でも30aのほ場を借り受け、円空さといもの栽培を始める。

平成29年

「地域の景観を守る」、「地域の特産品を創生する」

- 就労継続支援B型事業所を開設。
- 当初は荒廃農地を再生して野菜を栽培していたが、近隣農家が耕作しなくなった農地を借りることで自社の耕作面積が増加（令和3年度末現在、約1ha）。
- 自社で栽培したにんにくやさつまいもなどを加工して販売。また、にんにく加工商品が関市のふるさと納税の返礼品に採用される。

今後の展望

「農福連携」からはじまる「地福連携」の形を創る

- 地域の企業や農家、JA、農林事務所、行政と一体となって課題に取り組むことで、仕事を作り、安心して長く住み続けることのできる地域を創る。
- 地域の担い手として活躍できる機会を拡大し、土と、人と、地域と、仕事と、分断された結びつきを「福祉」を通して再生し、暮らしと経済づくりを支えていく。

利用者の賃金確保のため、野菜を作るだけの農業から移行する必要

年間を通して安定した作業を確保する必要

J Aめぐみの、岐阜県中濃農林事務所等の支援

地域の課題解決に共に取り組む

持続可能な地域づくりに参画

・令和2年に古くなったさといもの毛羽取り機を新調
・1日あたりの作業量をUPし、毎年増える依頼にも対応
・令和3年現在、7件の農家からの作業依頼に対応



施設外就労（ゆずの収穫）

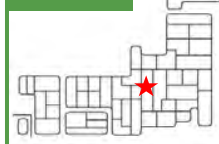


関市「生涯現役プロジェクト」への参画

（さつまいもの収穫）

生産から加工まで一体的に取り組み、障害者の責任者へのステップアップや正規雇用等を行うことで、安定した雇用と自立支援の仕組みを確立。ICT導入による効率化やミス防止を実現し、経営面積の拡大に寄与。

農林水産業経営体

岐阜県
岐阜市

基本情報

設立: H20年 / 農福連携取組開始: H23年

取得認証等: 認定農業者(H22)、6次産業化認定事業者(H24)
有機JAS(R7)

き
つ
か
けH
2
3
年

障害者の限定的な就業機会と深刻化する農業後継者不足の課題に対して、農業生産や6次産業化の現場を自立支援と雇用創出の場にしたいとの思いから開始。

人
を
耕
す

- 水稻の苗出し・畦畔除草、野菜の播種・出荷、6次産業商品の製造補助など多岐にわたる作業を個性や特性に応じて割り振り、全員が責任と誇りを持って働ける環境を整備。施設外就労の請負報酬も年々増加、安定かつ公平な収入確保を実現。
- 農業・加工業等、2023年から累計10名以上が一般就労へ移行。障がい者が自らの能力を活かして社会に参画し、地域で主体的に生活できる環境づくりを推進。

地
域
を
耕
す

- 地域企業のイベント等に参加し、自ら作った作物・加工品を自分の言葉で接客することで、地域における農福連携の理解促進と認知拡大に貢献。
- 近隣小学校と連携した水耕農業体験の実施、特別支援学校と連携した農業体験・加工製造の職場実習の受入を通じて、多様な人々が働きやすい地域共生社会のあり方を発信。
- 6次化商品の生協販売を開始し、農福連携ブランドとして付加価値を創出。

未
来
を
耕
す

- クボタのスマート農業システム「KSAS(ケイサス)」を導入し、障害者が携帯端末からリアルタイムにデータを確認。クラウド上で作業記録を一元管理し、効率向上とミス防止を実現。
- エアドーム式農業ハウスやICTの活用により、多様な人が安全に働ける農業環境を構築。
- 農外企業と連携し、水田中干しを実施することで、メタン排出削減によるカーボンニュートラルや環境保全型農法を推進。

取
組成
果概
要

主力商品

(農作物)米、野菜、果樹
(加工品)玄米団子、わらび餅、ドライ菊芋

特徴的な取組

有機農業、スマート農業、6次産業化、環境保全型農業 等

体
制
図

農作業や6次産業化による
加工品製造等の作業委託



正社員として雇用

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○

住所: 岐阜県岐阜市藪田南1-11-9

TEL: 058-213-0711

Mail: ogawa@ls-farm.com

URL: <http://www.ls-farm.com/>

平均賃金月額

70,656円(R2)
→84,084円(R6)

障害者雇用数

19人(R2)
→19人(R6)

農地面積

38ha(R2)
→44.5ha(R6)

- 障がい者・高齢者・地域住民など多様な人々が関わり合い、挨拶や声援を通じて互いを認め合い、支え合いや地域全体で助け合う意識が広がっており、持続可能な農福モデルを実現。
- 農福連携で労働力が安定し、農地集積や耕作放棄地の再生、農地の有効活用が実現して、経営面積が拡大。
- 丁寧で誠実な作業が評価され、農福連携商品として生協へ出荷。品質と信頼性向上に貢献し、地域美化活動や交流を通じて感謝の声を受け、やりがいと自己肯定感の向上につなげる。

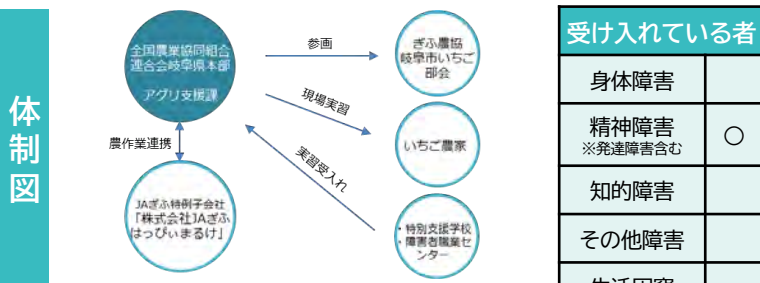
農業分野で障害者が活躍できる場の創出を目指し、直接雇用型の農福連携事業に取り組むことで、障害者のいちご栽培技能及びコミュニケーション能力を高める。



基本情報

設立:S47年 / 農福連携取組開始:R3年
主な選定表彰:全国農業協同組合連合会特別表彰「理事長賞」

概要
主力商品
(農作物)いちご
特徴的な取組
岐阜県ブランドいちご「美濃娘」を栽培し、量販店の農福連携特設コーナー等にて販売



住所:岐阜県岐阜市宇佐南4丁目13番1号
TEL:058-214-2431
Mail:zz_gf_agurishien@zennoh.or.jp
URL:https://www.zennoh.or.jp/gf/einou/noufuku.html

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

R3年
少子高齢化による農業分野の人手不足の解消と、SDGsの理念実現を目指し、取組を開始。

人を耕す

- 管理者・職場適応援助者の支援スキル向上に向けて、厚生労働省認定の「企業在籍型職場適応援助者養成講習」や県認定の「岐阜県農業ジョブコーチ」育成講習を受講。
- 定期的な個別面談やメンタルミーティングを実施するとともに精神状態の確認とケアを行い、安定就業に繋げている。
- 通年でいちご栽培に従事する障害者を直接雇用。

地域を耕す

- いちごは岐阜県ブランドいちご「美濃娘」を栽培し、地産地消の取組に貢献。
- 連携先のいちご農家で農作業実習を行い、人材育成と農家への農福連携を促進。
- 特別支援学校や障害者職業センターの実習生を受け入れ、関係機関との連携を強化。

未来を耕す

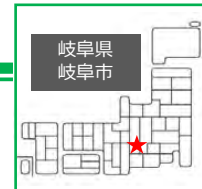
- 大学との連携を通じた農福連携の在り方や新たな可能性を模索している。
- いちご栽培を通じた農作業受託を受けられる人材の育成をすすめるとともに、地域の農家と連携した農福連携の普及拡大を目指している。

成果

平均賃金(時給)	障害者数	市場出荷パック数	農地面積
860円(R3) →1,070円(R6)	3人(R3) →3人(R6)	5,924個(R3) →18,427個(R6)	5a(R3) →10a(R6)

- 栽培の知識・技術向上に伴い、栽培面積・定植株数が増加。
- 市場出荷パック数が年々増加。
- 農作業実習では普段と異なる環境下で作業を行うことで、自立支援と雇用創出に繋がった。また、受け入れ先の農家からも農福連携に対して前向きな意見が得られた。





地域における障害者等の就労、担い手の確保や地域農業の維持のため、農業者と福祉施設の双方に対し、総合的な支援を実施する岐阜県のワンストップ窓口を担う。

基本情報

- 所在地：岐阜県岐阜市
- 団体名：一般社団法人 岐阜県農畜産公社
「ぎふアグリチャレンジ支援センター」
- 選定表彰：－
- 岐阜県の農福連携ワンストップ窓口
- 農業経営体と福祉事業所との農作業受委託をマッチング
- 岐阜県、農林事務所、社会福祉協議会等と連携し、農福連携の総合的な支援を実施
- 「農福連携推進マニュアル」には、障害者受け入れのポイントや農作業の切り出し、障害者が作業する際の留意点などをわかりやすく図解

取組の概要

- ① 農福連携コーディネーターが、農業者や福祉事業所を個別訪問し、農作業に関する請負契約の締結をマッチング。
- ② 農福連携の現場に農作業指導者を派遣し、円滑な実施を支援。
- ③ 障害者の受入体験を行う農業者に対し、請負報酬又は賃金相当額を助成。
- ④ 障害者を受け入れている農業者及び農業参入した福祉事業所に対し、作業環境の整備に関する費用を助成。
- ⑤ Webサイトに、「農福連携推進マニュアル」、「ノウフク商品カタログ」を掲載。



ぎふノウフク商品カタログ

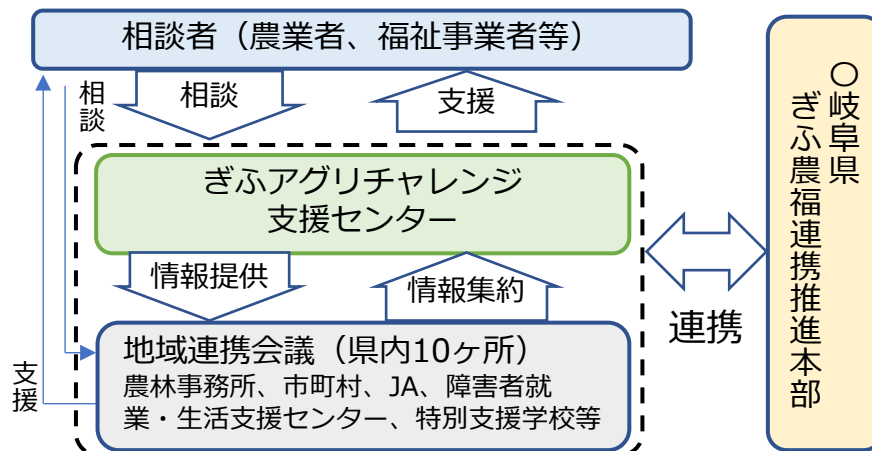


作業請負（さといも収穫）



作業請負（除草）

体制図



取組の成果（令和4年度の結果）

- ① 相談業務 相談件数 106件、訪問件数 20件
- ② マッチング 農作業に関する請負契約の締結 23件
- ③ 農作業指導者の派遣 障害者農業就労支援サポーター登録者 4名、岐阜県農業ジョブコーチ登録者（令和2年：10名、令和3年：9名、令和4年：12名）
- ④ 農業者への助成 活用 5件（受入体験1件、作業環境整備2件、農業参入施設整備2件）
- ⑤ 農業大学校において、障害福祉サービス事業所の職業指導員等に対する栽培技術の指導を実施。

所在地 ▶ 岐阜市藪田南5丁目14番12号（岐阜県シンクタンク庁舎内）

連絡先 ▶ TEL:058-215-1503 E-mail: agri-stock@gifu-notiku.com

ウェブサイト ▶ <http://www.gifu-notiku.com/>

【取組のプロセス】

平成26年

きっかけ

平成26年度頃から、岐阜県が農福連携を推進

「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置

- 就農相談から研修、営農定着までの新規就農者のサポートに加え、移住就農や企業の農業参入を支援する総合支援窓口として設立。
- 就農にかかる農地情報の提供等就農へのアドバイス、資金面の相談や企業の農業参入、農業法人の育成、農福連携など、幅広い分野での多岐にわたる要望に一元に対応する。

農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置

- 農福連携パンフレット、農福連携推進マニュアル、農福連携事例集などを公表。
- 農作業受委託をマッチング。 ○ 農福連携推進活動事業(助成事業)。
- 障害者農業就労支援サポーターの派遣。

よりきめ細かい推進体制の整備

- 令和2年8月に、農福連携に取り組む農業者等を現場で支援する「岐阜県農業ジョブコーチ」を養成する研修会を開催、派遣事業を創設。
- 令和2年4～11月にかけて、よりきめ細やかな推進体制づくりとして、農林事務所ごとに行政、支援機関、教育機関を構成員とする農福連携地域連携会議を設置。

部局横断的に施策を推進

- 令和4年4月に、農業や福祉、教育関係者等が共通認識のもと、横断的かつ計画的に各施策を推進するため、「ぎふ農福連携アクションプラン」を策定。
- 令和4年9月に、知事を本部長として、両副知事、庁内部局長等から構成する推進本部を設置。

さらなる農福連携の推進と理解の醸成

- 農福連携に取り組むための環境整備や農産物のブランド力向上・販路拡大へのサポートによるロールモデルづくりと県内外への情報発信。
- 高齢化や担い手不足といった課題を抱える農業・農村において、多様な担い手の一員として誰もが活躍できる地域共生社会の実現。

平成29年

平成30年

令和2年

令和4年

今後の展望

地元での農業参入、農業法人の育成、農福連携など、幅広い分野での多岐にわたる要望に一元に対応する窓口の必要性

平成29年4月に、岐阜県の外郭団体である一般社団法人 岐阜県農畜産公社内に、「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置

平成30年4月に、同センター内に、農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置

- ・ 農福に関する相談
- ・ マッチング
- ・ マニュアル公表
- ・ サポーターの派遣
- ・ 障害者受入体験等の助成などを実施

YouTubeに「のうふくチャンネルぎふ」を開設
・ PR動画「ノウフクが農業と福祉の未来をつくる」
・ 農作業動画「グリーンねぎの調製」、「にんにくの根切り」などを公開



作業請負（クリの青イガ拾い）



雇用（搾乳）



作業請負（ハウスの片づけ）

農業地域にある特別支援学校として、農福連携の取組を開始。生徒が主体となり、遊休農地等を活用し、生徒が栽培しやすい特色のある「ルビー色の蕎麦」や「イタリア野菜」を生産。

特別支援学校

岐阜県
岐阜市



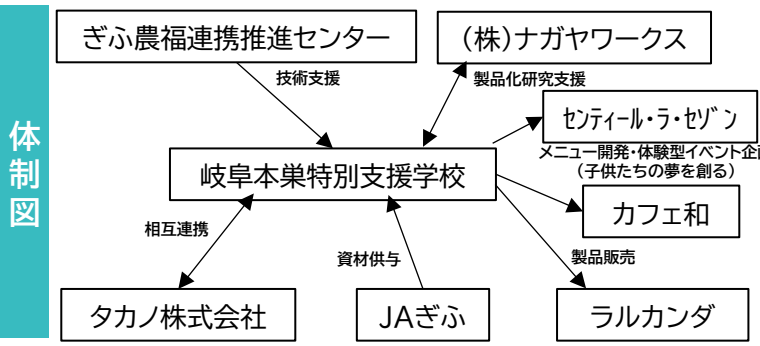
基本情報

設立:H20年/農福連携取組開始:R4年

概要

主力商品
(農作物)そば、イタリア野菜

特徴的な取組
スマート農業



058-239-9712 /p33616@gifu-net.ed.jp
https://school.gifu-net.ed.jp/wordpress/gifumotosu-sns/
視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

きつかけ

人

地域

未来

取組

成果

R4年

障害を持つ生徒の個性を十分に発揮した農福連携の取組に向けて、岐阜県農福連携推進センターに支援を受けながら、生徒主体の農福連携をスタート。

人

- 「～恋する蕎麦～初霜ルビー」を製品化。霜が降りる時期までじっくり完熟させ、ポロっと落ちるそばの実を丁寧に手刈りすることで、多くの障害者が関わることが可能。
- 高付加価値の農産物「イタリア野菜」の生産・販売を通して、子ども達の自信と責任感を創出。

地域

- 「イタリア野菜」栽培により地域との連携を深めており、本場と同じ懐かしい野菜として県内在住のイタリア人シェフが絶賛し、学校の野菜を使った料理を提供。
- 岐阜古来の製麺技術を採用したことによる「道三めん」のPRや「イタリア野菜」栽培の発信等、地域活性化に貢献。

未来

- 農業の栽培用アプリ「アグリハブ」を使った、遊休農地等でのルビー色のそば及び「イタリア野菜」の栽培は大きな話題に。
- 種子の提供を受けるなど、県外の企業がサポート。

農産物売上	農地面積	連携団体数	マスコミ情報発信
14.6万円(R4) →15.3万円(R5)	4a(R4) →6a(R5)	0件(R4) →4件(R5)	0件(R4) →6件(R5)

成果

- そば及び「イタリア野菜」栽培を通して、障害を持つ子ども達の笑顔がこぼれる素敵な農業時間を創出。
- 一面のルビー色のそば畑は、誰もが足を止める「映えスポット」として話題になり、地域活性化に貢献。
- オンリーワンのストーリーを持つルビー色のそば栽培や、珍しい「イタリア野菜」栽培を通して、子ども達が主体的に農業を行い、地域の新しい担い手として活躍。

施設外就労として、養蚕の全工程及びいちごハウス内業務を委託。有効資源の活用と伝統産業の復興による地域活性化を図るとともに、雇用の創出や給与・工賃の向上に繋げる取組を実施。

農林水産業経営体

岐阜県
下呂市



基本情報

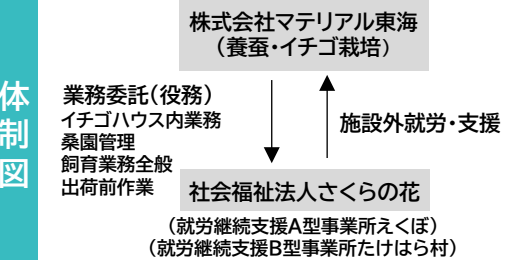
設立:H7年 / 農福連携取組開始:R元年

概要

主力商品
(農作物)いちご
(畜産物)養蚕・繭として出荷

特徴的な取組
環境保全型農業

体制図



住所:岐阜県下呂市森1329番地3
TEL:0576-23-3207
Mail:h-material@m-tokai.co.jp
URL:https://www.m-tokai.co.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きつかけ
R元年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組

数多くの作業工程があり人手が必要である養蚕事業とハウスでのいちご栽培において、施設外就労の受け入れを開始。

- 飼育期間や栽培時期が決まっており、利用者は安定した収入を得ることが可能に。
- 数多くの工程があり障害の度合い・就労能力によって作業内容を分担。
- 全工程に関わることで仕事の成果を目の当たりにでき、強い達成感を得ることが可能。
- 責任感をもって取り組めた実績が個人の自信に繋がり、作業にもプラスの影響を与えている。

- 荒廃農地を開墾して桑園へと生まれ変わらせることで、自社で餌の飼育を可能にし、農地面積を増加させるなど、農地の継承と地域農業の維持に貢献。
- 養蚕経験のある高齢者の雇用を通じて、生きがいづくりに寄与。
- 市内唯一のいちご狩りができる場所として地域の子ども会をいちご狩りに招待するなど、地域交流の場としても貢献。キッチンカーでのいちごを使ったスムージー販売も実施。

- 桑園では、利用者が選別した廃棄物を堆肥化し栽培に活用しており、資源のリサイクルを行いながら、伝統産業の復興に生かすとともに、雇用の創出を実現。
- 見学や体験を通じて、施設外就労先や雇用先の開拓に繋げ、利用者の将来への可能性拡大を図る。

平均賃金月額	平均工賃月額	障害者数	農地面積
122,000円(R2) →130,000円(R6) ※ 農業以外も含む	60,000円(R2) →62,000円(R6) ※ 農業以外も含む	15人(R2) →20人(R6)	1.7ha(R2) →2.2ha(R6)

成果

- 県内で衰退していく養蚕において、R7春には約12万頭を飼育し、初年度から18倍に増加。県内トップの集荷量を達成。
- 作業中に利用者間で教え合い、助け合うといったコミュニケーション能力の更なる向上を確認。
- 施設で作業をする利用者の姿勢が認められ、他企業から施設外就労の依頼が増加。施設外就労先の開拓に寄与。

中部電力の特例子会社で、農福連携により、イチゴを栽培。他企業とのコラボ商品開発による農産物の付加価値向上を行うほか、廃棄問題、環境問題の解決にも取り組み、地域との共生を推進。

特例子会社

岐阜県
可児市



基本情報

設立: H13年 / 農福連携取組開始: R4年
取得認証等: JGAP(R4)
主な選定表彰: ディスカバー農山漁村の宝(2024/東海局)コミュニティ・地産地消部門 等

概要

主力商品
(農作物)イチゴ
(加工品)イチゴのパウムクーヘン、ジャム

特徴的な取組
スマート輸送の構築に向けた物流の実証実験実施

体制図

中電電力株式会社(意思決定機関の支配・役員派遣等)→特例子会社中電ウイング株式会社(直接雇用)
●コラボ商品開発(米粉を使ったイチゴのパウムクーヘン)・農業交流体験
└─中電ウイングファーム(イチゴ栽培)─
└─株式会社コトモファーム(水稲栽培・パウムクーヘン製造販売)─

住所: 岐阜県可児市矢戸字大善坊59番地
TEL: 0574-58-4246
Mail: wing.ichigo@chuden-wing.co.jp
URL: <https://www.chuden-wing.co.jp/>

きっかけ

R4年

体力的負担が少なく定年まで従事可能な作業環境を模索した結果、知的障害者の「細かい作業に集中力をもって向き合うことができる」特性が活かされるイチゴの栽培を事業化。

人を耕す

- 栽培作業に加え、自ら育てたイチゴを自分たちの言葉でお客様に伝えたいという要望を踏まえて、摘み取り体験では知的障害者が摘み取り方の説明や美味しいイチゴの見つけ方などを来園者に説明する新たな業務を担っており、栽培作業の経験を活かして業務の幅を拡大。
- 不登校の児童や生徒を招き、地域社会との繋がりを得る機会の場合として、定植体験や摘み取り体験を通じた当社の知的障害者との交流事業を実施。

地域を耕す

- 廃棄されるイチゴを西陵高校の生徒が収穫し、高校生のアイデアによってイチゴの商品を開発するプロジェクトを実施することで、シーズン外のイチゴの実の廃棄問題解決に加え、商品廃棄問題の学びや障害者雇用、ものづくりと販売という生徒への学びの場を提供。
- 多様な人への理解と多様性を受け入れる社会を築くことができる人材育成を目指して、地域の小学校の児童を招きイチゴの摘み取り体験や定植体験を実施。

未来を耕す

- 配送手段を見直し、首都圏に向けては高速バスを活用した貨客混載バス輸送を行うことで、配送に伴う衝撃を回避し、長距離であってもいちごの品質維持と配送費削減を実現。
- 名古屋中心部へのスマート輸送のR8実用開始を目指し、自動配送ロボットによる配送を行う実証実験を3年間実施。

取組

平均賃金月額	障害者雇用数	売上高	交流人口
15万5,600円(R4) →16万3,125円(R6)	2人(R4) →4人(R6)	1,185万円(R4) →3,012万円(R6)	206人(R4) →235人(R6)

成果

- 多様な人と関わり、新たな視点や考えをもたらし、将来、社会に踏み出す一つのきっかけの場になればとの思いで交流事業を実施。
- 廃棄ゼロファームを目指し、摘果した青い実をジャムとして商品化したり、葉かきや茎はモンキーセンターの飼料に提供したりすることで、産業廃棄量の低減に寄与。
- コトモファームとのコラボ商品「イチゴのパウムクーヘン」に中電ウイングファームのイチゴを使用。農福連携事業者同士で連携。

大学農場において障害者を雇用し、様々な農作業に携わるほか、近隣の特別支援学校の就業体験実習の受け入れ等も実施。大学教育を通じた農福連携の取組を広く情報発信。

国立大学法人

岐阜県
岐阜市

きつかけ

H20年

大学の技術職員の定数削減により、大学農場の人材確保が課題であった中で、障害者雇用を開始。

人を耕す

- 勤務する障害者は、基本的に大学非常勤職員として週30時間勤務の時給制で、勤続年数に応じた昇給を用意。
- 資格(振動工具取扱(チェーンソー以外)、小型車両系建機(整地用3t未満)、刈払機取扱作業者など)は積極的に取得してもらい、業務の幅を拡大。

地域を耕す

- ノウフクマルシェなどに出品し、岐阜大学で障害者雇用に取り組んでいることのPRを行い、農業分野での障害者雇用の実践と可能性をアピール。
- 学内保育園や、地域の幼稚園の農業体験(田植え、稲刈り、芋ほり)の受け入れを実施。
- 農業者や福祉関係者を対象に、大学農場での実践経験に基づいて農福連携の講義を実施。

未来を耕す

- 大学農場での障害者雇用は、平成20年から開始されており、各方面に対して実践経験に基づく情報発信。
- 特別支援学校の生徒約5～15名を年間20回程度受け入れ、大学農場で実習を行い、また就業体験としても各種作業に従事。
- ノウフクJASの消費者の認知度を調査し、効果的な普及と付加価値向上について研究を実施。

取組

成果

売上高

2,088万円(R2)
→3,200万円(R6)

障害者数

6人(R2)
→9人(R6)

農地面積

18.66ha(R2)
→18.66ha(R6)

- 先輩の障害者職員が仕事内容を直接、後輩の障害者職員に教えることで、先輩職員としてはやりがい、後輩職員としては、将来像のイメージにつながり、お互い生き活きと働ける職場環境を創出。
- 大学農場の学生実習において実習補助者として障害者職員が加わることで、大学生に対して障害者職員の作業の様子や雇用の意義を理解させ、大学教育を通じた学生への啓発を実施。
- 特別支援学校のデュアルシステム実習やインターンシップ実習を積極的に受け入れ、適性や能力を見極め、雇用に繋げている。

基本情報

設立:T12年 / 農福連携取組開始:H20年

取得認証等:ノウフクJAS(R7)

主な選定表彰:平成24年度 全国大学農場教育賞

概要

主力商品
(農作物)米・大豆、野菜、果樹、畜産物、林産物
(加工品)ジャム、漬物、蜂蜜

特徴的な取組

スマート農業、林福連携、6次産業化

■岐阜大学応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターは、農場部門と演習林部門で構成される。
農場部門では、下記のような障害者との連携を行っている。

■岐阜大学・大学農場 — 障害者の直接雇用

■岐阜大学・大学農場 — 岐阜市立岐阜特別支援学校
(年間通じた就業体験実習【通称:デュアルシステム】の受け入れ)

■岐阜大学・大学農場 — 岐阜市立岐阜特別支援学校はじめ、近隣の特別支援学校

(インターンシップの受け入れ、及び卒業後の雇用)

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

体制図

住所:岐阜県岐阜市柳戸1-1

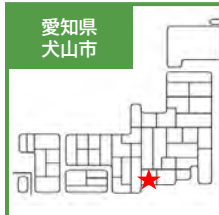
TEL:058-293-2974

Mail:yano.michiko.b4@f.gifu-u.ac.jp

URL:<https://www1.gifu-u.ac.jp/~gufarm/>

農福連携の取組により自社栽培したお米を活用し、バウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売。地域外企業との連携や、障害者が活躍する店舗の設置など、地域共生と多様性のある雇用創出を実現。

農林水産業経営体

愛知県
犬山市

きっかけ

R元年

「誰ひとり取り残さない居場所をつくりたい」という想いから始まり、農業と福祉を結び付け、地域の農地を活用しながら、障害者の働きがい創出と地域住民との共生ができる仕組みを模索。

人を耕す

- 複数業務(農業・加工・販売)を用意することで福祉事業者への請負報酬増を実現。また、複数業務の中から自身の特性に合った仕事を見つけられるため、一般就労への移行も実現。施設外就労からの正規社員登用も実施。
- 手話接客を行うサイニングストアでは、聴覚障害者が主体的に店舗運営を行い、責任者も輩出。

地域を耕す

- 農業・加工・販売の一貫体制により米の高付加価値化と安定収益を実現。
- れんげ農法による特別栽培米を生産。荒廃農地を活用し、稲作文化と地域景観を保全。
- カフェの経営、祭り(農業祭、コトモフェスティバル)の開催・参加、見学会(コトモファームツアー)や農業・収穫体験の開催、JA、行政、大学(日本福祉大学)、地元企業(中電ウイングファーム、名鉄グループなど)との異業種連携等で地域交流を拡大。

未来を耕す

- 農業・福祉・商業・工業を融合した「農福商工連携」を展開。
- 特例子会社中電ウイングと協働し、同社のいちごを使った「贅沢バウム ウイングいちご」を開発。農福連携を軸とした企業間連携という新しいモデルを展開。
- 聴覚障害者による「サイニングストア」など、多様性を体感できる革新的な店舗運営を実現。

取組

成果

基本情報

設立:R元年 / 農福連携取組開始:R元年
取得認証等:認定農業者(R元年)、GGAP(R6)、6次産業化認定事業者(R4)
主な選定表彰:ノウフク・アワード2022フレッシュ及び2024準グランプリ(地域)、ディスカバー農山漁村の宝(第9回/全国)

概要

主力商品
(農作物)水稲
(加工品)米粉バウムクーヘン

特徴的な取組

スマート農業、特別栽培農産物、6次産業化

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

住所:愛知県犬山市大字犬山字上り屋6番地11

TEL:0568-54-4717

Mail:shop@cocotomo-farm.jp

URL:https://www.cocotomo-farm.jp/

請負報酬の支払額

0円(R2)
→782万円(R6)農作業に関わる
障害者等の数4人(R2)
→89人(R6)

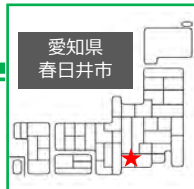
売上高

3,280万円(R2)
→56,106万円(R6)

農地面積

8.2ha(R2)
→11.8ha(R6)

- 米粉スイーツや地域コラボ商品の開発により、農産物のブランド価値と市場競争力を強化。
- 地元行政、大学、企業と連携し、多分野での協働を拡大。農業だけでなく観光・教育・福祉を巻き込む「地域共生型の農福モデル」を形成。
- 「コトモフェスティバル2025」では約3,000人を集客し、地域全体を巻き込むイベントを実現。障害者と地域住民が共に楽しみ、交流できる場を提供。



農業法人として花き鉢物の生産を通年で実施しており、精神障害者1名をパート社員として雇用するほか、近隣の障害福祉サービス事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名の受入を実施。

基本情報

- 所在地：愛知県春日井市
- 団体名：(有)H & Lプランテーション
- 選定表彰：中日農業賞 中日賞
- 主力商品：植物苗
(ハーブ・花・野菜・多肉植物など)
- 取得認証等：－



取組の概要

- 農地1haで、ハーブ、花、多肉食物、野菜等の苗を生産し、自ら販売も実施。
- 障害者を農場の貴重な人材として直接雇用。
- 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」(愛知県認定)がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- 法人の代表取締役は、日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得するなど、障害者の受け入れに熱心に取り組む。

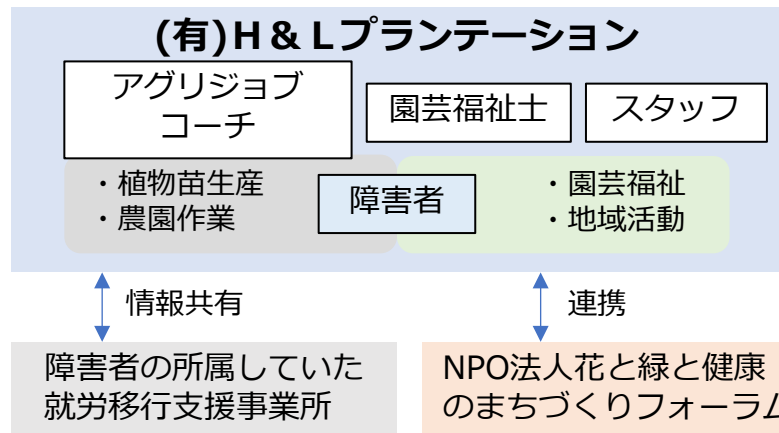


花苗の移動作業



花苗の施肥作業

体制図



取組の成果

- 花き鉢物の生産に携わる作業を委託することで、年間を通した受け入れを体制を実現するとともに、精神障害者1名をパート社員として雇用。
- 障害者の所属していた就労移行支援事業所と連絡を密にし、障害者への接し方の留意点を把握することで、ケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。
- 地域のNPO法人と連携し、動物園や植物園の花壇の植栽作業や花材提供等を年3回行い、障害者の作業による成果を地域に発信している。

所在地 ▶ 愛知県春日井市明知町794番地

連絡先 ▶ TEL:0568-88-0858 E-mail: kasugai@h-and-l.co.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.h-and-l.co.jp/index.html>

【取組のプロセス】

平成12年から、障害者の受入れを開始

平成12年

NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラムと連携し、障害者の自立支援に取り組む

平成19年

平成24年から、農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」を導入

平成26年

青パパイアに関する専門サイトをオープンするなど、関連企業との連携による横展開を図る

令和2年

今後の展望

きっかけ

植物や園芸・農芸作業を活かした健康・福祉・環境・まちづくりを行う「NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラム」を通じて、農福連携、園芸福祉活動を開始

園芸福祉士を中心に障害者の自立支援に取り組む

- 代表者が日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得し、園芸福祉活動の地域への普及や啓発、障害者の受入れに熱心に取り組む。
- NPO法人花と緑と健康のまちづくりフォーラムと連携し、障害者の自立支援に取り組む。

アグリジョブコーチがほ場で指導

- 近隣の福祉事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名を受け入れ。
- 花き鉢物の生産に携わる作業を福祉事業所に委託することで、年間を通した受け入れを体制を実現。
- 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ（愛知県認定）」がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- 障害者のケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。

障害者の受入れを拡大

- 精神障害者1名をパート社員として雇用。
- 令和3年、愛知県が実施する「愛知県版農業ジョブコーチ養成研修」の講師を担当。

営利活動と社会貢献活動の両立

- 社会貢献活動と営利活動の両立により、農場スタッフの“やりがい”と“達成感”を得ることに繋がっている。
- 今後も営利活動と社会貢献活動の両立を進める。



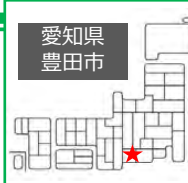
野菜の苗の生産（ナス）



アロエ各種



花の生産（ペチュニア）



福祉事業者として、自然栽培で水稻や野菜の生産を行うほか、出荷調製、加工、販売まで全てを実施。手間のかかる自然栽培を行うことによって、障害者就労意欲の向上に繋がり、耕作面積が増加。

基本情報

- 所在地：愛知県豊田市
- 団体名：社会福祉法人 無門福祉会
- 選定表彰：第4回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」優良事例選定（東海農政局）
- 主力商品：自然栽培による農産物（米、たまねぎ、きゅうり等）の他、菌床椎茸
- 取得認証等：－



取組の概要

- 現在7.7haの農地において、米、オクラ、にんじん、はくさい等約30品目の作物を無農薬・無肥料で自然栽培。また、養鶏農家で約300羽の飼育作業、菌床椎茸を年間15,000菌床栽培。障害者は、農作業全般のほか、出荷調製、加工、販売まで実施。
- 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低かったが、平成26年に自然栽培に切り替えたことで就労意欲が向上。
- 開所当初は、障害者には石拾いなどの単純作業を割り当てたが、飽きてしまうなどの様子が見られたため、その後、比較的難度の高い収穫や選別作業などにも従事。



いちごの虫取り作業



さつまいもの収穫作業

体制図

就労/毎日

- ・農業生産法人
みどりの里
(果樹、野菜)
- ・高木養鶏
(飼育作業)

自然農福の力
(ばれいしょ)

就労/随時

無門福祉会

自ら7.7haの農地で
自然栽培/菌床椎茸栽培

ライフサポートむもん
(施設入所支援・生活介護)

むもんカンパニー
(就労継続支援B型)

むもんカンパニー 青い空
(就労継続支援B型・生活介護)

⇒参加

農福連携自然栽培
パーティ全国協議会

・トヨタ自動車社員
ボランティア

・近隣の小学生

⇐支援/体験

取組の成果

- 農業技術の高さが評価され、平成26年からは、市内の農業法人から農作業の請負を開始。
- 障害者が作業に習熟することにより、いちごポットの土詰めは、1日あたり100ポットから1,000ポットへと10倍の処理が可能になった。
- 自然栽培への切り替えにより、農業に手間をかけることで就労意欲の向上につながり、自然栽培開始直前は0.1haほどだった耕作面積が、現在では7.7haまで増加。また、令和4年度の売上高は、3事業所合計で約6,600万円。

所在地 ▶ 愛知県豊田市高町東山7-43

連絡先 ▶ TEL:0565-45-7883 E-mail:info@mumon-fukushi.net

ウェブサイト ▶ <https://www.mumon-fukushi.net/>

【取組のプロセス】

農福連携により
農業に取り組むが
うまくいかない

昭和63
年

きっかけ

昭和63年の開所以来、農業に取り組んでいたものの、
売上が伸び悩み、農業部門の廃止を検討する中で、自然栽培に取組はじめる

自然栽培に切り
替える

平成26
年

開所以来、農作業に取り組む

- 昭和63年の開所以来、農作業に取り組む。
- 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低下。

・休耕地を借り受
け本格的に自然裁
培を開始

・自然栽培農家と
の連携を開始

平成28
年

自然栽培に切り替え、魅力ある農業に変わりモチベーションアップ

- 平成26年から、無肥料・無農薬の自然栽培に切り替え、おいしく安心な野菜栽培、環境に配慮した魅力ある農業となり、就労意欲が向上。耕作面積と売上高の増加に繋がり、経営にも効果を上げる。
- 農業は作物によって様々な作業があり、共同作業を通じ、利用者と職員との関係性もよりフラットとなるなど、他の施設内作業にはない効果があると確信。

自然栽培による
農福連携を通じて
荒廃農地の解消を
目指す団体「農福
連携自然栽培パー
ティ全国協議会」
を設立

平成29
年

福祉事業者自らが休耕地7.7haを耕作

- 平成26年から、農作業の場として、市内の荒廃農地の再生を開始し、7.7haを福祉事業者自らが耕作。障害者が、農地を維持する役割を担う。
- 令和6年1月現在は、知的障害者を中心とした施設利用者95名が、米と野菜の生産、加工を通年で実施。

・農業ボランティア
を企業に呼び掛
け、トヨタ自動車
社員ボランティア
による農作業がは
じまる

令和6年

・地元小学校と一
緒にお米作りを始
める

今後の
展望

障害者が「地域につながる」ことが「地域をつなげる」ことになる

- 地元の子どもたちに向けて、自然に触れながら食を楽しく学ぶ「こども体験農場」を毎月1回実施。
- 自然栽培による農福連携を通じて荒廃農地の解消を目指す団体「農福連携自然栽培パーティ全国協議会」を通じて、障害者による自然栽培の農業を全国に広げていく。



無肥料・無農薬で
約30品目の野菜を栽培



いちごも無農薬で栽培



ボランティアの皆さんと
田植え作業



「こども体験農場」
パネルを用い作業説明

障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、農福連携×都市農業による米の付加価値向上を行う。また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。

福祉事業所

愛知県名古屋市



基本情報

設立: H24年 / 農福連携取組開始: H28年

取得認証等: 認定農業者(R7)、農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R4)

主な選定表彰: R4年度名古屋市食育イノベーション大賞優秀賞

概要

主力商品
(農作物)米、白菜、サツマイモ
(加工品)一味唐辛子

特徴的な取組
環境保全型農業、自然栽培、特別栽培農産物、スマート農業、ユニバーサル農園

体制図

株式会社ウィンパートナーズ

- ぽかぽかケアサポート (訪問・居宅)
- ぽかぽかワークス (就労B)
 - ・ぽかぽかファーム
 - ・ぽかぽか自然農園元中野町 (市民農園)
 - ・子ども未来基地 (ユニバーサル農園)

住所: 愛知県名古屋市中川区荒子5-165
TEL: 052-398-6320
Mail: kudo@win-p.com
URL: <https://www.win-p.com/>

きっかけ

H28年

人を耕す

地域を耕す

未来を耕す

取組

内職や施設外就労メインの事業所から、県の農福連携セミナー参加をきっかけに農業に参入。循環型農業と農福連携に取り組むほか、子ども参加型体験などを展開。

- 障害者だけでなく、生活困窮者やひきこもり20名で取り組む。刑務所出所者も5名受け入れ。
- 農作業マニュアルや工賃規定等を整備することで作業効率を高め、工賃とモチベーションが向上する仕組みを構築。また、スパイダーモアや刈払い機などの作業を障害者が行える環境を整備し、作業効率をさらに向上させた。
- 農作業を通じて、地元の信頼を獲得し、農業土木委員等で水回りを担う者を輩出。

- 生産が減少している愛知県の伝統野菜「野崎白菜」の生産・販売を行い、普及に寄与。
- 認定農業者、JAの正組合員、地域計画の担い手として、荒廃農地14,588㎡を開墾・再生し、農地面積を9haまで拡大。
- 地域のお祭りや防災訓練イベントへの参加、自然栽培の農業体験イベントの実施などを通じ、地域住民や学生ボランティア、行政、企業・団体など地域の交流・連携の場を創出。

- 都市部での循環型農業の拡大を目指し、アイガモロボを活用した米作りを実施。子どもがスマート農業技術に触れることで、農業の価値観の変革も目論む。
- JAなごや、中川区社会福祉協議会、地元企業・飲食店等と連携し、稲作の農業体験「みんなで未来をつくる米！プロジェクト」を実施し、都市農業の保全、地域活性化に寄与。

平均工賃月額	交流人口	売上高	農地面積
11,837円(R2) → 21,367円(R6)	165人(R3) → 3,513人(R6)	190万円(R2) → 1,625万円(R6)	2ha(R2) → 9ha(R6)

成果

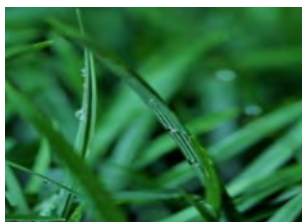
- 1名が一般就労し、生活困窮者2名が事業所の職員として活躍。その姿を見て、他の障害者も一般就労を目指して訓練するなどの好循環を生む。
- ユニバーサル農園を開設し、従来の農業にとらわれず、間引き菜をその場で食べる、除草しながらおいしい雑草を探すなど自由で遊び心のある農体験を提供。多世代かつ障害者、ひきこもり状態の者、生活困窮者など多様な人が参加し、交流できる場を創出。
- 農福連携×都市農業というブランディングで成功し、米の付加価値向上を果たす。現在は、結婚式の両親贈呈品(体重米)としても全国で販売。



障害者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的として、造園や緑化工事に欠かせない植物「タマリユウ」の定植、除草作業などを就労継続支援A型事業所に年間を通じて委託。

基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：株式会社 イシイナーセリー
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021 優秀賞
- 主力商品：タマリユウ（玉竜）
ユリ科（キジカクシ科）
- 取得認証等：－



取組の概要

- 地域の社会福祉法人から草取りなどの軽作業で障害者を受け入れたことがきっかけで障害者を直接雇用。障害者の継続雇用と就労拡大を目的にNPO法人を設立し、就労継続支援A型事業所きらの運営を開始。
- 造園や緑化工事に欠かせないタマリユウの出荷量日本一の生産者として、農作業をさらに委託し、知的、精神、身体障害者の計11名がタマリユウの定植、除草作業などに従事。年間でマット約9万枚、約90万ポットを生産。
- 大量生産には就労継続支援A型事業所との連携が不可欠であり、色や葉丈など均一かつ顧客ニーズに細かく対応。



広々とした農場で、丁寧に除草



サービスエリアに設置した花壇



作業ごとに札を立てて、作業を見える化

体制図

取組の成果

農業経営体

株式会社 イシイナーセリー

● 意見交換

● 農作業委託

福祉部門

特定非営利活動法人ヘルプランツ

● 品質向上に向けて定期的な意見交換

就労継続支援A型事業所
き ら ら



取組実績

項 目	単 位	取組当初	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和5年度
利用者賃金	月額 円		83,269	92,634	96,600	98,895	12万円弱

- 賃金は、他の利用者へのフォローや出勤率など、単なる枚数だけの評価にならない仕組みを取り入れており、自己肯定感を下げない工夫を行っている。
- 作業の効率化と改善の取組を続けることで、生産性、品質が向上し、造園のプロから選ばれ続けている。

所在地▶三重県鈴鹿市住吉

ウェブサイト▶<https://www.best-tamaryu.com/>

【取組のプロセス】

昭和46
年

平成12
年

平成23
年

平成27
年

平成30
年

今後の
展望

新規就農し、個人事業としてサツキなどの生産を開始

知的、精神、身体障害者、ひきこもりの状態にある者と農作業に取り組む

労働環境、働きやすさの改善を進めるため、作業器具などにも工夫した。

伊勢志摩サミット開催記念事業受託

駒沢オリンピック公園 球技場屋根緑化への納品

県内外へ、障害者も価値の高い造園施工を担えると、広く示すことができた

きっかけ

平成12年頃に近隣の社会福祉法人から農作業を希望する障害者を紹介され、働く姿に可能性を感じたことがきっかけで取組を開始

障害のある人とともに地域と農業の明るい未来を創る

- 平成23年に障害者の継続雇用と植木産地における就労拡大を目的とした特定非営利活動法人ベルプランツを設立し、同年に就労継続支援A型事業所きららを開所。
- 造園や緑化工事に欠かせない植物であるタマリユウの定植、除草作業などの農作業をA型事業所きららに委託。

特性、得意分野を活かした仕事の配置

- 平成27年、個人事業から株式会社イシイナーセリーへ法人化。経営方針は「最高品質のタマリユウ生産を通して、お客様に感動と笑顔を提供し、障害のある人とともに地域と農業の明るい未来を創る」。
- 能力や性格を把握して、チーム編成や能力に合わせた作業の割り当てを行い、特性や日々の状態にあった作業を探ることで適材適所の配置を実施。

高付加価値と働きがい

- 作業の効率化・改善を重ね、造園のプロから選ばれる高品質な商品づくりにより平成30年には県内平均賃金月額より約32%高い賃金を実現。
- 駒沢オリンピック公園 総合運動場 新屋内球技場の屋根緑化への納品の他、サービスエリアでは、花壇デザインから設置・管理・撤去に至るまでを職員と利用者が共に行ない、通常の農作業では味わえない目に見える仕事ならではの面白さを感じられたことで、出勤率が向上。

障害の有無に関係なく 新たな担い手とともに活躍できる産業

- 植木農家と福祉事業者のマッチングで農福連携の輪を広げた施設外就労の取組を継続して実施。
- 農業大学校の実習受け入れやひきこもりの状態にある者や生活困窮者へも門戸を広げ就労拡大を図り、農福連携の推進、地場産業の発展を目指していく。



聖火リレー出発点の駒沢オリンピック公園の緑化



日本パラ水泳選手権大会にて市松模様を表現



マットタイプを利用した造園施工の様子

トレーから外すだけで「緑のじゅうたん」が完成する。造園工費コスト削減だけでなく、障害の有無に関係なく作業ができるメリットもある。



福祉施設と連携し、ウェルビーイング（肉体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態）な「生き直し」を支援する農業カリキュラムの場として確立させるとともに、著名ブランドなどで採用されるいちごの生産を実施。

基本情報

- 所在地：三重県伊賀市（伊賀農園）
- 団体名：遊士屋株式会社
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
フレッシュ賞
- 主力商品：いちご

完熟クラフト莓 B E R R Y
(自社ブランド)

- 取得認証等：－



取組の概要

- 連携する（一社）ワンネス財団が運営する施設を卒業した者（知的障害、発達障害、各種依存症、ひきこもりの状態にあった者などの生きづらさから回復した者）を一般就労の形で雇用。
- ワンネス財団は福祉カリキュラムとして農園での作業を採用しており、週平均20名ほどが農園での作業を通し、他者と関わり合いながら、自身の抱える障害に向き合い、生き直しに向けて取り組んでいる。
- 直販と輸出に注力した品質特化の栽培戦略を採用。自社ブランドとして「完熟クラフト莓BERRY」を立ち上げる。農園から個人宅への直送を行う他、著名ブランド・国内外のトップシェフらから採用。



いちごの栽培



ハケを使用して丁寧に選果



多様な年齢・背景を持つメンバーが働く

体制図



取組の成果

- 消費者の声が直接届くことや、有名な店舗などで採用されることで、障害者の生き甲斐に繋がっている。
- 地域のお祭りなどのイベントに出店し、冷凍いちごスムージーや、ホットワインなどの提供を実施することで地域の活性化に貢献。
- 地域の荒廃農地、遊休農地を活用し、令和2年～3年は、自社サイト経由だけで1,800件を超える消費者へいちごを届け、デジタル販売の活用が注目されGoogle社のテレビ広告に採用。

所在地▶三重県伊賀市法花3605

連絡先▶TEL：080-1618-5059 E-Mail：info@berryjapan.com

ウェブサイト▶https://berryjapan.com

【取組のプロセス】

強みを活かせるよう作業分野を分担し、それぞれに責任範囲を持つような作業設計を行う

福利厚生として、スタッフの心身の健康のため手作りの食事を振る舞い、チームの結束が高まる

個人向け直販、プロ向け直販、輸出等、売上を分散したことで、コロナ禍でも経営資源を最適に分配する体制が構築できた

家族を畑に招いたり、母の日に会社経費で各自の母親へいちごを贈るなど家族とのコミュニケーションを重視

作付け面積55a、育苗施設などの150aは全て地域の荒廃農地、遊休農地を有効利用

平成29年

きっかけ

様々な生きづらさによって、一度は人生やキャリアに立ち止まってしまった方が、再び生きがいを持って「生き直すことのできる場」を作りたいという思いから、肉体的、精神的、そして社会的にも、すべてが満たされた状態を目指す農園として設立

再び生きがいを持って「生き直すことのできる場を作りたい」

- 平成29年10月、農福連携の実現を目指し三重県伊賀市の荒廃農地を賃借し、いちごのテスト栽培を開始。
- 農業と福祉を掛け合わせるだけでなく、「世界一だと誇れる仕事をする事」を掲げ、世界中に自分たちの作ったいちごを届けることを事業の根幹に据えて環境整備、仕組みづくりを行う。



BERRYの莓が
人気パティスリーに採用

令和元年

自社ブランド「完熟クラフト莓BERRY」を発表

- 令和元年12月、高級高品質の自社ブランドとして、「BERRY」を立ち上げ、個人向けのデジタル販売を開始。
- 国内直接販売とタイ・バンコク・シンガポール・台湾・香港などへ贈答品として輸出を開始。
- 英国王室御用達の陶磁器ブランド創設記念キャンペーンやミシュラン掲載レストランで採用となる。



BERRY使用のケーキ

令和2年

地域とともにある農園

- 地元在住のスタッフを雇用することで障害者等への理解を広げ、高齢化集落で土地を借り、若い人材を増やしている。
- 地域と障害者のコミュニケーションを増やすため、令和2年後半から地域イベントへ積極的に出店。
- 地域住民との対話など様々なゲストを招き、交流することで社会性や自己肯定感が育まれている。
- 育苗施設、作付け等を行う農地は地域の荒廃農地や遊休農地を活用。



一人一人が主役として働く

今後の
展望

地球の未来に繋がる技術革新に取り組む

- 農福連携の枠組みにとらわれず、気候変動後の時代を見据え、環境負荷を限りなく減らした持続可能な栽培方法の確立という目標を定めて、当社農園敷地内に研究所を建設し、CULTIVERA社と共同で実証研究を開始。
- より大きなビジョンと課せられた使命が、障害者等のモチベーションアップへ繋がる。



平成22年に就労継続支援事業所を開設し農業に参入するとともに、平成25年にはステップアップカフェ開設により飲食事業に取り組む。障害者が好きな作業、得意な作業を選択することで作業の能率を上げ、高収入が得られる組織作りに取り組む。

基本情報

- 所在地：三重県鈴鹿市
- 団体名：社会福祉法人朋友
- 選定表彰：
 - ・ ノウフク・アワード2022準グランプリ「人を耕す」
 - ・ 第10回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」東海農政局選定
- 主力商品：水耕栽培（リーフレタス、水菜、小松菜等）、露地野菜（大根、里芋等）、弁当、パン、総菜
- 取得認証等：認定農業者、ノウフクJAS



「ひびこれ弁当」
自社農場の農産物を
使った農福弁当

取組の概要

- 農業部門は、ハウスの水耕栽培を中心に露地栽培でも野菜を生産。露地栽培の農地は97a（平成30年）から153a（令和3年）に増加。
- 飲食部門は、平成25年にステップアップカフェを開設、平成27年にはCotti菜Deliを開設し弁当作りで障害者雇用を開始。
- 令和4年に弁当・パン・総菜の製造販売とイートインコーナーを併設した新店舗を開設。売上は2,149万円（平成30年）から3,486万円（令和4年）に増加。



わか菜の杜での
水耕栽培



令和4年4月開店の新店舗
「Cotti菜」



「Cotti菜」で作った
パンの販売

体制図

社会福祉法人朋友

農業

わか菜の杜

野菜の栽培
(ハウス及び露地)

出荷

農業等

コスモス

野菜の栽培
(ハウス及び露地)
加工品製造
(クッキー)

出荷

工業

アクティブ鈴鹿

サービス業

Cotti菜

弁当、パン、総菜の製造、販売

取組の成果

- 就労継続支援B型事業所「わか菜の杜」及び「Cotti菜」を合わせた令和4年度の平均工賃は42,685円を達成（令和4年全国平均は17,031円）
- 利用者数は10名（令和4年3月）から17名（令和5年3月）に増加。
- 令和4年には、就労継続支援B型事業所「コスモス」の経営も担い、障害者雇用及び農業生産拡大に取り組んでいる。

所在地 ▶ 三重県鈴鹿市三日市南三丁目18-23

連絡先 ▶ TEL: 059-389-7789

E-mail: cottina@active-suzuka.com

ウェブサイト ▶ <https://www.active-suzuka.com>

【取組のプロセス】

知的障害・精神障害者を中心に加工作業に取り組む

平成12年

きっかけ

製造業で障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知り、勉強会を踏まえ、農業分野での障害者の活躍の場を作り出せる確信を得たことから農福連携の取組を開始

2つ目の柱となる農業分野「わか菜の杜」を立ち上げる

平成22年

障害のある方の社会参画を推進

- 平成18年に自動車用部品製造の事業所を設立。障害者を雇用する中で、障害者もそれぞれ就きたい仕事があることを知る。
- 農業とレストランの分野で障害者が活躍できる場所を作れないか、勉強会を実施。

3つ目の柱となる飲食分野Cotti菜Deliを立ち上げる。

平成26年

新たな事業の展開

- 平成22年のリーマンショックで製造業が停滞したため、障害者が働く場の創出に向け、勉強会で障害者の活躍に確信を得ていた農業分野に進出。
- 平成25年に三重県の公募に申請し、障害者が働くステップアップカフェCotti菜を開設。平成27年に鈴鹿市でCotti菜Deliを開設し、弁当作りで障害者を雇用。
- 令和2年12月にノウフクJASを取得。

令和2年12月ノウフクJAS取得

新店舗設立に向けた経営支援

令和4年

新店舗「Cotti菜」を設立

- 令和4年にCotti菜Deliを移設する形で新店舗を開設。
- 新店舗では、障害者の就労を増やすとともに従来から働く障害者から希望があったパンや総菜を調理・販売するスペース及びイートインスペースを設け、店舗内で弁当やパン等を食べられるようにした。
- 店舗内の販売スペースには、わか菜の杜の野菜や三重県内の農福連携商品販売コーナーを設け、農福連携事業の情報発信基地にもなっている。

新店舗Cotti菜を設立

今後の展望

障害を持つ子供たちの働く将来を考える場の提供

- 隣接する放課後等デイサービスに通う障害を持った子供たちに、障害者が働く職場の見学及び就労体験の受入れを行い、早くから働くことを知り将来を考える機会を提供。
- 障害に対する悩みや不安を話し合ったり、福祉制度の勉強会等の活動を行う。



ノウフクJAS認定野菜



Cotti菜での弁当作り



Cotti菜での弁当及び野菜の販売コーナー



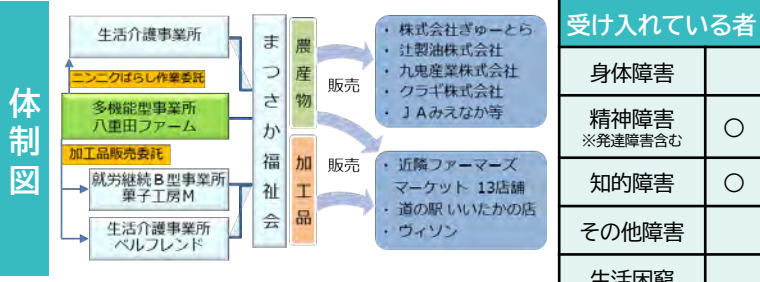
Cotti菜の三重県内農福連携商品販売コーナー（上段）

ハウスでのいちご栽培を中心とした農作業を通年で実施。県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIAGAP認証を取得。高品質ないちごを生産することで、県農業の担い手として期待。



基本情報
設立: H30年 / 農福連携取組開始: H30年
取得認証等: ASIAGAP認証(H31)JGAP移行(R8)

概要
主力商品
(農作物)いちご、ナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等
(加工品)ジャム、漬物、ドライフルーツ、焼き菓子等
特徴的な取組
高設栽培システムの導入



住所: 三重県松阪市八重田町31-6
TEL: 0598-63-1551
Mail: mu-yaeda@mctv.ne.jp
URL: <https://mukaiyaebell.or.jp/office/yaeda.html>

きっかけ

H30年
利用者と屋外での作業がしたいという思いから、法人理事の農地等を借り、25aの農地からスタート。

人を耕す

- 利用者の方には色々な作業に挑戦してもらい、適性に合った作業を探し、得意な作業を通じて作業への自信を持てるように支援。苦手な作業はしないのではなく、できることを取り組んでもらい、小さなことでも「できた」という達成感を感じられるように支援。
- 猛暑対策に空調服、寒さ対策にヒートベストを導入し、身体的配慮を行っている。また、休憩の時刻は定めず、その日の作業内容や気候等によって、臨機応変に休憩を取るよう工夫。

地域を耕す

- 地域の高齢農家の農地を管理することで、耕作放棄地を減らしている。また、地域の草刈りや砂利敷き、水路の土あげ等にも取り組んでいる。
- 農産加工品の製造・販売において、地域内の業者を積極的に利用。
- 子供会の芋ほり用のさつまいも苗を無償で提供。

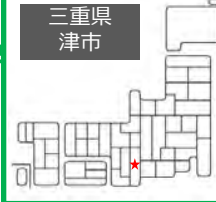
未来を耕す

- 工賃向上第一ではなく、利用者支援を一番に考えている。色々な経験を積んで成長し、さらに新しいことにチャレンジしていくことで、生活面も充実していく。
- 成長を促す支援の結果、1人1人のできることが増えて行き、作業もたくさんできるようになり、比例して収益が増えてきた。
- 令和4年度から少年院の在院生の実習を受け入れ、令和7年度から刑務所の受刑者の職場体験を受け入れ、農福連携の強化に取り組んでいる。

成果

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
31,650円(R2) →45,000円(R6)	17人(R2) →17人(R6)	2,550万円(R2) →2,900万円(R6)	2.5ha(R2) →3.0ha(R6)

- 平成31年には、三重県内の障害福祉サービス事業所で初めて、いちご生産でASIAGAP認証を取得。(ASIAGAPが令和10年に終了し、JGAPと一本化するため、令和8年2月JGAPに移行)
- いちごの品質が認められ、平成30年には国際線機内食にも採用。
- いちご導入当時より利用者ができる作業が増え、収穫作業にも従事。
- 県内大手スーパーと直接取引を開始。
- 生活介護利用者に対しても15,000円から20,000円を支給。(令和6年度)



平成27年から農業ジョブトレーナーの養成を中心に活動すると共に、障害者による農業体験の実施、特別支援学校との連携、障害者が生産した農産物を用いた商品開発など、幅広い取組を展開し、福祉事業所や農業経営体をサポートを実施。

基本情報

- 所在地：三重県津市
- 団体名：一般社団法人
三重県障がい者就農促進協議会
- 選定表彰：
 - ・第8回「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」
農林水産省 グランプリ
- イベント
 - ・農業ジョブトレーナー養成講座、スキルアップ研修等の開催
 - ・ノウフクマルシェの定期開催
 - ・県内大学のインターンシップ受け入れ(随時)

取組の概要

- 三重県独自の「農業ジョブトレーナー」の養成講座を開催しており、平成27年度から令和5年度で547名を養成。農福連携の理解者を増やし、福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者を育成を図る。
- 特別支援学校との連携では、農業ジョブトレーナーを作業学習(農業)やインターンシップの支援に派遣するなどして、農業経営体を進路先として選択する生徒もいる。
- JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取組、新たに農福連携に取り組む農業経営体や福祉事業所を支援している。
- 「ノウフクサポートセンターみえ」を開設し、農福、林福、水福連携のワンストップ窓口として相談や情報提供が的確に行えるよう体制を整備。



農業ジョブトレーナー養成講座



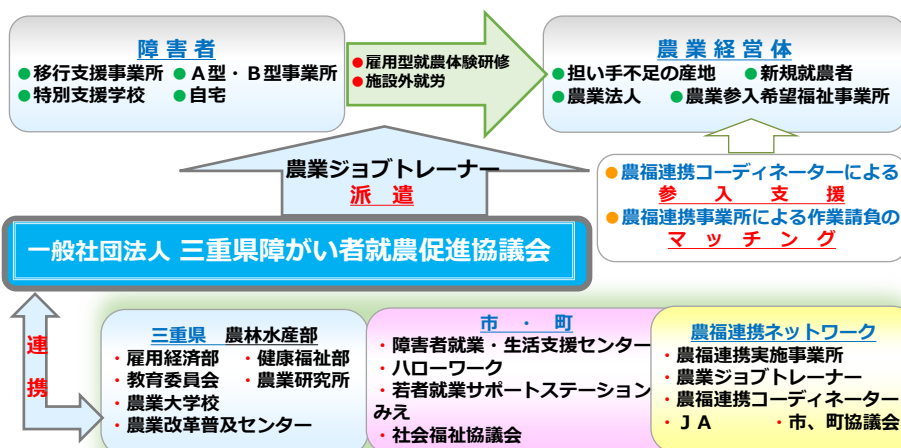
JA津安芸のキャベツの収穫(施設外就労)



特別支援学校くろしお学園

地域伝統野菜高菜の収穫

体制図

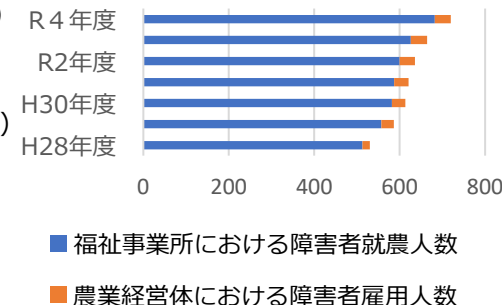


取組の成果

- ノウフクマルシェの定期開催19回(令和5年度)
- ノウフクJAS認定を取得した県内の4福祉事業所を中心に、ノウフクJASフェアを開催
- 新商品開発支援(18件) 新作付技術支援(15件)を実施。



農業分野で活躍する障害者数



所在地 ▶ 三重県津市桜橋2丁目142 三重県教育会館 1F
 連絡先 ▶ TEL:059-253-4187 E-mail: mieshuno@dune.ocn.ne.jp
 ウェブサイト ▶ <https://mieshuno.net>

【取組のプロセス】

平成27年

- ・平成27年10月1日設立
- ・雇用型就労体験研修実施
- ・キックオフイベント開催
- ・障害者就農支援
- ・スキルアップ研修開催

平成28年

- ・農業ジョブトレーナー養成講座開催
- ・農福連携マルシェの開催
- ・農福連携全国サミットinみえ開催

平成29年

- ・特別支援学校との連携開始
- ・施設外就労への支援

- ・新商品開発の支援
- ・新作物の作付指導支援
- ・ノウフクマルシェの開催

令和2年

- ・農福連携ワンストップ窓口設置
- ・JA三重中央会との連携

令和4年

- ・ノウフクサポートセンターみえの開設
- ・林福連携、水福連携の取組を開始

- ・ノウフクJASフェアの開催、インターンシップの受け入れ

今後の展望

きっかけ

農福連携を推進する中で、農業経営体からは「どう接していいかわからない」、障害者からは「農業の経験がないから不安」などの声があり、双方がなかなか踏み出せないでいる現状を痛感し、双方の不安を払拭するには、両者をマッチングし、就農に向けサポートする人材が必要と考え、農業ジョブトレーナー養成講座をスタート

農業ジョブトレーナーの養成と障害者の就農支援

- 農業経営者と就農を希望する障害者（家族も含む）の双方に関わり、障害者がより働きやすくなるよう支援・指導する「農業ジョブトレーナー」の養成講座を開催。
- 平成27年度から令和4年度末で547名を養成。農業ジョブトレーナーは、初めて農業に携わる障害者や、施設外就労に初めて取り組む福祉事業所及び農業経営体のサポーターとして、また、農福連携に取り組む福祉事業所や農業経営体及び関係機関等の担当者として活躍。

特別支援学校との連携 ～農業が進路選択の一つに～

- 特別支援学校の職場体験実習に農業ジョブトレーナーを派遣し、生徒と農業経営者の双方をサポート就職後も定着に向け、定期的に支援を実施。
- 県教育委員会及び特別支援学校の協力のもと農業教育プログラムを作成（令和2年度）。作業学習等に取り組む特別支援学校では、農業経営体を進路先として選択する生徒もいる。

ノウフクマルシェの開催・商品開発・販路拡大の取組

- 百貨店・駅ビル・ファーマーズマーケットで定期的にノウフクマルシェを開催。ファンが定着してきており、販路拡大につながっている。
- 生産物の加工品の開発や新たな作物の栽培支援を行いノウフク・ブランドの確立を目指している。

施設外就労の拡大とワンストップ窓口の充実

- JA三重中央会と連携し、施設外就労のマッチングに取り組み、農業に参入する福祉事業所を支援。
- 農福連携に関する相談窓口を東紀州地域にも設定し、いつでもどこでも相談できる体制を整備。
- 農業ジョブトレーナー養成講座やスキルアップ研修などにおいて、オンライン参加の環境を整備。

「ノウフクサポートセンターみえ」開設 令和4年8月

- 農業に加え林業、水産業との連携も視野に農・林・水福連携に関する相談や情報提供が的確にできるよう「ノウフクサポートセンターみえ」を開設し関係機関との連携を進めている。

県内大学のインターンシップの受け入れ開始

- 福祉事業所におけるインターンシップ実施のサポートおよび学生ボランティアの受け入れ。

企業・関係機関との連携の推進 ～ノウフクパートナー～の募集

- 農福連携の取組の趣旨に賛同し、作業委託、栽培委託、資材の提供、活動場所の提供、技術指導などともに活動していただく企業、関係機関との連携を進めていく。



多様な就労作業支援



石ころやコンクリートの破片を取り除き実習園として整備



生産物の加工品開発支援



農業ジョブトレーナーの派遣

放課後等デイサービスを運営する中で、障害者が社会参画できる場として農業参入。ワイン専用欧州ぶどうの栽培からワイン製造まで全て自社で実施し、国際交流にも発展。

福祉事業所

三重県
伊勢市

きっかけ

H
29
年

「人よりも遅くてもいい、少しずつできる事が増え、達成感や生きがいを感じられる働き場が障害者に必要」と考え、農福連携によるワイン作りを開始。

人を耕す

- 製造するワインやジャム等はすべて自社開発製品であり、原材料もすべて自社栽培しているため、中間マージンを削減でき、高い利益率は工賃向上に寄与。
- 一般就労の準備としてビジネス研修やソーシャルスキルトレーニング(SST)を実施し、障害者の積極的な学びの機会を創出。

地域を耕す

- ワインぶどう栽培はマニュアル化・ルーティーン化しやすく、健常者と障害者の受け持つ仕事の役割分担がしやすいため、生産性の向上を実現。
- 1haの荒廃農地を有効活用し、ワインぶどうという新たな農産物を栽培する挑戦は、地域の農林水産業の刺激となり、その発展に寄与。

未来を耕す

- ワインぶどう栽培・ワイン醸造の期間は3月～11月のため、さつまいも収穫、干し芋加工も組み合わせ年間を通じた仕事のサイクルを設計。
- 真珠貝の貝殻パウダーや廃棄貝肉を譲ってもらい発酵させ、たい肥化し、ほ場に散布することで、地域企業と連携した「ごみゼロ計画」に貢献。

基本情報

設立:H25年/農福連携取組開始:H29年

取組

成果

主力商品

(農作物)醸造用ぶどう、さつまいも、ブルーベリー
(加工品)ワイン、干し芋、ブルーベリージャム

概要

株式会社ケアプロフェッショナル

- ・高齢者リハビリ施設(みんなの家 三重県下6事業所)
- ・障害児リハビリ施設(放課後の家 三重県下4事業所)
- ・就労継続支援B型施設(ジ ョブ スタジ オ伊勢)
- ・伊勢ワイン(株)(ジ ョブ スタジ オ伊勢の完全子会社)
※伊勢ワイン(株):国税庁よりワイン醸造免許取得(酒販含む)
- ・伊勢ワイナリー(株)(ジ ョブ スタジ オ伊勢の完全子会社)
※伊勢ワイナリー(株):三重県認定事業者に指定

体制図

080-4814-8395/iwasaki@care-pro.co.jp

<http://care-pro.co.jp/>

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

平均工賃月額

12,000円(R3)
→18,000円(R5)

障害者数

2人(H29)
→11人(R5)

作付け本数

120本(H29)
→4,100本(R5)

農地面積

0.08ha(H29)
→1ha(R5)

- 農福連携がきっかけで伊勢市とワイン発祥の地ジョージアとの交流に発展。
- すべて自社栽培・自社製造のため、個々の持つ障害特性に応じて仕事を選択でき、幅広い障害者の活躍の場と能力開発の機会を創出。
- ワインぶどう栽培は新聞等で「農福連携による初の純伊勢産ワイン」として取り上げられ、農業者から農福連携の相談を多数受けるなど、農福連携の輪が拡大。

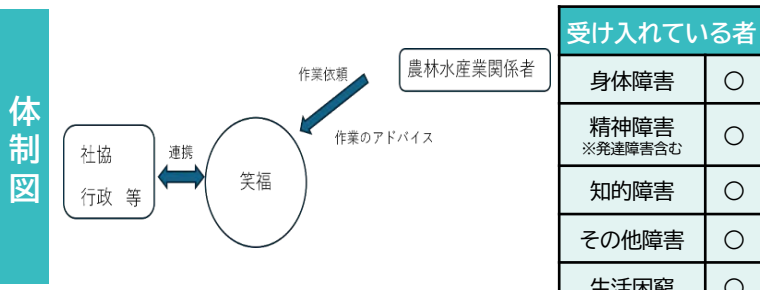


様々な関係者と連携して農林水産業の多様な仕事を農福連携等で請け負い、年間を通して作業を確保。生きづらさや働きづらさを抱えた障害者や引きこもり、生活困窮者等の地域における居場所作りに貢献。



基本情報
設立: R2年 / 農福連携取組開始: R2年
取得認証等: 認定農業者(R5年)

概要
主力商品
(農作物)いちご、米
(加工品)スマッジ、ヒノキオイル、ヒノキ石鹸
特徴的な取組
林福連携(ヒノキを使った加工品)、水福連携



住所: 三重県北牟婁郡紀北町馬瀬390-2
TEL: 0597-31-0294
Mail: umaze.fuku@gmail.com

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

きっかけ
R2年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組

支援を望む農家など地域の声に対し、就労により収入を得て自立したい障害者や生活困窮者の声があったことから、双方の課題解決を図ることを目指して活動を開始。

- 地域の農業・林業・水産業の多様な仕事を請け負うことで、個人の特性に応じた仕事を年間を通して振り分けることが可能。
- 個人の作業習熟度に合わせて、ハウス管理を一任したり、しめ縄づくりの担当者として、新規入所者の指導を任せたりと、責任をもって仕事ができる環境を整備。
- 日本農業遺産である尾鷲ヒノキ林業の維持のため、スマッジづくりやヒノキオイル、ヒノキ石鹸づくりを通じて新たな需要の開拓に向けた取組を実施。
- 県内のカキ養殖のロープ補修など、地域内外の関係者と連携して取り組み、水産業の維持に貢献。
- 地元の小学校と連携して、田植えや収穫、力カシ作り体験を実施し地域との関係性を構築。
- 地域の農林水産業の維持を図るため、生活困窮者や引きこもりの方など多様な人が様々な作業に携わり、双方の課題の解決を図りながら地域産業の維持に貢献。
- ヒノキの葉のスマッジ・オイル・石鹸への加工など、室内での作業が必須の障害者等にとっても取り組みやすい作業を確保。

平均給与月額	障害者数	農地面積	—
10,000円(R2) →25,000円(R6)	3人(R2) →7人(R6)	0.6ha(R2) →6.0ha(R6)	

成果

- 同じ作業を皆で行うため、自然と良好な関係性が構築され、相互理解が促されている。
- 取組開始当時は半日勤務で1万円ほどの月給だったが、R6年は2万5千円に増加。
- ひきこもりである者には、個人の特性に合わせて、しめ縄づくりやヒノキ加工等の内職に取り組んでもらうことにより、ひきこもりからの脱却につなげている。
- 荒廃農地の活用は60aから600aまで拡大し、農地の維持と地域農業の維持に貢献。



漁業関係者及び研究機関と連携し、カキ養殖用ロープの釘抜き、海藻の種苗生産作業などを実施。利用者が地域の基幹産業の一つである養殖業の工程に関与することで、地域とのつながり・働きがいを実感。

福祉事業所

三重県
鳥羽市



基本情報

設立: H29年/水福連携取組開始: H30年

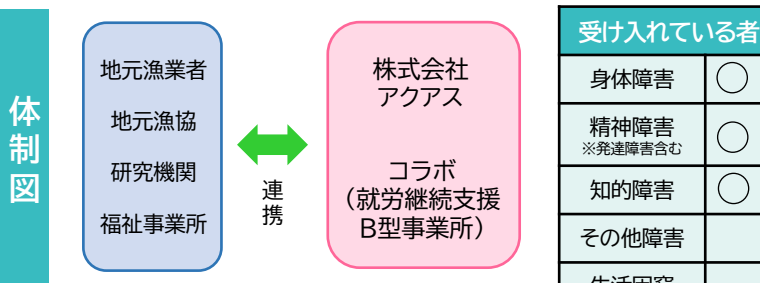
概要

主な作業内容

- ・カキ養殖用ロープの釘抜き

その他作業内容

- ・カキ天然採苗用コレクター作製
- ・黒ノリの種苗生産に使うカキ殻並べ
- ・黒ノリの品質検査 など



住所: 三重県鳥羽市鳥羽5丁目10-1
TEL: 0599-37-7175
Mail: info@aquas-inc.net

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	○

きっかけ
H30年
人を耕す
地域を耕す
取組
未来を耕す

利用者の就労機会の創出をめざし取り組む中、以前から市内の社会福祉協議会と漁業関係者の間で行われていた水福連携に着目し、取組を開始。

- 県が実施する「水産業ジョブトレーナー」の育成研修を受講した職員による作業ごとの手順の検討、利用者の適性に合わせた作業選定・作業指導を実施。
- 職員が作業を一方的に指導するだけでなく、以前から水産業に携わっていた障害者の経験を活かすことにより、利用者同士で教え合える環境を創出。

- 資材価格の高騰により、漁業者の中でカキ養殖用ロープを再利用する動きが広がっている中、ロープの釘抜き作業を受注することで漁業者の経費削減に寄与し、地域水産業の維持に貢献。
- R6年から医療従事者をめざす県内の大学生を受け入れて、利用者と一緒に水福連携の作業を行う作業体験会を実施。

- カキ養殖用ロープ釘抜き作業に取り組む複数の福祉事業所の実情を取りまとめた上で、ジョブトレーナー自らが漁業者に必要経費等の実情を伝え、地域の作業単価向上に貢献。
- 県が実施する「水福連携コーディネーター」の育成研修を受講した職員を中心に、作業要望の多い養殖用ロープ作業を市外の福祉事業所にも働きかけることで、県内における水福連携を推進。

水福連携作業従事者数 (延べ人数)	釘抜き作業単価 (ロープ1本あたり)	釘抜き本数	
7人(H30) →17人(R6)	21円(R2) →25円(R6)	7,350本(R2) →12,500本(R6)	

成果

- 地元漁業者との交流が増加したことにより、利用者と地域とのつながる機会を創出。
- 複数の水福連携の作業を実施することで利用者の工賃が向上。
- 近隣の福祉事業所と連携することで、漁業関係者から大量に依頼される作業にも対応。
- カキ養殖用ロープ釘抜き作業については市内外で波及し、R7年3月末時点で鳥羽市を含む5市町の福祉事業所で作業を実施。



NPO法人として認定農業者になり、障害者の力で地域の特産品であるイチジクとこんにゃくの認知を拡大したことで、市の特産品の栽培と製造の担い手として、地域農業をつくる一翼を担う。

基本情報

- 所在地：滋賀県栗東市
- 団体名：特定非営利活動法人 縁活（運営主体）、就労継続支援B型事業所「おもや」（事業所）
- 選定表彰：
滋賀県働く障害者を応援する農福連携モデル事業所（平成30年～令和4年）
- 主力商品：イチジク、トマト、こんにゃく、水稲、ぶどう etc.
- 取得認証等：平成29年 認定農業者



取組の概要

- 知的障害者を中心とする施設利用者が、平成30年にイチジクやこんにゃくいも等の生産を通年で行うとともに農山漁村振興交付金で整備した加工施設等により、こんにゃくを製造している。
- 開設したレストラン（オモヤキッチン）では、自然栽培で生産した野菜を提供するとともに、収益を増やすため、加工により作物の口スを減らす。
- 福祉事業を営むNPO法人として認定農業者になるなど、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。令和2年度より栗東市の農業委員にも任命を受け、地域農業をつくる一翼を担う。
- 令和5年度より、山間部の古民家を改修し新たな拠点『あるきだす』を構える。



農産物加工施設



再生された荒廃農地



新たな拠点『あるきだす』

体制図

特定非営利活動法人 縁活

グループホーム すうほ・たちきの実

就労継続支援B型 おもや

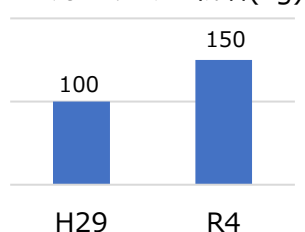
オモヤ☆キッチン

あるきだす

取組の成果

- 平成28年栽培開始のこんにゃくいもの生産量は、100kg（平成29年）から150kg（令和4年）へ増加。
- 平成26年に30aの荒廃農地を再生。その後も農地の再生を行い、現在（令和4年）、合計で180aと順調に農地面積が増加。

こんにゃくの栽培(kg)



所在地 ▶ 滋賀県栗東市霊仙寺 1 丁目 3 -24

連絡先 ▶ TEL：077-598-5368 E-mail：omoya@aria.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://enkatsu.or.jp>

【取組のプロセス】

平成23年

きっかけ

地域特産の農作物の栽培、地元で根差した活動の実施を目指してNPO法人を設立

地域特産を活かした加工品製造に着手し、収益向上

- NPO法人縁活によって設立された就労継続支援B型事業所おもやで、栗東市が産地で、単価の高い果実であるイチジクの生産を開始し、徐々に経営規模を拡大。

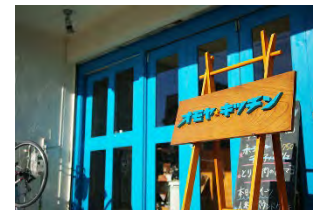


イチジク

平成27年

自家レストラン「オモヤキッチン」をオープン

- 野菜は12種類もの多品種を少量生産することで、直売所での販売品目を増やして販売。
- 作物のロスを減らして収益を増やすことを考えたレストランを開設。



オモヤキッチン

平成29年

福祉事業を営むNPO法人として認定農業者へ

- 荒廃農地を再生した約2haの田畑で、イチジク（ハウス4棟）のほか、自然栽培による水稻とトマト等の野菜（ハウス4棟）、こんにゃくいもを栽培しており、市の特産品の栽培と製造の担い手として、期待が高まっている。
- 令和2年度より栗東市の農業委員の任命を受け、地域農業の維持・発展に向けた一翼を担う。
- 栗東市内の中山間地域の活動を広げるため「栗東市農のある暮らし協議会」を設立しフォレストマーケットin成谷を年2回定期開催。



自家生産の野菜

令和元年

地元住民参加型の取組により、地域課題に対応

- 栗東産こんにゃくを自社の加工施設で引き続き製造、販売していく。
- 栗東の金勝地域にある古民家を改修し新たな拠点（あるきだす）を開所。子ども達とこんにゃく、味噌、醤油などを作る体験の場を作り、『農』と『食』を通じて、人と人の関係をつくる新たな集落の居場所となることを目指す。



利用者による水稻収穫風景

今後の
展望

人口が増加傾向の地区と過疎化が進む地区が併存する地域で、農福連携による地域課題の解決と地域共生社会の実現にチャレンジ

平成30年、子どもとこんにゃくいも植え付け体験や収穫・加工体験

平成30年「農山漁村振興交付金」を活用して、特産品である「栗東産こんにゃく」の製造等のための施設と休憩所を整備

農福連携で農作物の栽培のほか、養鶏と養蜂に取り組んでおり、施設利用者一人ひとりの成長を重視した就労機会を提供することで一般就労につなげる仕組みを構築。養蜂では官学と連携して商品開発なども展開。

農林水産業経営体

滋賀県
湖南市



基本情報

設立:H29年 / 農福連携取組開始:H29年

概要

主力商品
(農作物)卵、しいたけ、下田なす、弥平とうがらし
(加工品)蜂蜜、はちみつマスタード

特徴的な取組
自然農法、6次産業化、スマート農業

体制図

2017年5月～2021年5月までは株式会社チャレンジファームが障がい者を直接雇用していましたが、2021年6月に就労継続支援B型事業所「NPO法人こけっこ湖南」設立後は、2社で連携しながら農福連携を行っている。

住所:滋賀県湖南市針1380番地
TEL: 0748-72-4700
Mail: npokokekko@gmail.com
URL:https://www.challenge-farm.com/index.html

受け入れている者	
身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

きつかけ

H29年

社員の親族に障害者がおり周囲から支援を受けた経験から、障害者等が自信を持って働けるためのサポートをすることを目的に地元の養鶏場を引き継ぎ、農福連携の農園として設立。

人を耕す

地域を耕す

未来を耕す

利用者一人ひとりの成長を重視し、独自に作成した能力査定表による評価を年1回実施。

利用者本人と保護者とともに課題改善方法を考えることで、確実にスキルを積み上げ、一般就労へのステップを着実に歩む仕組みを構築。

屋外・屋内の多様の作業を用意することで、障害など多様な背景を持つ人々が働ける環境を整え、それぞれの特性に応じた就労機会を確保。

廃止する養鶏場の事業を引き継ぎ、300羽から養鶏を再開。現在は2,000羽規模へと拡大し、地産地消の推進など地域に根差した生産基盤を確立。

伝統野菜の弥平とうがらしの種の保存や鶏の餌としての活用、また加工品の開発をするなど地域資源の価値向上を図る。

他作業所との連携により、鶏糞と肥料を組み合わせた「プレミアム肥料」の開発や6次産業化にも取り組む。

養鶏・養蜂・6次化商品の生産はNPO法人こけっこ湖南に全面委託し、地域の就労支援の場と連携した事業モデルを構築。

平均工賃月額

10,000円(R2)
→11,500円(R6)

障害者数

5人(R2)
→7人(R6)

売上高(卵)

1,299万円(R2)
→1,528万円(R6)

売上高(養蜂)

100万円(R2)
→161万円(R6)

成果

能力の高い利用者を主任クラスとして育成し、通勤や原動機付自転車免許取得にも挑戦することを促し、自立心を育んでる。

様々な人々が互いを認め合い支え合う環境を整備し、賃金工場やステップアップの機会が増加や、誰もが安心して働ける職場環境を実現。

利用者の中から障害者枠で一般企業への就職を実現。

福祉系列高校・保育園など地域との連携により花苗や野菜を栽培し、販売することを通じて地域との交流を行い、将来の就労や社会的自立に必要なスキルや主体性を育成。

特別支援学校

滋賀県
長浜市



基本情報

設立:H18年 / 農福連携取組開始:H23年

概要

主力商品
(農作物)花苗、さつまいも

体制図

住所:滋賀県長浜市地福寺町3番72号
TEL: 0749-62-0930
Mail: st24242797@ms.pref-shiga.ed.jp
URL:https://www.hokusei-sh.shiga-ec.ed.jp/

受け入れている者	
身体障害	非公表
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きつかけ

H23年

人を耕す

地域を耕す

未来を耕す

取組

- R2の「企業の知見を活かした教育研究会」を契機に、(有)辻種苗との連携が始まり、本校の「園芸」授業で技術指導を受けるとともに、校外学習先として協力を得ている。
- 花苗や野菜の栽培を通して、一人ひとりの「根気強さ」と「やり抜く力」を育成。
 - 自分の手で育てた苗が大きく育ち、鮮やかな花を咲かせる姿を目にすることで、生徒は努力が形になる喜びを実感。
 - 発表会や販売会で地域の購入者から感謝の言葉を掛けられることで成功体験を積み重ね、将来への就労や自立へと繋がる基礎的な力を育成。
- 学校内にとどまらず地域とのつながりを広げることを重視した園芸活動を行っており、地域の消防署や警察署との交流も実施。
 - 隣接する保育園や長浜北星高校(福祉系列)との連携も進め、さつまいもの栽培や収穫を園児と一緒に活動を実施。
- 園芸活動は単に農業技術を学ぶ場ではなく、生徒の将来を見据えた「生きる力」を育てる教育活動として実施。
 - 販売会や交流活動を通じて得られる「人に喜んでもらえる経験」は、生徒の自己肯定感を高め、働く意欲を育てる原動力に繋げている。

障害者数	ビニールハウス	農地面積(畑)	
9人(R2) →16人(R6)	0.3a(R2) →0.3a(R6)	6a(R2) →6a(R6)	

成果

- 実際に社会と関わる体験を積み重ねることで、生徒は自分の役割や責任を自覚し、将来の自立に向けた力を強めている。
- 販売会で接客や会計を生徒が実施することで、社会に即したスキルを幅広く習得。
- 地域の一員として役割を果たす喜びを知り、地域社会に根ざした人材へと成長。



国産原料100%、原材料生産・製造・販売まで100%福祉事業所が行う「100%ノウフク連携ビール」を目指し、全国連携による原材料調達や6次産業化で収入の安定を図ることで、障害者の工賃向上につなげている。

基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 活動地域：都市的地域
- 団体名：社会福祉法人菊鉾会ヒーローズ
旧：特定非営利活動法人HEROES
- 選定表彰：
 - ・ ノウフク・アワード2020審査員特別賞
 - ・ インターナショナル・ビアカップ2020 銅賞（主催：日本地ビール協会）
 - ・ ジャパン・グレートビア・アワーズ2022 金賞（主催：日本地ビール協会）
 - ・ 全国地ビール品質審査会2024 優秀賞（主催：全国地ビール醸造者協議会）
- 主力商品：麦、ホップ、ゆず、茶、米麹
- 取得認証等：－

取組の概要

- クラフトビールの醸造及び販売に当たって、強度行動障害者（自閉症）をはじめとした障害のあるメンバー25名で、ビールの充填、ラベル貼り等を行う。
- 原料は国産にこだわり、大麦は群馬県、ホップは宮城県、ゆず、お茶の葉は京都府の農家へ生産を依頼。
- 障害者が作業しやすいよう視覚的に理解できるマニュアルを活用し、ラベル貼りや醸造作業等、障害者の作業工数を増やした作業内容となるよう工夫。



ビールの醸造作業



発酵タンク



ラベル貼り作業

体制図

社会福祉法人菊鉾会
旧：特定非営利活動法人HEROES



ヒーローズ(生活、B型)
旧：多機能型事業所HEROES(生活、B型)

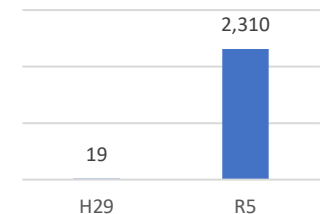


西陣麦酒醸造所

取組の成果

- 障害者の年合計工賃も19千円(H29)から、2,310千円(R5)へ大幅に増加。
- ビールの出荷量は、開始当初の1,700ℓ(H29)から、19,052ℓ(R5)に増加。

工賃（年合計、千円）



所在地▶京都市上京区大宮通今出川下る薬師町234

連絡先▶TEL：075-415-4646 E-mail：nishijin-beer@kikuhokokai.or.jp

ウェブサイト▶<http://nishijin-beer.com/>

【取組のプロセス】

平成25年

きっかけ

強度行動障害者（自閉症）の通所先確保を目的に生活介護事業を開始し、重度障害者でも仕事を提供できる事業所とするため、クラフトビールの製造を開始

強度行動障害者の通所先や適切な支援の確保のほか、重度障害者に仕事を提供できる事業所設立

生活介護事業の開始

- 開所の目的は、自閉症のいわゆる強度行動障害といわれる方々の通所先を増やすことで、適切な支援を受け安定して通所できるようになった際に、居場所ややりがいを提供する役割が必要であったことから生活介護事業を開始。



事業所外観

平成26年

生活介護事業所の授産科目として西陣麦酒醸造所設立

- 2 酒類製造免許(ビール・発泡酒)を取得しクラフトビールの醸造と販売を開始。
- ビール原料は、ほぼ輸入品である中で、「国産原料100%かつ、原材料生産から製造、販売まで100%福祉事業所が行う、100%ノウフク連携ビール」を目標に活動。



タンクでビール醸造中

平成29年

生活介護から多機能型（生活・就労B型）へ

- 農業と福祉の連携をイノベーションするように活動。
- 作業内容は、事務作業、P C入力や資料作成、発送作業、リネン作業のほか農作業を行う。
- 令和4年に法人格を社会福祉法人菊鉾会に変更し、令和5年に京町家工場へ移転リニューアル



作業スペースの様子

令和元年

原材料の100%国産化を目指す

- ノウフクをさらにオープンにし、プロジェクトチーム化などのイノベーションにより商品価値を高めていく。
- 原材料の国産化は製品の一部にとどまっているため、原材料確保のために生産できる事業を増やすことと、副原料となる農産物（柑橘類など）も増やしたい。
- 障害者が本当の意味で、地域で役割を得て、一住民として対等に存在し、豊かに生活すること目的に行動していく。



ビールの発表及び説明会

今後の展望

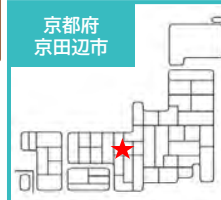
醸造所の設立による安定収入で、障害者の賃金向上、地域とのつながりによる地域生活支援を目指す

原材料の作付面積は、大麦で開始当初の10aが1haへ年々増加

農業関係者の広がりにより、農地所有者からの関心も高く、休耕地の活用につながる

障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来を目指し、荒廃農地を活用して万願寺とうがらしやハーブを生産・加工・販売するなど、「農業」を主軸とした取組を進める。

福祉事務所

京都府
京田辺市

きっかけ

R元年

「障害者が活躍できる仕事」として「農業」を軸とした取組を検討した際、障害者が「支援される側」ではなく「地域をつくる側」になる未来が見えた。

人を耕す

- 「福祉は地域に混ざりあうもの」という思いを持ち、地域の方々との話し合いを定期開催。
- 美味しい作物を生産・販売することで、工賃を高くでき、地域課題である荒廃農地の活用に寄与する。
- 畑作業と、室内作業の充実を図るため、ハウス整備と併せて、6次産業化を進めている。

地域を耕す

- ハーブを使用したスイーツやドリンクを提供する「三休カフェ」の運営を開始。
- 荒廃農地を活用して生産した万願寺とうがらし、ハーブ等を、JAや道の駅、飲食店に出荷。
- 野菜が入場料の音楽イベントや地域の大学と協働したイベントの開催。
- 民間企業等と連携し、ローゼルを用いたビールの開発を行う。

未来を耕す

- 障害者が「なりたい姿」に近づき、「やりたいこと」ができるようになる。
- ローゼル及びその加工品の販路拡大などにより、工賃向上を目指す。
- 地域の大学や地域関係者と連携したイベント等を通じて、地域との連携深化を図る。
- もっと働きたいと思った人が一般就労に挑戦できる「三休」を目指す。

基本情報

設立: R元年 / 農福連携取組開始: R元年

取得認証等: 認定農業者(R6)

主な選定表彰: 福祉未来価値創造大賞2020銀賞 等

取組

成果

主力商品

(農作物) 万願寺とうがらし、ハーブ、ベビーリーフ
(加工品) ハーブティー、ローゼルを使用したビール

概要

体制図

三休合同会社

三休

(就労継続支援B型事業所)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

住所: 京都府京田辺市大住池ノ谷45-1

TEL: 0774-66-2162

Mail: sekoguchi@3-kyu.com

URL: https://3-kyu.com/

平均工賃月額

6,000円(R2)
→16,000円(R6)

障害者数

18人(R2)
→27人(R6)

売上高

250万円(R2)
→1,400万円(R6)

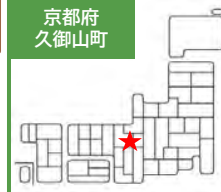
農地面積

0.2ha(R2)
→1.5ha(R6)

- 重度の知的障害者の得意なことやできることに着目し農作業を組み立て直すことで、彼らの役割をつくり仕事づくりを創出できている。
- R4年度のJAへ万願寺とうがらしの出荷量は前年対比2倍(約3トン)を達成。
- 民間企業や飲食店と共に開発したローゼルを使用したビール「THANK YOU FOR THE MUSIC」はジャパングレードビアアワーズ2022銀賞を受賞。

障害者目線の職場環境や作業手順に配慮し、九条ねぎをメインとした多品目の野菜の生産に取り組むとともに、障害者や就労困難者の雇用、就労支援にも積極的に取り組む。

農林水産業経営体

京都府
久御山町

全盲インターン生の受け入れ



京都府と連携して各作業マニュアル作成

き
つ
か
けH
2
9
年

福祉サービス事業所から試行的に農業技術を習得したいとの申し出があったことから、施設外就労として連携を開始。

人
を
耕
す

- 有期実習型訓練制度を活用し、責任感ややりがいを持って仕事をしてもらえるよう工夫。
- 障害者職員が企業在籍型職場適応援助者の資格を取得し、当事者でありながら若手障害者職員の援助を実施。
- 美術能力の高い障害のある社員が、商品POPやデザインを担当、農作業マニュアルの作成。

地
域
を
耕
す

- 地域の加工業者や販売者と連携し、規格外野菜を活用した加工品の生産し、収益向上や廃棄ロスの削減へ。
- 地域の社会福祉協議会が主催する認知症カフェ利用の高齢者や身体障害者等に対し、車椅子や手押し車でも収穫体験ができるよう配慮。

未
来
を
耕
す

- 農福連携の取組についてPRし、販路の拡大を図ると共に、障害福祉サービス事業所とのコラボ商品(加工品)を開発、ノフク JAS やGAPの取得を目指す。
- 障害等のある社員が、支援を受ける立場から支援する立場へキャリアアップを図り、農業分野でのロールモデルとして、他の農業者や地域での農福連携の推進を目指す。

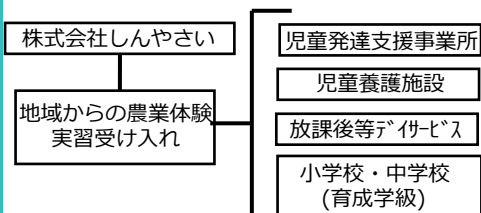
基本情報

設立: R4年 / 農福連携取組開始: H29年(個人)
取得認証等: 認定農業者(H29年)、京都府あとしる企業認証等
主な選定表彰: 京都府障害者雇用優良事業所表彰(令和5年度)
優良勤労者表彰(令和5年度)等

概
要

主力商品
(農作物) 九条ねぎ、長なす、金時人参、聖護院大根、
聖護院かぶ、新京野菜等の地域伝統野菜
(加工品) 規格外野菜を活用した加工品

特徴的な取組
当事者がジョブコーチ・農福連携技術支援者

体
制
図

住所: 京都府久世郡久御山町西一口新道北46
TEL: 075-682-8622
Mail: info@shinyasai.kyoto
URL: <https://www.shinyasai.kyoto/>

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

成
果

実習等受入人数

128人(R4)
→145人(R6)

障害者数

2人(R4)
→2人(R6)
[直接雇用]

栽培品目数

23品目(R4)
→29品目(R6)

農地面積

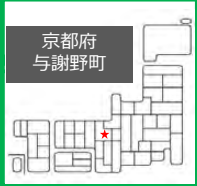
3ha(R4)
→3.5ha(R6)

- 障害者等が自身の経験を活かして、障害者雇用セミナーやシンポジウム、ニート・ひきこもり支援の交流会等で積極的に登壇、体験談等を話すことで様々な業種での理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創出につながっている。
- 地域生産者の伝統野菜廃棄品も仕入れ、加工することで地域の伝統野菜を守ることや、他の生産者の収益向上に貢献。
- 近隣の荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大が図られ、新たな品目を作付けし収益が向上。
- 京都府の取材を受け、マンガのモデルとなり農福連携啓発に貢献。

社会福祉法人 よさのうみ福祉会 (就労継続支援B型事業所「リフレかやの里」)

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可



規格外品に着目した農産加工による地域活性化として、地域の農業者から規格外品を受け入れて、農産加工品を製造し、その加工品を農家に売り戻す活動や、買い取って自主製品として販売する活動を実施。

基本情報

- 所在地：京都府与謝野町
- 団体名：社会福祉法人よさのうみ福祉会（運営主体）、就労継続支援B型事業所「リフレかやの里」（事業所）
- 選定表彰：
平成22年 厚生労働大臣賞受賞(加工品)
- 主力商品：九条ねぎ、ばれいしょ、かぼちゃなどの野菜etc.
- 取得承認等：－



未利用規格外の農産物

取組の概要

- 社会福祉法人よさのうみ福祉会が運営する就労継続支援B型事業所で、施設利用者16名が、野菜生産と農産加工、パン・ケーキ製造に通年で取り組む。
- 近隣の農業者をはじめ、府外の農業者等から広く、主に規格外の生産物を預かり農産加工品を製造、その加工品を農業者に渡す活動を実施。これにより、農産物の付加価値を高め、障害者の工賃向上に貢献。また、食材廃棄の減少にもつながっている。
- 農地3.6haにおいて、九条ねぎ、ばれいしょ、かぼちゃなどの野菜をハウス6棟と露地で栽培（令和5年）。



農産物加工場



農産物加工場の様子



農産物加工品

体制図

社会福祉法人よさのうみ福祉会

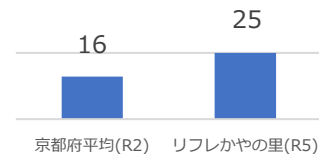
障害者支援施設
就労移行支援事業所
就労継続支援B型事業所
生活介護事業所
生活訓練事業所

リフレかやの里

取組の成果

- 就労継続支援B型事業所利用者の平均月額工賃は最高約25,980円(令和5年)（京都府平均は約16,749円(令和3年)）
- 農産物加工品の売上高は、年間約2,300万円（令和4年）を計上。

京都府平均との月額工賃
の違い（千円）



所在地 ▶ 京都府与謝郡与謝野町字金屋1730番地

連絡先 ▶ TEL：0772-43-1730 E-mail：refre@yosanoumi-fukushikai.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://refre.yosanoumi-fukushikai.or.jp/>

【取組のプロセス】

昭和55年

きっかけ

地域特産の農作物の栽培、地元に根差した活動を開始

休耕田を使った農作物栽培などの事業

- 事業で得たヒントをもとにそのノウハウを生かし、規格外の農作物を使った加工品製造の事業をはじめた。

平成23年

農産物加工場で、ジュースやジャムなどの加工品を製造している

- 自社で生産した野菜の規格外品に加え、外部の農業者から受け入れ、漬物、ジュース、ジャム、ソース、缶詰などを製造し、当該農業者が独自のブランドで販売。また、農業部門では、野菜を学校給食の原料としても安定的に販売。

厚生労働大臣賞を受賞を契機に飛躍

- 農産加工品は、厚生労働大臣賞の受賞を後押しに地域でも一般に販売されるようになり、福祉施設の利用者の工賃の向上にもつながる。

地域農業の活性化に貢献

- 事業所だけではまだ余力があるため、近隣農業者において、施設外就労として農作業も実施。ねぎの定植や草刈り、野菜の出荷作業などを通じ障害者が農業者と触れ合うことで、地域農業の活性化にも貢献。

今後の
展望

障害のある人の将来の生活の場の整備・充実を図るため、社会福祉法人設立。

規格外品を活用し、食材廃棄の減少を実現。

障害者就労継続支援事業の事業指定を受けており、地元の障害者の雇用創出に貢献している。

この取組は、生産者、加工品製造に携わる福祉施設の利用者、消費者による連携により、地産地消の農福連携による地域活性化のモデルとなっており、メディアでも取り上げられている。



農産物加工場



農産物加工の様子



農産物加工品



特例子会社として、農地所有適格法人となり、高度な機械の導入による養液栽培を実施。難しい判断は機械を活用して効率化を図りつつ、農産物の安定的な生産を実現。

基本情報

- 所在地：大阪府泉南市
- 団体名：ハートランド株式会社
- 選定表彰：
 - 平成21年「大阪府ハートフル企業顕賞
ランプのともしび大賞」
 - 平成26年「ディスカバー農山漁村の宝」
 - 平成27年「なにわ農業賞」
- 主力商品：サラダほうれんそう・サラダ
こまつな・パクチー等を水耕栽培。
- 取得承認等
 - 平成19年 農地所有適格法人
 - 平成19年 認定農業者
 - 平成20年 大阪エコ農産物認証

取組の概要

- 文具やオフィス家具等を製造販売するコクヨグループの特例子会社であり、農地所有適格法人。
- 知的障害者5名・精神障害者2名を含む従業員18名（短時間就労含む）が、養液栽培によりサラダほうれんそう等を通年で栽培（令和4年）。
- 24時間コンピュータ管理を導入して、ハウスの温湿度管理を行うとともに、覆土灌水機や自動包装機を導入して効率化を図ると共に、難しい判断が必要な育苗についてはコンピュータ管理の苗テラスを活用して安定的な生産を実現。



正確に作業しやすく工夫された容器



コンピュータ管理の苗テラス



サラダほうれんそう

体制図

コクヨ（株）

8つの子会社

2つの特例子会社が、コクヨ（株）と8つの子会社をグループ適用によりカバー。

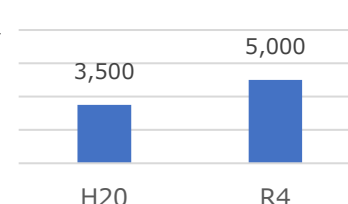
コクヨKハート（株）
（身体・精神障害者）

ハートランド（株）
（知的・精神障害者）

取組の成果

- 授産施設との連携による障害者の施設外就労受け入れ延べ人数は3,500人（平成20年）から約5,000人（令和4年）に増加。
- 視察人数も同様に増加している。

企業内授産延べ人数（人）



所在地 ▶ 大阪府泉南市幡代2018番地

連絡先 ▶ TEL：072-480-0567

ウェブサイト ▶ <https://www.kokuyo.co.jp/heartland/>

<https://www.facebook.com/kokuyoheartland>

<https://www.instagram.com/kokuyoheartland>

【取組のプロセス】

平成18年

きっかけ

就労率が低い知的障害者等の雇用促進のための職域として農業に着目し、持続可能なビジネスモデルの確立に向けて特例子会社を設立

特例子会社として農地取得、農業用ハウス設置、水耕栽培施設を導入し操業

開墾農地を使った農作物栽培などの事業

- 操業に向けて、農業用ハウスや水耕栽培施設の整備等を行う。泉南市幡代で41aの農地を購入し、農業生産法人になる。
- 農業経営基盤強化促進法に基づく認定農業者。



収穫・選別の様子

平成21年

高品質農産物提供のため、毎日タンクのpH測定、徹底した洗浄等を実施

大阪府ハートフル大賞受賞

- 安定的かつ持続可能なビジネスモデルとなるため、経営努力の継続、農産物の販売先の確保や障害者が主人公の会社となるべく、作業の分業化、工夫、終礼の実施等、障害者の主体性を尊重のほか、福祉施設の企業内授産の拡大等が認められ、受賞。



大阪府H.P.より

平成26年

働きやすくするため、①挨拶の励行、②全体終礼で一日の業務の振り返りのほか、月間MVPでモチベーション向上

企業内授産が拡大（100名／週の障害者が作業参加）

- 水耕栽培による障害者雇用を行う企業、社会福祉法人の視察受け入れ、アドバイスや販路紹介等を行い、ハートランド株式会社の取組が広がるように努力。
- 障害者を雇用し、農業に取り組んでいる企業のネットワーク化に努める。



農産物の包装作業

今後の展望

・受け身でなく、社員一人一人が自立できるように。
・それぞれが多能工を目指して職域拡大に努める

経営の安定と、「障害者が主人公」の会社経営を継続

- 常に効率化を考え、改善を行い、利益構造の確立に努力する。
- 障害者雇用における農業の可能性について、FacebookやInstagramを活用し、情報発信を続ける。
- コクヨグループと連携し、社会的課題であるダイバーシティ＆インクルージョンの世界を広める。



定植作業の様子



生協が設立した就労継続支援A型事業所を併設した農地所有適格法人であり、生協で出た食品残渣を堆肥化し、ほ場の土作りに使用する「食品リサイクル・ループ」に取り組む。

基本情報

- 所在地：大阪府和泉市
- 団体名：株式会社いずみエコロジーファーム
- 選定表彰：
 - 令和2年度「食品産業もったいない大賞」
 - 令和3年 ノウフク・アワード2021 優秀賞
- 主力商品：きゅうり、こまつな等を栽培。
- 取得認証等：
 - 平成22年 認定農業者
 - 平成22年 農地所有適格法人
 - 令和元年 ノウフクJAS認証

取組の概要

- 平成22年、大阪いずみ市民生活協同組合が設立した農地所有適格法人。平成24年に、就労継続支援A型事業所「ハートランド事業部」を設立して、障害者を雇用。現在、知的障害者を中心とする利用者が、露地・ハウスの野菜栽培に通年で取り組む。
- 生協を軸として取組を展開し設立4年目で黒字化。生産物の約90%を生協に出荷している。生協で出た食品残渣を堆肥化し、ほ場の土作りに使用することで「食品リサイクル・ループ」にも取り組んでいる。
- いずみ市民生協グループ内の傷病休業していた職員に対して「復職プログラム」の一環として復職支援を実施。



食品残渣由来の堆肥
(ハートコープエコ)

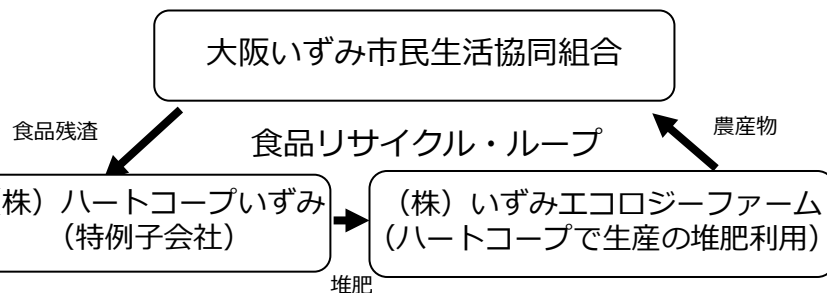


ハートコープエコ使用の農産物



農作業の様子

体制図

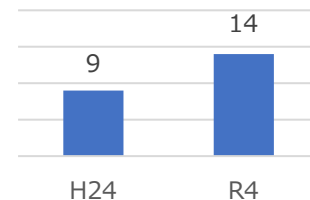


リサイクル堆肥（ハートコープエコ）を活用した農産物の生産・加工・販売を行う。

取組の成果

- 設立時（平成24年）の9名からスタートした障害者雇用者は、14名（令和4年）と増加している。
- 視察人数も同様に増加している。
- ノウフクJASを取得し（令和元年）、こまつなの年間出荷量が、35.2万袋から42.8万袋（令和4年）に増加。

企業内授産延べ人数（人）



所在地 ▶ 大阪府和泉市善正町1030番地

連絡先 ▶ TEL：0725-99-8057 E-mail：hi-miyake@izumi.coop

ウェブサイト ▶ <https://www.izumi.coop/coopsaien/#company>

【取組のプロセス】

平成22年

昭和49年に「大阪いずみ市民生活協同組合」は、主婦を中心とした消費者の活動により誕生。

きっかけ

生協から発生する食品残渣を堆肥化し、その堆肥で野菜を育てる「食品リサイクル・ループ」の実現に向け、堆肥の受け入れ先となる農地所有適格法人を設立

株式会社いずみエコロジーフームの設立

- 大阪いずみ市民生活協同組合が農地所有適格法人として設立し、廃棄ゴミゼロ、食品残渣の再資源化をめざし、リサイクル事業や食品残渣の再生利用事業を担う。



農場の全景

平成24年

障害者運転のトラクターによる耕耘から収穫、袋詰め作業までのすべての作業を実施（機械運転は試験合格者のみ）

就労継続支援 A 型事業所「ハートランド事業部」の設立

- 障害者の自立支援と雇用促進を目的に設立され、ハートコープいずみが生産するリサイクル堆肥（ハートコープエコ）を活用した農産物の生産・加工・販売を行う。
- 農地所有適格法人として農作物を栽培し、いずみ市民生協や地元の直売所へ出荷。



農作業の様子

令和元年

ノウフクJAS認証取得

- こまつな、きゅうり、ほうれんそう、しゅんぎくについてノウフクJAS認証を取得。ノウフクJAS認証取得後、出荷量が毎年大幅に増加傾向。
- 残留農薬チェックの上、殆どの生産物を大阪いずみ市民生活協同組合に出荷。



ノウフクJASのロゴマーク

今後の展望

受け身でなく、社員1人1人が自立できるように、障害者がリーダーとなり、指導できる環境へ。

黒字経営の維持を目指し、さらなる事業分野の開拓を進める

- いずみ市民生協グループ全体で、リサイクル資源の再資源化や食品残渣の堆肥化の促進により、組合員の環境活動への意識向上にもつながり、更なる発展が必要。
- 設立4年目に黒字化を達成したものの、引き続き黒字経営を維持するとともに、大阪いずみ市民生活協同組合と連動して、さらなる事業分野の開拓を進めていきたい。

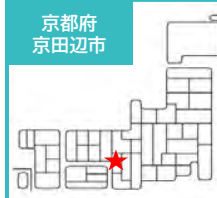


ノウフクJAS農産物

障害の有無や年齢を問わず、すべての人たちが集い、人と自然、人と人との触れ合いの中でお互いを認め合い、生きがいを見つける地域のコミュニティを提供。園芸療法により利用者の主体性を引き出す。

福祉事務所

京都府
京田辺市



体を動かすことで運動機能向上・維持

レイズドベッド 座った状態で白菜を管理

基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:H13年

きっかけ

H13年

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出することを目的に施設と隣接する農地7aを借りて園芸療法を開始。

人を耕す

- 認知症で意欲低下が著しく動くことが少ない利用者に自分の畑をもつことにより、健康維持・増進に加え精神機能の保持につながっている。
- レイズドベッドを導入することで、車椅子利用者や立位保持が難しい人等、誰もが農園芸作業に取り組める土壌が醸成されている。

地域を耕す

- デイサービスにある畑で地域の未就学児親子の自然体験活動を月3回実施、平均5組=10人利用、多世代交流により、誰もが楽しめる地域の場を創出。
- 農作業に取り組む利用者が増えたことから、デイサービスから少し離れた遊休農地を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用し、地域の農地の維持に貢献。

未来を耕す

- 農園芸ができる介護現場を増やすために、当法人で共有している「園芸療法心得帳」を土台にマニュアルを作成、活用し、全国各地の高齢者施設で農園芸を実践できる仕組みを作る。
- 介護現場での農福連携の取組を通して、高齢化による農業の担い手不足と、それによる荒廃農地の増加といった社会課題の解決に努める。

取組

成果

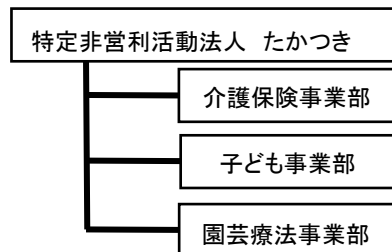
概要

主力商品
(農作物) 野菜、花き

特徴的な取組

環境保全型農業、ユニバーサル農園 等

体制図



住所:大阪府高槻市原2235番地

TEL:072-689-9112

Mail:information@npo-takatsuki.org

URL:https://npo-takatsuki.org

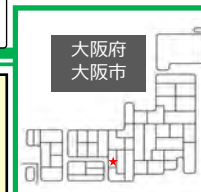
受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	
知的障害	
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

農地面積

7a(R2)
→7a(R6)

- 遊休農地を地域の小学生の自然体験活動を月2回実施、40人が参加。季節の野菜作りを中心とした農業体験をしている。デイサービス利用者が子どもの畑の手入れをすることもあり、畑を通じた交流の場になっている。
- 令和3年度JA共済総研セミナーで「行きたい=生きたいデイサービス～畑のあるデイサービスで豊かな毎日」というテーマで登壇し、実践の報告をすることによって理解が深まり、高齢者の農福連携による新たな可能性の創出につながっている。



大阪西成区のイメージを変えよう“にしなりが変われば大阪が変わる”生活弱者と言われる人たちで新しい産業を創り、“にしなりムーブメント”を起こし、地域の活性化と共に美味しい食材を大阪の食卓へ。

基本情報

- 所在地：大阪府大阪市
- 団体名：特定非営利活動法人街かど福祉
街かどあぐりにしなり よろしい茸工房
- 選定表彰：
 - ・福祉未来創造大賞2018
 - ・ソーシャルビジネスプラン部門特別賞
(主催：NPO法人DeepPeople)
- 主力商品：しいたけ・きくらげ・たもぎ
Meひーじょ（芽椎茸のアヒージョ）
- 取得認証等：
 - 令和元年 認定農業者



菌床工場 充填作業

取組の概要

- 就労継続支援施設A型利用者とB型利用者の障害者16名（高齢者、生活困窮者等含む）及び職員7名で菌床生しいたけの製造に取り組む（令和5年）。
- 栽培した生しいたけは、梅田、難波、天王寺等大阪市内の飲食店を中心に小規模スーパー、産直市場のほか、“難波高島屋”へ毎日配達。企業とのコラボ企画で、「芽しいたけのチップス」、「しいたけのベジポタスープ」、「よろしい茸の炊いたん」を商品化。無印良品とコラボ「きのこのご飯・スープ」「きのこのアヒージョ」を商品化。
- 農山漁村振興交付金（農福連携対策）により、農福連携技術支援者3名の人材を育成。



よろしい茸工房全景



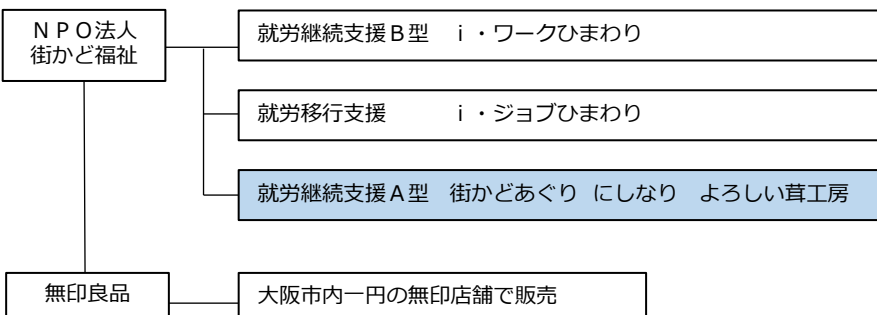
しいたけの栽培状況



各種店舗での販売状況

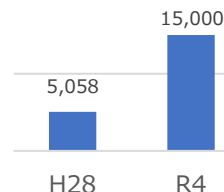


体制図



取組の成果

- しいたけの売上は、取組当初(平成28年)の5,058千円から しいたけ売上高(千円)
15,000千円(令和4年)へ増加。
- 施設面積も、4.95a(平成28年)から6.27a(令和2年)へ増加、自家菌床製造施設も併設(令和3年)し、菌床も含め、全て大阪産に。



所在地▶大阪市西成区北津守4-9-5

連絡先▶TEL：06-6567-1007 E-mail：toyota@iwork-himawari.com

ウェブサイト▶<http://www.yoroshitake.com>

【取組のプロセス】

平成16年

頑張れば自らの手で対価を得られるという働く喜び、楽しみを知ってもらいたいとの考えでスタート

きっかけ

就労継続支援B型事業所から就職を！というコンセプトで菌床椎茸栽培をスタート

平成24年

スキルがあっても、コミュニケーションが苦手な就労が難しいため、自立促進に向け新たな働き場所として、街なかで農業ができないものか検討

就労継続支援B型事業所 iワークひまわり開設

- 障害者の作業を行うための施設を開設するほか、ワークショップ等の活動も始める。
- 体調管理やスキルアップに取り組む「施設内訓練」、安定して長く働くための「職場定着支援」等、トータルサポートを心がける。



iワークひまわりの外観

平成28年

動画で作業マニュアルの作成により、利用者にとってスムーズに作業が出来るよう工夫

就労継続支援A型事業所 街かどあぐり にしなり よろしい茸工房 開設

- 行政に対して、障害者、生活困窮者等も働くことが出来て、西成のイメージを一新し、地域活性化となり得る都市型農業として菌床栽培施設での菌床しいたけ栽培を提案。
- その結果、賛同が得られ、街なかでの農業が始まった。



工房内の障害者スタッフ

令和2年

府立西成高校のビジネス体験及びなにわ高等支援学校の農業コースへ菌床の提供等や栽培体験の提供を実施中

よろしい茸ひまわり子ども食堂開設

- 北津守地域や近隣のこども達とのつながりが増えることを目的として、北津守地域で初めてのこども食堂を開設。
- 「街かどあぐり にしなり よろしい茸工房」が運営。
- 令和3年1月 菌床製造工場始動 同年4月より自社菌床にて栽培始まる。



子ども食堂のメニュー

今後の展望

大阪産しいたけの認知拡大と販売促進

- マスコミ各社の取材や各種イベントへの積極的な出店等による大阪産しいたけの認知度拡大と販売促進の為にプロモーションECサイトに力を入れ、コロナ禍の非接触販売を経て、SNS活用へとシフト変更行い、複数のECサイトの活用にも力を入れる。
- 区内小学生の見学と区内中学生の実習の受入を継続しており、感想文が何よりの楽しみであり、椎茸嫌い克服してくれる子達が続出、引き続き継続していく。
- 大阪パルコープ、無印良品とのコラボも令和5年から始まり、今年度も継続中である。

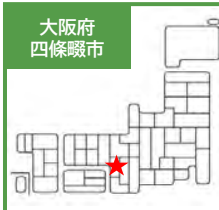


小学生の見学と実習の様子

独自の高床式砂栽培技術により軽労化農業を実現したことで障害者の自立を支援し、障害者の就労安定に繋げたほか、地域農家等との連携に取り組み、循環型農業でも地域社会に貢献。

農林水産業経営体

大阪府
四條畷市



基本情報

設立:H22年 / 農福連携取組開始:H22年
取得認証等:認定農業者(H23年)
主な選定表彰:2018年度ソーシャルビジネスモデル部門大賞(ソーシャルミールプロジェクト主催)等

概要

主力商品
(農作物)ミニトマト、サンチュ、小松菜、フリルレタス 等
(加工品)チンゲン菜のお漬物、野菜チップス

特徴的な取組
環境保全型農業、ユニバーサル農園、6次産業化 等

体制図



住所:大阪府四條畷市大字逢阪479番4
TEL: 072-863-2121
Mail: greenfarm@sunasaibai.co.jp
URL:https://greenfarm4794.jimdofree.com/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H
22
年

「誰もが主役になれる農業」の実現を目指し、建設業で培った技術力を応用した高床式砂栽培を開発。その後、実証農場を設立して農福連携事業を本格的に始動。

取組

人を耕す

- 高床式砂栽培という独自の技術を用いることで、これまで農業に参入できなかった障害のある方々に、安全で働きやすい環境を提供。
- 障害者の自立を支援するため、高床式砂栽培では全ての作業工程が手作業で完結できるように細分化し、誰もが安全に幅広い作業に携われる環境を整備。

地域を耕す

- 地域の農家等と連携し、通常は廃棄されがちな規格外の野菜を活用した「野菜チップス」などの商品開発に取り組み、農業におけるフードロスに貢献。
- 地域の特別支援学校や障害のある子供を持つ家族を対象に、定期的な農業体験会や砂栽培講習会を実施し、地域住民との交流を促進する機会を創出。
- 他の事業所とも連携し、障害者が栽培した葉物野菜を地域の飲食店や学校給食等に供給。

未来を耕す

- 企業の社会的責任と障害を持つ方々の就労機会創出を同時に実現するモデルを構築。
- 大阪産エコ野菜認証の取得や、糖度11の高糖度ミニトマトの栽培成功といった実績により、障害者が生産する野菜の品質と価値を証明し、ブランド化を実現。
- 先進的な栽培技術と、多様な品目を生産できる実績を活かし、6次産業化を推進。

成果

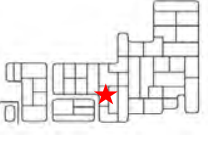
平均工賃月額	障害者雇用数	売上高	農地面積
7,000円(R2) →15,000円(R6)	15人(R2) →43人(R6) (就労支援B型)	1億6,725万円(R2) →1億3,863万円(R6)	1.1ha(R2) →1.5ha(R6)

- 障害者がチームリーダーとなり、葉物野菜の生産を主導し、大阪府内の高級飲食店へ高品質な野菜を安定的に提供。
- 高床式砂栽培により、農業未経験者の障害者でも無理なく従事できる環境が整備でき、就労支援から正規雇用への円滑な橋渡しを実現。

荒廃農地を活用し、京野菜や宇治抹茶の生産・加工・コミュニティカフェ運営を展開。ろう者を中心とした利用者の高工賃を実現するとともに、地域活性化に貢献。

福祉事業所

大阪府
枚方市



基本情報

設立:R6年 / 農福連携取組開始:H23年
取得認証等:認定農業者(H27年)、ノフクJAS(R7年)

概要

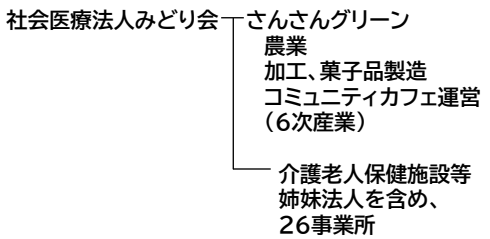
主力商品

(農作物)宇治抹茶、京都えびいも、万願寺とうがらし、京都田辺茄子 米、京都レモン、ゆず

特徴的な取組

環境保全型農業、自然栽培、ユニバーサル農園 等

体制図



住所:大阪府枚方市藤阪中町3-20
TEL:072-807-3356
Mail:33green.cc@gmail.com
URL:<https://syoujukai.org/welfare/sansangreen.html>

きっかけ

H
23
年

ろう者が手話で気軽に交流できる居場所として、廃園となった茶園で碾茶等の栽培をする前身の事業所を開所。2024年に元職員、利用者らで大阪へ拠点を移し、本事業所を開所。

人を耕す

- 平均工賃は全国平均の約2倍。
- 盲ろう者など重複障害者なども在籍。高齢者には座ってできる作業、半身まひの者には片手でできる作業など、個々の特性に合わせた作業割振と支援を行い、全員が主体的に活躍できる環境を整備。
- ろう者のほか精神、知的、重複障害、認知症の高齢者など様々な人が助け合う風土を形成。

地域を耕す

- 山城北農業改良普及センターやJA京都やましろと連携し、京都えびいも、花菜、京都田辺茄子などの「京のブランド野菜」を生産。京都えびいもの苗を生産し、JAをとおして、新規就農者などの手に渡し、地域農家を支えている。
- 手摘み茶農家が減少する中で、毎年手摘み収穫を行い、宇治茶文化を維持・継承。地元茶農家への農業支援も実施。

未来を耕す

- スパイスメーカーと連携した「全国 鷹の爪軸取り選手権大会」の企画・開催や、市の自立支援協議会就労部会への参加などで、農福連携の情報発信を行う。
- 施設利用者である日本で唯一の盲ろうトライアスリート中田鈴子選手を支援し、国内外でスポーツを通じた農福連携の啓発活動を展開。

取組

成果

平均工賃月額	施設利用者数	売上高	農地面積
4.6万円(R6)	21人(R6)	936万円(R6)	1.3ha(R6) ※全て耕作放棄地を活用

- 市外の手話通訳者研修会などに出講し、農福連携とは無縁の福祉関係者への啓蒙活動に取り組むことで、農福連携の認知拡大に寄与。
- 併設カフェで毎日ワンコインランチを提供し、地域の高齢者などの居場所を作る。5月の茶摘み体験をはじめえびいも、茄子の収穫体験、土曜日、呈茶など、通年で市民との交流イベントを実施。
- 低農薬・ノンワックスのレモンや無農薬の柚子を栽培し、ノフクJAS認証を取得。皮まで安心して食べられる果実を使って大学やレストランと連携。レモネードの販売や柚子のホットソースの商品化など話題性のある取組を展開。
- 地元の特別支援学校や大学など、教育機関とも連携。

S56年から農福連携を開始。地域の農業者の高齢化により作業受託面積を拡大し、草刈り機の操縦等にも障害者が従事。竹林の伐採・搬出等も実施。

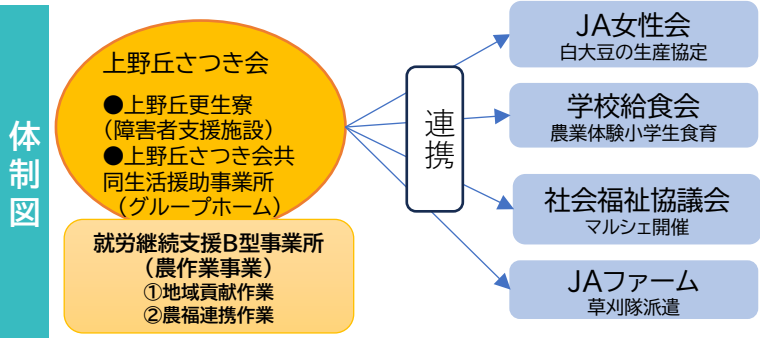


基本情報

設立:S43年/農福連携取組開始:S56年

主力商品
(農作物)じゃがいも、たまねぎ、白大豆、米、すいか
(加工品)米粉、米粉を利用した穀物パンケーキミックス粉

特徴的な取組
環境保全型農業



TEL:078-958-0252/Mail:info@uenooka.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

きっかけ

昭和56年
農福連携という言葉が使われる前から、利用者の職業訓練の一環として農作業を実施。

人を耕す

- 職業訓練として50年以上の実績があり、現在は、知的障害者35名が農作業を実施。
- 草刈班、米作業班、調整班、加工班とチームを組んで活動。班内にはリーダーを設けることなく、誰もが自分の役割を果たせるように工夫。

取組

地域を耕す

- 地元の森林組織から依頼を受け、土手や法面の整地、水路の溝切り、竹林の伐採作業を実施。荒廃農地等での作業受託は水稻約13ha、野菜約1ha。
- 公益財団法人の助成金を活用してライスセンター機材を設置したことで、稲作全般の作業を行うことができるため、地域から依頼も増え、地域の農地の維持に貢献。
- 水田活用の直接支払交付金を活用して、白大豆を生産。

未来を耕す

- 地元の田畑の維持管理をする上で隣接する竹山林の整備作業に役立てるため、共同募金会の配分金を活用してウッドチップパーを導入し、樹木のチップ化や竹の堆肥化を行う。
- 「米粉倶楽部」に登録し、米粉を販売。地域の喫茶室、カフェから地産地消を推進する目的で米粉が使用されるなど、販路が拡大。

平均工賃月額	農作業に関わる障害者数	農業売上	農地面積
5,000円(S56) →18,700円(R5)	20人(S56) →35人(R5)	800千円(S56) →21,812千円(R5)	2ha(S56) →14ha(R5)

成果

- 神戸市都市局や社会福祉協議会主催のマルシェに積極的に参加し、自家栽培野菜を販売。利用者自身が対面で販売することで農福連携の発信につながるほか、利用者の生きがいを創出。また、地域からの要望に応える形で、マルシェの参加を継続しており、収益も向上。
- JA女性会との連携による「北神みそ」の原材料の白大豆生産及び、社会福祉協議会との連携による「ごはんプロジェクト」、「教育ファーム」の設置による子どもたちへの食育など、地域活性化に寄与。

福祉事業所

兵庫県神戸市

地域農家のB級品や荒廃農地で栽培する菊芋、鳥獣害駆除による鹿肉を活用し、無添加ドッグフードを製造・販売。施設利用者は作業の一部を担い、廃棄予定の資源に付加価値を創出。

福祉事業所

兵庫県
多可町



基本情報

設立:H23年 / 農福連携取組開始:H28年

主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝(R元/近畿)選定 等

概要

主力商品
(農作物)米、菊芋
(加工品)ドッグフード

特徴的な取組
6次産業化

体制図

NPO法人cambio

passo多可 (B型)

各自治体(鳥獣対策課 等)

地元兼業農家・野菜卸業者

水産加工会社

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所:兵庫県多可郡多可町森本809-15

TEL: 0795-20-7325

Mail: t-gotou@npo-cambio.org

URL:<https://npo-cambio.org/>

きつかけ

H28年

農福連携を通じて障害のある方や多様な人々が能力を発揮できる環境を整えるため、事業所を開設。

人を耕す

- 農福連携を通じて障害のある方や多様な人々が能力を発揮できる環境を整備。
- 成果に応じて工賃や賃金の向上が図られ、意欲的に働ける仕組みを構築。
- 障害の有無や国籍を超えて互いを尊重し合う雰囲気や育まれ、多様な人が寄り添い助け合う職場文化を醸成。

地域を耕す

- 鳥獣害駆除による鹿肉や地域農家のB級品野菜、荒廃農地で栽培した菊芋を活用し、廃棄されるはずの資源に付加価値を付けることで地域農業の維持と地域資源の循環に貢献。
- 草刈り作業を農家から受託し、支援した農家から米を仕入れ、西脇工業高校の食堂運営で学生へ提供する仕組みを整備することで、地域農家の販路拡大と地産地消の推進を同時に実現。

未来を耕す

- 廃棄予定資源を活用した6次産業化を通じ、地域資源に付加価値を持たせることで、工賃の向上を実現。
- 障害者・外国人材等多様な人材が関わることで地域共生社会の実現に寄与。

取組

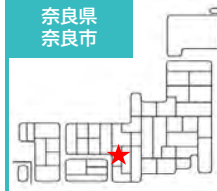
平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
22,453円(R2) →45,440円(R6)	2人(R2) →5人(R6)	1,200万円(R2) →2,900万円(R6)	1.4a(R2) →5.1a(R6)

成果

- 経験を豊富に積んだ利用者が責任者やリーダーとして作業指導や管理を担う事例が増加。
- 経験を通じて地域企業への一般就労につながる事例もあり、社会参加の幅が拡大。
- 農業・福祉・教育を横断した取組により、学校、行政、地域企業との連携を生み、地域の農林業の維持と活性化を推進。

高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する地域で、農福連携により障害の有無にかかわらず、皆が活躍できる「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

福祉事務所

奈良県
奈良市

きっかけ

H4年

義務教育卒業後の生徒たちの行き場が、社会全体で整備されていないことに大きな問題を感じたことから社会福祉法人を設立。

人を耕す

- 障害者の作業を行うための施設を開設し、ワークショップ等の活動を行う。
- 生産活動を通じて社会参加を促し、自立支援と工賃の保障に努める。
- 収穫農産物は、カフェ・レストランの食材として利用され、いずれも障害者が主力として働く。
- 食品加工の就業訓練により、40名以上が一般企業に就職。今後も就職支援を継続する。

地域を耕す

- 地元生鮮野菜加工企業と連携し、廃棄予定の野菜の端材から、商品に加工、販売し、フードロスの削減に対する事業を行う。
- 地域の祭りの他、道作りや人足等、地域環境の維持活動にも積極的に参加。
- 他法人と連携し、ひとり親家庭への食材提供や子ども食堂利用者収穫体験ツアーなどを実施。

未来を耕す

- 荒廃農地や就農者の減少を食い止め、地域の食料供給のセーフティネットとして機能し、障害の有無に関係なく多くの人たちが活躍する社会全体を支える仕組みを実現する。
- 小学校の廃校を奈良市から買い取り、食品加工場を設置。レトルト食品、冷凍食品を製造し、障害のある人たちの活躍の場や工賃向上の他、地元地域の雇用拡大なども見込んでいる。

取組

成果

基本情報

設立:H4 / 農福連携取組開始:S60年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携型)(R3年度)

主な選定表彰:ノフク・アワード2020審査員特別賞「地域を耕す」、R5年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰 等

概要

主力商品
(農作物) 水稲、さつまいも、ブルーベリー、タマネギ
(加工品) 干し芋、レトルト・冷凍食品、菓子等

特徴的な取組

農作物の生産から加工、販売の全ての場面で障害者の活躍場所になっている。

体制図

社会福祉法人
青葉仁会あおはにの家 明あおはに
(施設入所・生活介護・就労継続B)

あおはにファーム・あおはに自然学校(農産物の生産・ブルーベリー園・観光農園)

水間ワークス(飲食店・乾燥加工)
RIKUGOの森(レトルト・冷凍食品製造)ポ
ララノ広場(飲食店、パン製造)生駒事業
所(飲食店、菓子製造)満天ひろば(飲食
店、石鹸・縫製製造)デリカテッセン・ハ
ーヴ(飲食店、給食製造)日笠ワークス(飲
食店、紙漉き製造)

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	○

住所:奈良県奈良市杣ノ川町50-1

TEL:0742-81-0420

Mail:info@aohani.com

URL:https://aohani.org/

平均工賃月額

21,800円(R2)
→29,800円(R6)
就労継続支援B型

障害者数

337人(R2)
→412人(R6)
(就労継続支援B型)

売上高

1億8千2百万円(R2)
→2億5千2百万円(R6)

農地面積

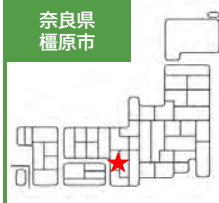
6.5ha(R2)
→8.2ha(R6)

- 栽培される米を使用し、年間10万食以上の給食や弁当を製造。更に奈良市学童保育の長期休暇中昼食の提供を受託し、学童保育を利用する児童対象に、年間約16,000食を提供。
- 荒廃農地で米、さつまいも、玉ねぎ、じゃがいもや夏野菜、冬野菜を20種類以上、ブルーベリーや栗など果樹を栽培。最盛期には収穫祭を開催。
- 2018年度より「プレミアムライセンスグッドファーマー」認定米を生産。
- 企業のOEM受託、スーパーや物産店等、全国へ農産物や加工品を出荷。

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場作りを行うこと等により、罪に問われた者等の社会復帰を支援し、誰もが地域の一員として包摂される社会の実現を目指す。

その他

奈良県
橿原市



就労研修 (研修先: 五條市森林組合)



カットネギ工場バック詰め

基本情報

設立: R2年 / 農福連携取組開始: R2年

取得認証等:

主な選定表彰: 奈良県保護観察所 感謝状、作田明賞 優秀賞

概要

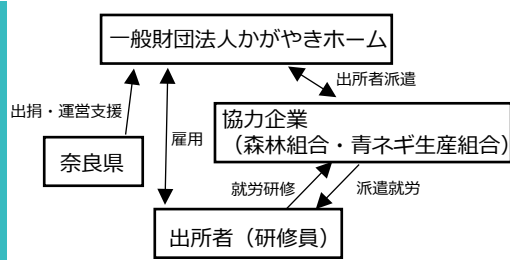
主力商品

(農作物)ネギ
(加工品)カットネギ

特徴的な取組

林福連携、ネギの加工等

体制図



住所: 奈良県橿原市大久保町320番地の11

TEL: 0744-33-9661

URL: <https://www.nara-kagayaki.com/>

きっかけ

R2年

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場を作り出すことを目的として取組を開始。

人を耕す

- 出所者を雇用し、住居の提供や社会教育の実施により社会復帰を支援する。
- 五条市内の森林組合、青ネギ生産組合等の協力により、就労研修(技術指導等)を実施。
- 外部協力者を講師に招き、SST、アンガーマネジメント、心理的アプローチ、一般教養(作業安全衛生教育・健康管理)等の社会教育を通じて社会適応能力の向上に繋がっている。

地域を耕す

- 近隣の休耕田を無償で借り入れてネギを栽培。荒廃農地の解消による地域維持に貢献。
- クリーンキャンペーンやこども食堂への応援など、社会貢献活動に積極的参加。
- 研修員が社会福祉法人の農業部や研修先の福祉施設に採用される等、地域の農林水産業の担い手に。

未来を耕す

- 農業系学校のカリキュラムも踏まえて、農業従事者に必要な技能、資格取得(日本農業技術検定各級、農業簿記各級、農業機械士及び大型特殊免許などの資格取得)を目指す。
- 将来は研修員の自立(起業・農業法人での就農等)に繋げる。
- 更生支援充実し、担う団体・機関派遣できる職種を広げ、社会に貢献することを目指す。

取組

成果

平均給与月額

162,799円(R4)
→179,615円(R6)

障害者等数

6人(R4)
→2人(R6)

事業収益

144万円(R4)
→885万円(R6)

- 法務省と連携して都道府県が罪に問われた者等の社会復帰を支援する仕組みは全国初。
- 当財団の取組を地区更生保護女性会及び協力雇用主総会など機会あるごとに紹介したこともあり、マスコミ数社から当財団の取組について新聞報道されることによって理解が深まり、厚生支援と農福連携による新たな可能性の創出につながっている。



「平和で持続的な地域社会をつくる」を共通理念とし、直売所「ふうの丘」の顧客開拓、農業の担い手の減少と荒廃農地の増加への対応するため、野菜等の地元産品を使ったメニューを提供するカフェ経営や作物栽培等に取り組む。

基本情報

- 所在地：和歌山県紀の川市
- 団体名：社会福祉法人 一麦会
ソーシャルファームもぎたて
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
優秀賞
- 主力商品：たまねぎ、トマト、大根、唐辛子、キウイフルーツ、レモン、α化米粉、お米かりんとう、米パン粉等
- 取得認証等：平成28年 有機JAS

取組の概要

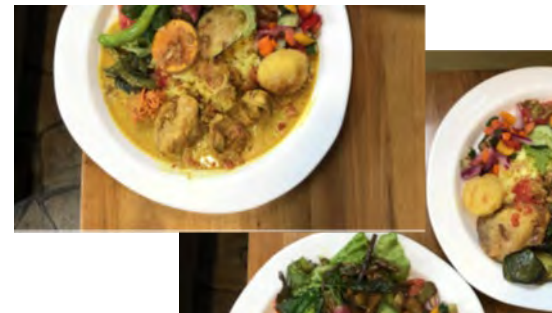
- 地域の直売所「ふうの丘」の顧客開拓のため「ふうの丘」内で2件のカフェを運営し、野菜や果物等の地域産品を使ったメニューを提供するするとともに、農業の担い手の減少と荒廃農地の増加への対応するため、農作物の栽培等への取組。
- 農地2haを借上げ、たまねぎ、トマト、大根、キウイ等を栽培し、年間を通して紀の川農協等に出荷。また、キウイやじゃばらの加工への取組む。



たまねぎの収穫

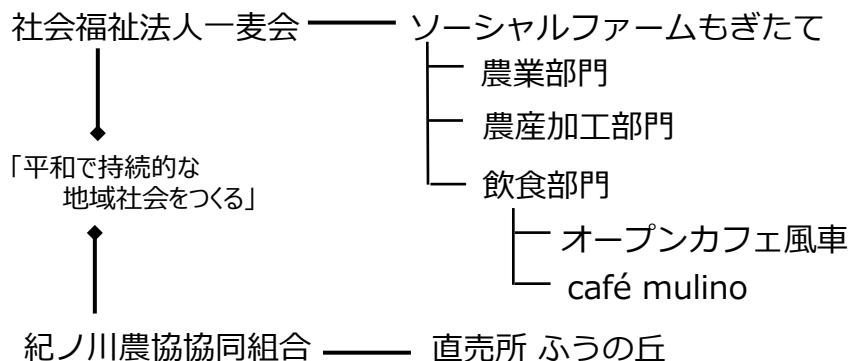


柿の加工



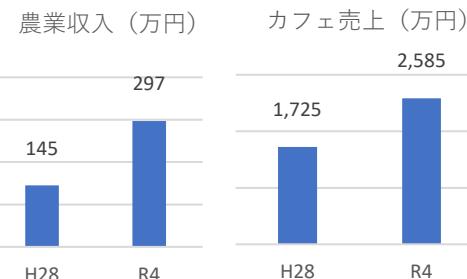
地域野菜をふんだんに使ったカフェメニュー

体制図



取組の成果

- 農業収入は、平成28年の145万円から、令和4年には297万円に増加。
- カフェ売上は、平成28年の1,725万円から、令和4年には2,585万円に増加。



所在地 ▶ 和歌山県紀の川市平野927

連絡先 ▶ TEL : 0736-75-4603 E-mail : muginosato.mogitate@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://socialfirm-mogitate.jp/>

きっかけ

飲食店経営をして欲しいと紀ノ川農協から要請があったことから飲食店の運営を開始し、地域の担い手の減少や荒廃農地の増加を受けて野菜の栽培も開始

平成13年

オープンカフェ「風車」を開設

- 平成13年、紀ノ川農協がファーマーズマーケット紀ノ川「ふうの丘」をオープン。一麦会に飲食店経営の要請があり、オープンカフェ「風車」の運営を開始。
- 地域の野菜、果物、こめ油等をPRする意識で、これらを使ったオムライス、コロツケ、スムージー等のメニューを提供。



荒廃農地の再生

平成27年

ムリーノ（カフェレストラン）の開設

- 平成27年、ファーマーズマーケット紀ノ川「ふうの丘」で、カフェ・ムリーノ（カフェレストラン）の運営開始。
- 人気の「野菜で旅するランチプレート」など、地域野菜をふんだんに使った旅がテーマのメニューを開発、提供。
- 荒廃農地を再生して借受け、トマトケチャップ工場の依頼に応じて、加工用トマトを栽培。
- 平成28年、紀ノ川農協の荒廃農地再生プロジェクトで有機JASたまねぎ（1 ha）を栽培。



平成29年、アルファ米粉を生産する米粉事業を開始

令和2年

最近の状況

- 農業収入：約3百万円（R4）、カフェ収入：約2,600万円（R4）、農産加工等収入：約1,400万円（R4）平均工賃：約8万円（R4）、障害者雇用数：22名（R4）

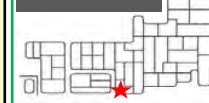
今後の展望

地域交流、地元産品の積極的使用に加えて、経営規模拡大を検討

- 農業主催のイベント等に積極的に参加して地域交流を図ること、加工品や食事メニューの開発にあたって、地元企業や農家等の産品を積極的に使用することを今後も継続する。
- 高齢農家の農地の受け手と地域で認知されており、借りてほしいという声に応えるため、経営規模の拡大を検討。



トマトやキウイを用いた加工品の製造



塩づくりに関する遺跡のある地で、地域の農業組合、漁業組合、食品加工会社、生活協同組合などと連携し、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりに取り組む。

基本情報

- 所在地：和歌山県御坊市
- 団体名：社会福祉法人 太陽福社会
- 選定表彰：平成22年度「優秀賞」環境省
ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
- 主力商品：釜炊き自然塩
- 取得認証等：－

取組の概要

- 塩づくりに関する遺跡がある地で、紀伊水道の海水を汲み上げ、地域の廃材を燃料とした、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりに取り組む。
- 商品は直売所、ホテル、飲食店等で販売するとともに、塩を用いた生食パンの製造・販売、学童等を対象とした釜炊き体験等を実施。



地域の遺跡から出土した製塩土器



釜炊き



塩を用いた生食パンやピザ

体制図

社会福祉法人 太陽福社会
・ 菜の花作業所

就労継続支援B型事業所
和の杜

御坊市
(ふるさと納税等)

(株) メモリアルウエスト

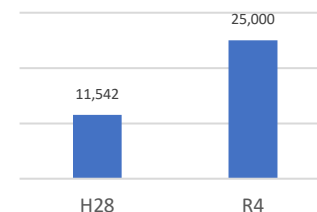
(有) 鳥好

...

取組の成果

- 平均工賃は、H28の11,542円から、25,000円(R4)に増加。
- 過去5年の塩の生産量は約3トン、売上は500万円以上を継続して達成。

平均工賃 (円)



所在地 ▶ 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋450-7

連絡先 ▶ TEL : 0738-23-3267 E-mail : kashiwagi@taiyo.or.jp

ウェブサイト ▶ <https://www.taiyo.or.jp/>

きっかけ

地域に障害者が日中活動できる居場所がなかったことから、障害者の父兄等を中心としてNPO法人を設立

平成14年

NPO法人菜の花会地域活動支援センターの設立

- 平成14年、障害者の父兄等が中心となってNPO法人菜の花会 地域活動支援センターを設立。
- 地域農家より山林地を無償で借受け、作業場を建設。
- 漁業者の協力により汲み上げた、紀伊水道の海水を釜で炊き上げる自然塩づくりに取り組む。
- 釜炊きの燃料は、地域で増える廃屋の廃材を用いて利用者が薪を作成。



海水の汲み上げ

平成22年

平成22年、御坊市より休止中の給食センターを無償で借り受け、作業場、事務所、売店を開設



釜炊き

令和2年

社会福祉法人 太陽福祉会に経営移管

- 取組の活発化を目指し、NPO法人菜の花会を社会福祉法人太陽福祉会に経営移管。

最近の状況

- 塩生産量：約3トン（R4）、売上：500万円（R4）、平均工賃：25,000円（R4）、障害者の就労者数：14名（R4）



3重に行う異物チェック

取組の発展に向けて

- 利用者の平均工賃は県平均を上回っているが、今後も生産と販路の拡大の取組を目指す。
- 塩づくりの工程で発生するにがりを肥料等にするなどの活用を検討する。
- 都市部からの見学者が増えており、釜炊き体験等による都市農村交流の取組を目指す。
- 漁業者に海水の確保に協力いただいております、元気のない地域の漁業を応援するためにも干物等の水産加工の取組を目指す。



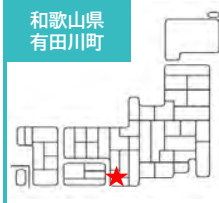
農産物に、にがりを噴霧する

今後の展望

営農条件の悪い畑を活用してみかんや野菜等を生産し、これを用いて喫茶を開催するなど、深刻化する荒廃農地の増加等の課題に対して、地域の関係者と協力しながら地域に根差した取組を進める。

福祉事務所

和歌山県
有田川町



地域交流の場 喫茶はやつき



温州みかんの収穫

基本情報

設立: H24年 / 農福連携取組開始: H24年
取得認証等: 認定農業者(R4年)
主な選定表彰: ディスカバー農山漁村の宝(第7回/近畿)
ビジネス・イノベーション部門

概要

主力商品

(農作物) 温州みかん等柑橘類、南高梅、山椒、ししとう、
なす、きゅうり
(加工品) 地域の果物を用いたジャムやマーマレード

体制図

- 事業連携機関
- 法人内事業所(カフェ&ベーカリーオリーブ)
 - 農協(JAありだ)・JAタウン
 - 公益財団法人ヤマト福祉財団
 - 日本農福連携協会・農福連携等応援コンソーシアム
 - 農業総合研究所など地元企業
 - 近隣農家・地域の飲食店
 - (一社)和歌山県セルフセンター
 - 農福連携関係の福祉事業所
 - 有田川町・和歌山県
 - 一般消費者等

住所: 和歌山県有田郡有田川町尾上13-1
TEL: 0737-34-2008
Mail: hayatsuki@iaa.itkeeper.ne.jp
URL: <http://www.wasaren.org/hayatsuki/>

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

H
24
年

内職やパンの製造・販売を中心の作業所を運営していたが、農作業のセラピー効果や健康増進効果が期待されることから、農福連携の取組を開始。

取組

人を耕す

- 農作業専門支援員の配置、農作業班と出荷(加工・販売)班に分け、道具や作業場の配慮をするなど働きやすい環境作りに努める。
- 栽培技術の習得による収益向上を目指し、JAの農業塾等に参加。
- シルバー人材を活用。働きやすい日数や時間帯などを調整。

地域を耕す

- ヘリポート(かつての小学校の運動場)の草刈りの管理を任される。また、AEDを設置。
- 地域サロン『喫茶はやつき』の定期開催。高齢者対象、無料弁当宅配サービスを実施。
- 担い手が見つかりにくい中山間地の段々畑を活用して、柑橘類、南高梅、山椒、野菜を生産。
- 自園産及び地域の果物を原料としたジャムを商品化。

未来を耕す

- 地域の障害者、高齢者、農家、その他関係者と協力し、課題を共有しながら地域に根差した農園運営に今後も取り組む。
- 利用者の経済的な自立に貢献するため、平均工賃3万円/月以上の継続達成
- 開所の平成24年から5名が一般就労しており、今後も継続して一般就労を支援する。

成果

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
27,195円(R2) →45,369円(R6)	22人(R2) →21人(R6)	1,613万円(R2) →2,166万円(R6)	5ha(R2) →5ha(R6)

- ヤマト福祉財団の実践塾がきっかけで、大阪の作業所など塾生が在籍する県外の作業所とみかんの取引を開始。
- ヤマト福祉財団の助成を活用し、ハウス、柑橘の選果機、ジャム製造機などを整備。
- 利用者の作業のしやすさへの配慮と売上向上を図るため、多品目栽培を改め、少品目栽培を推進。
- 密封包装食品製造業(令和4年)、漬物製造業(令和5年)の営業許可証を取得。
- 地域の特産品(みかん、山椒)の市場価格の上昇を受け売上が大幅に向上。

地域の漁師と連携し日本海産の海藻・魚介類を乾燥加工して販売。作業請負から水産加工品製造・販売への転換で工賃向上を実現。製品化までの全工程に障害者が携わることで自身の充実感・達成感も向上。

福祉事業所

鳥取県
米子市

きっかけ

H
23
年

利用者の能力を生かせる仕事がないかと探していた時、地元の漁業者からわかめ干し作業を手伝って欲しいと依頼があり海藻を乾燥加工する水福連携の活動を開始。

人を耕す

- 開始当初はわかめ干し作業の請負作業が売上の中心だったものを、自分たちで行う水産加工品の製造・販売にシフトすることで売上高が100倍以上に増加。
- 様々な決め事に際して職員が利用者に伝えるだけでなく、随時ミーティングを開き、今している作業は何のための作業なのかを説明してもらうことで自主性を育成。

地域を耕す

- 主力商品の「板わかめ」は山陰地方の名産であるが、製造所が減少しており、地域の漁業者から製造方法を教えてもらうことで、地域の食文化の継承に寄与。
- 地域の漁協からの提案をきっかけに、地域で初めて採れるようになったひじきを原料にした新商品「乾燥ひじき」を開発し、販売を開始するなど地域水産業の維持に貢献。

未来を耕す

- 添加物を一切使用せず、素材の風味を大切に商品づくりを実施。
- 新設した水産加工施設では、他の福祉事業所の利用者に、水産加工作業の一部を委託することで、連携する事業所数を増やし、水福連携の輪を拡大。

基本情報

設立:H23年/農福連携取組開始:H23年

取組

概要

主力商品
(水産加工品)板わかめ、乾燥ひじき、乾燥ホタルイカ

特徴的な取組
水福連携

成果

平均工賃月額

15,700円(H23)
→29,054円(R5)

水産加工に関わる
障害者数

6人(H23)
→23人(R5)

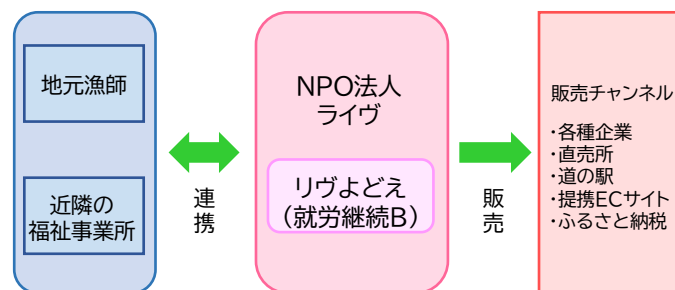
売上高

8万円(H23)
→851万円(R5)

—

- 職員のサポートなしで完全に製造を任せることのできる利用者もあり、県平均を大きく上回る月5万円以上の工賃を実現。
- 地域の奉仕作業への参加や、特別支援学校や中学校等の職業体験の受入れ等により、地域との交流や活性化に寄与。
- 水福連携の取組が地域の新聞やニュースで掲載。

体制図



TEL:0859-56-5789/Mail:info@live-y.jp

URL:https://live-y.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可



農業は、作業内容を細分化することで重度の障害者にも作業提供が可能であり、施設利用者が「地域の一人として、一人一人が輝ける」ことを目的に活動を実施。

基本情報

- 所在地：島根県出雲市
- 団体名：社会福祉法人喜和会
障害者支援施設 太陽の里
- 選定表彰：ノウフク・アワード2020
優秀賞
令和2年度ディスカバー農山
漁村の宝 農林水産省 奨励賞
- 主力商品：たまねぎ、キャベツ、白ねぎ、
トマトのミックスソース、
味噌
- 取得認証等：なし

取組の概要

- 就労継続支援B型事業所
 - 「農産班」では、地域振興作物（たまねぎ、キャベツ、白ねぎ等）の生産拡大に精力的に取り組んでおり、ほぼ全量を地元JAに出荷し、産地の維持・発展に貢献しているほか、地域特産の「出西生姜」の生産を農家から引継ぎ、産地維持に貢献。
 - 「食品加工班（6次産業化）」では、トマトのミックスソースや味噌等の加工品製造および販売を実施。
 - 「作業請負班」では、せわやき隊と称し、高齢農家や大規模農業法人の農作業請負を実施。
- 生活介護
 - 就労継続支援B型事業所から野菜の調整・出荷作業等を受託。給食用野菜を栽培のほか、野菜の袋詰め、洗浄、調整等を実施。



加工品



ほ場での作業風景

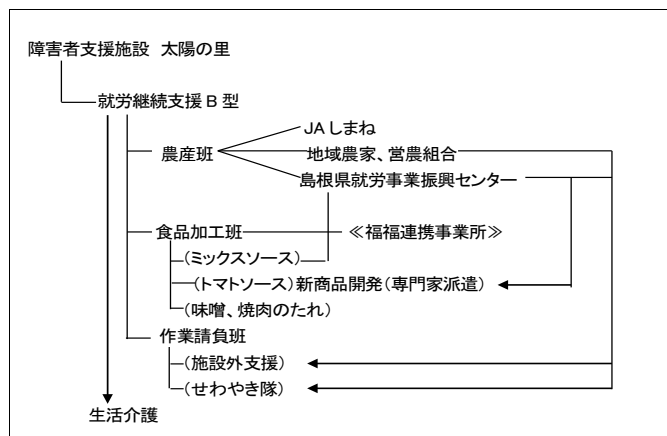


トマトのミックスソースの製造



生活介護利用者の収穫風景

体制図



取組の成果

- 受託農地の拡大に伴い栽培品目及び面積を拡大。たまねぎ110a、キャベツ80a及び白ねぎ30aを栽培するなど、産地の維持・発展に貢献。
- せわやき隊の活動では農作業請負のほか、庭の草取りや用水路掃除など地域との連携を図っており、高い評価を受けている。
- 令和4年の平均工賃月額が25,785円と、県平均（20,141円）を上回っており、月額70,000円を超える工賃を実現している利用者もいる。
- 収穫祭（太陽の里まつり）には、地域より毎年600名以上の来園者があり、地域交流の一翼を担っている。

所在地 ▶ 島根県出雲市斐川町名島90番地

連絡先 ▶ TEL : 0853-72-9125 E-mail : kiwakai2@bridge.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://taiyounosato.or.jp/>

【取組のプロセス】

昭和61
年

・下請作業はバブル崩壊後、衰退
・JA野菜部会に加入し、玉ねぎ栽培の指導を受け、取組む

平成21
年

・太陽の里の農業が地域から認められ農地引き受けが増え、生産拡大につながる
・地域の転作を補う

平成26
年

・農福連携補助金を活用し、機械、鍋の整備、金属除去器を導入
・農地や農産物の拡大により産地交付金を受ける
・赤い羽根共同募金により、白ねぎ根切り皮剥ぎ機を導入

平成28
年

・肥料高騰により水田への堆肥散布の依頼が増えるなど、せわやき隊の受託件数が増加
・ゆめいくワークサポート事業を活用してマニュアルスプレッダーを導入
・個人農家、農事組合法人との連携により多くの利用者が参加

今後の
展望

きっかけ

県内でも有数の農業地帯であるにも関わらず、高齢化や担い手不足に伴い、地元農家に農作業の手伝いを依頼されることが多くなったことから、本格的に農福連携の取組を実施

農福連携の取組を開始

- 昭和61年、知的障害者授産施設「太陽の里」を設立し、「農耕班」・「木工班」・「下請班」に分かれ作業を実施。
- 平成21年、新事業体系に移行、障害者支援施設太陽の里（施設入所支援、生活介護、就労継続支援B型事業所）としてスタート。
- 平成24年、農業以外の作業（木工、下請）をやめ、就労継続支援B型の活動を農業に特化したことで、栽培品目・耕作面積が増加。

せわやき隊の活動開始

- 平成26年、JA斐川を通じて、地域の全世帯にせわやき隊（農作業受託）のチラシを配布。
- 平成27年、キャベツ、白ねぎの作業受託（収穫～出荷）を実施。
福祉事業所の連携（5事業所）により、トマトのミックスソース加工数量が拡大。

視察の受入れ、情報発信

- 平成28年、県内外から農福連携に関する視察受入れが増加。
- 平成30年、農業新聞、NOSAI通信、月刊誌（さぼーと）取材などにより情報発信。

効率化、新商品の開発

- 令和元年、受託農地を事業所周辺に集約（農地中間管理機構仲介）。
- 令和2年、職種を超えた若手職員チームがヘルシー志向のトマトソースを新たに開発。
- 令和5年、トマトソースのインターネット販売を開始。

初代施設長の思いをつないで

- 「職員が作業環境や工程を工夫することで、障害を持った方々が活躍する仕事はきっとある。」この思いをもとに「障害を持った人たちに就労の場を！」を目指す。



せわやき隊の作業内容



せわやき隊による堆肥広げ



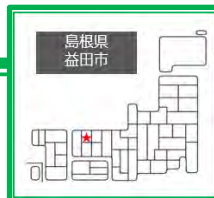
白ねぎの収穫



トマトソース開発チーム



就労継続支援B型事業所利用者の集合写真



「いつでも、だれでも、等しく陽の当たる場所」というコンセプトのもと、馬と障害者が支え合って農業を介して地域に貢献。

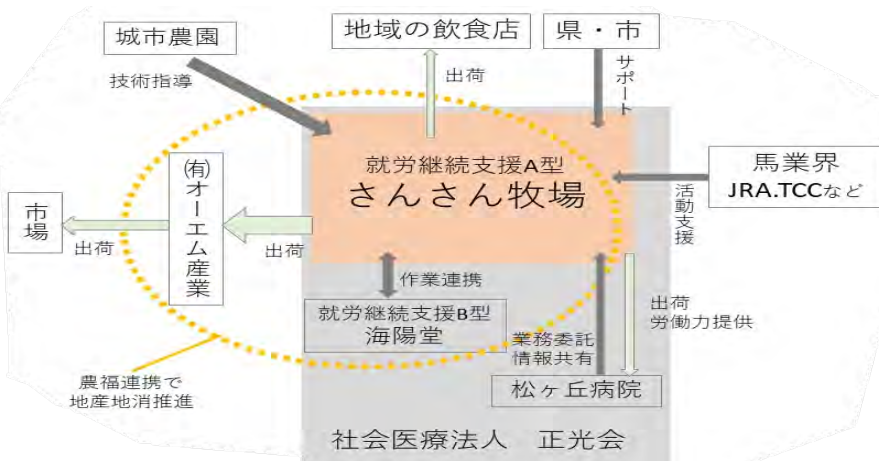
基本情報

- 所在地：島根県益田市
- 団体名：社会医療法人 正光会
さんさん牧場
- 選定表彰：
 - ・ノウフク・アワード2021
チャレンジ賞
 - ・令和4年度ディスカバー農山漁村の宝
中国四国地区 局長賞
- 主力商品：ミニトマト、きゅうり、細ねぎ、こまつな、たまねぎ、かぼちゃ、グラスジェムコーン、バタフライピー、マイクロトマト等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 就労継続支援A型事業所として精神、知的、発達、身体障害者の計19名が、本人の希望、体調やそれぞれの特性、習熟度を考慮して観光牧場で飼育している動物の飼育、ハウスや露地での農作業に従事。
- 牧場では、引退競走馬4頭を含む馬9頭、うさぎ10羽、ヤギ1頭を飼育。引退競争馬の貴重な受け入れ先として、JRAからの支援を受けており、引退競走馬はアニマルセラピー馬や乗用馬として活躍。
- 障害者と動物との関わりはアニマルセラピーに繋がるほか、「進め・止まれ」など、馬を制御することはコミュニケーションが苦手な障害者にとって意思を伝える訓練となっている。また、牧場は、高校の課題探求学習、高齢者介護予防、末期がん患者のセラピー等としても活用されている。
- 5aのハウス・露地のほか、青果卸売会社の農地（ハウス20a）も借り受け、耕作を実施。農産物は牧場で店頭販売するほか、地元のイタリアンやフレンチ等の高級レストランへ販売。
- 馬ふんを堆肥化し、農産物を生産する循環型農業に取り組む。

体制図



取組の成果

- 地域の観光協会と連携し、甲冑着用で海岸乗馬ができる体験プログラムを実施するなど、地域の観光業に貢献。
- 地域の学校等の実習・研修を積極的に受け入れるなど、アニマルセラピーや農福連携について、積極的に情報発信を実施。
- 流鏝馬や神事で中国地方各地に出向くことで、引退競争馬が活躍できる場が増加するとともに、障害者の社会への接点も増えたことで一般就労につながっている。

所在地 ▶ 島根県益田市高津三丁目2-2-1

連絡先 ▶ TEL:0856-31-1377 E-mail: info@sansanfarm.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.sansanfarm.jp>

【取組のプロセス】

市内には就労継続支援A型事業所が2か所しかなく障害者の働く場所、仕事の選択肢が少ない状況

平成30年

きっかけ

益田市馬事公苑が老朽化のため廃止となり地域住民からの「ホースセラピーを残してほしい」との声を受け止め、さんさん牧場を設立し、観光牧場などとして運営を開始

利用者5名で活動をスタート

平成31年

就労継続支援A型事業所さんさん牧場をオープン

- 観光牧場事業をスタート。敷地内にグループホームを併設。
- 放課後デイサービスや近隣校の子どもたち、高齢者などにホースセラピーを実施。

利用者が9名に増加

令和2年

農福連携をスタート

- 利用者数の増加に伴い、さらなる仕事づくりが必要になったことや、飼育中に出る馬ふんを活用するため、農地（ハウス3a・露地2a）を借り、農業を開始。
- 東京農業大学の乗馬療法の研究に毎年協力。

農業で売上げを初めて記録

利用者が17名に増加

令和3年

事業の拡大

- 青果卸売会社が耕作していた農地（ハウス2棟20a）を借りて耕作を開始。正光会が運営する就労継続支援B型事業所「海陽堂」とも連携。
- 敷地内にカフェをオープンし利用者の多様な訓練の実施が可能。
- 「令和3年度益田市商品開発補助金」を活用し、バタフライピーの商品化を実施。

利用者が17名に増加

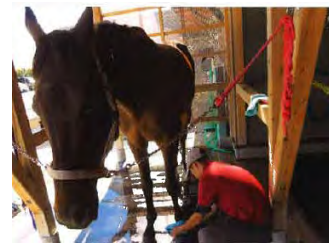
令和3年度「島根県障がい者就労支援事業所設備整備補助金」を活用し、トラクターや、冷蔵庫、乾燥機を整備

今後の展望

12,000人を超える来場者の居場所づくりと利用者の訓練の場として敷地内にカフェをオープン

障害者も健常者も馬も「誰もが生きやすい社会」を目指す

- 「馬・福祉・農業」の更なる繁栄。
- 馬の飼育→馬糞堆肥→作物生産→収益→馬の飼育 循環型社会の更なる飛躍。



馬の手入れ



きゅうりの仕立て作業



馬ふん堆肥散布

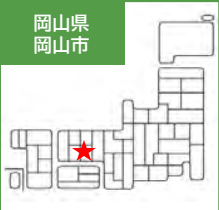


ハウス内作業（ミニトマト）

新規就農後、自ら就労継続支援A型事業所を設立し、障害者に農作業を安定的に担ってもらうことで農地面積を拡大するとともに、利用者の将来の就農を目指す。

農林水産業経営体

岡山県
岡山市



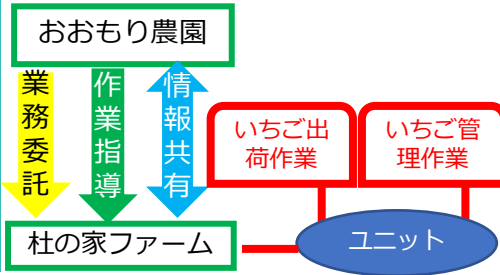
基本情報

設立: H14年/農福連携取組開始: H21年
取得認証等: ノーフクJAS(R3)、認定農業者(H27)
6次産業化認定事業者(H30)

概要

主力商品
(農作物)いちご
(加工品)冷凍いちご、業務用いちごピューレ 等
特徴的な取組
スマート農業、ユニバーサル農園

体制図



住所: 岡山県岡山市中区兼基111-1
TEL: 086-279-8391
Mail: info@npomori.com
URL: https://omorifarm.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

きっかけ

H21年

中国四国農政局主催のシンポジウム「クローズアップ農の福祉力」に参加し、障害者の受入れを決意。

人を耕す

- いちごは年間作業時間が特に長い作物であり、夫婦二人の作業では限界があったが、育苗から収穫までの期間に障害者の特性に応じた作業を振り分けることで、苗の生産から株の手入れや防除も行うことが可能となり、規模拡大と労働時間の短縮を実現。

地域を耕す

- 高齢による離農の施設の受け入れや荒廃農地の開墾を行い、経営規模を拡大するとともに地域農業の維持に寄与。

未来を耕す

- 障害者にはただ作業をしてもらうだけでなく、将来の地域農業の後継者になれるよう様々な農業技術について指導を実施。
- 農福連携の活動を多くの方に知ってもらうことで農業の発展に寄与したいと考えている。

取組

成果

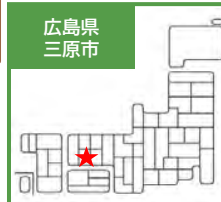
平均工賃月額	障害者数	農地面積	—
94,000円(R2) → 130,000円(R6)	18人(R2) → 19人(R6)	0.5ha(R2) → 0.8ha(R6)	

- 自らが障害福祉サービス事業所を設立することで、作業者を安定的に確保できるようになり、作業負担が軽減。休日を取得できるようになった。
- 経営に余裕が生まれた結果、離農した農業者からハウスを引き継ぎ、経営面積が約35aまで増加。
- 作業の見える化によって、異常発生時の問題点が明確になり、指示が障害者に的確に伝わるようになった。
- いちご栽培の安定的な請負とその他の施設外就労との組み合わせにより、県内就労継続支援A型事業所の平均を上回る。

障害者を含む生活困窮者の自立支援に向けて、果樹栽培、他の事業者の農福連携商品も含めた商品開発、加工・販売など、「商工農福連携」を目指した取組を実施。

農業経営体

広島県
三原市



きっかけ

R3年

R3年に社会福祉法人宗越福社会と共に耕作放棄されたぶどう園を受け継ぎ、生活困窮者(障害者含む)の自立支援を目指した農福連携型就労訓練事業を開始。

人を耕す

- 生活困窮者には県の最低賃金以上の給与を支払い、自立支援を図るほか、特性に応じた働き方を提供し、多様な支援環境を整備。
- 宗越福社会、広島県立黒瀬高校、八天堂ファームで協定を締結。生活困窮者の予備軍である若者には教育の場を提供し、農福連携の人材創出を目指す活動をR5年から開始。

地域を耕す

- R4年から地域のスーパーでぶどう販売を開始。収穫量は4,000房(R3)から14,000房(R6)に増加し、R6年は4つのスーパーで販売。
- 地域高齢者の雇用、障害者による選果や包装のほか、県立三原特別支援学校との商品開発や、高校生のボランティアの受入れも実施。

未来を耕す

- 「ノウフクの理念の啓蒙・共生社会の実現」を目指し、岡山県や岐阜県の事業者の農福連携産品を活用してジャムや「くりむパン」を開発し、商品開発や販路拡大に取り組む。ノウフクJASを取得。
- R6年に広島県と3市(三原市、竹原市、東広島市)と連携して、「農福コンソーシアムひろしま」を立上げ。

基本情報

設立:R4年/農福連携取組開始:R3年

取得認証等:ノウフクJAS

取組

成果

概要

主力商品
(農作物)ぶどう、いちじく
(加工品)くりむパン、バターサンドウィッチ

特徴的な取組
環境保全型農業

体制図



TEL:0848-62-2645/Mail:y_hayashi@hattendofarm.co.jp

URL:https://hattendofarm.co.jp

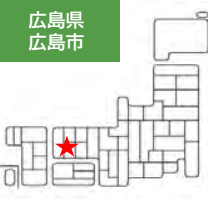
視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

障害者等の賃金	農作業に関わる障害者数	農地面積	コンソーシアム加盟事業者
時給900円(R3) →時給1,020円(R6)	4人(R6)	81.29a(R5)	7事業者(R6)

- ひきこもりの状態にある者がほ場での勤務をきっかけに運転免許を取得するなど、行動が変化。
- 農福連携産品を活用した「バターサンドウィッチ」を開発し、「ナチュラルローソン」で販売されるなど、積極的に販路を開拓。

農作業を学ぶだけでなく、地域に貢献する体験を積み重ねることで自信や生きがいを持ち、自立と社会参加を目指せるよう、地域との連携を通じた協働的な学びの充実を図る。

特別支援学校



基本情報
設立:S38年 / 農福連携取組開始:R3年

概要
主力商品
(農作物)トマト、きゅうり、ナス、ピーマン、さつまいも、大根、白菜、ニンジン、小松菜
特徴的な取組
環境保全型農業、ユニバーサル農園



住所:広島県広島市安佐北区倉掛2丁目47-1
TEL:082-843-1811
Mail:hiroshima-sh@hiroshima-c.ed.jp
URL:https://www.hiroshima-sh.hiroshima-c.ed.jp/

きっかけ
R3年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組

- 自信や生きがいをもって自立と社会参加を目指し、雇用や就労につなげてほしいという思いから農福連携の取組を開始。**
- 全ての年次の生徒が、自信や生きがいを持ち、自立と社会参加を目指せることを目的にして、作業学習【農業】の授業において、学校内のほ場で農作業を実施。
 - 土ふるいや堆肥作りなどを行うため、攪拌機のある屋根付き小屋を整備し、作業棟には車いすの児童生徒が室内で安全に作業できる水耕栽培を設置している。
 - 地域の公民館と連携した野菜の販売や、近隣住民を対象に訪問販売(受注型)実施。
 - 学校見学会等で来校される方々、近隣の小学校、インターナショナルスクールの児童による収穫体験を実施し、生徒が収穫や袋詰めの方法を説明する場を設けている。
 - 県内の農業を専門とする高等学校と連携し、土壌調査を依頼するなど、生徒同士が学び合う場を設けているほか、近隣小学校の児童に農作業を教えている。
 - 学校運営協議会を通して地域の様々な関係機関から助言を受け、農福連携の連携先や応援団になってもらうなど、連携の輪が広がり、地域を支えることができる人材として、自信や地域貢献への意欲につながっている。
 - 収穫体験や農作業を通して、地域に対して障害のある児童生徒や特別支援学校の取組について理解を図るとともに、農業に触れるきっかけを創出する。
 - 農福連携を通して人とのつながりを増やすことで、児童生徒の雇用につなげる。

成果

障害者数	売上高	農地面積	—
197人(R3) →217人(R7)	9.24万円(R3) →11.5万円(R7)	330㎡(R3) →330㎡(R7) ※縮尺図による目安	
- 農作業を通して、就労に必要な基本的な態度や意欲を身に付け、様々な職種への就労につながっている。 - 公民館での販売や近隣への訪問販売では、地域貢献への意欲や社会参加への自信につながっている。 - 収穫体験や小学校、高等学校との協働活動では、学んだことを発揮し、感謝されることで自己有用感の高まりにつながっている。			



障害者でも高品質なものを製造でき、農業の労働力になりえる。単なる作業受託ではなく、事業所として原材料生産を行うことを重視し、生産者となることで農業の持続化が可能となると考え実践。

基本情報

- 所在地：山口県阿武町
- 団体名：社会福祉法人 E.G.F
のんきな農場阿武事業所
- 選定表彰：
 - ・ ノウフク・アワード2022 優秀賞
 - ・ 平成27年 ディスカバー農山漁村の宝 第2回全国選定 プロデュース賞
(主催：農林水産省)
 - ・ 平成30年 地産地消活動優良活動表彰 優秀事例 (主催：共同通信社) 他
- 主力商品：冷凍ボイルカット野菜
- 取得認証等：認定農業者、6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定事業者

取組の概要

- 知的、精神、発達障害者など30名でいちご、メロンの栽培(2.5ha)のほか、冷凍ボイルカット野菜を製造するなど、6次産業化に取り組んでおり、近隣農家からも規格外野菜を仕入れ、加工品として販売。
- 障害者が育てた野菜(特に規格外野菜)を使用した商品を主に山口県学校給食会へ販売しており、県内のほぼ全ての小・中学校で使用されている。
- 農事組合法人福の里から田植え(130ha)の際のハウスからの苗出し・田植機への苗の受け渡し・苗箱洗浄のほか、除草作業の一部などを受託。
- 農事組合法人福の里と連携した共同商品の開発のほか、一部の水稻を障害者が架干しすることで、付加価値の高い天日干し米の販売も実施。
- 社会福祉法人として全国で初めて6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定事業者(以下、6次産業化認定事業者)となる。
- 令和5年度からは、広島少年院との連携を開始。広島少年院では、職業指導の一環として製品企画科「アグリコース」が設置されており、在院者が野菜の栽培や販売等も実施していることから、E.G.F職員が、在院者に対して農業技術指導や、職業講話を実施。

体制図



取組の成果

- 規格外野菜の仕入れや農作業を受託することにより、農家の所得向上・作業負担の軽減に寄与。
- 学校給食への食材提供をすることで、県産野菜使用率の向上や食育・地産地消の推進に貢献しているほか、地域の小学校の視察を受け入れることで児童への障害福祉の理解促進に寄与。
- 令和5年の平均工賃月額額は約16,000円であり、県平均を上回る。工賃月額が40,000円を超える利用者もあり、当該利用者は責任者として従事。

所在地 ▶ 山口県阿武郡阿武町福田上1326

連絡先 ▶ TEL:08388-5-0050 E-mail: egf@Athena.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://e-g-f.jp/>

【取組のプロセス】

平成20年

きっかけ

事業所として生産者となることで農業の持続化が可能となる。
障害者が高品質な物を製造する。

NPO法人として就労継続支援B型事業所ののきな農場を開設

- 平成22年、社会福祉法人の認可を取得し、社会福祉法人E.G.F設立。
- 平成26年、6次産業化認定事業者となる。

平成22年

全国で初めて社会福祉法人が6次産業化認定事業者となり、全国から視察が増加

平成28年

6次産業化ネットワーク交付金事業の活用

6次産業化スタート

- 平成28年、のきな農場阿武事業所（就労継続支援B型事業所）を開設。6次産業化認定事業者として、6次産業化・農福連携に取り組む。
- 6次産業化ネットワーク交付金事業が大幅減額になったが、事業の重要性と継続性から民間借り入れを増額し、実施。

令和元年

地域の維持・発展に貢献

- 令和2年に認定農業者として認定される。
- 地域のほうれんそう農家からB級品の収穫依頼が激増し、Win-Winな関係性を構築。
- 農事組合法人福の里との連携強化 田植え・草刈りと切っても切れない関係性。

令和5年

県会議員や県内外のJA等から地元でかかえる問題解決のため視察が急増

広島少年院との連携を開始

- 令和5年8月、広島少年院にて、E.G.F職員から在院者に対して直接、農業技術指導を実施。また、少年院職員との意見交換を実施し、土壌改良等について助言。
- 令和5年11月、広島少年院の全在院者に対して、E.G.F総合施設長による農業講話を実施。農作業を通して、利用者が個性を活かして役割を見つけていることを伝える。

今後の展望

地域の活性化と障害者の就労・居場所作り・社会参加の更なる拡大

- 社会福祉法人E.G.Fの目指す農福連携とは、単なる農作業の請負ではなく、障害者が地域農業の継承者となること。
- 農業だけでなく、温泉用ボイラーの薪製造の林福連携や、磯焼け対策のウニの養殖用の餌の提供などの水福連携の取組を試験的にスタートしている。



畦畔の草刈り作業



地元住民を招いての収穫体験



冷凍カット野菜洗浄作業



冷凍カット野菜製造作業

(農)二島西が(福)夢かれんなど複数の福祉事業所と連携し、施設外就労で年間を通じて農作業を委託。農作業における労働力不足の解消と利用者が働く場の提供の両方を実現する事例として、地域に波及。



基本情報
設立: H20年 / 農福連携取組開始: H28年
認証等: JGAP(R3)、認定農業者(H22)、ITファーマー(H22)
主な選定表彰: 全国優良経営体表彰 全国担い手育成総合支援協議会長賞(経営改善部門)(2019)

概要
主力商品
(農作物)米・麦・大豆、野菜
特徴的な取組
スマート農業、環境保全型農業

体制図

農事組合法人 二島西

社会福祉法人 山家連福祉事業会 夢かれん

依頼
調整
施設外就労

住所: 山口県山口市秋穂二島1001番地
TEL: 083-973-2247
Mail: yamaroukyo@ja-yc.jp
URL: <https://nounishi.com/>

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きつかけ
H28年
人を耕す
地域を耕す
未来を耕す
取組

農業の労働力確保と工賃向上を提供することを目的とした県の「農福連携就労支援推進事業」の支援によるマッチングを契機に、山口市内複数の事業所から受入を開始。

- 軽微な作業と重労働に分けて時給単価を決め、重労働は、県の最低賃金をもとに金額を設定。
- 働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでおり、障害のある人だけでなく、法人の作業員も働きやすい環境整備を推進。
- (農)二島西と(社)夢かれんの職員間で密にコミュニケーションをとりながら委託作業を増やし、年間を通じた農作業の依頼に発展。

- 農福連携により、高齢化による労働力不足を補完でき、県下最大級の集落営農法人として139haある地域農地の維持に貢献。
- 支払工賃額を(農)二島西で予算化することで、農福連携の取組が地域の組合員に認識され、地域農業の維持に大きく貢献。

- (農)二島西の事例波及は地域内に留まらず、県内においても徐々に農業経営体と福祉事業所の連携が増加。
- 県が主催する農福連携技術支援者育成研修の現地視察を引き受け、育成に寄与。
- 農福連携のモデル的な取組として関係機関からも認識され、「つながるノウフク応援会議」の設置のきっかけにもなった。

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
11,231円(R2) →21,898円(R6)	2,589人(R2) →3,910人(R6)	9,193万円(R2) →1億2,856万円(R6)	130ha(R2) →139ha(R6)

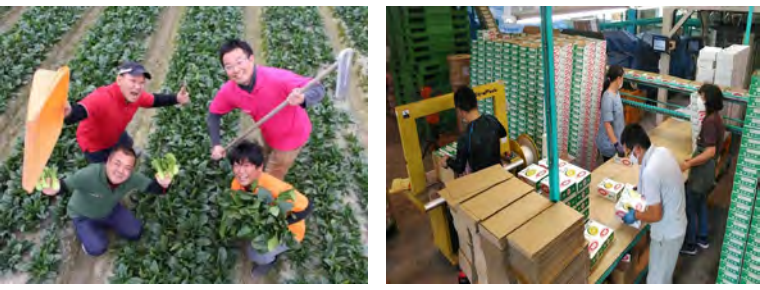
- (社)夢かれんの利用者1名が直接雇用に繋がり、自ら必要な資格を取得。
- 作業効率が向上した仕事や、体力的負担が大きい仕事は、工賃の見直しが行われ、請負報酬総額や平均工賃が向上。
- 当初は収穫したキャバツの運搬作業のみであったが、現在はスマート農業等で対応できない作業や、体力を要する作業など作業種目は10種にまで拡大。
- 障害者を受け入れたことで利用者に多くの作業を担ってもらうことができ、職員が他の作業に従事することが可能になった。



農業法人4社が共同して障害者就労施設を立ち上げ、県内の各JAと連携して、県内全域の農家で施設外就労を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。

農林水産業経営体

徳島県
徳島市



基本情報

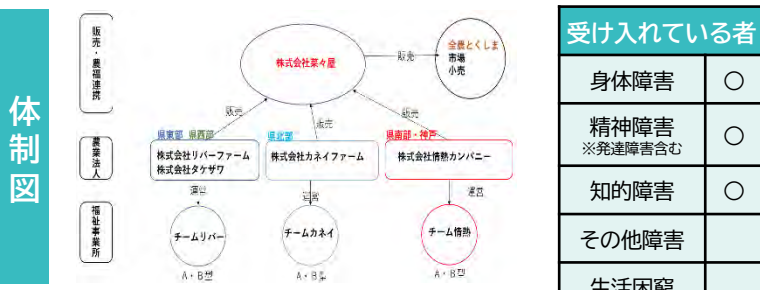
設立:H24年 / 農福連携取組開始:H27年

取得認証等:JGAP(R4)

概要

主力商品
(農作物)こまつな、ちんげんさい、なす、レタス 等

特徴的な取組
スマート農業、輸出、特別栽培農産物



住所:徳島県徳島市府府町中760-3

TEL:088-674-5627

Mail:nanaya.center@gmail.com

URL:https://nanaya-agri.com/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きつかけ

人

地

取

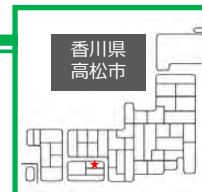
未

- H27年
- 県内各地の農業の人手不足と福祉業界のマッチングを決意し、地域で働きたくても働けない障害者が働ける環境整備のため、農業に特化した障害者就労施設を設立。
- 人
- 地
- 取
- 未
- 様々な農業現場での作業を通じて障害者が社会性を育み、一般就労を目指せるよう支援し、これまで41名が農業法人、JA等に一般就労。
 - 農場長として働いていた障害者が露地野菜の農家として独立し、その後のサポートも実施。
 - 障害者就労施設の利用者に対して、体力や特性に合わせて農作業を細分化するとともに、評価書(アセスメントシート)による評価を実施。利用者が安全に作業できるよう体調管理にも配慮。
- 地
- 新規就農者や規模拡大をめざす農業法人から作業を受託して、障害者が収穫、徳島県のブランドさつまいも「なると金時」のパック詰め等を行い、農業経営の効率化や規模拡大に貢献。
 - 中山間地での「すだち」の収穫支援により、人手不足の解消に貢献。
- 未
- 農業経営者ならではの知見を活かして、地域の様々な作物に関する作業委託に対して、作業の細分化と年間スケジュールの作成により、農福連携が円滑に実施できる仕組みづくりを実施。
 - 障害者がコンバインによる収穫作業を行うなど新たな技術習得にもチャレンジ。
 - 特別支援学校での農業体験授業や地域貢献活動としてボランティアや農産物の販売を実施。

平均工賃月額	障害者数	売上高	農地面積
78,663円(R2) →102,987円(R6)	73人(R2) →107人(R6)	19,042万円(R2) →39,922万円(R6)	47ha(R2) →67ha(R6)

成果

- 「なると金時」を栽培している農業法人で障害者が施設外就労し、芋の皮むきを実施することで、生産量が増加。
- 徳島県からの出荷量が減っている「すだち」の植樹事業を開始し、荒廃農地の解消に貢献。
- 障害者が生産に携わった白なすをマレーシアに輸出。
- 障害者が生産に携わった野菜を加工し、祭りの屋台で販売するほか、弁当にして単身高齢者世帯への配達等も実施。



就労継続支援B型事業所の平均工賃が全国比より安価であったこと、農業者の高齢化が進み県内の農産物生産量の維持・拡大が困難であったことなどから、にんにく収穫作業への障害者の参画を推進。

基本情報

- 所在地：香川県高松市
- 団体名：特定非営利活動法人
香川県社会就労センター協議会
- 選定表彰：令和元年 ディスカバー農山漁村の宝 中国四国地区 個人部門局長賞
ノウフクアワード2020 審査員特別賞
- 主力商品：にんにく、たまねぎ、青ねぎ、アスパラガス、キャベツ、セロリ
- 取得認証等：－

取組の概要

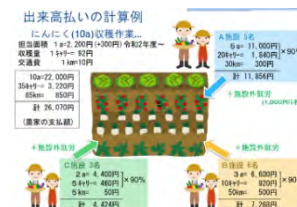
- 就労センターは、毎月下旬に農家から翌月に福祉施設へ依頼したい作業内容、日程を確認し、募集文及びカレンダーを会員である施設へ送付。
- 福祉施設は、農家毎にカレンダーの参加予定日の枠に作業人数・時間等を記入し、就労センターへ提出。就労センターは、スケジュールを調整し、マッチングが完了後、スケジュール表を農家及び福祉施設へ送付。
- 福祉施設は、農家のほ場で作業を実施し、作業終了後、作業報告書を就労センターに提出。
- 就労センターは、送付された作業報告書に出来高制で設定された工賃基準に従い工賃を記入し、福祉施設へ返送。就労センターは、農家と福祉施設間の代金の支払いの仲介も実施。



にんにくの収穫作業



さつまいもの毛むしり作業

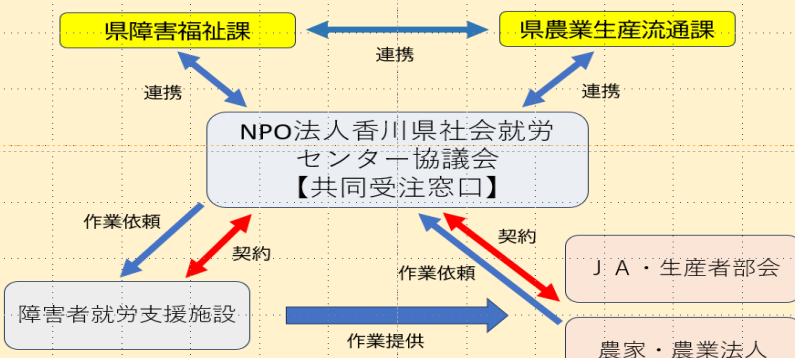


農福連携事業 月別売上額



体制図

香川県社会就労センター協議会が共同受注窓口となり全県域でマッチング



取組の成果

- 平成23年に共同受注制度が開始して以来、県内のJAやにんにく部会役員と協議を行い、にんにくに関する作業について、これまでに3度の作業単価の値上げを実現。
- 新規に農福連携に取り組む福祉施設の増加に伴い、マニュアルを作成したことで、農業収益と施設の工賃向上に寄与。
- 令和4年度には、新たに水耕栽培やセロリの出荷調整作業の支援を開始するなど、令和5年度の作業工賃総額は1,822万円と過去最高額を更新。

所在地 ▶ 香川県高松市元山町1193番地2 連絡先 ▶ TEL：087-813-1420
E-mail ▶ Noami.Hideyuki@selpcenter.onmicrosoft.com
ウェブサイト ▶ <http://www.yorokobi-selp.com/>

【取組のプロセス】

昭和58年

障害者施設等での
授産事業・地域福
祉の発展を推進

きっかけ

県内の就労継続支援B型事業所の平均工賃が全国と比較して低いことや、
農業者の高齢化により、県内農産物の生産量の維持・拡大が困難な状況
であったことから、農福連携の取組を実施

共同受注窓口

平成8年

コーディネーター
を中心に「共同受
注」の展開

協議会の発足、NPO法人格の取得

- 昭和58年、県内にある身体障害者施設及び知的障害施設の5施設を会員とした香川県授産施設協議会として発足。
- 平成8年、香川県社会就労センター協議会へ名称変更。
- 平成22年、法人格を取得し、特定非営利活動法人 香川県社会就労センター協議会に。

農家と施設利用者の所得向上や工賃
向上が、生きがいややりがいにつながる
よう、関係者は最善の努力を怠らない
ように

コーディネータは、他人に接する時
言葉や態度は力まず時の力を抜き、
自然体で、誠心誠意その人に自分か
できる全てのことを考え、実行する
ことが大切



平成23年

各種県事業の活用

共同受注窓口業務開始

- 平成23年、障害者就労施設における受注促進事業を実施。共同受注窓口として業務を開始。
- JAと共同でいちごやにんにく、温州みかんの生産において農福連携が可能か、試行的に障害者に作業を実施してもらった結果、にんにくの収穫作業で実現可能であることを確認。
- 障害者がにんにくの収穫作業を十分に実施できるという事例は瞬く間に県内に広がり、農福連携の取組が拡大。



引きこもり当事者会による
レタスの定植作業

平成24年

利用者の工賃向上
を実現

各種事業の継続的取り組み

- 平成24年（～平成26年）、香川県受注窓口機能強化推進事業を実施。
- 平成26年、香川県障害者優先調達推進事業を実施。
- 平成30年（～令和2年）、農作業支援強化事業を実施。
- 令和元年～、農福連携事業を実施。



アスパラの定植作業

今後の
展望

地元農家の作業支援は地元施設で

- 地元農家への作業支援は地元の施設が参加し、不足なら近隣施設に応援依頼を行う体制を継続して整備。併せて、新規に農福連携に参入する施設を育成。
- 一年をとおして何らかの作業依頼があれば、施設は安定した支援が実現でき、地域に貢献できることから、新たな農作業、農家を開拓。



青ねぎ洗浄・コンテナ投入作業

障害者や生きづらさを抱える者等に対し、滞在型の自然農法による農作業を提供。地域との交流を図りながら多様な人が働く環境を創出し、定住や新規就農へと繋げる取組を実施。

農林水産業経営体



基本情報
設立:S48年 / 農福連携取組開始:R4年
取得認証等:認定農業者(H20年)
高収益作物時期作支援交付金事業(R2) 等
主な選定表彰:ダルメインWorldマーマレード&フェスティバル(2019~2022)金賞
料理王国100選2023入賞(果実酒(甘夏))

概要
主力商品
(農作物)米、野菜、果樹(柑橘類)、ハーブ類
(加工品)マーマレード、ジュース
特徴的な取組
自然農法、農薬不使用、環境保全型農業

体制図
福岡正信自然農園: 柑橘を中心に、米・麦 等を生産
「空と大地 B 型事業所」:3年前から農繁期や福祉の適正にあった仕事があるときに
作業を委託
知人の法人に所属する重度の身体・知的障害者:5年前から法人のスタッフと共に
サポートしながら農作業に当たってもらっている。
自然農法を学びたい人の受け入れ:年間 20 名程度(半分は海外から)が自然農法を
勉強しに農園に滞在。農業を勉強したい人だけでなく、
生きづらさを抱える人や人生に悩む人が数多く滞在。

TEL:0744-34-7271
Mail:fmasanobu@nihon-sogo-engel.com
URL:https://f-masanobu.jp/

受け入れている者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

きっかけ

R 4 年
従業員の家族である重度障害者の方に20年以上前から農作業を手伝ってもらってきたことから、障害者と農作業の親和性を感じ、福祉施設との連携を開始。

人を耕す

- 就労継続支援B型事業所への委託は、取組当初から1名あたり時給500円に設定。
- 得意なことや個々の性格、やりたい仕事に応じて作業を切り分け実施。
- 障害者や生きづらさを抱える者、また自然農法を学びたい者に対し、年間20名程度(半数が海外から)に住環境と食事を提供し、多様な人と農作業に携わり、自然への関わり方を覚える機会を提供。

地域を耕す

- 自然農法の根幹となる「粘土団子づくり」のワークショップを地域の小学校で毎年実施し、地域との交流を図っている。
- 山椒の植え付けなど手間のかかる農作物の作付を拡大し、連携先の就労継続支援B型事業所の業務量増加に寄与。

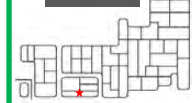
未来を耕す

- 自然農法で障害者など多様な人が働く場所を創出し、定住や新規就農につなげるなど、地域農業の維持・発展に貢献。
- 規格外品や豊作年の余剰作物をマーマレードやジュース等に加工作。マーマレードは国際的なアワードで金賞を受賞。

成果

障害者数	農地面積		
1人(R4) →7人(R6)	10ha(R4) →10.4ha(R6)	—	—

- 多様な人が自然の中でそれぞれ得意とする力を発揮し、互いの違いを認め合う地域コミュニティが育つ環境を創出。
- ニューヨークの雑誌「Atmos」でも農園が紹介された他、NHK のドキュメンタリー番組が2年半～3年にわたり密着取材し、BS で放送。
- 滞在型による農作業の機会を提供することで、その後5名程度が新規就農を実現。
- 農福連携の取組を開始して3年で50a程度農地を拡大。



高知県の高い自殺率を低減させることを目的に「ここから東部ネットワーク会議」が平成25年に立ち上がったが、自殺対策以外にも対応できる体制整備が必要となったことから、生きづらさや障害者等も生きがいを持って生活できる社会の実現を目指し「安芸市農福連携研究会」が設立。

基本情報

- 所在地：高知県安芸市
- 団体名：安芸市農福連携研究会
- 選定表彰：ノウフク・アワード2021
審査員特別賞
- 主力商品：なす、ゆず
- 取得認証等：－

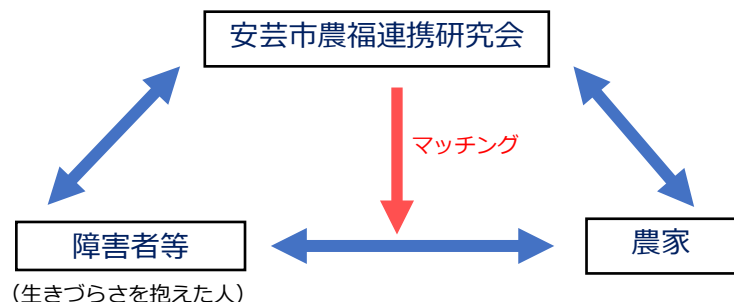


事例や課題を共有するサミット

取組の概要

- 毎月の定例会を通じて関係機関との情報交換を積極的に行うことで、障害者一人一人の状況に応じた必要な支援方法等の洗い出しを行っている。
- 農福連携の取組に対する理解促進を目的に障害者理解についての講演や、実際に障害者等を雇用している農家の体験発表を実施。
- 講演会や研修会ですでに障害者等を受け入れている農家と受け入れていない農家を交えたグループ討議を行うことで、障害者等の受入農家数が増加。
- 農作業の切り分けや、素人でもわかりやすく作業ができるような動画を作成するなど、誰もが積極的に農作業に参加できる仕組みづくりを構築。
- 初めて農作業を行う人の多くがすぐに辞めてしまうケースもあったが、農業就労サポーターをJA高知県が雇用し、障害者等の作業や心のケア、農家への支援を行うことで、就労定着につながっている。
- 農閑期の障害者の就労の受け皿を確保することを目的に一般社団法人こうち絆ファームが設立され、福祉事業所としてナスやオクラの栽培・収穫を実施。

体制図



取組の成果

- 取組当初の平成30年度に農福連携の取組に参画している経営体は11戸であったが、令和5年度には約2.5倍の29戸に増加。障害者は取組当初に比べ約6倍の107名が就労・雇用されている。
(一般社団法人こうち絆ファームも含む)
- 生活困窮から抜け出し200万円を超える貯金ができたと利用者もいる。
- ハローワークで一般就労が難しいとされた方を関係機関やJA高知県安芸地区の無料職業紹介所を通じて、受け入れ可能な農家に紹介し、農作業体験を行ったことで一般就労につながった。

所在地 ▶ 高知県安芸市幸町1-16

連絡先 ▶ TEL:0887-34-8325 E-mail: aki-einokikaku@ja-kochi.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://ja-kochi.or.jp>

【取組のプロセス】

高知県は全国でも自殺率が高く、その対策が喫緊の課題となっていた

平成23年

きっかけ

自殺対策のためのここから東部ネットワーク会議が発足され、会議を重ねることで関係機関の連携が深まり、自殺以外の課題にも対応できる体制を確立するため安芸市農福連携研究会を設立

平成25年に高知県安芸福祉保健所が「ここから東部ネットワーク会議（自殺予防）」を立ち上げ、多くの関係機関との連携を開始

平成30年

会議を重ねるごとに自殺以外の課題にも対応できる体制が整備された

高知県農業労働力確保対策事業を活用し「農福連携高知県サミットinあき」を開催

令和元年

高知県農業会議農福連携推進支援障害者等試行就労受入体験事業を利用し収穫体験

一般社団法人こうち絆ファーム設立（令和元年）農閑期の受け皿へ

不登校の子どもを抱える家族を対象に収穫体験を実施ひきこもりを未然に防ぐ

今後の展望

安芸市農福連携研究会の発足

- 平成30年、安芸市農福連携研究会が発足。以降、下記の取組を継続的に実施中。
 - ・ 定例会を毎月開催し、関係機関との情報交換を積極的に実施。
 - ・ 安芸市における農福連携の仕組みづくりと障害者理解についての講演、実際に障害者等を雇用している農家の体験発表などを実施することで、取組に対する地域や関係者の理解を深める。
 - ・ 県外への視察研修の実施及び他事業者の視察受け入れ。
 - ・ 農業体験を実施し、農作業や集出荷場の作業を実際に体験してもらうことで就労定着を促進。

農業就労サポーターを導入

- 令和元年、農業就労サポーターを導入。障害者等の心のケアや農家の支援を担うことで、就労定着につながっている。

一般社団法人こうち絆ファームが設立

- 令和元年、生きづらさを感じる人たちに通年で仕事を作るために一般社団法人こうち絆ファームが設立され、福祉事業所として自らナスやオクラの栽培・収穫を実施。
- 障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者など、63名が2か所の福祉事業所で農作業を実施。これまでに一般就労に8名が移行しており、過去にひきこもり状態であった1名は新規就農者として令和4年度から経営を開始。

台風の日となり活動継続へ

- 障害者・ひきこもり状態にある者・生活困窮者・高齢者に加え、触法者の受け入れと再犯防止への取組も一部はじまる。
- 安芸市から始まった「農福連携」が台風の日となり、県内各地域へ、さらには日本全国へ広がり「すべての人が生きがいを持って自分らしく生活できる社会の実現」に向け活動を継続していく。



情報共有（毎月定例会）



雇用に向けた作業体験



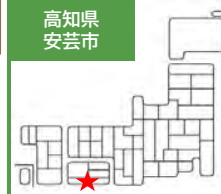
農業就労支援サポーターの支援



意見交換会（農家と関係機関）

行政及び関係団体と連携し、最低賃金で働けない全ての人や、行き辛さを抱えた方々(ひきこもり状態にある者、触法者など)への支援を通じ、地域の課題解決に貢献。

農林水産業経営体

高知県
安芸市

きつかけ

R元年

農業経営規模の拡大に伴い、障害のある親子を雇用したことから農福連携の取組が開始。

人を耕す

- こうち絆ファームは、安芸市農福連携研究会の発展形として、行き辛さを感じる人たちに通年で仕事を作るために令和元年に設立された福祉事業所として自らナスやオクラの栽培・収穫を実施。
- 20代～60代までの行き辛さを抱えた方々(障害者、ひきこもりの状態にある者、触法者等)58名が2カ所の事業所で作業。

地域を耕す

- 事業所では、こうち絆ファーム以外に近隣の18の農家から収穫したなすやピーマン、ししとう等の袋、箱詰めも行っており、作業者に合わせた就労体系で1箱200円の出来高制で請負う。
- 農閑期(7月～9月)にはハウスをユニバーサル農園として市民や関係機関に開放し、ナス狩り収穫体験を実施。特別支援学校や放課後デイサービスの子ども達に対する食育としても貢献。

未来を耕す

- 清水寺住職より仏教界からの協力の申し出があり、自殺予防の取組の拡大として「仏福連携」をスタート。
- 特別支援学校との連携、法務省と連携した触法者の受け入れ、高齢者通所サービス事業所との連携といった、多様な連携を行っている。

基本情報

設立: R元年 / 農福連携取組開始: R元年

取得認証等: 認定農業者(R7)、ノーフクJAS(R6)

農山漁村振興交付金(農福連携型)(R6年度)

主な選定表彰: 令和4年度ディスカバー農山漁村の宝(中国)奨励賞、第13回地域再生大賞 優秀賞 等

取組

成果

主力商品

(農作物)ナス、きくいも

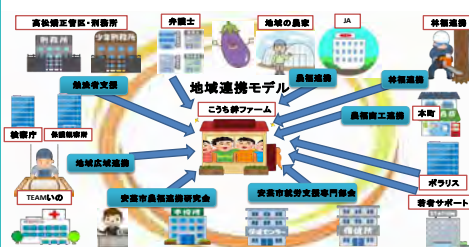
(加工品)きくいもチップス、きくいもパウダー等

特徴的な取組

ふるさと納税、仏福連携、ユニバーサル農園、自然栽培 等

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

平均工賃月額

21,985円(R2)
→66,550円(R6)

障害者数

34人(R2)
→67人(R6)

売上高

2,298万円(R2)
→16,918万円(R6)

農地面積

0.5ha(R2)
→0.76ha(R6)

- 行き辛さを抱えた多様な人材を受け入れ、3年間で一般就労に8名が移行し現在も定着。過去にひきこもり状態であった1名は新規就農として令和4年度から経営を開始。
- ふるさと納税の返礼品や企業からの発注が多くなるにつれ、より良い品質の良いものを提供しよう栽培管理、職員、利用者のモチベーション向上につながっていることもあり、取組開始した当初から、平均工賃月額が増加している。

住所: 高知県安芸市本町3丁目10-35

TEL: 0887-37-9071

Mail: aki@kochi-kizuna.com

URL: <https://kochi-kizuna-farm.com/>

特別支援学校の生徒の就労実績あり / 特別支援学校等の現場実習受入れ: 可 / 視察受入れ: 可 / 報道機関受入れ: 可

特別支援学校における校内実習や作業学習への支援(体験の場の提供、農業に関する技術的な助言等): 可

触法者を含む36名の障害者を雇用。認定農業者として付加価値の高い花き生産を行い、200を超える農業経営体からも多種多様な作業を受託し、地域農業を支える。

農林水産業経営体

福岡県
久留米市

基本情報

設立:H24年 / 農福連携取組開始:H24年

取得認証等:認定農業者(H30年)

きつかけ

H
24
年

地域貢献を目指し農業法人化。知的障害者の更生支援を機に障害者雇用を進め、福祉事業にも参入。就労継続支援A型事業所の開所と共に法務省保護局所管の協力雇用主に登録。

人を耕す

- 多種多様な作業の受託や付加価値の高い花き生産に取り組み、利用者の適性・能力に応じた作業を割振することで、収益と意欲が向上。利用者は精神力、体力、社会性を身につけ、13名が一般就労へ移行。
- 作業内容、態度、能力、経験等を考慮した評価をもとにした昇給制度を採用し、利用者の責任感、モチベーションを維持。

地域を耕す

- 電照菊、博多シンテッポウユリを生産し、認定農業者としては県内最大の生産を担い、花き産地の維持・拡大に貢献。
- 選花作業を他社会福祉法人に委託することで、高品質出荷及び障害者雇用を創出。
- 自社の規格外品や地域の生産農家から仕入れた規格外品を仏花用花バックとして出荷することで自社の収益増加、生産農家の所得向上を実現。

取組

未来を耕す

- データベースシステムを活用し、営農情報をデジタル化することで、作業の効率化と情報共有を実現。
- 農福連携の先進事例として県内外からの視察・講師依頼が増加。
- 農業大学校の実習受入や他機関との連携で農福連携の認知向上や就労機会の拡大に貢献。

成果

平均工賃月額

95,000円(R2)
→113,000円(R6)

A型農業生産収入

1,428万円(R2)
→2,015万円(R6)

A型農作業受託収入

2,216万円(R2)
→2,792万円(R6)

農地面積

0.4ha(R2)
→1ha(R6)

- 令和2年に就労継続支援B型事業所を開設し、触法者を含む31名の障害者の雇用を実現。当初から受け入れている触法障害者は再犯をせず、地域の中での自立を実現。
- 県内のJA、農業者、県農業普及指導センターと連携し、夏場や天候不良時の作業の開拓を図り、受注体制強化に取り組むなどして通年受委託モデルを独自に確立。障害者の働く力の幅広い認知に貢献。
- 農業普及指導センターと共に、品目別作業の標準化とマニュアルの作成を実施。福祉施設、高齢者や若手新規就農者に対しても有効なノウハウとして期待。
- 高齢農家の営農継続支援につながっているほか、地元の農業分野の貴重な労働力となっている。

主力商品

(農作物)電照菊、博多シンテッポウユリ

概要

体制図



住所:福岡県久留米市野中町字宮園727番地の5

TEL:0942-80-2729

Mail:ksfarm@thechallenged.jp

URL:https://thechallenged.jp/

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

障害者福祉事業を行う中で、障害者を企業の戦略として定着させたいという理念のもと、慢性的な人手不足に陥っていた水産加工会社を事業承継し、人手不足解消と障害者が戦力として定着する新たな分野を創出。

福祉事業所

福岡県
福岡市

基本情報

設立:H22年 / 農福連携取組開始:H22年

取得認証等:ISO22000(R7更新中)

主な選定表彰:令和2年福岡市環境行動奨励賞

きつかけ

H
22
年

障害者を企業の戦略として社会に定着させたいという強い思いを実現するため、慢性的な人手不足に悩んでいた地域の水産加工会社の事業継承へと至る。

人を耕す

- 国際規格ISO22000の認証を活かしたもののづくり、冷凍自販機の増加等で販路を拡大し、売上増加→生産増加→障害者雇用増加の流れを確かなものにする。
- 福岡丸福水産においてパート社員から準社員→正社員へとステップアップしていく仕組みを整えることで障害者が定着し、人手不足を補う大きな戦力となっている。
- 那珂川キッチンへの施設外就労や一般就労は生産性の向上および売上増に繋がっている。

地域を耕す

- 就労移行支援・/就労継続支援A型/共同生活援助/通信制高校等を順次開設。
- 学び・生活・就労を包括した支援を通じた利用者が安心できる環境づくり。
- パートナー企業19社で施設外就労を積極的に実施し、1,966人(R3)から2,060(R5)に増加。

未来を耕す

- 障害を含めたグループ全体で技術継承及び人材育成に取組、水産加工会社や食品製造会社において障害者雇用50%を目指す。
- メディアによる取材・撮影は積極的に受け、職場体験や工場見学の機会を増やし、障害者として働き、かつ企業の業績を伸ばしていることを発信し続ける。
- 令和6が戦力と年から触法障害者の受入れを開始し、新たな方面からの障害者の受入れを拡大中。

取組

成果

概要

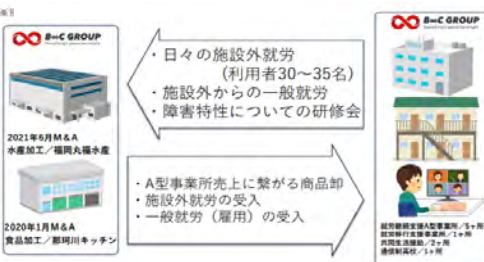
主力商品

(加工品) 冷凍魚切り身(調理前)、冷凍魚フライ(調理前)、冷凍焼き魚(調理済)

特徴的な取組

水福連携、輸出

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

住所:福岡県福岡市博多区博多駅前2-17-25
博多クリエイティブビル5F
TEL:0120-888-545
Mail:kanri@be-smile.net
URL:https://b-continue.co.jp

平均工賃月額

72,204円(R2)
→79,147円(R6)

障害者数

一般就労
8人(R2)
→17人(R6)

売上高

施設外就労売上
4,697万円(R2)
→10,077万円(R6)

- グループ内障害者施設との連携により水産加工の人手不足が解消。
- 障害の特性に合わせた作業分担を行うことで、離職が激減。
- 正確な切り身加工等の専門的業務において生産量/日が30%アップし、品質も向上。

JAの部会との委託契約により花きのパッケージセンターを運営し、地域農業の維持・発展に貢献。認定農業者となり、自社生産も実施。

福祉事業所

福岡県
八女市

きつかけ

H26年

継続的な仕事がなく、安価な作業しかない福祉側と慢性的な人手不足が課題の農家側が力を合わせればWin-Winな関係が築けると考え、農福連携の取組を開始。

人を耕す

- フラワーパッケージセンター(以下「FPC」という。)では、フラワーパッケージ作業・ファーム作業と障害の種別や特性に分けて作業を分散。1名は責任者として終日雇用。
- 就労継続支援A型事業所の給料は5年連続で向上。給料以外のハウスの建設・修理等の必要経費も福祉収入には一切頼らず就労支援事業費で支出し、安定した収益も確保。

地域を耕す

- FPCがあることで、農家は栽培に専念することができ、栽培面積の拡大につながっているほか、商品の検査体制の一元化により、農家間の選別のバラツキが無くなり、有利販売に寄与。
- 荒廃農地を購入し、ミディトマト、ガーベラ等の栽培に取り組んでおり、農地の維持に貢献。
- 八女市が主導する農福連携の部会にも参加し、地域の農福連携の推進にも貢献。

未来を耕す

- 福祉施設・JA・農家がタッグを組み、本来JAが運営するFPCを福祉施設が運営。
- 刑務所からの依頼で受刑者への農福連携の事例紹介や出所後の福祉サービスの情報提供を行うほか、放課後等デイサービスの児童を受け入れ、収穫体験等を実施。
- トマトの規格外品を使用したトマトソースを開発し、ふるさと納税の返礼品としてや、直売所等で販売。

基本情報

設立:H19年/農福連携取組開始:H26年

取得認証等: 認定農業者

取組

成果

概要

主力商品
(農作物)ガーベラ、テッポウユリ、トマト
(加工品)トマトソース

特徴的な取組

パッケージセンターを福祉施設が運営

社会福祉法人 ハイジ福祉会

- 就労継続支援B型事業所 八女作業所
- 就労継続支援B型事業所 第二八女作業所
- 共同生活援助 ぐるーぷほーむハイジ吉番館
- 就労継続支援A型事業所 フラワーパッケージセンター

※就労系全施設で農福連携に取り組んでいる。

TEL / 0943-23-1747

Mail / yame-sagyouso@ia4.itkeeper.ne.jp

視察受入れ:可 / 報道機関受入れ:可

平均賃金月額(A型)

60,527円(H26)
→88,070円(R5)

障害者数

4人(H26)
→16人(R5)

売上高(A型)

4,709千円(H26)
→45,352千円(R5)

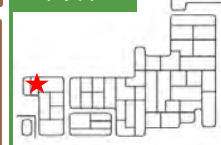
農地面積

26.5a(R5)

- 就労継続支援A型事業所の利用者2名が高齢者施設への一般就労を実現。
- 農福連携に取り組む障害者を見て理解が深まり、農家やJAからの作業依頼も年々増加。
- トマト生産者全24名の中で、坪当たりの収量・販売高が1位となり、JA単独の評価でトリプルAの評価を獲得。
- FPCの運営により有利販売につながったことなどで、当初120万本程度であったガーベラが334万本まで増加。

県のコーディネーターを中心とした農業経営体と障害者就労施設のマッチング支援により、工賃向上や農地の維持、農業経営体の規模拡大に貢献。中間支援者のためのマニュアル作成など、「佐賀モデル」が全国へ波及。

地方自治体

佐賀県
佐賀市

きっかけ

R3年

高齢化による農家の担い手不足、コロナ禍で障害者の就労が不安定となる中、令和3年度に副知事をトップとした「農福連携プロジェクト推進チーム会議」を設置。

人を耕す

- 県農業経営課及び障害福祉課就労支援室に1名ずつコーディネーターを配置。
- 農福連携技術支援者であるコーディネーターが障害者に対して能力や適性に応じた農作業等の選定、見える化や治具の作成等の支援・助言を実施。
- マッチング後も農家と障害者就労施設の声を拾い、サポートするとともに、双方の信頼関係が深まるように支援。

地域を耕す

- マッチング数の増加に伴い中間支援を行う人材が不足しており、令和6年度から農福連携技術支援者育成研修を開催。また、農業振興センターやJA職員を対象とした中間支援の研修会を定期的に開催することで好循環のマッチングを実現。
- 農家と障害者就労施設による体験イベントの開催支援や、地域の自立支援協議会就労支援部会での説明会、特別支援学校での説明会等により農福連携の認知拡大に貢献。

未来を耕す

- 「中間支援者のための農福連携マッチング推進マニュアル」を、県HPで公開。県外からも研修会の依頼があるなど、「佐賀モデル」として全国へ波及。
- 全国で初めてノウフクJAS製品である非常食「緊急救命72hおかゆ」を防災備蓄品として障害者優先調達推進法に基づいて購入し、就労支援B型事業所の工賃向上に寄与。

基本情報

設立:R3年 / 農福連携取組開始:R3年

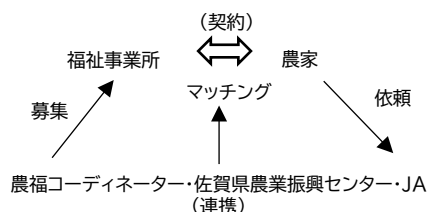
主な選定表彰:ノウフク・アワード2024フレッシュ

概要

主力商品(障害者等が生産に携わっている農産物)
きゅうり、たまねぎ、アスパラガス、ネギ、ピーマン、ホウレンソウ、スイートコーン、トマト、ニラ、バジル、小松菜、いちご、すもも、みかん、レモン、梨、畜産

特徴的な取組
中間支援

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

成果

売上高

479万円(R3)
→891万円(R6)
※マッチングの実績の売上
を合計して算出

参加障害者就労施設

13団体(R3)
→44団体(R6)

参加農業経営体

14団体(R3)
→56団体(R6)

マッチング件数

25件(R3)
→86件(R6)

- マッチング支援を通じた就労機会の増加により、福祉事業所での工賃向上に寄与。
- マッチング支援により、農地の維持、規模拡大に貢献。(例えば、ピーマンのヘタ切り・調整をJA選果場で複数の障害者就労施設に依頼したことにより、農家は収穫作業に集中できる。)
- 障害者就労施設に調整作業を依頼したことで農家が栽培管理に手が行き届き、品質が揃ったことで障害者就労施設も調整しやすく出来高アップの好循環や、利用者が作業しやすい作物を作るために品質の良いものを作りたいという農家の思いから品質の向上に繋がる多数の事例が誕生。
- 農家と福祉事業所が連携した体験農園の開催支援により、交流人口の増加に寄与。県内で3つの地域協議会が発足し、農福連携の推進に貢献。

住所:佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号

TEL:0952-25-7118

Mail:nougyoukeiei@pref.saga.lg.jp

URL:https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00396354/index.html



昭和53年入所授産施設「雲仙愛隣牧場」開設後、地域の主要な産業である農業（養豚、養鶏、肥育牛）中心の事業を開始し、多様な活動を通して障害者等の社会参画を実現。

基本情報

- 所在地：長崎県雲仙市
- 団体名：社会福祉法人南高愛隣会
- 選定表彰：
 - ・ H25 若雌 銅賞
(主催：全国和牛登録協会長崎県支部県南支所)
 - ・ H30 アスパラガス生産躍進賞
(主催：島原雲仙農業協同組合)
 - ・ R元 島原雲仙農協・3市和牛共進会若雌
一等二席 (主催：島原雲仙農業協同組合)
 - ・ R2 ノウフク・アワード2020審査員特別賞「人を耕す」
 - ・ R3 ながさき農林業大賞 特別賞
(主催：長崎県)
 - ・ R5 長崎県肉用牛改良増殖用優良雌牛に選定
- 主力商品：和 仔牛、対馬地どり、アスパラガス
- 取得認証等：－

取組の概要

- 比較的重度の障害者と触法障害者を中心とした体制で和牛の飼育に取組、仔牛の分娩から出荷までを実施。
- 長崎県に古来から存在する対馬地どりを県農林技術開発センターの協力を得ながら地元企業の委託により守り育て、都市部の高級ホテル等に販売する取組を実施。
- 農家の労働力不足への補完と工賃向上を目的として、アスパラガスのハウス栽培に取り組んでいる。



共進会で受賞の牛と

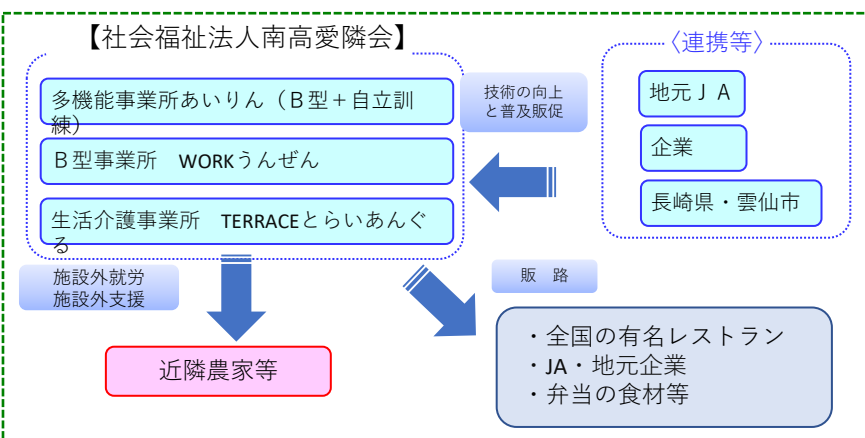


対馬地どりの雛の入雛



アスパラガス収穫

体制図



取組の成果

- 障害者等が、地元の農業分野における貴重な働き手となっており、派遣農家数及び派遣日数の増加により労働力不足の解消に寄与し平均工賃の増加を実現。
- | | 平成29年度 | 令和4年度 |
|----------|---------|---------|
| アスパラガス売上 | 3,210千円 | 7,771千円 |
| B型平均工賃月額 | 24,275円 | 34,068円 |
- 5年間
- 対馬地どり・和牛では地域での種の保存に貢献し、アスパラガスでは地元 J A から表彰されることにより地域農業の活性化。

所在地 ▶ 長崎県雲仙市瑞穂町古部甲2504番地

連絡先 ▶ TEL：0957-77-3985 E-mail：m-uno@airinkai.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.airinkai.or.jp/>

【取組のプロセス】

大規模農家から農
作業の派遣依頼
(農家への施設外
実習)

昭和52
年

きっかけ

地域の人手不足が深刻化し、大規模農家から労働力不足による派遣依頼があり、施設外就労を開始

入所施設「雲仙愛隣牧場」開設

- 昭和53年 入所授産施設「雲仙愛隣牧場」では地域の主要産業である農業（養豚・養鶏・肥育牛）中心の事業を開始。

昭和53
年

牛肉の貿易自由化

平成元年

グループホームを複数開設（施設から地域への移行促進）

- 平成に入り、牛肉の貿易自由化による影響を鑑み、肥育牛から繁殖牛に切り換える。

障害者自立支援法
施行

平成18
年

工賃向上を目的としたアスパラガスの本格栽培（ハウス）開始

- 平成30年地元「A」から「躍進賞」を受賞するなど地域農業の活性化に努め、更に工賃向上に向け20aから28aへハウスを拡大。

・ 触法障害者支援
の開始

・ 本格的に県下で
事業展開

平成30
年

雲仙から諫早・島原・長崎・佐世保地区への地域移行（ふるさと移行）後、本格的に県下障害福祉サービスで事業を展開

- 平成30年関係機関と協議による「長崎対馬地どり振興協議会」を立ち上げ、飼育技術の向上と普及に努める。
- 長崎県に古来から存在する対馬地どりを触法障害者が中心となって育て、都市部の高級ホテル等に販売する取組を実施。

長崎対馬地どり振
興協議会立ち上げ

今後の
展望

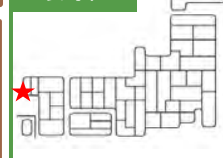
市と連携し自立支援協議会就労部会にて他法人を巻き込んだ農家派遣のネットワークを模索

- スポット応援として地域の経験豊富な高齢者の採用（早期の収穫等）。
- 秋の収穫祭を地域住民と共同で開催し交流・親睦を深めており、そこから発展した地域での役務作業・地域防災や救急法等の開催につなげる。



平成15年に社会福祉法人を設立して以来、びわ茶製造を実施。自家農園での栽培に加え、近隣農家から仕入れた農作物を用いて加工品の開発・製造や、カフェレストランなどを運営。

福祉事業所

長崎県
長崎市

きっかけ

H13年

農家の高齢化や後継者不足による、びわ畑の荒廃農地の増加と、びわの葉が廃棄されていることに着目。障害者の就労支援のために、それらを解決する方法を考えた。

人を耕す

- 平成15年就労継続支援B型事業所「三和ゆめランド」を開設。
- 地域で生産される農作物を利用したびわジャムなど加工品の製造にも取り組んでいる。
- グループ内生産した授産品販売所やカフェレストランを開店。

地域を耕す

- 地域の特産品である「びわ」の葉を利用したお茶の製造を開始。
- 福祉事業所として農業を営むとともに、地域農業者との連携により、農業の担い手不足の解消、生産の維持による地域の活性化に取り組んでいる。

未来を耕す

- 地域社会との連携、障害者の自立支援を目的に、カフェ&レストランKIZUNAの運営やECサイト(びわからMARKET)の開設など、積極的な取組を進めている。
- 出島福祉村では観光農園の計画をすすめており、交流人口の増加、地域農産品の販売拡大地元農家の所得向上を図る。

基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:H15年
取得認証等:6次産業化認定事業者(H24)
主な選定表彰:ジャパンメイド・ビューティーアワード2023
(インナービューティ部門審査員賞)

取組

成果

概要

主力商品
(加工品)びわ茶、花苗、びわジャム

特徴的な取組

カフェ&レストランKIZIMAの運営やECサイト(びわからMARKET)の設立など。

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

住所:長崎県長崎市岩川町2-3-5F
TEL:095-842-8222
Mail:dejimafukushi2021@gmail.com
URL:<https://dejimafukushi.or.jp/>

平均工賃月額

15,000円(R2)
→21,000円(R6)

障害者数

45人(R2)
→90人(R6)

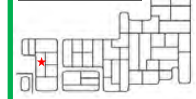
売上高

500万円(R2)
→700万円(R6)

農地面積

3ha(R2)
→3ha(R6)

- 令和5年現在、農作業を担う障害者就業者数は取組当初(平成15年)の5名から30名(令和6年)と20年間で6倍に増加。
- 加工場、カフェレストランなどを含め、現在グループ全体で約100名の障害者が就労。



さつまいもを生産する農家として、新卒の障害者1名を雇用するとともに、町内の就労継続支援A型事業所と連携し、作業を委託することで障害者の就労の場を提供。

基本情報

- 所在地：熊本県大津町
- 団体名：株式会社なかせ農園
- 選定表彰：・H30 ビジネスコンテスト最優秀賞（主催：日本農業経営大学校）
・R3年度 熊本県農業コンクール新人王部門 優秀賞（主催：熊本県）
・R5年 日本さつまいもサミット
ファーマーオブザイヤー受賞
- 主力商品：青果品の「蔵出しベニーモ」、「むらさきベニーモ」、「半熟干し芋」etc
- 取得認証等：6次化事業者、認定農業者、GLOBALG.A.P.等



蔵出しベニーモ



半熟干し芋

取組の概要

- 13haのほ場でさつまいもを専作しており、量販店向け販売のほか、ふるさと納税でも販路を拡大。香港、シンガポールへの輸出（320万円：令和5年）にも取り組む。
- 特別支援学校の学生を職場実習で受け入れたのがきっかけで障害者雇用を開始。仕事の飲み込みが早く、収穫等の機械作業の補助も含め、多くの作業に対応。
- 苗床での苗切り、収穫したサツマイモのつる切り、機械を用いた選別作業などを就労継続支援A型事業所に委託。
- 苗切り作業では、苗を切るだけの者、切った苗をまとめてコンテナに入れる者に分けるなど、作業の細分化を実施。
- 令和5年度には委託先の就労継続支援A型事業所から利用者1名を直接雇用。



水はけの良い火山灰土のほ場

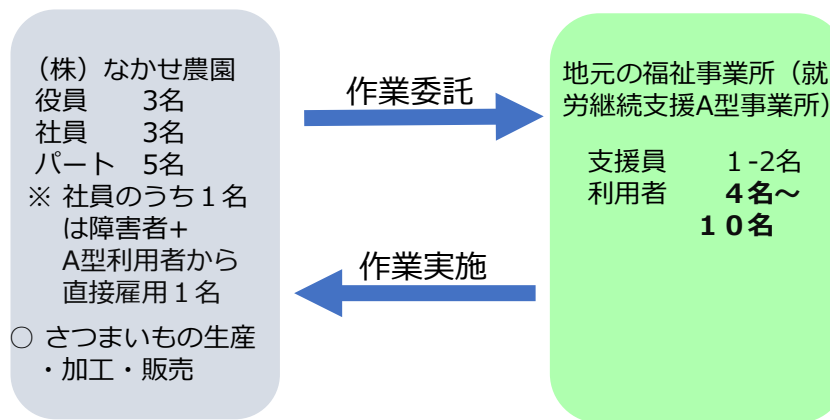


貯蔵倉庫の内部



芋の重さによる選別作業

体制図



取組の成果

- 人材確保が困難な中、就労支援施設との連携により経営規模拡大。
平成25年 さつまいも栽培面積 3ha → 10年後 令和5年 13ha
- 就労支援事業所に作業を依頼することにより、障害者4名（主に知的2名、精神1名、身体1名※雇用契約はないため人員変動あり）が年間6～8ヶ月程度作業に従事。多くの障害者に長期間、就労の場を提供。

所在地 ▶ 熊本県菊池郡大津町大字岩坂578

連絡先 ▶ TEL:096-221-7829 Email:nakase.nouen.info@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://www.nakase-nouen.com>

【取組のプロセス】

平成23年

きっかけ

規模拡大を考えるも、挿苗など手間が掛かる作業が多く、労力の確保が困難であったことから、特別支援学校の学生を職場実習で受け入れたところ、仕事の飲み込みが早く、障害者を貴重な人材と認識したことから農福連携の取組を開始

後継者がUターン就農、経営規模を拡大

- さつまいも栽培30年の専業農家の後継者としてUターン就農。
- 儲かる農業の模索と規模拡大、通年出荷への取組。



就農当初の代表（左）と前代表（右）

熊本地震で被災した倉庫の新規整備と法人化 障害者の職場研修受入と雇用開始

- さつまいもを保存していた「土蔵」が熊本地震で被災したことを機に、最新式のさつまいも専用貯蔵庫へ整備するとともに、経営基盤の強化、信用度の向上等のために法人化を実施。
- 特別支援学校の学生を職場実習として受け入れ、その成果から雇用を開始。



最新式のさつまいも専用貯蔵庫

2年の準備期間を経て、GLOBAL G.A.P.を認証取得。 障害者就労の増加と栽培面積の拡大

- 平成12年から取り組む輸出、大手スーパーへの出荷に係る製品安全認知が向上。
- きめ細かな作業行程管理により、作業が効率化され、結果として規模拡大に繋がる。
- 作業行程の細分化管理等と規模拡大が相まって、障害者の就労が増加。
- テストマーケティングも兼ねてシンガポールや台湾での輸出版売にも取り組む。
- 作業の見通しのための年間作業ごとの行程図表を掲示



見える化した作業マニュアル

障害者事業部門としてのノウハウ確立と独立 （就労継続施設の自社設立）

- ITを活用した各作業ごとのマニュアル等の整備による生産性向上。
- 自社での就労継続支援施設等設立による障害者雇用拡大と幅広い人材活躍の受け皿になることを目指す。



社内感謝祭（芋掘り大会）の様子

こだわりの「さつまいも」の通年出荷を目指す

ピンチをチャンスに、施設整備を機会にブランド化

価格競争に巻き込まれないよう差別化を目指す

業務内容の明文化&IT化によって効率的な事業運営と幅広い人材が活躍できる場に

今後の展望

荒廃農地の活用、6次産業化の取組、障害者・刑務所出所者の職員としての雇用を行うとともに、農福連携の地域協議会を設立し、農業法人・JAや企業と連携して、地域ぐるみの取組を実施。



基本情報

設立: H28年/農福連携取組開始: H28年

概要

主力商品

(農作物)だいこん、じゃがいも、たまねぎ きくいも 等
(加工品)水餃子

体制図

NPO法人熊本福祉会
(就労継続支援A型事業所: 翔 就労継続支援B型事業所: 煌)

- 施設外就労受託 (近隣農家→熊本福祉会)
- 熊本県より受託(熊本県農福連携コーディネーター(マッチング事業))
- 自社農場栽培(市内スーパー等への販売・イベントにての販売・無人販売所開設)
- 6次産業化に向けた商品開発(地元食材を使った“モッチャン水餃子”の開発・販売)
- 熊本県農福連携協議会 主幹団体としての同会運営・農福連携の促進

TEL / 096-353-7700

Mail / fukushikai-syou@athena.ocn.ne.jp

視察受入れ: 可 / 報道機関受入れ: 可

きっかけ

H28年

障害者が農業を通じて自分らしさを見つける姿を見て、農業と福祉に特化した事業所を設立。理念は「自然との共生」で、「生産性ではどこにも負けない」をスローガンに活動を拡大。

人を耕す

- 障害者が草刈り機等を使用する時には、当初は職員がそばで支援・指導等を行っていたが、日々の修練により、単独での作業を実現。また、気候が良い時期には「ごろりTIME」を設けるなど、作業時における健康管理にも留意。
- 福岡矯正管区と連携し、刑務所出所者を職員に採用するほか、利用者、出所者等も職員として採用し、様々な障害を持つ仲間と、笑顔で偏見のない職場環境を実現。

取組

地域を耕す

- 他県の農福連携に取り組む事業者との連携で、きくいもの栽培・販売を始め、地元スーパー、青果企業等の安定した新たな販路を確保。
- 農福連携に係るイベントのほか、地元のお祭り等、地域のイベントに参加。

未来を耕す

- 自社農場で生産した野菜を使用した「モッチャン水餃子」を地元のアナウンサーや中華料理店とのコラボで開発。地域や福岡の百貨店へ出店。
- 熊本福祉会が発起人となり、「熊本県農福連携協議会」を設立。地域の農福連携の普及拡大を目指し、第一生命、JA、熊本県農業法人協会等と連携。

成果

平均賃金月額	事業所の利用者	売上高	農地面積
A型: 69,763円(H30) →84,895円(R5)	A型: 9人(H30) →14人(R5) B型: 10人(R4) →17人(R5)	1,122千円(H30) →18,520千円(R5)	20a(R4) →70a(R5)
● 農業を通じた就労支援により、業績が向上した結果、就労継続支援A型事業所利用者をR3年に3名、R5年に1名を職員として雇用。現在は農業のエキスパートとして活躍。 ● ほ場はすべて点在するかつての休耕地・荒廃農地であり、地域の農業拡大に寄与。 ● 県内の大学と連携し、規格外野菜を活用した子ども食堂への食事提供を実施。			

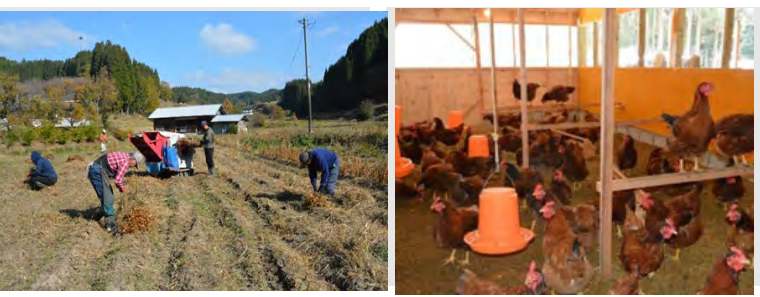
福祉事業所

熊本県
熊本市

荒廃農地を活用した大豆栽培、豆腐製造、おからを餌にした養鶏事業、食肉加工、直売所やレストランの運営等の多角化により、障害特性に応じて働ける場を創出。

福祉事業所

熊本県
小国町



基本情報

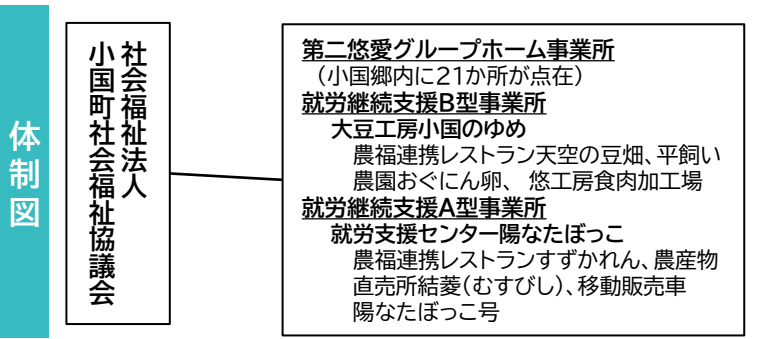
設立:H2年/農福連携取組開始:H28年

取得認証等:認定農業者

概要

主力商品
(農作物)大豆(すずかれん、おぐに黒大豆)、鶏卵 等
(加工品)納豆、味噌、シフォンケーキ、豆乳プリン 等

特徴的な取組
環境保全型農業



TEL / 0967-46-2616 Mail / mukuno@with-yuuuai.or.jp

きつかけ

人

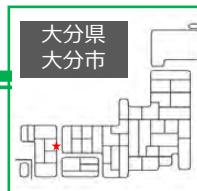
地

未

- H28年
- 地域の基幹産業であった農林業や地場産業の衰退に伴い、障害者の居場所づくりのため、荒廃農地を活用した6次産業化プロジェクトを開始。循環型農業と共生社会の確立が目標。
- 人を耕す
- 希少大豆の栽培、鶏卵事業、食肉加工、OEM提携による納豆・味噌の販売、シフォンケーキ等の製造販売、「農福連携レストラン」や農産物直売所の運営等、多彩な作業工程と販路拡大により、障害者の所得向上を実現。
- 作業工程ごとのリーダー配置により役割分担を明確にするとともに、障害特性に応じてわかりやすい指示・提示を行うことなどにより、安全や健康管理に努め、働きやすい職場環境を維持。
- 地域を耕す
- 小国町で発見された在来種「おぐに黒大豆」を継承して量産化。きな粉や地元レストランの食材として活用。
- 小国町産業課とも連携し、農福連携事業を通じた雇用創出と地域活性化の取組を実施。
- 未来を耕す
- 豆腐等製造時に排出されるおからやレストランでの残飯、規格外の野菜などを餌に鶏卵事業を開始。鶏糞は、荒廃農地に散布。廃鶏は、食肉用に加工して活用する循環型農業を確立。
- 地域の高齢者と障害者それぞれが支え合う地域共生社会の仕組みを実現。

平均賃金・工賃月額	障害者数	売上高	荒廃農地借用面積
A型:45,058円(H28) →120,611円(R5) B型:10,000円(H28) →25,316円(R5)	A型:4人(H28) →16人(R5) B型:19人(H28) →36人(R5)	A型:15,725千円(H28) →96,052千円(R5) B型:6,879千円(H28) →31,347千円(R5)	1ha(H28) →10ha(R5)

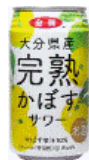
- 成果
- 荒廃農地を活用した希少大豆の栽培で、大豆製品の6次産業化とブランド化に取り組むことで収益性や生産性の向上を図る。
- 製材所に2名、県立高校に1名の一般就労を実現。就労継続支援B型事業所からA型事業所に3名が移籍。
- 「農福連携レストラン」、平飼い農園、移動販売車、食肉加工事業と年々事業を拡大。
- 交流人口は取組開始当初の3,000人からR5年には148,000人に増加。



全農おおいたがコーディネーターとして福祉事業所とＪＡ及び農家とのマッチングを実施。障害者に対応の難しい作業をサポートする体制を整備し、障害者活躍の場の拡大と定着を実現。

基本情報

- 所在地：大分県大分市
- 団体名：全国農業協同組合連合会大分県本部
- 選定表彰：（菜果野アグリ：更生保護事業の表彰（福岡県・佐賀県より））
ノウフク・アワード2020
審査員特別賞
- 主力商品：完熟かぼすサワー（収穫作業）
にら豚丼（収穫・調製作業）
※福祉事業所と菜果野アグリで作業を実施。
- 取得認証等：－



取組の概要

- 農業者の高齢化・後継者不足・地方人口減少に伴う労働力不足に対応するため、農家からの労働力支援依頼に対し、共同受注窓口及び(株)菜果野アグリ（登録者（主婦、学生、フリーター、副業者等）を労働力支援が必要な農家の農場等に作業スタッフを送り出す事業を実施）と連携し作業調整を実施。
- 障害者に対応の難しい作業については(株)菜果野アグリを活用することを推進し、農家のニーズを満たす外部委託のシステムを構築。
- 障害者等が農作業に従事するための仕組みづくり並びに農作業を細分化し農業に関わるハードルを下げ、全ての国民が農業参加できる体制を整備するための事業構築を実施。



全農おおいたホームページ（労働力支援）

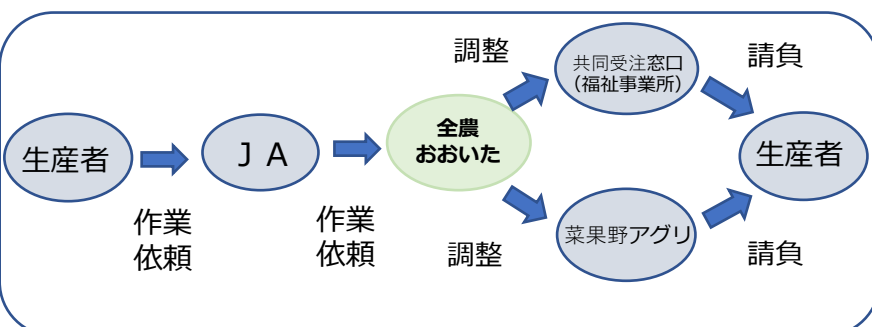


ピーマン出荷調製作業（JA選果場）



にらのそぐり調製作業（大分市）

体制図

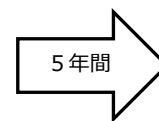


- 農作業依頼に対して全農おおいたがコーディネートを実施。

取組の成果

- 農福連携と補完し合う形で、障害者が担えない作業は(株)菜果野アグリスタッフがサポートすることで障害者の活躍の場が大幅に拡大。
- コロナ禍で困窮する方々や他業界からの人材を受け入れることで国内農業に対する国民理解の醸成に寄与。

	平成29年度	令和4年度
作業件数（年間）	31件	34件
受注金額（年間）	2,141万円	2,770万円



所在地 ▶ 大分県大分市大字古国府六丁目4番1号

連絡先 ▶ TEL：097-535-7041 FAX：097-545-0487 E-mail：hisatsune-toshimichi@zennoh.or.jp

ウェブサイト ▶ <http://www.ot.zennoh.or.jp>

【取組のプロセス】

平成27年

農福連携を含めた
トータルでの労働
力支援を開始

きっかけ

農業者の高齢化・後継者不足・地方人口減少に伴う
労働力不足に対応するため農福連携の取組を開始

(株)菜果野アグリとパートナー企業とした労働力支援事業を実施

- 平成27年より、農業者の高齢化・後継者不足・地方の人口減少に伴う労働力不足に対応するため、(株)菜果野アグリをパートナー企業とした労働力支援事業に取り組む。



トマトの選別作業の様子

平成30年

J Aと年間契約を
締結している福祉
事業所は40事業所
に

内閣府「地方創生」事例調査選定

- 障害者に対応の難しい作業については(株)菜果野アグリを活用することを全農おおいたが推進し、農家のニーズを満たす外部委託のシステムが完成。これにより障害者活躍の場の拡大と定着に繋がった。



甘藷の収穫作業の様子

令和元年

生活困窮者就労訓
練事業所の認可の
取得

大分子ども支援ネットとの連携

- 平成31年より、おおいた青少年総合相談所における支援プログラムとし、労働力支援事業の紹介や、体験を実施。
- 令和元年より、「生活困窮者就労訓練事業所」の許可の取得に取り組み、地方行政生活困窮窓口との連携を実施。



ピーマンの選果作業の様子

今後の
展望

田園回帰を可能にすることによる地方創生

- 人口減少化の日本において、生産年齢人口にカウントされる人材は全て戦力とする必要がある。農業に関わるハードルを下げ、働くハードルを下げることで一直線に専業農家を目指せない人でも田園回帰を可能とする。



みかんの選果作業の様子

障害者の周年就労が可能な水耕栽培に取り組むとともに、障害者や高齢者、地域住民が集えるコミュニティセンターの運営、交通手段を持たない高齢者への無料送迎、地域のお祭りの復活など地域貢献活動を実施。



基本情報

設立:S50年 / 農福連携取組開始:S50年

取得認証等:農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R3年度)

主な選定表彰:H27年藍綬褒章、R3年愛護福祉賞 等

概要

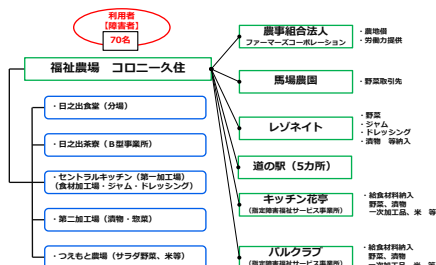
主力商品

(農作物)お米、サラダ野菜
(加工品)ドレッシング、ジャム、漬物等

特徴的な取組

6次産業化

体制図



住所:大分県竹田市久住町大字有氏896番地14

TEL:0974-77-2344

Mail:pal-2941@oct-net.ne.jp

URL:https://hakuai-oita.com/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

きっかけ

S
50
年

「知的障害の方にとって大自然の中で、季節の移ろいを肌で感じることができる農業が最も心身の安寧につながる。」との考えをもつ。

人を耕す

- 「み～んなが元気に集う食卓」をコンセプトに、地域の中心地に「障害者、高齢者、地域住民が気軽に集える健康レストラン」として「日乃出食堂」をオープン。
- 主力生産品である高原トマト、白菜、大根、高菜等の農産物を漬物加工品として商品化。
- ジャムやドレッシングの製造販売も開始し、地元の道の駅や直営店舗での販売。
- 施設農場や地元の新鮮食材を加工し惣菜として提供する「おばんざい」が大好評に。

地域を耕す

- 地域交流サロン「日乃出茶寮」のホールではコンサートや大衆演劇公演を開催するほか、こども食堂等のイベントを毎月開催。
- ひとりになっても安心して暮らせる町づくり」を目指し、障害者支援施設が運営するコミュニティサロンでは高齢者、障害者、こどもたちが天然温泉や食事、カラオケを利用できるよう整備。

未来を耕す

- 学校、病院など公共施設が集中している「コンパクトシティ」の利点を活かし、法人の各施設が地域社会と有機的、人材的に連携し、地域活性化に向けた取組を進める。
- 「町をもっと元気に、にぎやかに」をモットーに、障害者が地域の一員として自分らしい暮らしをしながら町の活性化に携わるとい地域共生型の社会を目指す。

成果

平均工賃月額

15,174円(R2)
→26,864円(R6)

障害者数

6人(R2)
→7人(R6)

農地面積

4.5ha(R2)
→5.8ha(R6)

- 障害者の特性に合った活動・就労先の創出、周年就労が可能なハウスでの栽培品目への取組等により、工賃の向上及び就労者が増加。
- 農産物加工では6次産業化と「日乃出」ブランド化を行い、直営レストランなどへの食材提供とも相まって、農福連携関連の平均工賃が増加。

福祉事業所

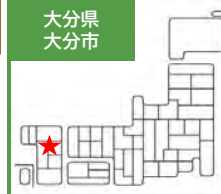
大分県
竹田市



提携企業と連携して、高菜の栽培から一次加工、二次加工までを実施。地域農家の農作業受託や農業生産法人への一般就労などを通じて、地域農業に貢献。

福祉事業所

大分県
大分市



きっかけ

H20年

県中部振興局主導の下、高菜の栽培を新たな品目への取組として計画し、提携企業と連携して栽培から一次加工、二次加工までを開始。

人を耕す

- 一般就労した障害者に対しても、仕事が継続できるように必要な相談等の支援を行う「就労定着支援事業」を行うことで、ワンストップでステップアップを支援する体制を整備。
- 地域の基幹品種であるピーマン農家に実習生を派遣し採用され人手不足解消に貢献。
- 加工場で働く利用者らのために、ソックダクト(自然対流式の冷却装置)システムを採用。

地域を耕す

- 県中部振興局主導の下、産地パワーアップ事業を活用し、提携先のふるさと館と東乃匠とともに高菜の栽培や加工を実施。
- 自社ほ場だけでなく、地域の農家から米やだいこん、梅などの栽培に係る農作業を受託。
- 様々な地域のイベントに出店するとともに、地域の公共施設や支援学校等に喫茶店を開設。栽培した米や野菜、漬物等を使用した定食等を提供し地域活性化に貢献。

未来を耕す

- 最新鋭の設備を完備したHACCP基準の加工場で、梅干し(小梅・南高梅)、高菜漬け20アイテム、浅漬け40アイテムなどを製造。お中元、お歳暮のギフトとしても好評。
- 高崎山自然動物公園にエサとなるさつまいもを提供しているほか、清掃作業を受託。
- 特別支援学校の保護者会や、障害者施設の職員、地域の議員など多くの視察を受け入れ。

基本情報

設立:H16年 / 農福連携取組開始:H20年

取組

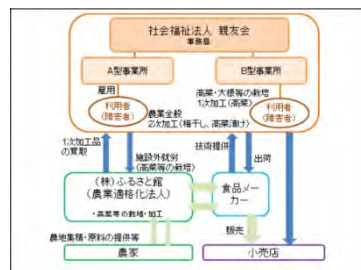
成果

主力商品

(農作物)高菜、米、唐辛子、かぼちゃ、じゃがいも
(加工品)漬物

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

住所:大分県大分市大字辻1381番地の1
TEL:097-595-1711
Mail:hatake.shisetuchou@3-flower.jp
URL:https://3-flower.jp/pages/7/

平均工賃月額

32,064円(R2)
→38,313円(R6)

農作業・加工
に関わる障害者の数

A型:19人(R2)
→19人(R6)
B型:18人(R2)
→20人(R6)

売上高

9,713万円(R2)
→12,175万円(R6)
※農業・加工品等

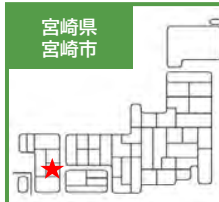
農地面積

9ha(R2)
→13ha(R6)

- 地域の農業生産法人への職場実習から就職につながった利用者があり、地域の農業の担い手として活躍。その活躍を見て、地域の農業者の間で障害者への理解が促進。
- 地域の特別支援学校の1階にて喫茶店を開店。特別支援学校の生徒が実習を行い、卒業後の飲食店への就労にも寄与。
- 特別支援学校の生徒の職場体験の受入を行う(令和6年度5名)。

障害者就労施設が農業生産法人を立ち上げ、障害者・矯正施設出所者の就労や生活の安定に向けた支援を行うとともに、認定農業者として地域の農業に貢献。

福祉事業所

宮崎県
宮崎市

基本情報

設立:H24年 / 農福連携取組開始:H28年

取得認証等:ノウフクJAS(農業生産法人CoCoRoファーム)(H28)、
認定農業者(H29)、農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R2年度)

主な選定表彰:ノウフクアワード2021優秀賞 等

きつかけ

H
24
年

障害者の就労安定と賃金向上のため、全員が関われる作業を模索。農業法人の経営者に相談し、全利用者が力を発揮できる農業に興味を持ち、新たに農業生産法人を設立。

人を耕す

- 障害者がピアサポーターとして一般就労し、自らの経験を活かして障害者のサポートを実施。
- 公認心理師を配置し、矯正施設出所者を受け入れ、居場所作りを支援。
- CoCoRoグループ*の一般社団法人誠樹会が運営する放課後等デイサービスの児童が農作業を手伝い、大人と子どもの相互理解が進展。

*STEP UPに加え、誠樹会、CoCoRoファームを含むグループ。

地域を耕す

- 収穫時には、近隣農家等に人材を派遣し、人手不足の解消に貢献。
- CoCoRoファームは認定農業者として、地域の生産部会にも参加し、地域の農業に貢献。
- 中山間地域の荒廃農地を積極的に借り入れ、水田面積が増加。
- 地域の農業高校や大学を対象に、農福連携の現場研修を実施。

未来を耕す

- 障害者や矯正施設出所者が農産物の生産行程のすべてに関わり、就労訓練をすることにより、一般就労を実現するとともに、矯正施設出所者の社会復帰を支援。
- 日本財団の「職親プロジェクト」に参加し、矯正施設在所者に農業の選択肢を発信。

取組

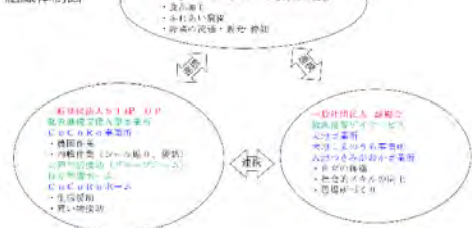
成果

主力商品

(農作物)ズッキーニ、なす、ミニトマト、米 等

概要

体制図

CoCoRoグループ
組織体制図

受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	○

住所:宮崎県宮崎市大工3丁目342番地2F

TEL:0985-35-2910

Mail: cocoro352910@gmail.com

URL: <https://www.cocoro-group.net>

平均工賃月額

62,816円(R2)
→80,656円(R6)

障害者数

23人(R2)
→21人(R6)

売上高

3,765万円(R2)
→6,001万円(R6)

農地面積

0.7ha(R2)
→7.5ha(R6)

- 地域のスーパーや飲食店に農産物を納品し、農福連携のパネルと共に陳列されるなど、農福連携の普及に寄与。
- 宮崎刑務所の農福連携意見交換会に出席するとともに、宮崎少年鑑別所及び小倉少年鑑別支所で開催された地域援助推進協議会において講師として農福連携に関する講演を実施するなど、矯正施設出所者が地域で活躍できる人材であることを発信。

生産者の高齢化等により産地の維持・継続が懸念される中で、自社での原木椎茸栽培のほか、地域の約600軒の生産者から原木椎茸を買い取り、福祉施設に委託し乾燥椎茸等に加工作る農福連携を推進する。



基本情報

設立:H29年 / 農福連携取組開始:R元年

取得認証等:ISO22000(R2)、宮崎県未来成長企業
有機JAS(R元)、GFPアンバサダー
農山漁村振興交付金(農福連携型)(R6年度)

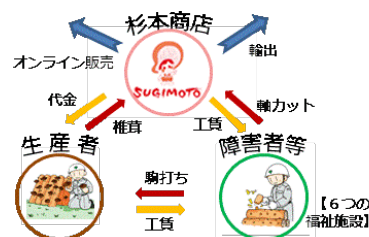
主な選定表彰:サステナアワード2020大賞

概要

主力商品
(農作物)椎茸
(加工品)本格椎茸粉、椎茸どんこ等

特徴的な取組

自然栽培、農薬不使用、林福連携、輸出、ユニバーサル農園 等



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

きっかけ

R元年

椎茸生産者の高齢化と干し椎茸の軸切作業における人材不足の中、障害者支援施設の職員から作業の依頼があったことから、農福連携の取組を開始。

人を耕す

- 高齢生産者の負担軽減のため 自伐による原木供給事業を開始。
- 原木を杉本商店が供給し、福祉施設が植菌から出荷までを行う全作業委託を開始。
- 作業量増加に伴い、新たに県内2か所の福祉施設に椎茸の軸切作業を委託。
- 米国を中心に販路拡大のために、商談会や展示会にとどまらず商談を進める。

地域を耕す

- 農家の高齢化により椎茸の駒打ち等の作業負担が大きくなっていた中で、椎茸の原木栽培及び加工を福祉施設へ委託することで、障害者の所得向上が実現。現在は委託先の福祉施設が6団体7施設に拡大。
- 地域の約500軒の生産者からも原木椎茸を買い取り、地域の生産者と福祉施設を繋ぐことで、高齢農家の作業負担軽減と障害者の働く場の創出に寄与。

未来を耕す

- 原木栽培椎茸で世界で唯一KOSHER認証(ユダヤ教の食品規定に基づいた生産プロセスが順守されていることを証明する認証制度)を取得。
- 海苔養殖で不要となったグラスファイバーポールを活用したアップサイクルな栽培をスタート。
- 宮崎県を原木栽培椎茸における「世界最大の有機JAS拠点」を目指す。

関係する福祉施設数

3施設(R2)
→7施設(6団体)(R6)

福祉施設への年間支払額

266.6万円(R2)
→955.6万円(R6)

福祉施設の売上高

96.9万円(R2)
→424.4万円(R6)
※シタケ栽培を委託する
3事業所の合計

農地面積

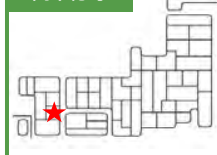
35.1a(R2)
→52.4a(R6)
※シタケ栽培を委託する
3事業所の合計

成果

- 障害者の特性に合った作業分担と就労環境への配慮により、出勤率が向上し、賃金も増加している。
- こうした成果により、委託する福祉施設も拡大し、施設外就労者数の増加や輸出額の増加にも繋がっている。

その他

宮崎県
高千穂町



体制図

住所:宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井458-28

TEL:0982-72-3456

Mail:kazuhide@sugimoto.co

URL:https://sugimoto.co/

福祉事業所

鹿兒島県
南大隅市



きっかけ

S
47
年

障害者が活動をするための場所として農場をつくりたいという漠然としたコンセプトがあった中、養蚕業が斜陽になった時期に山林を手放す話を聞いたことから購入を決意。

人を耕す

- 花の木農場では法務省の関連施設との連携を強化し、矯正と農業・福祉の双方が抱える課題（ギャップ）を解消していく方法を議論し、対象少年の処遇に関するケース会議を重ね、相互交流や矯正展の出店などを通じて、持続的に法務省との関係性を築いている。
- 中津少年学院を出院した少年を受け入れるなど具体的な形となるケースも出てきており、今後お互いの連携はますます進むと考えられる。

地域を耕す

- 平成16年にレストラン花の木、平成17年に花の木大豆工房を開所。食品加工等の分野でも障害者の働く場の提供を開始するとともに住民と障害者の交流拠点としても機能。
- 近年はジェラート店、カフェテリア等を県内大型店舗内などに続々オープンしており、障害者のみならず健常者の雇用の場を提供しており、地域へ貢献。

未来を耕す

- 茶事業ではH29に有機JAS、R元にはASIAGAP認証、養豚事業ではR5にJGAP認証、養豚・豚肉加工事業ではR5にはノウフクJASも取得し、障害者とともに持続可能な農業にも挑戦。
- 農場内に開設した直売所兼レストランは地域住民と障害者の交流拠点機能も担っている。

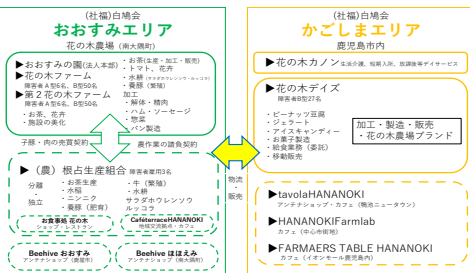
取組

成果

概要

(農作物)茶、花苗
(加工品)精肉・食肉加工品、総菜、パン etc.

6次産業化、有機農業



身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	
高齢者	
その他	○

体制図

住所:鹿児島県肝属郡南大隅町根占川北9466-8

TEL:0994-27-4737

Mail: iusan@hananokifarm.jp

URL:<http://shirahatokai.jp>

平均工賃月額

A型作業所
9.9万円(R2)→11.4万円(R6)
B型作業所
2.0万円(R2)→3.2万円(R6)

障害者数

225人(R2)
→200人(R6)

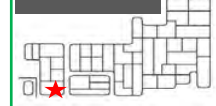
売上高

12,176万円(R2)
→11,699万円(R6)

農地面積

38ha(R2)
→30ha(R6)

- 利用者には県内平均を上回る賃金を実現。
- 地域の農地を引き受け、荒廃農地を再生することで、規模を拡大し、地域農業の維持にも貢献。
- 法人内約180名のうち、農作業に従事する利用者は80名(R6)、福祉サービスの利用者は約200名となり、様々な形で賃金・工賃を得て働く利用者は約100名に。



障害者等の“症状の再燃予防をしながら、苦労や喜びの経験を奪わないようなサポートをする”ことをモットーに就労支援施設を創設。施設利用者目線の就労環境改善と地域農家との連携を通じて、地域農業の維持・荒廃農地発生防止及び就労先の拡大、工賃向上に取り組む。

基本情報

- 所在地：鹿児島県龍郷町
- 団体名：株式会社リーフエッジ
- 選定表彰：
 - ノウフク・アワード2021優秀賞
 - ディスカバー農山漁村の宝2022九州地区
 - ESSEふるさとグランプリ2023金賞
- 主力商品：
 - ジェラート、ハーブティー、精油 等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 近隣農家手伝い（マンゴー、たんかんなど）や自家栽培ハーブをジェラートやハーブティーに加工し、敷地内ジェラテリア等で販売。食品加工残渣や余剰作物を蒸留することで精油や芳香蒸留水の生産も実施しており、工賃向上や職業選択の拡大に結び付けている。
- 近隣農家に施設外就労で手伝いに行くだけでなく、農家の手が空く時期には農家をアルバイトとして雇用するなど、相互の関係を強めている。



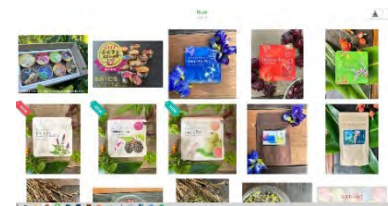
たんかん収穫作業



ハーブを活かしたドリンク

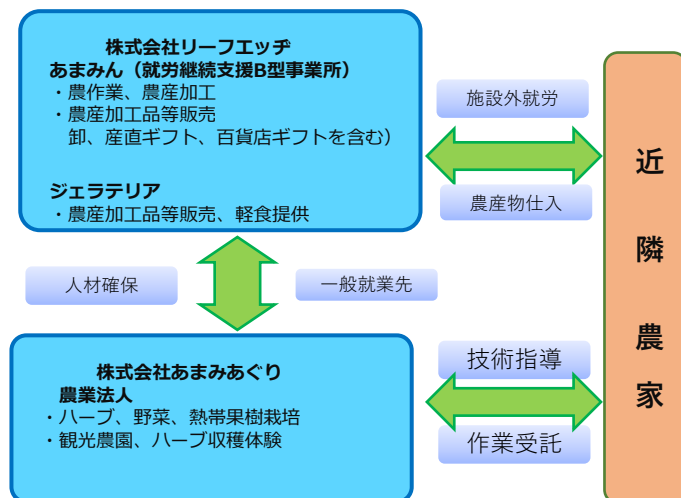


カップジェラート（17種）



ECサイト

体制図



取組の成果

- 利用者の興味や障害特性に合わせた仕事のマッチング重視により、作業環境の改善や作業効率の向上につながり、利用者が増加。
- | | 平成29年 | 5年間 | 令和4年 | |
|----------------------------|-------|-----|--------|---------|
| 施設利用者 | 5名 | | 34名 | （6.8倍） |
| ジェラート等販売
（ジェラートは令和元年開始） | 120万円 | | 2300万円 | （19.1倍） |
- 食品加工（ジェラート、ハーブティー等）とECサイト構築により販売が増加し、工賃が向上。

所在地 ▶ 鹿児島県大島郡龍郷町大勝578

連絡先 ▶ TEL:0997(62)5260 E-mail:reefedge.amami@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://reefedge.co.jp/>

【取組のプロセス】

平成28年

近隣農家の手伝い開始

きっかけ

「雨の日も仕事がある」ことに魅力を感じ、平成28年の就労継続支援B型事業所開設と同時に、農福連携の取組を開始

平成29年

ハーブティー用のハーブ栽培開始

農作業の労働対価は、農作物で！Win-winの関係を構築

- 「奄美の農業は台風との闘い。なかなか儲からない。」との声を聞き、労働対価は農家の金銭的負担が少ない「農作物」で受け取り、対価にはB級品も含めることで通常よりも多めにいただき、付加価値の高い加工農産物の製造を行うことで工賃支払いに繋げる。



令和元年

ジェラート製造棟の建設

利用者の興味や障害特性に合わせた仕事のマッチング

- 精神障害者を中心に5～16名が農作業を実施し、室内作業希望の利用者が食品加工に取り組むとともに、対人恐怖の方は在宅就労にてECサイトの作成管理、筋ジストロフィーの方や脳卒中罹病後遺症の方はジェラートパッケージのデザイン作成を実施するなど、利用者の特性に合わせて作業の割振りを実施。
- 農作業は、作業強度別のグループを編成し、ハードになりすぎず物足りなくない作業量に調整するなど工夫。

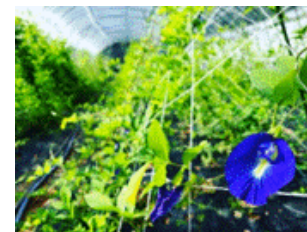


令和3年

一般就労への円滑な移行へ

施設利用者の快適な作業環境と一般就労の場の提供

- 体調が安定した利用者の一般就労への円滑な移行に向け、ハーブと熱帯果樹の生産をメインとする農業法人(株)あまみあぐりを設立。
- 仕事の選択肢を増やすため、ジェラート販売の直営店として「ジェラテリア」を建設。2階は休憩室とし、短時間しか就労困難な利用者の出勤率向上を図る。
- 食品加工残渣や余剰作物を有効活用するために蒸留器を導入、精油と芳香蒸留水の製造開始。さらに残った残渣は畑に返し、島内循環型農業に取り組む。



今後の展望

誰も置いていかない施設へ

農福連携を観光や自然環境保全に活かし、持続可能な地域づくりに

- 増え続ける荒廃農地を活用し、障害者と共に新たな地域特産品づくりを目指す。
- 今後の人口減少下でも持続可能な地域づくりを目指し、農福連携を他産業とつなげていく。
- スタッフや利用者などみんなが潤い、心地よく過ごせるやさしい企業となる。





農福連携により地域課題を解消するため、大隅地域で農福連携を実践している団体を結びつけるプラットフォームとして令和3年に設立し、活動を開始。現在では農福連携実践団体だけではなく企業、JA、畜産、林業など40団体が加入。

基本情報

- 所在地：鹿児島県南大隅町
- 団体名：大隅半島ノウフクコンソーシアム
- 選定表彰：－
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



フードロス対策& 農福連携「小さいプロジェクト」

取組の概要

- 会員事業所及び支援機関、行政、アドバイザーと連携を図りながら、各種研修会や先進事例調査のほか、コンソーシアム内での共同栽培や、お試しノウフク、マッチング活動等を実施。
- ノウフクJAS取得に向けた研修会の開催など、農産物の付加価値向上・販売力強化に向けた取組も実施。
- 令和5年度は上記の活動のほか、農家向けの研修会の開催や、観光庁の補助事業を活用したインバウンド事業を行い、「農福連携×観光」の視点からも活動を展開。



インバウンドモニターツアー

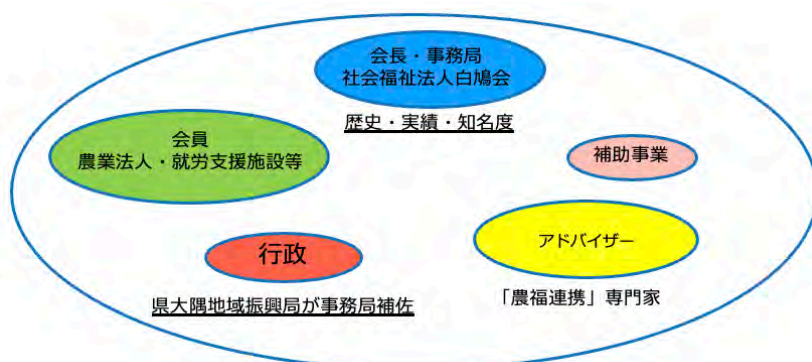


ノウフクJAS研修会



じゃがいもノウフク【過疎地援農】

体制図



取組の成果

- お試しノウフクや共同農場の試験的な運営により、担い手不足の過疎地への援農、農福連携による就労の機会を創出するとともに、障害者だけではなく生活困窮者等にも農業をはじめのきっかけづくりを提供。
- 会員間で新たに施設外就労契約が結ばれたり、会員同士のビジネスも生まれ、地域の農林水産業の維持・発展が図られている。
- 令和5年度現在、会員である2団体がノウフクJAS認証を取得。
- 廃棄されている「小さい」をコンソーシアム全体で収穫し販売するフードロス対策を実施することにより、福祉事業所の選択肢が増え、小さいを使った販路拡大、子ども食堂などにも活用されるなど、多様な繋がりを創出。
- 様々な活動によりコンソーシアムの存在が地域に認知され、設立当初15団体だった会員が現在40団体に増加。

所在地 ▶ 鹿児島県肝属郡錦江町神川-3306-4 2階図書室（事務局）

連絡先 ▶ TEL:080-5257-3091 E-mail:nouhuku.tagayasu@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://onc2021.com/>

【取組のプロセス】

事業所の利用者や担当者の高齢化、地域の働き手の減少、急激な荒廃農地の増加、地域活力の低下

～令和2年

プラットフォーム（コンソーシアム）設立提案

令和2年10月

ポストコロナ農業生産体制革新プログラム事業の活用

令和3年5月

中山間地農業ルネッサンス推進事業の活用（令和4年）

令和4年

令和5年

今後の展望

きっかけ

令和2年10月、鹿児島県大隅地域振興局担当者と福祉施設職員から、「大隅半島農福連携プラットフォーム設立構想」が提案され、賛同した現コンソーシアムの役員はじめ関係機関が連携し、課題共有を開始

農福連携の実践者同士のつながりを創出したい

- 大隅地域で農福連携に取り組んでいる事業所等は、それぞれの事業所の取組は既知であったものの、点的な取組が多く、各事業所が抱える課題などを共有する状況にはなかった。
- それぞれの事業所が抱える課題や将来に対する考え方は、農福連携の枠組みに止まらず、地域をどのように振興していくかという広範なものであった。
- （社福）白鳩会がノウフク・アワード2020でグランプリ獲得し大隅半島に注目が集まる。



行政・JA・地元農家との打合せ

広範な地域課題解決のための多様な連携を

- 「大隅半島農福連携プラットフォーム設立構想」に賛同する仲間づくりとコンソーシアム設立に向けた県の補助事業申請書類の作成を開始。農業サイド、福祉サイド双方が持つ人的ネットワークを最大限活用し、15事業所が参画（現在は農業法人9社、林業1社、畜産1社、福祉事業所11法人、農業・福祉どちらも運営2団体、企業4社、2団体、10地方公共団体の計40団体及びアドバイザー5名で運営。）。



令和3年5月設立総会後の記念撮影

大隅半島ノウフクコンソーシアムを設立、本格活動開始

- 令和3年5月に設立総会を開催し、その後、役員会の定期開催、優良事例共有会、大隅半島における課題共有ワークショップ、ノウフクJAS研修会、経営に活かすGAP研修会、ブランディング・マーケティング研修会、先進事例調査、お試しノウフク、請負作業時の標準工賃策定検討等を行う。
- 令和4年度は、引き続き ①農福連携に関する研修・先進事例調査研修、②ノウフクJAS取得支援及びノウフク産品のブランディング、③農福連携新規取組の掘り起こし・マッチング・取組支援、④会員事業所による共同栽培農場の運営、⑤地域における請負作業標準工賃の策定を重点取組事項として取り組む。
- 令和5年度は例年の活動の続けながら農家向けの研修会や観光庁の補助事業を活用したインバウンド事業をおこない、「農福連携×観光」の視点からも活動を展開。



令和4年度も活動スタート

～誰一人取り残さない大隅半島の課題解決プラットフォームに！～

- 大隅半島の農福連携推進はもちろん、会員各社の課題解決を図る一方、新たに農福連携に取り組みたい事業者へのサポート等をおこなうことで、大隅半島の農業振興にも寄与していく。
- 大隅半島の課題は農業と福祉以外にも多く存在する。これらの地域課題の中にも、農福連携を基軸にすることによって解決できる可能性が広がる。



実践を学ぶ関西方面への視察研修



小さいプロジェクトのフライヤー



食品加工会社として農業に取り組む中で、人材確保が困難であったことや、地域に働く意欲のある障害者が多いことを知り、自社の課題解決と障害者の労働の場を確保するため、就労支援事業所を開設し農福連携に取り組む。

基本情報

- 所在地：鹿児島県南さつま市
- 団体名：株式会社南風ベジファーム
- 選定表彰：
 - ・ H29「ディスカバー農山漁村」九州農政局選定（主催：九州農政局）
 - ・ H30 そうしんビジネスイノベーション大賞（主催：鹿児島相互信用金庫）
 - ・ 令和元年「ディスカバー農山漁村」第6回全国選定（主催：農林水産省）
 - ・ R3「かごしま・人・まち・デザイン賞」（主催：鹿児島県）
 - ・ R3「第16回南日本経済賞」（主催：南日本新聞社）
- 主力商品：赤しそ・高菜・梅・だいこん・らっきょう・にんにく・ハーブ
- 取得認証等：認定農業者、6次化事業者

取組の概要

- 約6haの農地で赤しそ、高菜、じゃがいも、だいこん等を生産。生産した農産物は、自社で惣菜等に加工・販売。高菜の一部は、外部の漬物業者へも販売。
- さつまいもの苗植え作業は、機械化が難しく人手を要するため、人手の確保が困難になった近隣農業者から、約10ha分を請け負い、障害者等の15名が作業。
- 自社で生産する高菜は、収穫作業の機械化が難しく、人手を要するが、収穫以外の作業は機械化が可能なため、さつまいもの苗植えを請け負っている近隣農業者に約5ha分の収穫以外の作業を依頼。



かんしょの苗植え作業

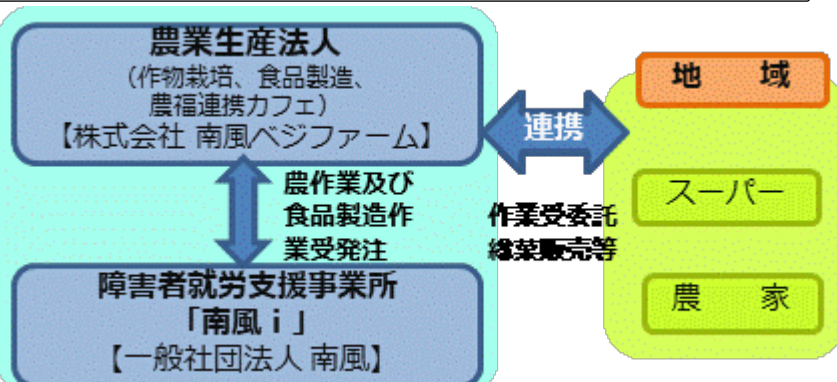


赤しその栽培風景



白菜の加工作業

体制図



取組の成果

- 漬物等の加工技術を有し、販路が確保されていることもあり、着実に野菜生産、加工事業の規模拡大が図られ、利用者数が増加。

平成29年 令和4年
農作業等に係わる利用者数 21名 45名

- 人手を要する芋苗植付け作業や、高菜の収穫作業を近隣農家から請け負い、機械化が可能な作業を近隣農家に依頼する相互の協力体制を構築。

所在地 ▶ 鹿児島県南さつま市金峰町高橋3075-35

連絡先 ▶ TEL:0993-77-3932 E-mail: contact@nanpuu-vege.com

ウェブサイト ▶ <http://www.nanpuu-vege.com/>

【取組のプロセス】

平成25
年

・原料農産物を作る農家が高齢化等により減少。
・安定経営のためには自社生産が必要。

きっかけ

農業法人の事業拡大の課題であった「人手不足」解決のため、就労継続支援事業所を開設し、農作業等を中心に通年就労（施設外就労）の場を提供

農業生産法人株式会社南風ベジファーム設立

- 食品加工の会社を営んでいたが、原料となる農産物を作る農家が高齢化等により減少することを危惧。
- 自社農地で農産物生産を行うことで、6次産業化の取組をスタート。

就労継続支援事業所「南風i」を開設

- 農業部門、加工部門とも規模拡大を検討したが、人材確保が困難であった。
- 一方、地域には働く意欲のある障害者が多いことを知り、課題解決と障害者の労働意欲を繋ぐ就労支援事業所を社屋内に開設（H27年利用者：A型14名、B型4名）。

平成27
年

・業務を拡大したくても人手不足がネック。
・求人を出しても応募者は来ない。

平成30
年

・他の人がやりたがらないけど、誰かが『欲しい』と思っていることを行う！

第2加工場等を整備し、自社栽培野菜を使った総菜製造にも着手

- 地元スーパーの「総菜コーナーに納品する会社が県内に無い。」という声に応え、自社栽培野菜を用いた惣菜製造にも着手。
- 総菜販売が加わり農産物販売等も含め、売り上げが約53百万円（H29）⇒約182百万円（H30）に増加。

令和2年

・「南風ベジファームって、何の会社なの？」の問いかけに見える形で答えるための取組を実施

農福連携カフェ「agricafe nanpuu」開設、福祉部門を一般社団法人化

- 会社のイメージを明確化するために農福連携カフェをオープン。
- カフェにはショップも併設し、地域製品の販売により、地域農業等との連携強化。
- 福祉部門を分社化、一般社団法人南風を設立し、障害者福祉サービス部門を強化。

今後の
展望

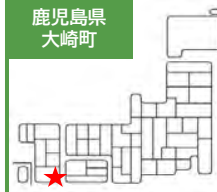
地域とともに成長する会社を目指し、障害者とともに挑戦！

- コロナ禍で来店者が減少した農福連携カフェを“with コロナ下”での“食の提供拠点”としてテイクアウト中心の形態に改装。
- 加えて、経営基盤強化のため農産物加工場を増設し、スーパー向け総菜提供強化と就労機会の確保を実施。
- 地域では、各業種で人手不足が続く中、障害者は仕事を探しており、今後も「会社も障害者も地域もWin-Winの関係を築く。」をモットーに、農福連携を基軸に事業展開を図る。



障害者就労施設、加工業者等が連携し、地域の高齢者や障害者が放置竹林の整備や竹炭の製造を行うモデルを創出。竹炭を土壌改良材として活用したさつまいもの加工により収益化を実現。

その他

鹿児島県
大崎町

きっかけ

R4年

聴覚障害のある地域おこし研究員の「高齢者や障害者の就労意欲を引き出し、社会参加と生きがいづくりの場を作り出す」という呼びかけに応じ、関係者で連携体制を構築。

人を耕す

- 竹林整備に参加する障害者の工賃は、全国平均を上回る時給600円(R5)に向上。参加者からは「考えながら竹を切るところが楽しかった」などの声があり、障害者の働きがいに寄与。
- 障害者や高齢者等のべ267名(R5)が放置竹林の整備や竹材加工の担い手として活躍。
- 「竹林整備」という共通の仕事をする事で、協働が促進される包摂の空間を創出。

地域を耕す

- 無価値とされた竹を竹炭として販売するほか、特産品「愛生会の干し芋」の製造販売によりさつまいもの収益性を高め、大崎町への経済効果の向上に貢献。
- 輸入物価高騰を背景とした畜産農家における敷料としての竹炭活用のほか、食品加工業者や酒造会社と連携した商品開発等を行い、地域活性化に貢献。
- R5年からは幼竹を塩蔵メンマにする取組をスタート。

未来を耕す

- 施設利用者や地域住民が、放置竹林の拡大という社会的課題を解決するという共通の目標を共有し、必要な存在としての「役割」を取得・遂行・承認される機会を創出。
- 県広報、新聞への掲載等、積極的な情報発信により、他地域への普及展開を目指す。

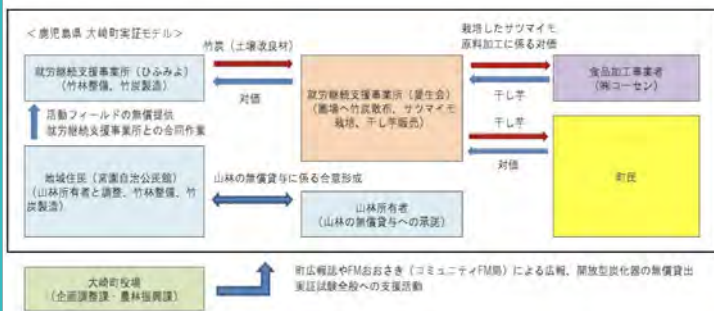
基本情報

設立: R4年/農福連携取組開始: R4年

概要

主力商品
(農作物) さつまいも、たけのこ
(加工品) 干し芋、焼酎、塩蔵メンマ

体制図



成果

障害者就労施設数

2事業所(R4)
→3事業所(R5)

竹林整備に関わる障害者数

267人/ 20日(R5)
※のべ人数

放置竹林の解消面積

30a(R4)
→60a(R5)

竹炭散布面積

5a(R4)
→33a(R5)

- 地域の高齢者からは、「今後も来てほしい」などの声があり、竹林整備に参加する障害者を仲間として受け入れている。
- 干し芋の売上高は、256,000円(R4)から854,800円(R5)に増加。
- ひきこもりの状態にある者が、2か月間参加し、その後農業関連会社に一般就労。
- 障害者や高齢者等が放置竹林の整備や竹材加工の担い手となり、放置竹林の解消を実現。
- 竹福商連携による竹の資源化モデルが薩摩川内市、山口県山口市にも波及。

にたいどっこい 代表 中野ひとみ

TEL / 090-5284-8704 Mail / nitaidokkoi@gmail.com

視察受入れ: 可 / 報道機関受入れ: 可

廃校や古民家、放置竹林など、地域に眠る未活用資源を活かし、地域と交わり、誰もが「できること」でつながる農福連携を実践。

福祉事業所

鹿児島県
薩摩川内
市



きっかけ

R4年

高齢者福祉に長く携わってきた代表が「楽しく働ける福祉の現場を自分でつくりたい」と就労継続支援B型「ちょこっと」を開設。

人を耕す

- 大切にしているのは、「利用者さんの居場所作り。できることを伸ばし、できないことはしない」という姿勢。
- 野菜の袋詰め、エコバッグの制作、調理補助などの室内作業に加え、畑での苗植えや水かけ、カフェでの盛り付け・接客など、利用者の特性に応じて、多様な関わり方を用意。

地域を耕す

- 放置竹林整備から始まった焼酎プロジェクトでは、地域の農家から「また手伝いに来て」と声がかかるほど信頼が厚くなり、地域との相互関係も構築。
- 施設周辺は荒廃農地が多く、農地の受け入れ要請が相次ぎ、借地面積は2haにまで拡大。
- 収穫祭や味噌づくり体験、ちまき作りなど、季節ごとのイベントで地域交流を活発化。

未来を耕す

- 焼酎・コロッケといった加工品開発や、無農薬栽培により、付加価値を向上。
- 地域の放置竹林を整備→竹炭を土壌改良に活用→さつまいも栽培→焼酎づくりにより資源が循環。

取組

成果

基本情報

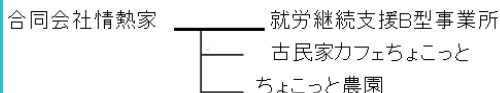
設立: R2年 / 農福連携取組開始: R4年

主力商品
(農作物)米、さつまいも、じゃがいも、さといも
(加工品)焼酎、コロッケ

特徴的な取組
古民家カフェの運営、林福連携、ユニバーサル農園、環境保全型農業、子ども食堂 等

概要

体制図



住所: 鹿児島県薩摩川内市高江町656-1

TEL: 090-2587-0216

Mail: jyonetsu@ari.bbiq.jp

URL: <https://www.jonetsuya.net/>

受入者	
身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

平均工賃月額

41,801円(R4)
→44,130円(R6)

農地面積

0.5ha(R4)
→1.5ha(R6)

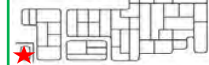
売上高

352万円(R4)
→985万円(R6)

視察者数

120人(R4)
→360人(R6)

- 異なる障がいのある仲間同士で「この作業は私がやるね」「それお願いね」と自然に声をかけ合い、支え合う空気が構築。
- 利用者の月平均工賃は年々向上し、一般就労へと進む利用者も出現。
- 市内の児童発達支援・放課後等デイサービスの子どもたちが定期的に収穫体験に訪れるなど、農福連携の実践の場にもなっている。



水耕栽培を実施する農家として子ども食堂との連携や、農場での不登校児の受け入れを経て、車椅子での作業に特化した農場を設立。各所との幅広い連携により、多様な人材の就労の場、交流の場の確保を目指す。

基本情報

- 所在地：沖縄県沖縄市
- 団体名：うりずんファーム
- 選定表彰：
 - ・平成25～令和2年 中部ファーマーズマーケット生産量No.1（JAおきなわ）
 - ・平成30年 JAおきなわ青壮年大会（青年の主張発表の部）最優秀賞 同九州大会 日本農業新聞賞
 - ・令和3年 毎日農業記録賞 優秀賞
 - ・ノウフク・アワード2021フレッシュ賞
- 主力商品：
 - 葉物野菜、低カリウム野菜等
- 取得認証等：令和元年 認定農業者

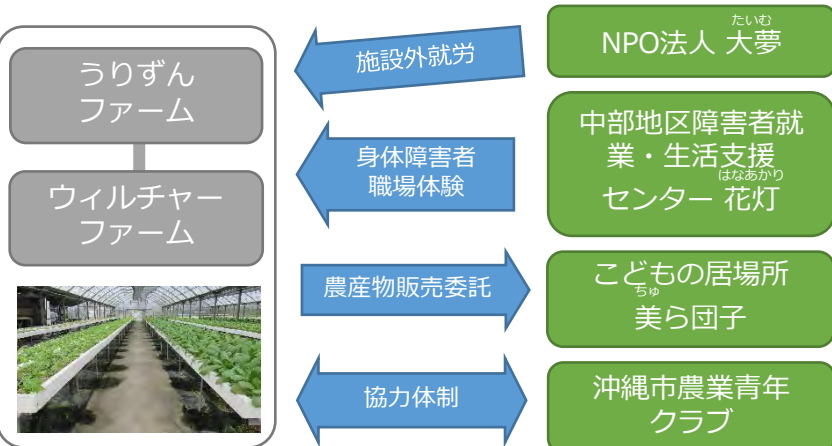
取組の概要

- 平成24年に就農し、水耕栽培を実施していたが、令和3年に車椅子に特化した農場ウィルチャーファームを設立。
- ハウス内での車椅子目線の導線は健常者では見つけにくいいため、「障害者就業・生活支援センター花灯」の協力のもと、身体障害者の職場体験を実施。補助する者が居なくても作業できるシステムづくりを実施。
- 沖縄の大きな課題である子どもの貧困の解決に寄与すべくファーマーズマーケットと共に子ども食堂への野菜の提供に取り組み、子ども達に農産物の生産から出荷までの過程を教える取組を継続して実施。
- 腎臓を患った方向けの低カリウム野菜の販路開拓を実施。
- ウィルチャーファーム設立と併行し、就労継続支援サービスを行う「NPO法人大夢」と連携開始し、農場拡大で増加した作業を委託。
- 高等特別支援学校の職場体験を受け入れ、2週間の実習期間中に野菜の原価計算ができるまでに指導。実習生の自信に繋げている。
- 農場で不登校児を受け入れ、社会との接点を作る手助けを実施。



車椅子（＝ウィルチャー）の作業に配慮した農場

体制図



取組の成果

- 障害や生きづらさを抱える方の出来ることを増やし、作業を担ってもらうことで、経営者として新たなチャレンジを行う時間的余裕ができ、経営規模の拡大が可能となった。
- 各所との連携を通じて販路拡大に繋がっている。
- 営農開始(平成24年) ⇒ 令和2年の推移

就労障害者数	0 人名	⇒	8 名
売上高	6,000 千円	⇒	22,000 千円



子ども食堂との農産物販売の様子

所在地 ▶ 沖縄県沖縄市池原3232-2

連絡先 ▶ E-mail: urizun1852@gmail.com

【取組のプロセス】

東日本大震災を契機に沖縄へ戻り営農を開始

平成24年

沖縄県で大きな社会問題となっている子どもの貧困へのアプローチ

平成30年

車椅子の義父が農場を訪れたこともきっかけとなり車椅子に特化した農場づくりを決意

令和元年



車椅子でも快適に作業できるよう工夫

農場拡大に伴い作業が増加したことで福祉施設との連携を開始

令和3年

障害者就業・支援センターからの紹介により障害者雇用している精肉店と連携し商品開発

今後の展望

きっかけ

子ども食堂との連携や、農場での不登校児の受け入れを経て、義父が車椅子であったことなどから、高付加価値野菜を身体障害者と共に作りたいと考え、車椅子に特化した農場「ウィルチャーファーム」を開設

高等特別支援学校の職場体験、不登校児の受け入れの取組を開始

- 高等特別支援学校の2週間の職場体験の受け入れを、平成30年から年2回継続して実施。2週間の実習期間中に、野菜の原価計算ができるまで指導。生徒の自信に繋がっている。
- 令和元年頃からは、沖縄市職員を介して農場での不登校児の受け入れを開始。登校は難しくても農場には来てくれたことから、中学校と連携して卒業・就活の手助けを実施。



子ども食堂との連携

子ども食堂と連携して高付加価値野菜を栽培

- 令和元年、地元農家と子ども食堂に食材を届ける取組を行ったことをきっかけに、週1回、子ども達に野菜の生産から販売までのプロセスを教える取組を継続して実施。
- 子ども達とともに腎臓を患った方向けの低カリウム野菜を栽培しており、販売も委託。



子ども達と栽培する低カリウム野菜

車椅子に特化した農場を開設、福祉施設への作業委託も開始

- 令和2年、車椅子に特化した農場の開設を目指し、障害者就業・生活支援センターの協力のもと、車椅子の方の職場体験を実施。令和3年4月ウィルチャーファームを設立。
- ウィルチャーファーム設立と併行し、令和3年8月より就労継続支援事業所からの施設外就労として、週2回8名に野菜の出荷調整作業等を委託。
- 障害者雇用している地元精肉店と連携し、老犬用ドッグフードを開発。
- 売上高は、平成24年の営農開始から令和2年には約3.6倍に、農地面積は約1.5倍に増加。また、各所との連携の効果で、生産物のPRや販路拡大にも繋がっている。



バリアフリー化した農場での職場体験

車椅子の障害者が健常者に農業を教えるなどの幅広い交流を目指す

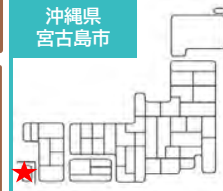
- 県外の修学旅行生の農業体験や、沖縄市農業青年クラブと連携し、コロナ禍で疲弊した医療従事者親子の収穫体験を実施。
- 今後も各所への農業体験を継続し、いずれは車椅子の方が健常者に野菜の作り方や障害を持つことによる制限等を教える観光農業に取り組み、様々な立場の方が交流できる農場を目標としている。



精肉店とコラボ開発したドッグフード

水耕栽培による葉物野菜の通年栽培を通し、離島における野菜の安定生産体制の確立に加え、障害者の安定雇用を実現。誰もが安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。

福祉事業所

沖縄県
宮古島市

きっかけ

H
22
年

島内で暮らす障害者の働く場の確保と野菜の安定的供給という地域ニーズに応えるため、周年栽培可能な野菜の生産を開始。

人を耕す

- 作業能力はあるものの一般企業に就労出来ない方を雇用する就労継続支援A型事業所の設置運営が急務であると考え、平成22年に「野菜ランドみやこ」を立ち上げ。
- 福祉的就労の工賃アップのため、個々の能力が十分発揮できるよう 構造化された作業環境と採算性の高い栽培システム(ポットファーム)を整備した「トマトランドみやこ」(B型事業所)を設立、大玉トマトを栽培し県内大手スーパーへ出荷。

地域を耕す

- 平成30年、地域や法人で生産している野菜を食材とした料理を提供する「ビュッフェレストラン太平山」(B型事業所)をオープン。接客員と客の関係で地域交流の場を生み出すほか、普段障害者の方と触れあう機会のない地域住民の障害への理解が深まった。
- 法人の設立から令和4年で21年を迎え、事業所は6カ所に利用者は100名に拡大。農業に携わる障害者数も、当初の18人(平成22年)から23人(令和3年)に増加。

未来を耕す

- 令和2年、トマトランドみやこを「メロンランドみやこ」に変更。コロナ禍の影響で 出荷が滞っているトマトに代わり、贈答品としての需要が期待できるメロン栽培を開始。
- 当初は、宮古島の気候を活かした農業を検討していたが、作業時期の偏りや他の農家との競合を考慮し、葉物野菜やトマトの養液栽培による周年栽培を実現。

基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:H22年

取得認証等: 農山漁村振興交付金(農福連携)(R1~3)

主な選定表彰: R元年ディスカバー農山漁村の宝選定(沖縄) 等

取組

主力商品

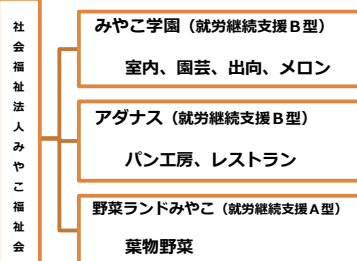
(農作物)葉物野菜(サラダほうれんそう)、メロン 等

特徴的な取組

特別栽培農産物

概要

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

成果

平均工賃月額(A型)

90,999円(R2)
→118,000円(R6)

障害者数

24人(R2)
→22人(R6)

売上高(野菜)

2,289万円(R2)
→2,636万円(R6)

農地面積(ハウス面積)

0.6ha(R2)
→0.6ha(R6)

- 夏場の暑さの影響による減収や、荒天による船の欠航などが起こると、島内の葉物野菜が不足していたが、葉物野菜の安定生産体制を構築したことで、常時安定価格で入手できる野菜として地域の食のニーズに応え、障害者の安定雇用も実現。
- LED照明やソーラーパネル導入による低コスト栽培により収益を伸ばし、全国平均を上回る賃金・工賃を実現。
- 様々な団体の視察を受け入れる等、沖縄県内での農福連携の広がりに貢献。

住所: 沖縄県宮古島市平良字下里3107番地243

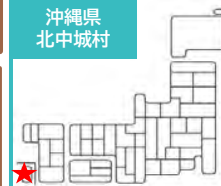
TEL: 0980-73-7770

Mail: miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp

URL: <http://www.miyakofukushikai.jp/>

障害者を含むすべての人が笑顔になれるコミュニティづくりを目指し、有機栽培で国内では珍しいバナラビーンズの生産に取り組み、栽培、加工、販売まで行う。

福祉事業所

沖縄県
北中城村

きっかけ

H22年

「B型脱却・自立」を目指して、人や環境に求められる農業を行うことでコミュニティづくりを目指す。

人を耕す

- 障害種別で業務を分けず、個性を重視した仕事の割り振り、および成長を意識した作業指導により、役割を感じ、楽しく働いていただく。これらのことにより、就労意欲の向上を図り、継続的な就労や、一般就労へのステップアップに繋げている。

地域を耕す

- 荒廃農地を開墾するところからバナラ栽培を始めて現在8年目になる。昨年より、バナラ栽培にフォーカスして野菜の栽培を休止している。今後は村と共同でバナラの街として北中城村が発展できるように尽力する。

未来を耕す

- 将来的には独自技術で発酵、乾燥させるキュアリング加工場を整備し、生産拡大による荒廃農地の解消をする。また、観光農園化を進めることで、地域の産業の活性化に寄与していきたい。

基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:H22年

取得認証等:沖縄振興特定推進費(R元年度)

取組

成果

概要

主力商品
(農作物)バナラ

特徴的な取組
有機栽培

体制図



受け入れている者

身体障害	○
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	
その他	

住所: 沖縄県中頭郡北中城村熱田277

TEL: 098-989-8880

Mail: solfa.comm@gmail.com

URL: <https://solfa.biz/>

平均工賃月額

50,790円

障害者数

R8年3月現在
18名

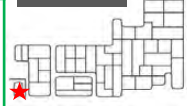
売上高

12,609千円

農地面積

2.5ha

- R6年3月、バナラのキュアリング技術を解明し、特許取得。今後はこの技術の完成度を高めて、県内の生産者に広げ、エンドユーザーに真に求められる商品を作り、県の産業の新しい柱をつくっていく。「バナラビーンズの製造方法」特許第7458604号



地域内の福祉事業所と連携し、障害者が農作業の一部を担うことで人手不足を解消。他者との連携や個性を大切にし、多様な人材の受入れ・育成や産地づくりに取り組む。

基本情報

- 所在地：沖縄県南城市
- 団体名：株式会社 みやぎ農園
- 選定表彰：
 - ・平成26年 全国環境保全型農業推進コンクール 奨励賞
 - ・平成29年 沖縄県農林漁業賞 畜産部門
- 主力商品：
 - 平飼卵、露地野菜（しょうが、オクラ等）、加工品（マヨネーズ、ジンジャーシロップ等）
- 取得認証等：認定農業者



加工品(マヨネーズ)

取組の概要

- 約13,000羽の平飼い養鶏（約30a）と微生物資材を活用した露地栽培（約60a）、約80戸の契約農家から出荷される農産物の加工・販売等を実施。
- 地域の就労継続支援A型事業所から、精神障害をもつ利用者を中心に10名程度を施設外就労として受入れ、選卵作業や農産物の袋詰め、畑の除草作業を担っている。
- 作業行程を細分化し、音に敏感な障害者を養鶏場から農産物出荷場に配置換えする等、得意分野を継続的に作業できるよう工夫。
- G A Pの考えを取り入れ、整理整頓を心がけ障害者も作業し易い環境づくりに努めている。
- 自社だけでなく、地域の農家と福祉事業所のマッチングの取組により、障害者に安定した仕事と施設外での交流機会を提供。
- 地域の放課後デイサービスに活動場所（ユニバーサル農園）の提供を試行しており、農業を楽しむことで将来的に農業への就労に繋がるきっかけづくりに取り組んでいる。



農産物袋詰め作業



卵の選別作業



出荷される農産物

体制図

株式会社 みやぎ農園
※(株)ファームミヤギ含む

作業委託



施設外就労

合同会社 Four-leaf くろーばー

取組の成果

- 障害者に作業の一部を分担することで人手不足が解消、社員が養鶏や食品加工に集中できるようになった。
- その結果、高い技術を維持し、契約農家への営農指導や人材育成の他、JICA事業でのブータンへの養鶏技術移転等の多様な取組を実施。

○取組当初(平成29年度) ⇒ 令和3年度

就労障害者数 3名 ⇒ 10名

耕作面積 32a ⇒ 60a



ブータンの鶏舎

所在地 ▶ 沖縄県南城市大里字大城2193番地

連絡先 ▶ TEL：098-946-7646 問合せフォーム：https://www.miyaginouen.com/contact

ウェブサイト ▶ https://www.miyaginouen.com

【取組のプロセス】

「毎日の暮らしに
おいさと幸せ
を」をコンセプト
に、地域に根ざし
た農業を開始

農水省の「農の雇
用事業」活用によ
る人材育成や、
「中山間地域所得
向上推進事業」を
活用して地域活性
化に取り組む

畑の問題を見える
化、何をすべきか
を示すため、GAP
を推進。日本生産
者GAP協会のGAP
審査員の資格を2
名が取得

教育機関と連携し
た人材確保・育成
に取り組む

地域農家と福祉施
設とのマッチング
の取組を開始

JICAの「草の根
技術協力事業」を
活用し、有機農業
を推進するブータ
ンでの鶏卵の生産
性を上げるため、
「微生物を活用し
た養鶏農家育成事
業」を開始

昭和63
年

きっかけ

職員だけでは人手が不足していたところ、地域に就労継続支援A型事業所を運営する法人が設立されたことをきっかけに、障害者の受入れを開始。

近代養鶏とは別の方法を模索し、平飼い養鶏をスタート

- 昭和63年、鶏をケージに入れない平飼いにより養鶏をスタート。
- 創業者（現会長）が試行錯誤を重ね、国内の平均的な養鶏場での飼育羽数より圧倒的に少ない羽数での平飼い、自家配合した発酵飼料、微生物資材を用いて鶏糞を堆肥化させた鶏舎の床等の工夫により、臭みのなく安心安全な美味しい卵を追求。
- 平成20年に法人化、沖縄県認証特別栽培確認事業所として農家の栽培履歴の確認開始。
- 平成25年、農の雇用事業（農水省）を活用した新規就農者の育成を開始。多様な人材による産地づくりや地域の活性化に積極的に取り組む。



平飼い養鶏



出荷される卵

平成29
年

地域の就労支援A型事業所から障害者の受け入れを開始

- 当時、野菜の出荷作業にあたり、職員だけでは人手が不足していたところ、市内に設立された就労継続支援A型事業所を運営する法人から障害者を施設外就労として受入れ、作業の一部を担ってもらうことで人手不足が解消。



地域の農家

令和元年

地域農家と福祉施設のマッチング等、新たな取組の展開へ

- 養鶏の飼養管理の強化や、耕作地の作業の見直しに伴い、畑での作業委託を模索したが、現在は障害者に担ってもらう作業場所として地域の農家とのマッチングを開始。自社だけでなく、地域農家と繋ぐことで障害者に安定した仕事と施設外での交流機会を提供。
- JICAの草の根技術協力事業を活用し、ブータンへの養鶏技術移転を開始。



ユニバーサル農園の試行的取組

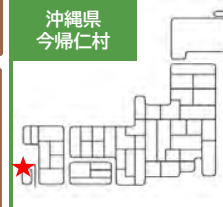
今後の
展望

多様な人材と連携した地域に根ざした「美しいむらづくり」を

- 令和2年には生産部（養鶏、耕作）を分社し、(株)ファームミヤギを設立、グループ会社として施設外就労を継続。また、令和4年には新規作物の栽培管理、地域支援を担う(株)みやぎ農園AgriPlanを設立し、ユニバーサル農園の運営を試行的に開始。
- 働きづらさを抱える方の農業分野での就労や、産地の価値・魅力の向上等、農業の地域貢献の取組にも引き続き取り組んでいく。
- 持続可能な循環型農業を目指し、地域と一体となって地域に根ざした事業を行う「美しいむらづくり」構想の実現を目指す。

荒廃農地や廃校を活用し、「沖縄エリ蚕」の大規模養蚕を実施。繭の分別作業を障害者就労施設に委託し、スキンケア用品への加工や輸出等により工賃を向上。

農業経営体

沖縄県
今帰仁村

きっかけ

H28年

荒廃農地や廃校の利活用の課題解決に向けて一般的なカイコとは異なる沖縄エリ蚕の大規模養蚕からなるモノづくりをスタートし、障害者の活躍の場を創出。

人を耕す

- 養蚕の作業である、サナギと繭(シルク)との分別作業を就労支援B型事業所等と連携して行い、障害者の活躍の場を広げているほか、積極的に高齢者を雇用。
- 6次産業化により、「沖縄シルク」をスキンケア商品として加工し、ブランド化して輸出することで売上を伸ばし、障害者等1名あたりの平均工賃月額額は沖縄県の平均以上を維持。

地域を耕す

- 廃校を養蚕の作業場として活用。H25年から荒廃農地の再生に取り組み、現在、2.5haを「沖縄エリ蚕」の餌を栽培するほ場として借り受けることで、荒廃農地の解消に貢献。
- 高齢農家や村から農地を引き受けてほしいといった要望が増加。県内の特別支援学校と連携し、養蚕・農作業体験を実施する企画を考案するなど、地域内交流を推進。

未来を耕す

- 自社独自の技術により国内で唯一、「沖縄エリ蚕」の大規模養蚕に成功。採れた繭をパウダー化し、配合したスキンケア用品の製造販売のほか、「沖縄エリ蚕」のサナギを用いた機能性食品素の開発、動物用医薬品につながるタンパク質生産等の研究開発を実施。
- 荒廃農地の新たな利活用のため大手企業と連携。地球温暖化対策として、一般的な植生の20倍のCO2を吸収するとされるモリंगाを植林。

基本情報

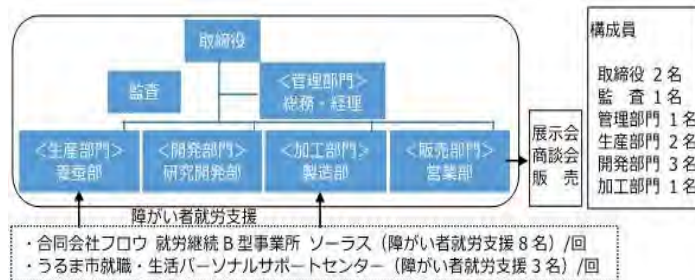
設立: H18年/農福連携取組開始: H28年

取得認証等: 6次産業化認定事業者

概要

主力商品
(加工品) スキンケア用品特徴的な取組
6次産業化、輸出

体制図



成果

平均工賃・賃金月額	障害者数	シルクスキンケア売上高	農地面積
工賃 1万円(H28) →4.4万円(R5)	利用 45人(H28) →72人(R5)	0円(H28) →1,998万(R5)	1.3ha(H28) →2.5ha(R5)
賃金 13.4万円(R5)	雇用 2人(R5)		

- 絹産業の非繊維分野への進出に加えて、6次産業化による「沖縄シルク」のブランド化及び輸出を行い、障害者や高齢者の活躍の場の創出、健康づくり、所得向上を実現。
- 特別支援学校の農作業体験や収穫体験の受入れ、学生向けの講義やシンポジウムの開催を通じ、農福連携の輪の広がりに貢献。

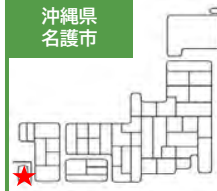
0980-56-3367/info@ukami.co.jp/

<https://www.ukami.co.jp/>

視察受入れ: 可/ 報道機関受入れ: 可

農福連携を通じて名護産農作物のブランド化や増産に取り組む。農業×福祉の好適な循環により工賃向上と農地面積の拡大を実現しているほか、荒廃農地の解消と農福連携の新規就農者育成にも尽力。

農林水産業経営体

沖縄県
名護市

きっかけ

H
26
年

当社社長と(社)ワークサポートひびきスタッフが知人であり、福祉施設利用者が出来る作業について相談があったことをきっかけに連携を開始。

人を耕す

- 工賃は毎年向上しており、R6年は県平均を上回る。また、他の作業収入と合わせてボーナスも支払い、利用者のモチベーション向上に貢献。
- 利用者に能力に応じて出来る作業から始め、難度の高い作業へと少しずつステップアップしている。

地域を耕す

- 農業×福祉の好適な循環が実現できており、農地面積の拡大に寄与。
- 荒廃農地や高齢化で農業を続けられなくなった農家の農地を借り受け、自社農場として利用。新規就農者と分担することで農地の維持・活用と新規就農者支援の両方を実現。
- 収穫体験を行っているほか、昨年から県立農大生の実習受け入れも実施。

未来を耕す

- 人手不足解消や作業の効率化を目指し、スマート農業のテスト運用を実施。
- 地道な継続的な取組で、着実に地域農業の課題に対応していることが、これから取組を始めたいと考えている主体の背中を押すことになることを期待。
- 加工食品会社と連携し、共同開発した「冷凍オクラ」を県内外に出荷して市場価値向上を図る。

基本情報

設立: H25年 / 農福連携取組開始: H26年

取得認証等: 認定農業者(H25)

取組

主力商品

(農作物)野菜(オクラ、ゴーヤ等)、果樹
(加工品)乾燥オクラ

特徴的な取組

スマート農業、環境保全型農業、特別栽培農産物

概要

体制図

受け入れている者

身体障害

精神障害

※発達障害含む

知的障害

その他障害

生活困窮

ひきこもり

高齢者

その他

非公開

成果

平均工賃月額

4,039円(R2)
→17,468円(R6)

障害者数

20人(R2)
→34人(R6)

農地面積

5ha(R2)
→7.3ha(R6)

—

- 農作業に従事する中で自然とリーダー的な存在の利用者が出てきたり、互いに教えあったり、時に注意しあったりと良好な雰囲気が保たれている。
- 当社で育成しているのは新規就農「福」者であり、就農した時点で既に農福連携の取組経験を積んでいるため、独立した後も継続することが可能に。
- (社)ワークサポートひびきから一般就労した者が複数人おり、農作業が利用者のステップアップに大きく寄与。
- 農業の規模を年々拡大していく中で、迅速かつ丁寧に作業をしてくれる利用者は、なくてはならない大切な戦力となっている。

住所: 沖縄県名護市大北5丁目10-9

TEL: 098-9787-8787

Mail: katsuhiro19650928@Outlook.jp